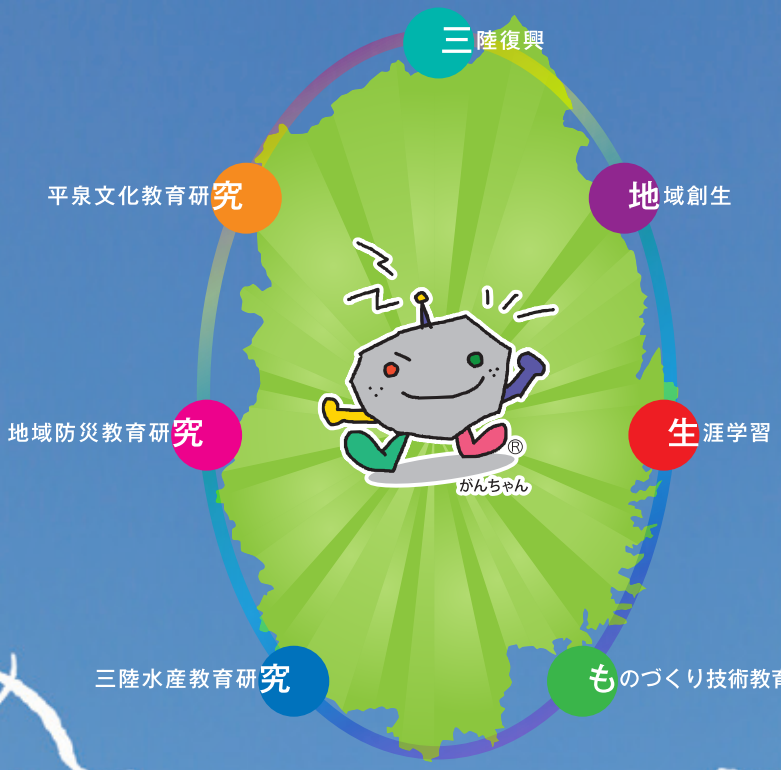
Iwate University 岩手大学®

岩手の“大地”と“ひと”と共に

平成28年度 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 活動報告書



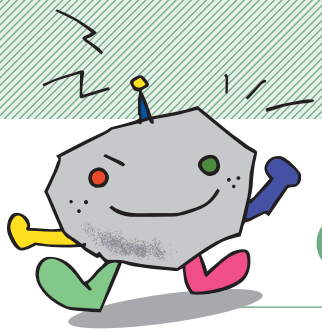
国立大学法人 岩手大学

Iwate University 岩手大学®

岩手の“大地”と“ひと”と共に

平成28年度 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 活動報告書

国立大学法人
岩手大学



® がんちゃん

Contents [目次]

第１部　はじめに　4

岩手大学学長　岩渕　明 …… 4

三陸復興・地域創生推進機構長　菅原　悦子 …… 6

第２部　岩手大学三陸復興・地域創生推進機構　8

01　三陸復興・地域創生推進機構について …… 8

02　三陸復興・地域創生推進機構の取組 …… 10

（1）三陸復興部門 …… 10

①学習支援班 …… 10

②ボランティア班 …… 12

③いわて高等教育コンソーシアム連携班 …… 14

④心のケア班 …… 17

⑤被災動物支援班 …… 20

⑥地域コミュニティ再建支援班 …… 22

⑦ものづくり産業復興推進班 …… 30

⑧農地復興班 …… 32

⑨園芸振興班 …… 36

⑩農林畜産業復興総合計画班 …… 38

（2）地域創生部門 …… 40

（3）生涯学習部門 …… 43

（4）ものづくり技術教育研究部門 …… 47

（5）三陸水産教育研究部門 …… 51

（6）地域防災教育研究部門 …… 57

（7）平泉文化教育研究部門 …… 66

03 釜石サテライト・エクステンションセンター …… 71
（1）釜石サテライト・エクステンションセンターの設置 …… 71
（2）釜石サテライト・エクステンションセンターの活動 …… 72
①釜石サテライト …… 72
②久慈エクステンションセンター …… 77
③宮古エクステンションセンター …… 80
④大船渡エクステンションセンター …… 83
04 共同研究員について …… 86

第3部 その他の取組 90

01 イーハトーヴ基金による復興支援活動 …… 90
02 台風10号に係る支援 …… 92
03 三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム …… 94
04 三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会 …… 98

第4部 活動報告 100

01 学協会誌（論文） …… 100
02 研究報告・活動報告 …… 105
03 学会発表・各種講演・報告等 …… 107
04 委員会等 …… 125
05 プロジェクト・外部資金 …… 128
06 その他 …… 130

参　考 資料集 136

岩手大学の復興支援に関する主な出来事 …… 136
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則 …… 142

第1部 はじめに

ご 挨 拶

地域創生と大学の役割

岩手大学学長 岩 渕 明

国立大学は平成28年度から、第3期中期目標・計画の期間に入りました。最近の大学を取り巻く状況は、ステークホルダーとしての国民の期待に十分応えきれていないと改革の一層の推進を求められ、財政的にも厳しい状況が続いております。そのため、第3期の中期財政見通しの対応において事業費や人件費の抑制を実行してきております。その中で、他大学に比べ強みを強化するためにも本学のブランドは何かと、様々な機会に問われていますが、やはり私は「地域連携」と答えています。

平成28年度、三陸復興推進機構と地域連携推進機構は統合し、「三陸復興・地域創生推進機構」として新たなスタートを切りました。三陸復興推進機構時代の4年間はある意味で予算が潤沢だったわけですが、国の復興支援の予算がなくなり、本学は機能強化の戦略の中で復興推進事業を継続してきました。限られた予算の中でこれまでの事業の中から何を継続し、何を止めるかの判断を行うことが最初の仕事でした。当然、これまでの30余名の雇用研究員等の実績を判断しながら人員を絞った訳です。大学人にとって最も難しいのは人を評価することで、評価基準が明確でない点では反省しております。今後も限りある予算に対してPDCA的に復興事業を精査しながら、社会の期待に応えていく必要があります。

第3期のスタートにあたり、そして平成29年度から3年間学長の任にあたることになり、私は大学の目指す方向性として、1）グローカルな大学を作ること、2）復興事業を継続すること、3）大学のアイデンティティを涵養すること、そして、4）地域を先導することの4項目を掲げました。大きな宿題は、アカデミシャンとしてこれまでの復興事業の経験をいかに教育、研究に活かしていくかということです。これまでの三陸復興推進機構6部門の活動をベースに、学部の枠を越えた取組を継続するために大学院の大改組の準備を行いました。従来の修士課程を「総合科学研究科」として一研究科にまとめ、その中に新たに「地域創生専攻」を立ち上げ平成29年度から開設します。キーワードは復興から地域創生です。将来を見通せば、大震災から10年間復興活動の継続は責務ですが、被災地域以外にも人口減少、少子高齢化による地域の活力の減退は大都市を除いた日本の地域の共通課題であり、グローバル的にも韓国、台湾、中国も同様です。ここにグローカルな視点が見えます。またこれまでの大震災への対応から学んだ「防災」も自然災害が頻繁に起こっている現状を見れば、グローバルな課題でもあります。

このような中で、三陸復興・地域創生推進機構の果たす役割は一層大きくなってきています。機構のみで解決できるものではなく、地域の課題を吸い上げ、それを教育プログラムや研究課題として各学部、大学院の各専攻に提案することは、教育研究支援施設の役割です。そのためにも各学部等との意思疎通は重要です。また、水産、防災、ものづくり、平泉の4つの全学研究センターはそれぞれの立場から研究活動を進めることは勿論ですが、地域課題の研究的取組みがそれぞれに期待されていることを考慮すればこの機構の役割は明白です。また、産学連携活動（地域企業等との共同研究）の再構築も必要と考えており、岩手県との人事交流を再開したいと考えています。

平成28年度の大きな進展をあげれば、農学部に水産コースが開設されましたが、釜石市をはじめ沿岸地域の期待は我々が考えている以上のものがあると感じております。また、立教大学および陸前高田市との共同での陸前高田グローバルキャンパス（RTGC）の開設準備も順調に進んでおり、新年度早々にスタートします。ここは、本学や立教大学の活動拠点のみならず、日本の多くの大学の復興をベースとした交流拠点、米国の大学などとの国際的な学生、研究者の交流拠点にもなり得ます。そのため復興体験プログラムや防災・危機管理などのプログラムを準備してきましたので、平成29年度以降の展開が期待されます。

以上述べてきましたが、学長として、「地域を先導する地域連携の岩手大学」を一層強化していく所存です。機構のメンバーのみならず、岩手大学の全ての構成員、そして地域自治体等をはじめとする関係者の皆様とともに、地方創生の大学の役割を果たしていきたいと思います。

三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム

説　明

復興活動から学び、地域創生に活かす機構の取り組み―1年目の挑戦

三陸復興・地域創生推進機構長　菅　原　悦　子

1. はじめに：岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の開設

岩手大学は東日本大震災以降、被災県にある地域の拠点大学として、地域の復興推進・支援に重要な役割を果たしてきました。この復興活動は本学に託された使命（ミッション）であり、岩手県にとどまらず、世界に共通する課題であるとの認識から、継続していく必要があると考えています。これまでの復興活動を基盤とし、全学をあげて復興と地域創生に取り組む新たな組織として、平成28年4月に「岩手大学三陸復興・地域創生推進機構」を開設しました。本機構では『地域の中核的学術拠点として、東日本大震災からの復興を着実に前進させ、その上で地域の持続的発展を目指す“地域創生”を実現していくため、「知の創出機能」の充実・強化を推進する。』を戦略として掲げています。本報告書は、新設された機構のこの1年の各部門の取り組みや、自治体から派遣された共同研究員等の活躍についてご紹介し、これからの機構の取り組みについて、ご理解とご支援をお願いするものです。

2. 実践領域「三陸復興部門」「地域創生部門」「生涯学習部門」の取り組み

本機構では「実践領域」と「教育研究領域」が課題毎に有機的に融合し、地域のニーズに応える体制の構築を目指しています。「実践領域」は、三陸沿岸地域で取り組んだ地域貢献の実践力と課題解決力を醸成する「三陸復興部門」、地（知）の拠点としての教育研究成果や知的資産の普及・還元を図る「地域創生部門」、本学が有する知的資産を活用した地域での生涯学習振興を図る「生涯学習部門」で構成されています。特に、「三陸復興部門」では、旧三陸復興推進機構で活動してきた多くの班が活動を継続しています。「心のケア班」は震災後6年経過してもなお続いている被災者の心の問題解決にむけて、釜石サテライトで特任准教授が「こころの相談ルーム」を運営するとともに、市民講座や仮設住宅への訪問支援などにも取り組み、本学で臨床心理士を目指す学生の研修の場にもなっています。「地域コミュニティ再建支援班」の活動も地域から大きな期待が寄せられています。平成28年度は、応急仮設住宅から本設の災害公営住宅へ移転した人々への支援として、入居者間のコミュニティ形成、自治組織の形成、集会所の利用促進等に取り組みました。

3. 教育研究領域「ものづくり技術教育研究部門」「三陸水産教育研究部門」「地域防災教育研究部門」「平泉文化教育研究部門」

教育研究領域は、地域特性を活かした各教育研究部門（ものづくり技術教育研究部門・三陸水産教育研

究部門・地域防災教育研究部門・平泉文化教育研究部門）で構成され、専門領域の教育研究を行い、その成果を地域の課題解決に活用することを目指し活動しました。「ものづくり技術教育研究部門」はものづくり研究センター、「三陸水産教育研究部門」は三陸水産研究センター、「地域防災教育研究部門」は地域防災研究センター、「平泉文化教育研究部門」は平泉文化研究センターがその役割を担っています。平成28年度は、それぞれの部門が講演会やセミナー等を多数開催し、研究成果を地域や世界へ発信しました。

4. 共同研究員や専門職員等の活躍

本機構では自治体等との連携を深め、新たな地域創生モデルの構築のための政策提言なども目指しています。平成28年度は、相互友好協力協定自治体である盛岡市、釜石市、花巻市、久慈市、八幡平市から共同研究員を派遣していただきました。共同研究員の取り組みを中心として紹介する地域連携フォーラムを、例年開催している盛岡市に加え、久慈市でも実施することができました。また、釜石市にはサテライト、久慈市、宮古市、大船渡市にはエクステンションセンターを設け、配置した専門職員によって被災地のニーズ把握に努めました。

5. 台風10号被害への連携した取り組み

平成28年8月に発生した台風10号による岩手県での被害は震災に続く大きなもので、本機構ではこれまでの復興活動で学んだ成果が試される機会となりました。甚大な被害を受けたこの地域への支援を本機構の新たな課題と位置づけ、多数の部門が連携して取り組むことができました。被災直後から、久慈市や宮古市のエクステンションセンターに常駐する専門職員がそれぞれの地域の要請を的確に機構に伝え、「三陸復興部門」の学生・教職員からなるボランティア班が、迅速に現地に出向くことができました。さらに、「地域防災教育研究部門」（地域防災研究センター）」が被害の状況やその背景等についての調査を実施するとともに、緊急報告会を開催し、その結果を広く一般に公開しました。一連の連携した取り組みは、復興活動での学びを地域支援へ結びつけた好事例であったと考えています。

6. 平成29年度の展望：「総合科学研究科・地域創生専攻」「COC＋事業」との連携

平成29年4月に、本学の研究科が一体となった「総合科学研究科」が創設され、総合科目として震災復興・地域創生に関連する科目が必修となっています。さらに、「地域創生専攻」では地域インターンシップが計画されており、本機構の「地域創生部門」や「ものづくり技術教育研究部門」と連携することによって、新たな地元企業のニーズの掘り起こしや地域企業との新たな産学連携が期待できます。このように、「三陸復興・地域創生推進機構」を縦軸、「総合科学研究科」を横軸として、この2つの全学的な組織を融合させ、それぞれの組織の特徴を最大限に発揮する「プラス型の教育研究組織モデル」の構築につなげる計画です。また、「COC＋事業」では地域イノベーションを担うグローカルな視点を持った人材育成を目指しており、本機構の積極的な連携が重要と考えています。本年度も、本機構は地域創生を先導する人材育成に寄与し、持続可能な地域社会の創生に着実に貢献したいと考えています。

第2部 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

01 三陸復興・地域創生推進機構について

岩手大学では東日本大震災後、「岩手の復興と再生に」をスローガンに掲げ、全学組織として「岩手大学三陸復興推進機構」を立ち上げました。三陸復興推進機構は、被災した三陸沿岸地域の復旧・復興支援活動に全学体制で取り組んでまいりましたが、復興はまだ、道半ばです。一方、震災から6年が経過し、三陸沿岸地域のみならず、県内の自治体は、急速な人口減少やグローバル競争の中で産業衰退など、多くの問題を抱えています。

本学では、これらの課題に対処すべく、平成28年4月に新たに「三陸復興・地域創生推進機構」を設置しました。これまでの地(知)の拠点として本学の教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元に取り組んできた「地域連携推進機構」と三陸の復旧・復興支援に取り組んできた「三陸復興推進機構」を一体化し、総力をあげて取り組みを強化していきます。「三陸復興・地域創生推進機構」は、地域再生、人材育成及びなりわい再生に取組む「実践領域」と地域特性を生かした教育・研究の推進を図る「教育研究領域」の2つの領域から構成されます。

それぞれの領域は、地域ニーズに応えていくとともに、その教育研究の成果を大学院総合科学研究科地域創生専攻等における学生の教育・研究に反映させていきます。

さらに、地域創生を先導する人材の育成や持続可能な地域社会のまち・ひと・しごと創生の実現を目指し、教育研究及び社会貢献の推進に取り組んでいきます。

実践領域とは

実践領域は、旧三陸復興推進機構で東日本大震災の復興・復旧支援活動に取り組んできた部門を核とした「三陸復興部門」、さらに旧地域連携推進機構で地域連携や生涯学習分野に取り組んできた部門を核とした「地域創生推進部門」・「生涯学習部門」の３つの部門から構成され、①被災地のニーズに沿った復興支援活動、②地（知）の拠点としての教育研究成果や知的資産を用いた地域における生涯学習振興を図っていきます。

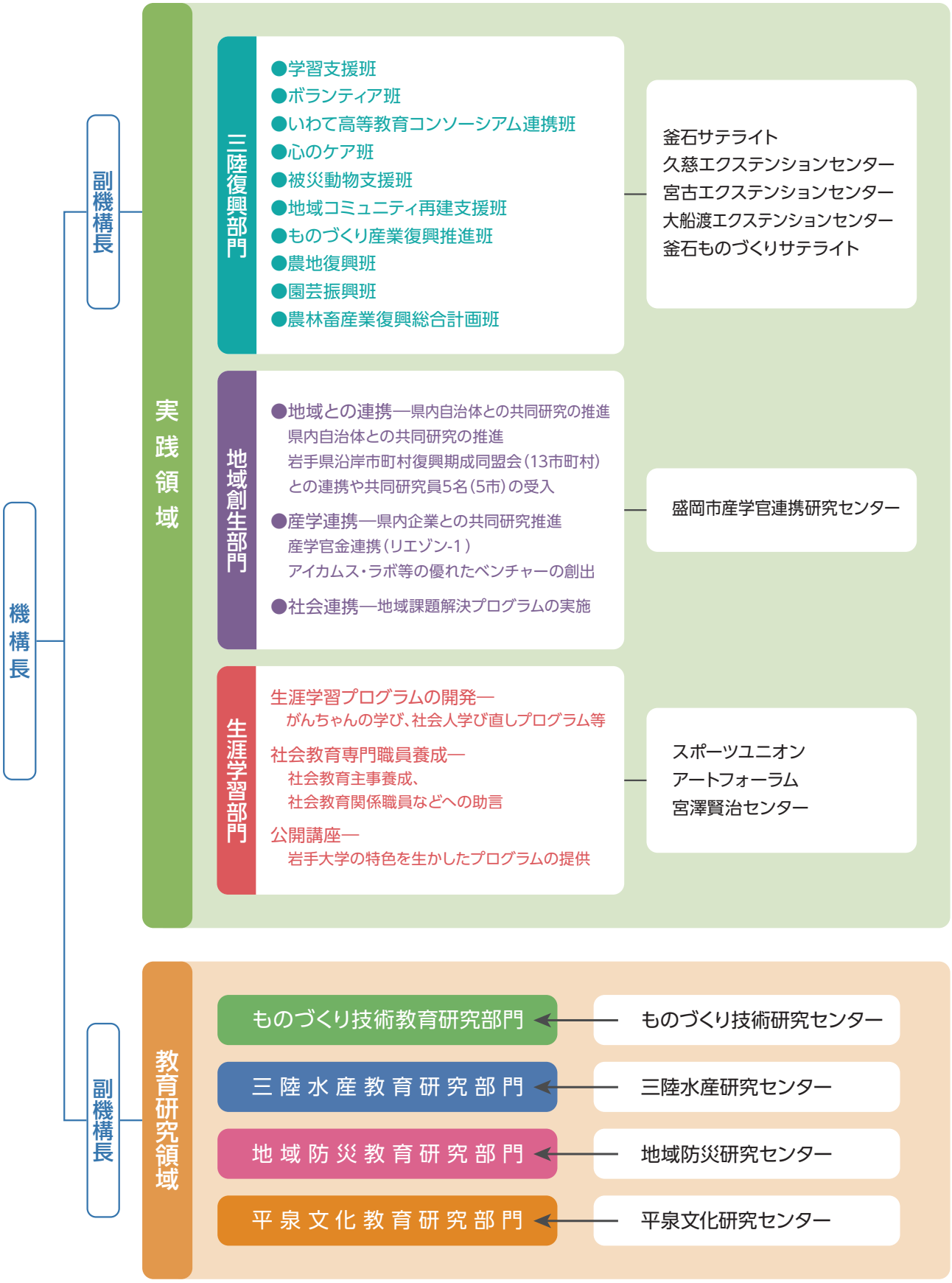
教育研究領域とは

教育研究領域は、「ものづくり技術教育研究部門」、「三陸水産教育研究部門」、「地域防災教育研究部門」、「平泉文化教育研究部門」の４つの分野によって構成されています。各部門は全学の教育研究施設であるそれぞれの研究センターがその業務を担い、岩手県における地域特性を生かした専門領域の教育・研究の推進を図っていきます。

三陸復興・地域創生推進機構は、このように実践領域と教育研究領域の取組を推進することにより、教育研究領域の成果を基礎とし、実践領域での取組や課題解決で導かれた知見を地域創生専攻等の教育研究に還元していきます。

組織図

※平成28年4月1日時点



02 三陸復興・地域創生推進機構の取組

（1）三陸復興部門　（部門長　八代 仁／副学長（COC担当））

旧三陸復興推進機構から引き継いだ「学習支援班」「ボランティア班」「いわて高等教育コンソーシアム連携班」「心のケア班」「被災動物支援班」「地域コミュニティ再建支援班」「ものづくり産業復興推進班」「農地復興班」「園芸振興班」「農林畜産業復興総合計画班」の10 班から構成されている。

また、釜石サテライト及び久慈、宮古、大船渡エクステンションセンターと連携して、三陸地域をフィールドとした各種復興推進活動に取り組んでいる。

① 学習支援班

学習支援班は、教育委員会、NPO団体などと連携しながら、被災地の小・中学生を対象とした学習支援や居場所づくりへの支援などを実施している。

活動テーマと概要

小中校生を対象とした学習支援等

●代表者　岩木 信喜（教育学部 准教授）
●担当者　教育学部：遠藤 孝夫、佐々木 全
　　教育学研究科：高橋 和夫

学習支援班では、被災自治体の教育委員会や学習支援活動を行っているNPO団体などと連携し、小学生を対象とした居場所づくり、中学生を対象とした学習支援、高齢者を対象とした生涯学習支援に取り組んだ。

■活動内容

●長期休業中の児童への学校施設開放支援

釜石市立唐丹小学校は、東日本大震災の津波で校舎が被災したのち移転することとなり、児童は震災から５年を経過してもプレハブ校舎で学んでいた。校庭の面積が小さいうえに、隣接する中学校と体育館を共有しているため、活動の場所や時間に大きな制約があった。このような状況下でも子どもたちが伸び伸びと遊ぶことができるようにとの釜石市教育委員会からの依頼を受けて、体育館を使用した学校施設開放支援に取り組む運びとなった。児童の安全を最優先にしつつ、学生はドッジボールやバドミントンなどの様々な活動を通じて子どもたちと交流をした。なお、幸いなことに、唐丹小学校は平成29年２月20日から新築校舎で授業を開始している。

■実施期間：平成28年８月４日(木)、8(月)、9日(火)
　　平成28年12月26日(月)～27日(火)
■参加者：唐丹小学校児童
■ボランティア学生：延べ36名　　■その他：3名

ドッジボールが大人気(８月)

学生も子どもたちと一緒に楽しく運動(12月)

●長期休業中の生徒への学習支援

三陸復興・地域創生推進機構の共同研究員（釜石市職員）を仲介として、釜石市立大平中学校から学習支援の要請があった。現役大学生の支援によって生徒の学力と学習意欲の向上を図るとともに、中学生の高等教育機関への関心を高め、進学も選択肢に含めた将来展望を開いてほしいという狙いがあった。学生は勉強を教えただけでなく、昼食を一緒にとり、空き時間にスポーツ交流するなどして関係づくりに積極的に努めた。ボランティア学生に事後アンケートを実施したところ、この活動は、特に教員志望の学生にとって、沿岸部中学生との交流が出来たまれな経験であり、中学生の心理や学習指導の方法について様々な気づきをもたらした貴重な体験であったことが窺えた。

■実施期間：平成29年1月12日(木)～14日(土)
■参加者：大平中学校生徒
■ボランティア学生：延べ44名　■その他：1名

学習風景

昼休み時間

●高齢者を対象とした生涯学習支援

NPO法人ソーシャルハーツからの要望により、大槌町の高齢者の方々の生涯学習支援を行ってきた。平成28年度は大槌町の大運動会にて運営（補助）や競技に参加し、交流を通じて生涯学習の充実を図った。

■実施期間：10月2日(日)
■実施場所：大槌町エールサポートセンター
■ボランティア学生：２名

■平成29年度の活動予定

平成29年度も教育委員会などと連携し、ニーズに対応した子どもたちへの学習支援活動などを行っていく予定である。平成28年度に実施した学校の他からも支援の要望が寄せられているので、平成28年度の取組を検討し、活動を展開、充実させていく予定である。

② ボランティア班

ボランティア班は、岩手大学三陸復興サポート学生委員会の学生が中心となり、宮古市、釜石市および陸前高田市のボランティアセンターなどと連携し、仮設住宅への訪問、地域のイベント支援、子どもの休日活動支援など、地域のニーズに応じた活動を行っている。

活動テーマと概　要

三陸復興支援学生活動団体の独立支援

●代表者　名古屋 恒彦（教育学部 教授）
●担当者　学生支援課：今野 和男、植松 千尋
　　地域連携・COC推進課：早川 浩之、及川 幸史

ボランティア班では、東日本大震災発災後の平成23年度より、学生団体を組織し、陸前高田市、宮古市、釜石市を中心にボランティア派遣を行ってきた。学生団体は幾度かの再編を経て、平成26年度に岩手大学三陸復興サポート学生委員会（以下、「学生委員会」）として組織化され、陸前高田市、釜石市を中心とした活動が軌道に乗るに至った。そこで、平成27年度には、学生委員会をサークル等の独立団体とする方向で支援を開始、平成28年度から、学生委員会はサークルとして再出発することとなった。また、宮古市での活動を継続していた学生団体も、岩手大学YMCAとして同好会とされた。ボランティア班では、班員が両団体の顧問となり、特に岩手大学三陸復興サポート学生委員会の活動支援を中心に、平成28年度は主に以下のように活動した。

■活動内容

●ボランティア活動の継続支援等

学生委員会を中心に、陸前高田市、釜石市での仮設住宅での活動、子ども支援活動に関して、学生委員会の自主的活動を前提に、交通手段の確保、関係団体との連絡調整などの支援を行った。

ボランティア班では、東日本大震災発災後、ボランティア活動に本学学生が関心をもちやすくするために、これまでも継続してさまざまな啓発活動を行ってきた。発災から5年を経過した平成28年度においても、学生委員会の活動を支援する形で、三陸復興サポートスタディツアー（平成28年5月8日(日)）を実施した。釜石市、陸前高田市を訪問し、連携している沿岸団体のご協力を得て、主に1年生を中心に見学を実施した。また、学生委員会の発議による、ボランティア班所掌外で活動する岩手大学内の震災復興学生団体との交流や連携を深めるために交流会開催を支援した。

陸前高田市にある「みちくさルーム」で子ども支援活動

陸前高田市高田町上和野地区での防災ワークショップ

釜石市でのサロン活動

●外部団体との連携

これまでも沿岸団体との継続的な連携を行ってきており、平成28年度もそれらを継続した。

さらに、今年度は、岩手大学がスターダスト☆レビューからの助成金を受けた。このことを機に、学生委員会及びボランティア班員らがスターダスト☆レビューが陸前高田市において開催した復興支援イベントに参加し、運営協力にあたった。

学生委員会でも、沿岸団体の支援の下、これまでから交流のある東北大学や神奈川大学など、他大学との交流を深めた。

スターダスト☆レビューのメンバーと三陸復興サポート学生委員会

●学生活動への経済的支援

学生委員会がサークル活動として独立したことから、独自に活動資金を獲得することを、ボランティア班としても支援することとした。各種助成金の応募にあたり、書類作成への助言等を班員が行い、学生の自治的活動の充実を図った。

また、ボランティア班としても、三陸復興・地域創生推進機構プロジェクトへの応募を行い、これらの活動に学生委員会の参画を得た。

■平成29年度の活動予定

ボランティア班としては、引き続き学生委員会の活動支援を軸に、活動を展開していく予定である。具体的には、釜石市・陸前高田市での仮設住宅等での活動、陸前高田市における子ども支援活動などを行う学生委員会の活動を支援する。岩手大学YMCAは、ボランティア班も発災当初から連携する盛岡YMCAの指導の下、学生独自の企画を宮古市において展開している。班員が顧問であることから、引き続き活動への助言を行っていく。

これからの活動を通して学生活動の自立の達成状況を確認しながら、岩手大学における復興ボランティア持続のあり方を検討すると共に、ボランティア班としての活動の終了を議論していきたい。

③ いわて高等教育コンソーシアム連携班

いわて高等教育コンソーシアム連携班は、いわて高等教育コンソーシアム連携校（岩手大学の他、岩手県立大学、岩手県立盛岡短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業専門高等学校）と連携し、被災地の復興を担う中核的人材の育成を推進している。

「地域リーダー育成プログラム」の充実と発展

活動テーマと概　要

●代表者　後藤 尚人（人文社会科学部 教授）
●担当者　教育推進機構：脇野 博、江本 理恵
人文社会科学部：藤本 幸二
総務広報課：鈴木 一寿、工藤 朗

いわて高等教育コンソーシアムで平成27年度から実施している「地域リーダー育成プログラム」は、多様な局面で地域の中核を担う人材の育成を目指しており、コア科目（「いわて学」「地場産業・企業論 / 研究」「ボランティアとリーダーシップ」「危機管理と復興」「グローカル基礎研修」）の履修と、地域課題解決プロジェクトの遂行により形成され、両方の条件を満たした学生には「地域を担う中核的人材認定証」が授与される。

当該プログラムの発展と充実に向け、今後コア科目にCOC関連の科目を加え、地域課題解決プロジェクトも適宜修正、拡充し、よりよい「地域リーダー育成プログラム」の展開を目指す。

■活動内容

●平成28年度　地域課題解決プロジェクト　さんてつ活用推進チームの活動

三陸鉄道（さんてつ）の活性化を目的としたプロジェクトとして「三陸鉄道の有効活用：さんてつで学ぶ地域の魅力」と銘打ち、コンソーシアム構成校の学生による地域課題解決プロジェクトを展開した。活動を進めるにあたり、さんてつをボランティア活動で支える団体として「さんてつサポーターズ」を結成し、ひろく一般の方々も含めメンバーを募集した。平成28年11月にはサポーターズ限定イベントとして震災学習列車の運行及び「てっちゃんの集い」を開催し、岩手県内はもちろんのこと、東京や大阪からも登録メンバーを獲得した。

また、北リアス線（久慈駅－田野畑駅間）駅周辺の魅力あるスポットをPRする「さんてつ魅力再発見マップ久慈駅－田野畑駅　編」を作成した。このマップは三陸鉄道のご協力で震災学習列車の乗客に配布されていく予定である。

さんてつサポーターズ限定イベントの震災学習列車

列車内で三陸鉄道のスタッフから説明を受けるさんてつサポーターズ

（株）三陸鉄道本社で中村社長（左から2番目）と学生との意見交換

完成した「さんてつ魅力再発見マップ　久慈駅－田野畑駅　編」

●コア科目　ボランティアとリーダーシップの実施（H28.9.8～9.12）

平成24年度から始まったコア科目「ボランティアとリーダーシップ」は、ボランティア活動に関する心構えや技能、リーダーの役割や組織の動かし方等を講義や実習を通じて、修得することを目的とした特別講義である。今年度の履修登録者は51名（岩手大43名、盛岡大1名、一関高専7名）で、昨年度の31名を大きく上回った。今年度のボランティア実習では直前の台風10号により大きな被害を受けた宮古市に赴き、より実践的な実習を行う事が出来た。

学生によるグループワーク風景

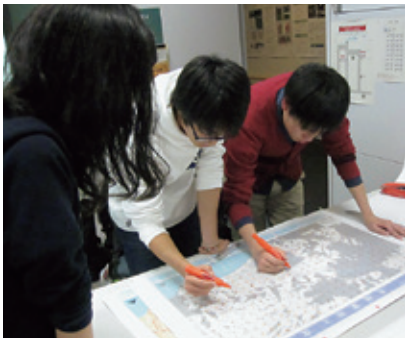
宮古市でのボランティア実習

合宿講義での集合写真

●コア科目　危機管理と復興（H28.10.22～12.17）の実施

コア科目「危機管理と復興」は危機管理や防災、都市計画、災害時の活動、コミュニティの再生などに関する知識を学ぶとともに、グループワークでの実習を通して、災害時に必要な対応能力と知見の修得を目的として開講している。

平成28年度は10月22日(土)～12月17日(土)まで、全15回の講義を実施した。震災を軸とした医療や犯罪について、また情報管理や共有の必要さ、自助、共助、公助などについて学び、深みのある講義となった。なお、今年度の受講者は、36名(岩手大27名、県立大2名、盛岡大7名)で、昨年度の18名を大きく上回った。


講義「都市と景観」

講義「東日本大震災と岩手県での対応」

講義「防災教育」

陸前高田市内視察

●その他コア科目の実施

上記の他、以下のコア科目を開講している。

・地場産業・企業論（H28.5.11～6.29）
　履修登録者　13名（岩手大8名、県立大5名）
・いわて学Ⅰ「三陸から知るいわて」
　～岩手の復興を考える～（H28.5.14～6.25）
　履修登録者　67名（岩手大16名、県立大22名、盛岡大29名）
・いわて学Ⅱ「平泉から知るいわて」
　～岩手の復興を考える～（H28.10.1～11.26）
　履修登録者　64名（岩手大13名、県立大14名、盛岡大37名）
・グローカル基礎研修「平泉の世界」（H28.8.17～8.22）
　履修登録者（岩手大8名（うち留学生1名））
・グローカル基礎研修
　「三陸ジオパーク・被災地の観光振興のための課題発見」
　(H29.2.16～2.28)
　履修登録者　30名（岩手大29名、県立大1名（うち留学生11名））

いわて学Ⅰでの旧大槌町役場(津波被害)視察

グローカル基礎研修でのグループワーク

■平成29年度の活動予定

地域リーダー育成プログラムを継続し、「地域を担う中核的人材」の輩出に努力していくとともに、産業界に対しても当該プログラムに関するPR活動を行い、認知度向上に努める。

地域課題解決プロジェクトについては、三陸鉄道の有効活用に関する取組を継続しつつ、新たな課題に関する取組についても検討する。

④ 心のケア班

心のケア班は、被災者が心の安定と健康を増進し、復興段階における様々なストレスを乗り越えていけるようにリラクセーションセミナーや市民講座の開催、三陸沿岸の県立高校へのスクールカウンセリングの派遣、支援者への支援などを行っている、また、釜石サテライトに「こころの相談ルーム」を設置し、カウンセリング相談を行っている。

活動テーマと概要

被災者および支援者への長期的なこころのサポート

●代表者　山口　浩（人文社会科学部 教授）
●担当者　三陸復興・地域創生推進機構：佐々木 誠
人文社会科学部：織田 信男、奥野 雅子、松岡 和生、三浦 俊弘、廣瀬 直美
教育学部：山本 奨、阿久津 洋巳、岩木 信喜
保健管理センター：早坂 浩志、立原 聖子
三陸復興支援課：佐々木 徹

被災者および支援者への長期的なこころのサポートを推進するために、以下の活動を行った。
①被災地の心のケアに係わる計画立案・実施・調整
②岩手大学三陸復興・地域創生推進機構・釜石サテライトにおける「こころの相談ルーム」の運営
③被災地における、心のケア班・市民講座（定例・拡大版）の実施
④被災者仮設住宅への訪問支援
⑤三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援
⑥心のケアに関わる心理学的基礎研究の遂行
⑦支援者に対するメンタルケアおよびスキルアップ研修の実施
⑧被災地の長期的支援に係わる臨床心理士養成のための沿岸研修活動の実施
⑨心理支援をテーマとする被災３県によるシンポジウムの開催

■活動内容

●被災地の心のケアに係わる計画立案・実施・調整

三陸復興・地域創生推進機構の特任准教授（臨床心理士）が中心となり、以下の心のケアの計画立案・実施・調整を行った。
(1) 現地支援者の会議などに参加し、情報収集に努め状況について把握した（通年 17回）。
(2) 盛岡工業クラブ、釜石保健所主催地区看護業務セミナー、沿岸広域振興局主催の震災遺児のための親子のサロンでの震災ストレスなど関連の講演およびレクチャーを行った（6月～10月 9回）。
(3) 調査協力、ラジオ収録、新聞取材対応を行い、現地の様子や心のケアについての意見交換等を行った（4月～2月 8回）。
(4) 岩手県教育委員会への協力として、沿岸部の中学校での心理教育授業および内陸の高校での講演を行った（通年６回）。

被災地で行われる復興支援関連会議の様子

●岩手大学三陸復興・地域創生推進機構・釜石サテライトにおける「こころの相談ルーム」の運営

特任准教授（臨床心理士）が中心となり、釜石サテライトにある「こころの相談ルーム」において、来談による相談、スクールカウンセラーへのスーパーヴィジョン、支援者とのコンサルテーションなどの心理面接業務を行った（通年69件）。相談内容として、新規の明らかな震災関連の相談もあり、今後も継続して支援していく必要がある。

相談イメージ（左：佐々木誠特任准教授（臨床心理士））

●被災地における、心のケア班・市民講座（定例・拡大版）の実施

特任准教授（臨床心理士）を講師とした、傾聴、リラクセーション、アンガーコントロールをテーマとした市民講座（月例版）を宮古市、釜石市、陸前高田市で実施した。また、3月には心のケア班所属の教員による「心のケア班市民講座・拡大版（こころのじかん５）」を釜石市、大船渡市、陸前高田市で実施した（3月 ４回実施）。全７講座での参加者は139名であった。

■3月14日（火）陸前高田市「悲しみを抱える・悲しみを支える」（佐々木誠）
■3月15日（水）大船渡市「言葉は魔法！～コミュニケーションについての再考～」（奥野雅子）
■3月16日（木）釜石市「リラクセーションでストレスに克つ！」（山口　浩）
■3月17日（金）宮古市「子どもの可能性を大きくする心理学的方法」（織田信男）

釜石市で開催した市民講座拡大版（こころのじかん５）

●被災者仮設住宅への訪問支援

被災地では自立再建と公営住宅の整備、および自治体主体の活動が回復してきたため、支援団体の活動を必要としないものが増えている。このような経緯から、仮設住宅にお住まいの方々への支援については、沿岸支援研修での竹駒コミュニティセンターでのタッピングタッチ（リラクセーションの一種）研修のみであった。しかし、地域の課題として新しいコミュニティづくりの中でのストレスの解消も今後必要とされるため、自治体等と連携しながら新しい支援を模索していく必要がある。

陸前高田市竹駒コミュニティセンターでのタッピングタッチ研修

●三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援（岩手県教育委員会の事業への協力）

三陸沿岸の2高校へスクールカウンセラーを派遣した。

県立釜石高校（定時制）は1名のスクールカウンセラーで担当し、基本的に月に1回の頻度で訪問し、年間10回の訪問を行った。主に生徒の相談及び教員へのコンサルテーションを行った。

また県立大槌高校は4名のスクールカウンセラーで担当し、基本的に週1回の頻度で訪問し、年間40回の訪問を行った。主に生徒や親との相談及び教員へのコンサルテーションを行った。

岩手県教育委員会とも情報交換会議を行い、意思疎通を図りながら進めた。

●心のケアに関わる心理学的基礎研究の遂行

平成28年度は特に「災害トラウマおよびPTSD発症メカニズムの基礎研究としての心的イメージの脳内情報基盤の研究」に取り組んだ。その結果、

（1）脳機能イメージング装置（NIRS）計測における標準的データ解析手法の開発・提案
（2）NIRS計測による国際情動画像刺激(IAPS)を用いた情動喚起に伴う皮質活動に関する研究成果を学術学会で報告
（3）NIRS計測を用いて、イメージ想起と感情制御に関する研究を推進し、イメージ想起の視点の違いに関わり、個人特性による効果差について重要な知見を得た。
（4）強い感覚イメージ経験を有する直観像素質者及び共感覚者に対する研究を進め、研究成果を国際心理学会(ICP2016)および他の学術学会で報告
（5）視覚イメージ想起時の視線活動を視線計測装置により計測し、イメージ能力特性との関連を検討（来年度の学会で報告予定）
（6）心のケアに関わる心理学的基礎研究の専門教育への還元を行った。

●支援者に対するメンタルケアおよびスキルアップ研修の実施

自治体の実施する傾聴ボランティアや看護師等支援者への研修、支援団体からの依頼による組織内研修、教員対象のストレス関連研修などの単回の研修を行った（８団体、通年８回）。

支援者に対するストレス関連研修

●被災地の長期的支援に係わる臨床心理士養成のための沿岸研修活動の実施

陸前高田市社会福祉協議会が実施する仮設住民を対象としたサロンに参加し、臨床心理士を志望する大学院生によるタッピングタッチ実技研修会、現地で活動する教員による沿岸支援の講義、卒業生を講師とした学校臨床活動についての相互学習を行った。また本年度は、講師を招き陸前高田市での子ども支援の実際や、整備中である震災遺構等の見学といったリアルな復興の様子を学ぶことができた。

臨床心理士を志望する大学院生による
タッピングタッチ実技研修会

●心理支援をテーマとする被災３県によるシンポジウムの開催

福島・宮城・岩手で子どもの心理支援活動を行っている団体からシンポジストを招聘し、「子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム」を釜石地区合同庁舎にて開催した。山陰地方はじめ各地からご参集いただき75名の参加となった。参加者の評価は、大いに満足35、比較的満足15、少々不満0、非常に不満0（有効回答数50）となり、好評を得た。

被災3県による
「子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム」

■平成29年度の活動予定

被災者および支援者への長期的なこころのサポートを推進するために、引き続き以下の活動を行う。
①被災地の心のケアに係わる計画立案・実施・調整
②岩手大学三陸復興・地域創生推進機構・釜石サテライトにおける「こころの相談ルーム」の運営
③被災地における、心のケア班・市民講座（定例・拡大版）の実施
④被災者仮設住宅への訪問支援
⑤三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援
⑥心のケアに関わる心理学的基礎研究の遂行
⑦支援者に対するメンタルケアおよびスキルアップ研修の実施
⑧被災地の長期的支援に係わる臨床心理士養成のための沿岸研修活動の実施
⑨心のケアに関わる被災地支援に利用できる心理教育テキストの作成

⑤ 被災動物支援班

被災動物支援班は、移動診療車「ワンにゃん号」を出動させ、被災動物に関する「なんでも相談会」、沿岸地域での臨床獣医師を対象とした「高度獣医療セミナー」、「ペット同行避難についての勉強会」などを行っている。また、被災地での畜産業に対する支援として、動物病院において被災地の産業動物に対する放射性物質の影響調査や高度獣医療を実施するとともに獣医学課程学生の臨床教育にも活かしている。

活動テーマと概要

動物とともに生きる

●代表者　佐藤 れえ子（農学部 教授）
●担当者　農学部：宇塚 雄次、岡田 啓司、山﨑 真大、井口 愛子、内田 直宏、小林 沙織
三陸復興・地域創生推進機構：山﨑 弥生

＜小動物グループ＞
①現地獣医師や拠点保健所、被災動物支援ボランティア団体、被災地住民からのニーズ調査
②動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供
③岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催
＜大動物グループ＞
④福島第一原子力発電所事故旧警戒区域内の牛に対する高度獣医療を用いた繁殖検診と管理

■活動内容

●現地獣医師や拠点保健所、被災動物支援ボランティア団体、被災地住民からのニーズ調査

台風10号による被害を受けた久慈、宮古、岩泉で開業している小動物臨床獣医師、管轄保健所に対し、被害状況の聞き取り調査を行った。岩泉町では管轄保健所である宮古保健所と協力し、岩泉町役場 環境推進室 主事 畠山雄平氏との面談により、ペット同行避難や支援ニーズについての調査を行った。また県庁救護本部との連絡を行い、現段階では緊急に行う事は無い事などから、これから発生する支援ニーズを共有し、随時支援を行う事を決定した。

●動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供

熊本地震への支援のため、ワンにゃん号を宮崎大へ輸送し、熊本県獣医師会の要請により被災地への出動を行った。救援物資として、抗生物質などの治療薬、血液検査用試薬類、処方食の提供を行った。動物愛護団体「いのちの会・岩手」動物保護施設における移動診療を行い、被災地より保護された犬およびネコの健康診断（血液検査・尿検査・腹部超音波エコー検査）と飼育管理・疾病予防・衛生管理の助言を行った。岩手県沿岸地区獣医師会との協力により、「動物なんでも相談会」を開催、その後、岩手県獣医師会主催の動物フェスティバルにおいても「動物なんでも相談会」を開催した。

熊本地震への動物移動診療車「ワンにゃん号」の派遣

共に前へ

ペット診療で被災者元気に

宮大動物病院 獣医師ら週1開設

「ワンにゃん号」で被災者の愛犬を診療する宮崎大農学部付属動物病院の佐藤和之准教授

宮崎日日新聞社提供（2016年5月17日付）

動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供

動物なんでも相談会（宮古市）

●岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催

岩手小動物臨床研究会を計７回開催した。開業獣医師による症例発表や附属動物病院の教員・講師よる研究発表を行った。福島県における開業獣医師への研究支援として、発見された珍しい症例について検査・研究を行い、学術集会（３回）での発表を行った。

●福島原発被災地域における低線量持続被ばく牛の継続調査

福島原発被災地域における低線量持続被ばく牛の飼養管理支援と継続調査を実施した。調査内容は空間線量、土壌線量、牛の被ばく線量、牛の健康状態などであり、これらの調査結果を学術集会・シンポジウム（計４回）、論文（２報）にて発表した。

福島原発被災地域における低線量持続被ばく牛の継続調査

■平成29年度の活動予定

＜小動物グループ＞① 動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供。被災地で行われる動物愛護フェスティバル内での「被災どうぶつ何でも健康相談会・診療」や仮設・災害復興住宅、動物保護団体などに移動診療車を派遣し、高度獣医療の提供を行い、保護動物・家庭小動物とその飼い主に対する支援を行う。②岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催③岩手県と連携したペット同行避難訓練の実施他
＜大動物グループ＞福島原発被災地域における低線量持続被ばく牛の継続調査

⑥ 地域コミュニティ再建支援班

地域コミュニティ再建支援班は、被災地の地域コミュニティの再建を総合的に支援している。被災地の再建ニーズ調査、仮設住宅調査、災害公営住宅並びに集団移転地におけるコミュニティ調査などの各種調査のほか、被災地の復興後のまち・むらづくり計画や、復興祈念公園等の計画等について、住民主体の計画案の作成や計画策定後の管理運営の支援を行っている。

活動テーマと概　要

被災地の地域コミュニティの再建支援

●代表者　広田 純一（農学部 教授）

●担当者　人文社会科学部：竹村 祥子、五味 壮平、杭田 俊之
教育学部：麦倉 哲
理工学部：南 正昭
農学部：伊藤 幸男、三宅 諭、山本 清龍
三陸復興・地域創生推進機構：船戸 義和

地域コミュニティ再建支援班としては、以下の5つについて取り組んでいく。

1. 地域コミュニティの実態調査
   これまで大槌町を中心とした仮設住宅調査を続けるとともに、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市等で建設・入居が進んでいる災害公営住宅ならびに、集団移転地におけるコミュニティ調査を行う。
2. 拡大コミュニティの形成に向けた実態調査および活動支援
   被災地の地域コミュニティとそこに関わりのある非定住者（出身者、交流者、関心者）とで作る拡大コミュニティの可能性を探り、その形成を支援するために、現在、被災地で萌芽的に見られる拡大コミュニティおよび全国の先進的な事例の実態調査を行うとともに、拡大コミュニティ形成に関わる活動支援を行う。
3. 地域コミュニティ再建への計画支援
   被災地域の復興後のまち・むらづくり計画や、復興祈念公園等の計画等について、住民主体の計画案の作成や計画策定後の管理運営等の支援を行う。
4. 地域コミュニティ再建への活動支援
   震災前の伝統行事やイベントの再開、さらに震災をきっかけとした新たなイベント等の企画・実行に取り組む。
5. 地域コミュニティ再建に関わる政策提言
   各自治体の復興計画等の策定委員会に参画し、被災者の生活復興、地域コミュニティの再建・形成、なりわいの再生、復興事業制度や運用のあり方について提言を行うとともに、自治体から課題解決の要望があった場合は実践領域の他班や教育研究領域の各部門と連携を図っていく。

■活動内容

●情報誌『だいぶそこまで』（秋号）の発行（岩大E_codeプロジェクト）

岩大E_code は、陸前高田市の関係者の方々に協力をいただきながら陸前高田市に関する情報誌を発行してきた。平成 28年度は、前年度に続き、岩手県内陸部に住む学生をターゲットとして想定した若者向けのガイドブック『だいぶそこまで』（秋号）を刊行した（平成28年10月）。特集テーマを「海の温泉、山の温泉」とし、この冊子を手に取った若者が陸前高田市を訪問してみようかなと思うきっかけを提供することを目的とした。4000部印刷し、盛岡市をはじめとした岩手県内陸部各所、陸前高田市内で頒布している。有限会社ラプソディ様（岩手大学に寄付をしてくださった音楽グループ「スターダスト☆レビュー」の所属するプロダクション）からも高評価をいただいた。

発行した情報誌『だいぶそこまで（秋号）』

●「いわて ぬぐだまるフェア」の実施（岩大E_codeプロジェクト）

学内に増えてきた地域応援団体に岩大E_codeが呼びかけを行い、計７団体がコラボするイベント「いわて ぬぐだまるフェア」を盛岡市のクロステラスにて平成28年11月に開催した。参加したのは、E_codeのほか、岩手大学ぶどう部（大迫）、人文社会科学部釜石研究室（釜石）、まちづくりサークルNPCN（盛岡）、町づくり研究会（雫石）、ひろの福幸プロジェクト（洋野）、石鳥谷編集部（石鳥谷）である。当日は、各地の食材を使った鍋の販売、各地域応援ブース（物販、展示）が行われた。若者の熱気あふれるイベントとなった。各地域からはイベント応援のために駆けつけてくれた人々も存在した。このイベントの開催後、地域応援団体の間で連携を模索する動きが出始めている。

いわてぬぐだまるフェアのチラシ

いわてぬぐだまるフェアでの集合写真

岩大E_codeによる陸前高田応援ブース

●盛岡⇔陸前高田を近くしよう懇談会＆懇親会

昨年度に続き、盛岡周辺で陸前高田にゆかりのある人たちの集う場をつくろうという趣旨で「盛岡⇔陸前高田を近くしよう懇談会＆懇親会」を実施した。もりおか復興支援センターの協力も得て、平成28年度は4月、6月、9月、12月と計4回開催した。20代から70代まで、また陸前高田と関わりの仕方も様々な幅広い参加があり、高田ゆかりの人々のあいだのネットワークが広がった。

●陸前高田グローバルキャンパス設置準備と大学シンポジウム2017

岩手大学と立教大学は、陸前高田市に「陸前高田グローバルキャンパス」を設置することにした。平成29年4月のオープニングに向けて、両大学と陸前高田市との間で協議を重ねてきた。陸前高田市にとっては、平成28年3月に策定された「まち・ひと・しごと総合戦略」で位置づけられた施策にのっとったものである（これは拡大コミュニティの概念を活かした「思民」という考え方に基づいた施策である）。またグローバルキャンパスオープン前のプレイベントとして、「陸前高田グローバルキャンパス　大学シンポジウム2017」を平成29年1月に開催し、国内外の大学関係者により計39件の発表がなされた。このシンポジウムには市民も含め二日間でのべ約350人であったと見込んでいる。大学間のネットワークが広がり、強化されるとともに市民との接続がなされたシンポジウムであった。

陸前高田グローバルキャンパス
大学シンポジウム2017のチラシ

●高田松原津波復興祈念公園　協働体制検討ワーキンググループ

広田部門長と部門員の五味は、国、県、陸前高田市が連携して計画、設計に取り組んできた高田松原津波復興祈念公園の協働体制検討ワーキンググループの幹事および副幹事としての活動を行ってきた。これは、市民が公園の維持管理、魅力づくりに関わることができるしくみをつくることを目指すワーキンググループであり、市民ワークショップを3回シリーズで行うなど、一歩ずつ地盤づくりを進めてきている。本公園には、多くの人々が同市そして三陸地域を訪問し、震災の教訓等について学ぶことのできるゲートウェイとしての機能が期待されており、平成29年3月には起工式が行われた。

●女性の視点を活かした防災ワークショップ

女性の視点を取り入れた防災まちづくりの取り組みの必要性が指摘されるようになっている。久慈市では大規模な復興事業が済んでいることから、これからの防災まちづくりの方向性を探るために、東日本大震災の経験を振り返りながら、今後の防災まちづくりへの指針を得ることを目的として、女性視点からの課題を抽出するワークショップを行った。特に、災害発生直後の避難所運営では混沌とした状況が生じやすいことから、女性視点を取り入れていくための課題等を整理した。

久慈市の女性を対象とした防災ワークショップ

●野田村都市公園GWおよび運営体制の検討

これまで小学校、中学校、高校と協力して取り組んできた都市公園の基盤がほぼ整備されたことから、これまで小中学生が育成してきた花および樹木の苗を現地に植栽・植樹するとともに、高校生が設計・製作した遊具や看板等を現地に設置した。また、開園後の維持管理体制について、役場、住民および各種団体と協議を行い、小さい区画毎に特定の団体と中心に維持管理活動を進めていく方向で検討した。

平成29年度は開園に合わせて、これまでに参加した小中学校および高校の卒業生、村民にも声をかけて植樹イベントを行うことを予定している。

久慈工業高校生による遊具の設営

野田村小学生による花壇の植栽

●人口減少下でのまちづくり勉強会

震災によって加速された人口減少下でのまちづくりの方向性を見つけるにあたり、阪神淡路大震災、雲仙普賢岳火砕流、三宅島噴火、玄界島、奥尻島などの事例から復興事業後に生じた課題を紹介するとともに、米国のシュリンキングシティの現状とその対応策から、その地域で現実的に取り組み可能な活動を提示し、その実現に向けた道筋を参加者と検討した。その結果、地域住民が中心となって地区内の重要視点場等を抽出し、その周辺を手入れすることや、地区外、特に都市若者との交流を進めていくための取り組みに着手することの重要性が確認された。

●歴史と文化を活かした復興まちづくりの検討

宮古市立鍬ヶ崎小学校6年生の児童を対象に、鍬ヶ崎地区がどのように形成・発展してきたのか授業を行った後、住民が一緒に地区内を点検するまち歩きを行い、眺望の良い場所や震災当時に住民を救った「命の水」と呼ばれる場所の存在を確認し、復興事業で姿を変えつつも昔の骨格がどのように残されているのかを確認した。また、子ども達のまち歩きの成果と昔の思い出などを整理し、地元住民団体がパンフレットを作成するための支援を行った。その後、これまでの6年間の歩みを振り返りながら、鍬ヶ崎地区の良さ等を踏まえて今後のまちづくりの展開に向けた助言を行った。

宮古市立鍬ヶ崎小学校の児童と住民が一緒に取り組んだ地区内点検のまち歩き

学習成果を発表する宮古市立鍬ヶ崎小学校の児童

●復興からのエリアマネジメントの展開支援

復興事業が進む一方で、被災地では人口流出の危機感が更に高まっている。特に都市施設が整備されても利用者がいない、或いは利用されないことを危惧する声が高まっている。そうした状況において、いくつかの地域では住民が自治組織を設立して維持管理運営を担おうとする取り組みが模索されている。

復興にあたり設立されたまちづくり会社やまちづくり協議会と、地域の拠点を中心としたエリアマネジメントのあり方として、運営組織の規模や担い手（人材）の可能性、今後の人材育成や補助に頼らないで実現可能な事業内容等について検討を進め、今後の進め方を整理した。

●各種団体等が取り組むコミュニティ形成支援

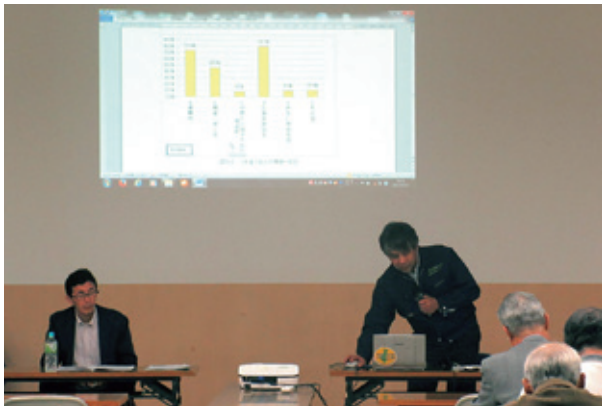
NPOや公益社団法人等が各地で取り組むコミュニティ形成支援、特に災害公営住宅でのコミュニティ形成の相談について、事例等を紹介するとともに助言を行った。公益社団法人が取り組むコミュニティ形成支援に関しては、仙台市長町の公営住宅の事例とそのキーパーソンを紹介し、盛岡で開催されたセミナーの展開に繋がった。さらに、NPOが取り組んだ政策提言に関しては各地での事例を紹介し、来年度以降のコミュニティ形成支援の政策への反映が期待される結果となった。

あすと長町公営住宅でのヒアリング調査

●仮設住宅調査と大震災を語り継ぐ会の開催

平成28年９月～11月にかけて、大槌町仮設住宅調査６回目を実施し、平成28年11月～平成29年１月にかけて、山田町大沢地区仮設住宅調査６回目と、大槌町災害公営住宅１回目を実施した。大槌町公営住宅調査結果の概要は、3月に記者発表し、５月に報告会を開催した。大槌町仮設住宅調査結果については、６月に報告会を開催した。

他方で、大震災の遺族の心の復興を目的とした「大震災を語り継ぐ会」（サロン活動）を平成28年９月から３月までの期間に８回開催した。また、復興途上の困難を抱える被災者を傾聴訪問する活動を継続し、延べ200人の方と面談を行った。



災害公営住宅調査報告会

語り継ぐ会

●漁協女性部による魚食普及活動

釜石白浜浦漁協女性部の魚食普及活動への協力・連携を行なっている。研究室の活動としては、現地での魚食普及の取り組み参画するとともに、地域における水産物資源、未利用資源、地元での文化や歴史を通じた水産物の情報を収集し、これからの活用のためのリスト化、データベース化を進めている。また、開発商品である「ワカメの芯ちゃん」の販売実証事業にも協力している。(写真はコミュニティ番屋での取り組み、釜石味覚フェスタへの出店) 地域における漁協女性部の取り組みが、橋野地区などとの海山交流や「ぬぐだまるフェア」参加など食を通じた地域のつながりに広がっている。

白浜浦ワカメを活用した調理

釜石味覚フェスタでの販売

●なりわいとしての漁業と漁村コミュニティの今後

地域の取り組みに参画しながら、釜石市尾崎白浜地区、佐須地区について、漁村コミュニティの今後を漁業、養殖漁業というなりわいの持続性とあわせて調査している。こちらは漁家経営の向上、後継者・担い手問題の課題検討を進めている。

釜石市佐須地域での漁家聞き取り

●災害公営住宅での自治会づくり

各地で災害公営住宅への入居が本格化し、震災前や仮設住宅で築いたコミュニティを離れて、新たな地域で生活する方が増えた。入居者は共用部分の掃除など、住宅の管理運営を協力して行うことになるが、特に大型の住宅ではお互いの顔と名前が分からず難しい。そこで、多くの入居者が主体的に関わる自治会の設立を支援した。15か所で入居後の顔合わせ会等を実施し、うち7か所では入居者から自治会設立準備委員を募って約2時間半の委員会を継続的に開催した。委員には高齢者や自治会未経験者も多いことから、全員の理解度向上に時間をかけ、準備過程を通じて委員同士の関係と自分ごと意識が培われるよう工夫した。3カ所では約10回の委員会を経て自治会が設立され、残る4か所は継続中である。

自治会設立のための準備委員会（県営栃ヶ沢アパート12月2日）

●災害公営住宅での繋がりづくり

自治会が設立された災害公営住宅ではコミュニティづくりを目的とした自治会活動を支援した。大船渡市沢田南アパートでは毎月行われる掃除の後に親睦を深めるための行事開催を提案したところ、入居者から芋煮会の案が出て準備をはじめたことから、開催を側面的に支援した。普段顔を合わせない世帯や子どもたちとの交流が見られ、コミュニティづくりの良い機会となった。また、同市県営上平アパートでは集会所などに置くベンチづくりを提案し、自治会が声掛けして男性がベンチを手づくりし、女性中心に準備したお昼を一緒に食べて親睦を深めた。学生ボランティアも参加した。以降、ベンチは集会所での行事で頻繁に使われ、コミュニティづくりの場として重宝されている。

手づくりしたベンチに座り、談笑する入居者（県営上平アパート 8月11日）

●地域のつながりと世代間交流

地域の方々が中心となって行う活性化や世代間交流などを目的とした行事を支援した。美しく波の少ない山田湾をシーカヤックで体験し、交流を図る「山田パドルフェス」では運営をサポートし、学生ボランティアも加わって200名近くが町の魅力を感じながら親睦を深める機会となった。大船渡市の仮設商店街では、商店街が地域の集いの場となりつつ活性化できるように行事を続けており、岩手大学学生さんさ同好会が演舞を行って行事を盛り上げた。学生にとっても被災地の現状を見聞きする良い機会となり、様々な交流も見られた。

シーカヤックを楽しむ小学生ら（山田町 7月31日）

来場者とふれあう学生さんさ同好会のメンバー
（おおふなと夢商店街 11月5日）

●大槌町のコミュニティ総合支援

大槌町では、平成28年度にコミュニティ総合支援室を立ち上げ、町内の全地区の地域コミュニティ形成支援を開始しており、岩手大学はその統括アドバイザー（広田）ならびに地区担当アドバイザー（船戸）として参画している。本町ではコミュニティ形成の取組を「元気なご近所づくり」と名付けて、地域住民自らが協力して地域の課題解決に取り組むことを通じて、地域のまとまりと課題解決力（＝地域力）の向上を図ろうとしている。具体的には、町内を５つの地区（安渡・赤浜、吉里吉里・浪板、大槌川流域、小槌川流域、町方）に分けて、地区ごとに地域コーディネーター（地域住民）とそれを支えるアドバイザー（外部専門家）を置き、「ご近所づくり」の取組の仕掛けや支援を進めてきている。知らない者同士が入居する災害公営住宅でのゼロからのコミュニティづくり、元の住民が住宅再建して戻ってくる既存地区でのコミュニティ再生、旧住民と新住民（移転者）が混ざる地区での新たなコミュニティ形成等、多様なコミュニティ形成の支援に日々取り組んでいる。

地域コーディネーターの研修会の様子

嵩上げと区画整理が終わり、住宅や商店の再建が進む中心市街地（町方地区）。これからのコミュニティ形成が大きな課題になっている。

■平成29年度の活動予定

ハード工事が完了に近づいている現在、被災地の一番の課題はソフト面での支援である。具体的には、災害公営住宅や防集団地、あるいは新旧住民が混在する地域におけるコミュニティづくり、人口減少下での中心市街地での賑わい再生、人口減少対策の一環としての観光・交流振興などに対する支援が課題となる。これらの課題解決には、行政と地域、NPOや民間企業等、多様な主体の協働、さらには被災地以外の主体の参画が必要であり、こうした取組は、被災地だけではなく、本格的な人口減少時代を迎えている我が国の地域創生のモデルともなる取組といえる。とりわけ、地域コミュニティ 再建支援班では震災直後から、地域に居住していない外部者（出身者、交流者、関心者）をも含めた新たなコミュニティを「拡大コミュニティ」と呼んで、震災復興の新しいアプローチとして提案してきたが、これもまた地域創生の新しい手法として活用できると考えている。
平成29年度は、震災復興から地域創生へという流れを意識しながら、これまでの支援活動を発展強化していく予定である。

⑦ ものづくり産業復興推進班

ものづくり産業復興推進班は、（公財）釜石・大槌地域産業育成センター内に活動拠点（釜石ものづくりサテライト）を構えて、難削材の加工技術やCAD/CAM技術などを地域企業に定着させるための講習会や技術相談などの取り組みを進めている。

活動テーマと概　要

地域に根付くものづくり産業支援を！

●代表者　水野 雅裕（理工学部 教授）
●担当者　理工学部：廣瀬 宏一
三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤、菊地 康仙、熊谷 和彦、真野 孝幸

平成28年度、ものづくり産業復興推進班では特任研究員2名と、コーディネーター1名を、活動の拠点である「岩手大学釜石ものづくりサテライト」に配置して活動した。

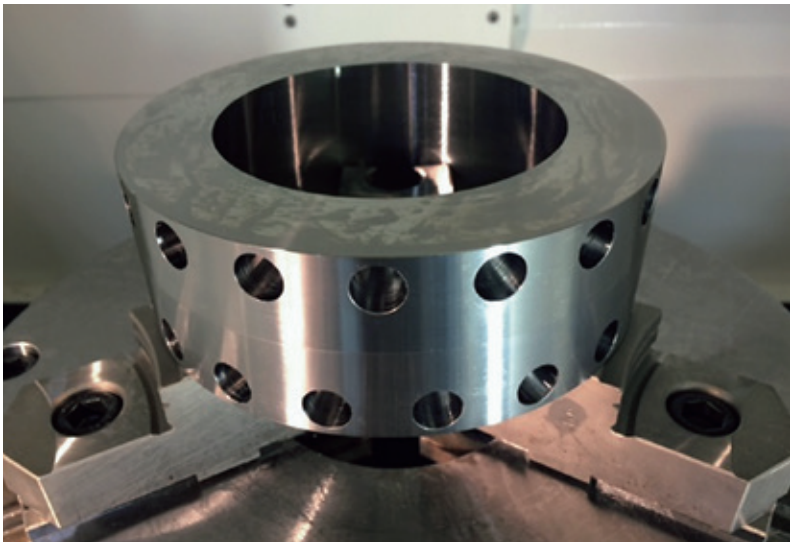
特に平成28年度は、（公財）釜石・大槌地域産業育成センターからの受託事業として「岩手大学釜石ものづくりサテライト」を運営する初年度となり、これまでの施設運営や試作対応、講習会の実施だけではなく、地域の企業調査、地域企業との連携などにも力を入れて取り組んだ。

■活動内容

●加工技術の支援

地域のものづくり企業の技術向上や、新たな技術的な取り組みを支援するために、「釜石ものづくりサテライト」は導入の機材を使って様々な加工技術の支援を行っている。平成28年度は、77件の技術支援を行い、このうち64件がものづくりサテライトの機材を使って行う支援活動だった。

ものづくりサテライトには、設計に必用な３D-CADや、5軸マシニングセンタ等の加工機材、3次元計測機などの測定機材が備えられており、設計～製造～検品の一連のプロセスに幅広く支援できる機材が揃っている。



市内企業からの試作依頼品

●地域の企業の新製品創出を支援

「釜石ものづくりサテライト」が設置される（公財）釜石・大槌地域産業育成センターでは、定期的に地域のものづくり企業が集まって「新製品研究会（三陸テカルデ）」の会合が開かれている。現在は特に、釜石市で試合が開催される「ラグビーワールドカップ2019」に向けた「お土産品作りプロジェクト」に力が入っている。

「釜石ものづくりサテライト」は、導入の機材を使ってこの活動を支援しており、アイディアの具体化のために多種の試作品を作製中である。

ラグビーワールドカップお土産の試作(ペーパーナイフ)

●地域企業のニーズを細やかに調査

平成28年度は、地域の企業を訪問する機会をこれまでよりも大幅に増やし、細かなニーズを拾うことに注力した。また、同時に地域企業との連携や、共同研究などを視野に入れ、各種補助金の受託申請支援にも関わった。この成果として、年度末までに２件の共同研究案件が、補助金の受託を受けた。

●地域のものづくり人材育成支援

各種の技術講習会の自主開催や、講習会・体験会等の催しの開催支援を通して、幅広く地域のものづくり人材の育成支援を行っている。

釜石・大槌地域産業育成センターが主催する「釜石・大槌地域産業フェア」では、毎年地域の高校生を対象とした「ものづくりワークショップ」を実施。平成28年度は約130名の高校生がこのワークショップに参加し、「ものづくり」にまつわる学習の機会を体験した。

釜石･大槌地域産業フェアものづくりワークショップ(釜石商工高校130名)

■平成29年度の活動予定

(公財)釜石・大槌地域産業育成センターからの受託事業2年目となる平成29年度は、引き続き「釜石ものづくりサテライト」の施設運営や試作対応、講習会の実施を行っていくと同時に、さらに地域の企業調査、地域企業との連携に力を入れて取り組み、地域企業との産学連携や、新製品開発支援の取り組みを加速していきたいと考えている。

⑧ 農地復興班

農地復興班は、津波により土壌肥沃土が低下した農地と周辺環境において、土壌調査、水質調査、気象水文観測、堤防の沈下量調査及び植生調査を行っている。また草地の利用再開に資するために急傾斜、石礫などの草地更新などの除染対策がとれない牧草地を対象に低減対策や利用可能時期の推定を行う。

活動テーマと概　要

①牧草地の放射性物質動態調査と低減方策の策定
②リサイクル技術を用いた被災農用地基盤の復興
③水田排水による湾内への栄養塩負荷量の推定
④水田農業のインフラ復興

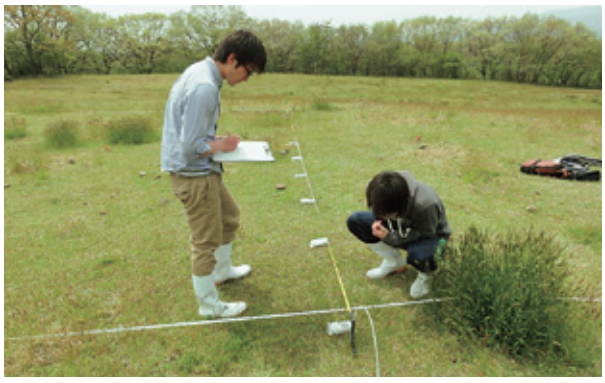
●代表者　山本 清仁（農学部 准教授）
●担当者　農学部：倉島 栄一、颯田 尚哉、金山 素平、濱上 邦彦、原科 幸爾、武藤 由子、築城 幹典、立石 貴浩

①急傾斜、石礫などのため草地更新などの除染対策がとれない牧草地を対象に、放射性物質の動態調査を行う。また、それらの結果をもとに、効果的な低減対策や利用可能時期の推定を行い、草地の利用再開に資する。
②カキ殻の主成分である炭酸カルシウムに着目し、リン酸を用いた土の固化処理技術を検討する。固化性能の評価と被災農用地への応用を検討するため基礎的な室内実験を行う。
③広田湾における栄養塩類の動態の把握のために、気仙川および小友水田排水の影響を考慮し、栄養塩負荷量の推定を定期水質観測の結果をもとに行う。
④盛土復旧した水田の稲の生育状況を面的に把握するために、ドローンに搭載したマルチスペクトルカメラによるリモートセンシングを行い、生育不良の原因について考察する。

■活動内容

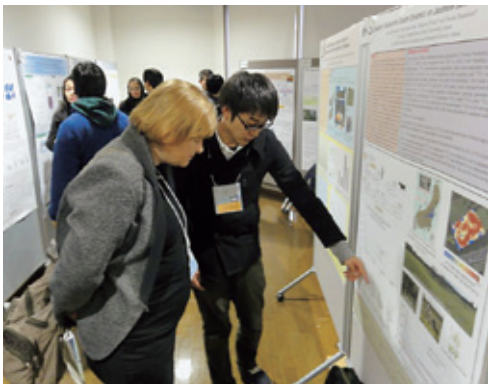
●牧草地の放射性物質動態調査と低減方策の策定

一関市、栃木県那須塩原市および福島県須賀川市において、空間放射線量率、牧草中放射性セシウム濃度および土壌中放射性セシウムの垂直分布を調査した。国際学会誌に1報、国内学会誌に1報論文が掲載された。カナダ・サスカトゥーン市で開催された第10回国際草原学会議において、ポスター発表を行った。システム農学会2016年度秋季大会において、修士課程の学生が口頭発表を行った。第1回岩手連大国際シンポジウムにおいて、2報のポスター発表を学生が英語で行った。また、日本草地学会弘前大会の企画シンポジウムにおいて招待講演を行う。


空間放射線量率の測定

放射性セシウム濃度測定用牧草の刈取り

国際草原学会議でのポスター発表



連大国際シンポジウムでのポスター発表

リサイクル技術を用いた被災農用地基盤の復興

カキ殻を使用した土の固化処理技術に関する研究について、様々な試験条件の下で検討を行い目標とする強度に達することを確認した。これに関連した成果を、平成28年農業農村工学会大会講演会において学生がポスター発表し、優秀ポスター賞を受賞した。

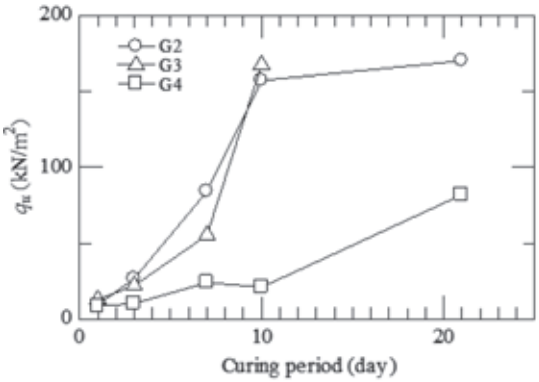
陸前高田市小友町と宮城県亘理郡亘理町に築造された海岸堤防の地盤変形状況のデータ収集した。また、高田地区中心市街地に関する残留沈下量の評価に関して陸前高田市復興局の職員と協議し、今後の対策方針および産官学協働について意見を交換した。

森林の適正管理や防災上の観点から岩手南部・沿岸地域において放置される竹林の対策が課題となっており、その解決のために現在までに得られた成果を公開し、情報収集に努めた。

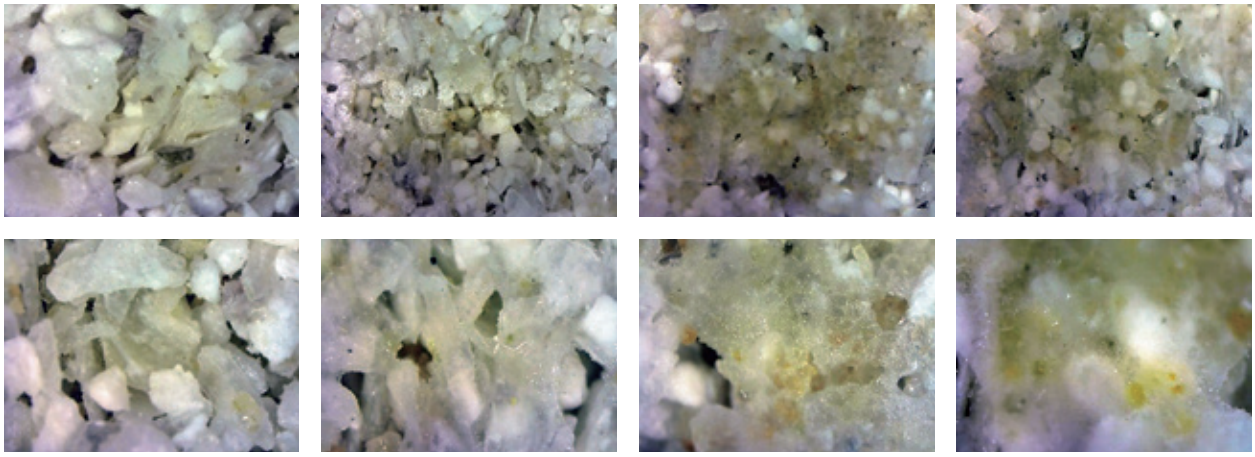
H28年度農業農村工学会大会講演会にて
最優秀ポスター賞を授与される

公開シンポジウムに参加し、竹利用に関する研究成果を講演する。

「カキ殻を混入処理した土試料の強度変化」



種々の条件で作製した供試体の強度評価。養生日数の増加に伴い、強度が増加することを明らかにした。



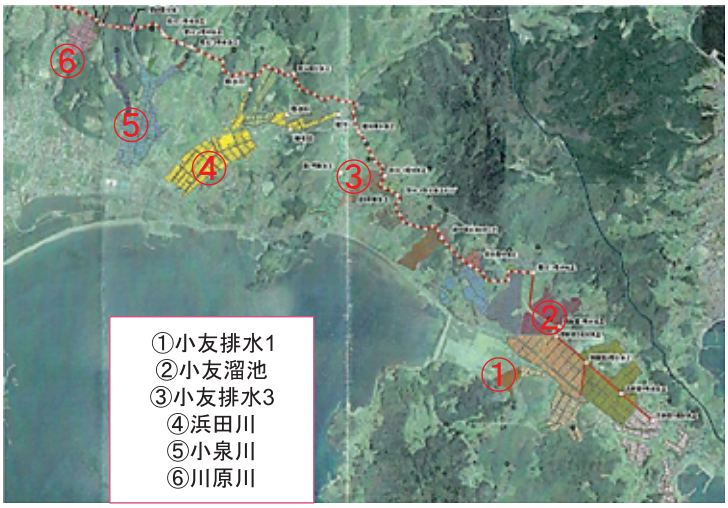
Curing period: 1 day　Curing period: 3 days　Curing period: 7 days　Curing period: 10 days

作製した供試体の画像観察結果。養生日数の増加に伴い、間隙は析出物によって埋められ、密で複雑な構造骨格を形成することが分かる。

●水田排水による湾内への栄養塩負荷量の推定

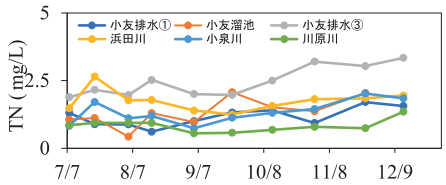
広田湾に流出する小友地区の農業排水による栄養塩負荷量を推定することを目的に用排水路の水質観測および土壌試料採取を行った。その結果、小友地区農業排水路における栄養塩濃度はいずれも気仙川に比べ高いことがわかった。HQ曲線とLQ式を作成して栄養塩負荷量を推定したが、データ不足のため継続的な取得が必要である。

陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2017において気仙川下流の河川氾濫解析について、学生が口頭発表を行った。

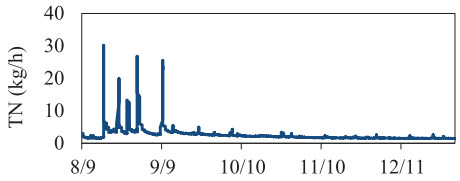


広田湾に流出する小友地区の農業排水による栄養塩負荷量を推定することを目的に現地観測を行った。
小友地区農業排水路における栄養塩濃度はいずれも気仙川に比べ高いことがわかった。HQ曲線、LQ式を作成して栄養塩負荷量を推定したが、データ不足のため継続的な取得が必要である。

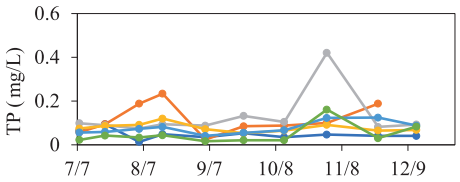
【各排水路のTN濃度】



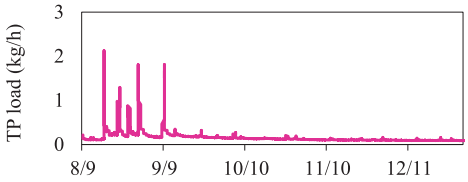
【TN負荷量の合計値】



【各排水路のTP濃度】



【TP負荷量の合計値】



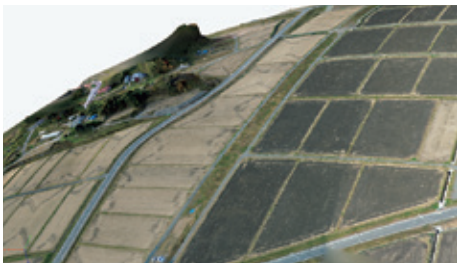
●水田農業のインフラ復興

陸前高田市小友町水田において土壌環境と水環境の継続的な記録による震災被害の伝承および収量低下した水田についての解決策提案のために、電磁探査、地中レーダー探査および採取土壌のイオン濃度測定を行った。その結果より、深度が既知の地中埋設物における電磁波の反射を利用することにより、土壌の体積含水率を推定できる可能性が示唆された。

マルチスペクトルセンサを搭載したドローンによる作物の生育調査を行うための準備を行った。

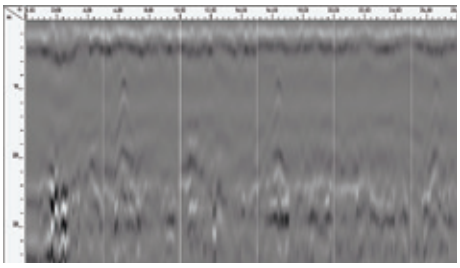
農地復興班の取り組んだ今までの小友町水田調査の成果に対して、農業農村工学会優秀技術賞が授与された。

ドローンによるマルチスペクトル画像の撮影



ドローン撮影画像による小友水田地区の3次元データ

小友水田地区の地中レーダー調査



小友水田地区の地中レーダー調査データ

■平成29年度の活動予定

①福島県を含む急傾斜、石礫などのため草地更新などの除染対策がとれない牧草地を対象に、引き続き放射性物質の動態調査を行う。また、それらの結果をもとに、効果的な低減対策や利用可能時期の推定を行い、草地の利用再開に資する。

②カキ殻を利用した土の固化処理技術について、引き続き室内実験を行う。また、陸前高田市と亘理町の海岸堤防と盛土により造成された高田地区中心市街地の沈下量計測を行う。

③小友町の用排水路の水質観測を引き続き行い、栄養塩負荷量推定の精度向上を目指す。

④小友町水田においてドローンにマルチスペクトルカメラを付けて調査し、作物の生育状況および土壌の健全性の把握を目指す。

⑨ 園芸振興班

園芸振興班は、夏期冷涼、冬期温暖な三陸の気候を活かし、ブランド化が期待できる園芸作物として、レストランや洋菓子店、デパートなどからの需要があるクッキングトマト、夏秋どりイチゴ、早どりカリフラワーの栽培技術や販売方法を被災地の農家や生産グループに提案している。

活動テーマと概要

被災地における園芸振興

●代表者　松下 卯月（農学部 准教授）
●担当者　農学部：佐藤 和憲、由比 進、加藤 一幾、折笠 貴寛、
三陸復興・地域創生推進機構：岡田 益己

園芸振興班では三陸沿岸の気候・風土を活かした園芸産地作りを目指して、経験の浅い者でも取り組める園芸作物の導入やその栽培技術の提供に取り組んでいる。ブランド化と収益性が期待される野菜品目としてクッキングトマトや夏秋どりイチゴ、ミニカリフラワーに着目し、現地での栽培普及活動、および販売促進活動を展開している。平成28年度は、これらの品目の栽培に取り組んでいる生産者を対象とした栽培指導およびセミナーの開催、収穫期の拡大・作型確立を目的とした栽培法の検討、遠方の大規模市場出荷を目指した鮮度保持・輸送法の確立、生産物の物流・販路開拓および生産・販売支援のための情報利用技術開発、クッキングトマトを材料とした乾燥法の実用化と用途確立、緑肥を用いた津波被災圃場の排水性改善試験、水田畦畔緑化試験等を行った。

■活動内容

●ブランド化をめざす野菜の栽培支援活動

早どりカリフラワーの密植栽培試験を行い、‘オレンジ美星’が密植栽培に向き、3倍密植条件でも通常通り栽培できることを明らかにした。また陸前高田市の見本園において、早どり栽培に適する品種選抜試験を行った。久慈市と田野畑村の農家（合計5軒）の協力を得て、早どりカリフラワー栽培の実証試験を実施し、凍害対策と生長とのバランスを考慮したハウス管理が重要なことを明らかにした。良食味の四季成り性イチゴ品種「なつあかり」で夏に開花しない個体が急増した問題については、東北農業研究センター、青森県産業技術センターと協力して原因解明の試験を実施し、不開花が遺伝することが判明したため、採苗に関する注意喚起を生産者に行った。その他、三陸沿岸での夏秋どりイチゴ栽培に関する、もみ殻培地利活用、および、イチゴの品質を保証するための栽培と輸送などの問題について、関係者らが意見交換する研究会をそれぞれ一度ずつ開催した。

田野畑村で行った早どりカリフラワー「姫かりふ®」の栽培指導

●ブランド化をめざす野菜の物流・販路開拓と販売支援

市内レストランの協力によりトマトチヂミが8月の季節限定メニューとして販売され、栽培支援を行っている陸前高田市の農家のクッキングトマトが調理に用いられた。試験販売・市場調査は、8月に材木町よ市で行った。その後、試験販売は、よ市の1店舗にを委託し、9月末まで続けた。同じく栽培支援を行っている姫かりふ®の販売展開を検討するために、材木町よ市、スーパーマイヤ仙北町店において試食販売およびアンケート調査を行い、その結果をもとに、百貨店協会と百貨店での販売展開について検討を行っている。また、飲食業を顧客とするインターネット販売会社の協力のもと、飲食業への販売展開への検討・市場調査も行っている。平成28年度は新たに、東北地方在住者に対して、食品放射能への懸念、福島県農産物の購入状況などの項目についてWebアンケートを実施し、消費者類型別に分析を行った。

「もりおかマチナカ商談会」への「姫かりふ®」、および、クッキングトマトパウダー出品

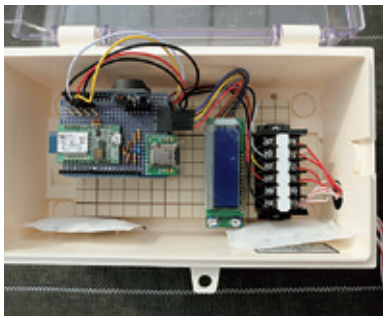
●クッキングトマトを材料とした乾燥法の実用化と用途確立

規格外品のクッキングトマト加工法確立については、赤外線乾燥施設にクッキングトマトの乾燥および粉末化を依頼し、品種ごと・収穫時期ごとの味・色の違いについて試験を行っている。その結果をもとに、支援している農家とともに、冬場の乾燥加工に向けて高効率・低コストの乾燥前処理法について検討している。また、和菓子店、生産者、小売店関係者を集めて、夏期の一時期に収穫が集中するクッキングトマトを冷凍や乾燥などで保存・利用するための方策について検討会を開催し、冷凍トマトを使った寒天の試作品、陸前高田市で収穫したトマトを冷凍保存した後に、乾燥粉末化した試作品などを紹介し、それらの利用方法や販路を開拓することとした。

赤外線乾燥装置で乾燥させたクッキングトマトパウダーは、出品した商談会で味が濃く美味しいとの評判を得た。

●生産・販売支援のための情報利用技術開発

三陸ブランド野菜・加工品における流通方法の新規開拓について、インターネットおよびIoTを利用した配車システム導入を検討するために、既存システムの有効利用を中心に専門家と検討を行った。また、その実現可能性について、実需者、生産者、研究者らを対象に開催したイチゴの栽培と輸送などの問題についての研究会にて議論した。また、昨年度に引き続き、早どりカリフラワー等の生産支援システム開発を行い、ハウス内外気温および地温をモニタリングすることで、夏期は高温対策の遮光、冬期は低温馴化した作物の糖度が上昇したタイミングを観測器およびスマートフォンで農家に通知するデータロガつき温度計を試作し試験運用した。



早どりカリフラワー等の生産支援システム

■平成29年度の活動予定

三陸ブランド野菜として、これまでに取り組んだクッキングトマト、夏秋どりイチゴ、ミニカリフラワーについては、引き続き好適品種の選抜、作型の開発・確立、栽培技術や生産を支援するための気象情報の利用技術などの開発・導入を進める。減圧マイクロ波、熱風や赤外線など従来の乾燥法を用いた乾燥クッキングトマトの開発・商品化を図るとともに、他の作物への応用も進める。６次産業発展の支援では、ブランド野菜の一般消費者への浸透を図るため、地産地消フェアやオープンマーケットなどのイベントにおいて商品を紹介する。また、陸前高田グローバルキャンパスを活用し、農業技術相談の開催や学生インターンシップの実施を行う。

⑩ 農林畜産業復興総合計画班

農林畜産業復興総合計画班は、岩手県の観光の復興状況および課題を明らかにし、グリーンツーリズムなど、農林畜産業や水産業を基盤とする観光振興のあり方について提言している。

また、自然災害が発生する地域における保護地域の役割や課題について検討し、今後の整備や管理のあり方について提言している。

さらに、漁業文化の保全や人材育成支援について継続的に取り組んでいる。

活動テーマと概　要

自然資源を活用した防災・減災と産業振興、地域の活性化

●代表者　佐藤 和憲（農学部 教授）

●担当者　農学部：山本 清龍、伊藤 幸男、木下 幸雄、山本 信次、松木 佐和子

農業経済、林業、観光の視点から、総合的な地域の産業復興、地域の活性化を目指し、復興支援活動および研究活動を展開した。具体的には、班の活動の目標を

1. 自然資源を活用した産業振興と地域の活性化
2. 自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興
3. 東北地方の観光復興

の三点とし、岩手県の釜石市、宮古市、一戸町、岩泉町、山形県尾花沢市等で復興支援活動、調査研究活動を展開した。また、他の外部資金を活用して、北海道奥尻町、高知県南国市等でも調査研究活動を行い、防災・減災に関する知見をまとめた。

■活動内容

●自然資源を活用した産業振興と地域の活性化

東日本大震災では農林漁業を営む陸域、海域が被災し、三陸沿岸部の狭隘な地形に立地する集落の地域活動、産業が著しく停滞しており、釜石市尾崎白浜のように数十年後に消滅が懸念される集落もある。そこで、農林漁業を基盤として産業振興を図ろうとする集落を単位とした復興支援活動および研究活動を展開した。具体的には、岩泉町において地域産業の復興状況実態調査、釜石市尾崎半島佐須集落において潜在的な自然資源の発掘調査（写真-1）を行い、中長期的な課題の論点整理を行い、尾崎100年学舎と共同でイベントを開催するなど地域の復興を支える関係組織の支援を行った。また、小規模な生産者や産地に適した低コストな小口輸送システムについて、園芸振興班及び外部の情報技術者の協力も得て基本構想を検討した。

写真-1　地域資源を発掘するための各戸訪問調査（釜石市佐須集落）

●自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興

三陸沿岸部では、「復興」の名を冠するわが国初の国立公園が設立され、生態系を基盤とした災害リスクの削減(Eco-DRR)、グリーンインフラの活用が求められており、自然の恵みだけでなく脅威とどのように向き合うべきか、地域が来訪者を巻き込んでグリーン復興の方向性を模索するための取り組みを行った。具体的には、大槌町において三陸復興国立公園フォーラム（写真-2）を開催し、浄土ヶ浜では10年後を考えるワークショップの開催を支援（写真-3）した。また、外部資金を活用して、北海道奥尻町、高知県南国市、等で調査研究活動を行い、海外、国内の学会において研究成果発表、論文公表を行った。

写真-2　三陸復興国立公園フォーラム（大槌町）2016年10月23日

写真-3　学生も議論に加わった浄土ヶ浜の10年後を考えるワークショップ（宮古市）

●東北地方の観光復興

人的被害の観点からは東北地方太平洋沿岸部の岩手県、宮城県、福島県が被災の中心地であるが、東日本大震災後の観光客の落ち込みの点では青森県、秋田県、山形県にも大きく影響が及んでおり、新しいツーリズムの提案と観光復興への支援が求められている。そこで、平成28年度は、山形県銀山温泉において来訪者意識調査、岩手県内のすべての酒蔵の空間構造分析をふまえた酒蔵ツーリズムの提案（写真-4）、旅行者の減少が著しい十和田湖休屋地区において観光体験阻害要因の解明調査を行った。また、外部資金を活用して、一戸町来訪者の訪問地点の連関調査を行った。活動成果の一部は、国内の学会において研究成果発表を行った。

写真-4　酒蔵ツーリズムの可能性を探る調査（盛岡市）2016年6月10日

●グリーンツーリズムにおける中間支援機能に関する調査

コミュニティ・ビジネスとしてのグリーンツーリズムについて、岩手県遠野市のNPO「遠野山・里・暮らしネットワーク」を対象として調査し(11月上旬)、中間支援組織の果たす①イベントなどの情報発信、②資源・技術の斡旋・仲介、③宿泊手配等の顧客マッチング、④マネジメント能力の向上などの人材育成、⑤地域内および地域外とのネットワーク形成、などの機能について分析した。

■平成29年度の活動予定

上記３つの活動テーマ「自然資源を活用した産業振興と地域の活性化」「自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興」「東北地方の観光復興」を継続する。また、復興支援活動、調査研究活動には学生の参加を促し、一部は教育プログラムとして展開する。さらに、活動成果、調査研究の成果は公表し、防災・減災、観光復興に関わる知見として整理する。加えて、活動を維持するため、一つ以上の研究助成あるいは活動助成に応募し、外部資金の獲得につとめる。そのほか、平成29年度中に平泉、釜石市橋野町の世界遺産地域における来訪者動態調査の企画を検討しており、観光復興にむけた新たな調査研究として位置づけて実施可能か検討する。

（2）地域創生部門　（部門長　今井 潤／三陸復興・地域創生推進機構 教授）

地域創生部門は、民間企業や自治体等と岩手大学を結ぶ窓口として、金融機関を含む産学官民金ネットワークの構築、学内研究シーズと地域のニーズとのマッチングなどを行っている。

また協定締結自治体との実際的な活動として、県内５市から市職員を共同研究員として、当部門に受入れ、機構全体の活動と連携し、震災復興から産学官連携による様々な地域創生の取り組みを進めている。

地域創生部門は、県内の様々な産業新機関や自治体と連携し、民間企業等からの技術相談も受け付けている。また更に、共同研究や、インキュベーション施設への入居の支援も行っている。学部等と連携し、地域課題解決プログラムやCOC＋事業にも積極的に関わっている。

活動テーマと概　要

- **三陸復興の優れた活動の継承と地域創生への転換**
- **地域志向研究の促進**
- **地方創生モデルの構築**
- **COC事業と連携した学生が関わる地域創生活動の促進**

●代表者　今井 潤（三陸復興・地域創生推進機構 教授）

新たに三陸復興部門と一緒になり、相互に連携して、地域創生を目指した活動を実施することとなったが、人員体制がきわめて不足していることから、実際的な活動は次年度から進めるものとして、全体の活動の調整と体制整備に重点を置いて活動した。いわて産学連携推進協議会（リエゾンI）マッチングフェアについては、関係機関と協議した上で、今年度は開催しないこととした。学生と関わる地域創生活動の促進についても次年度以降検討する。

■活動内容

●岩手日報社と連携協定締結

8月8日に、岩手日報社と岩手大学は、地域振興のため活動や人材育成、岩手の魅力の創出・発信を連携して行う連携協定を締結した。協定締結に先行して実施している三陸鉄道企画列車運行、まちづくりフィールドワークの実施に加え、様々な具体的な活動を協働で実施することとした。また学生の地域創生活動等を、岩手日報140周年記念「イワテバコ」で6回にわたって掲載された。

●盛岡市・岩手大学連携推進協議会

盛岡市と岩手大学において産学官連携のあり方について意見交換して地域の振興を図るための事業を実施する、盛岡市・岩手大学連携推進協議会を5月20日および11月21日に開催して、相互に意見交換を行った。また、10月26日には盛岡市東京事務所にて、岩手大学発ベンチャー企業（株）バイオコクーン研究所の支援のあり方について、鈴木幸一社長の講演のあと、東京在住のMIUサポーターと意見交換を行った。更に3月24日には、日本立地センター専務理事の黒岩理氏を招き、盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）にて、「地方創生に向けた基礎自治体の取組みについて」と題して講演を頂き、意見交換を行った。

●産学官民コミュニティ全国大会

11月12日午後1時から、テクノホールを中心会場として、第10回産学官民コミュニティ全国大会を実施した。三陸鉄道の前社長望月正彦氏から基調講演を、岩渕学長から特別講演を頂いた後、「人材育成」、「インキュベーションとコーディネーター」、「産学官民コミュニティのこれから」という３つに分かれてパネルディスカッションが行われた。また、さんりく基金の成果発表会と、INS各研究会活動の紹介パネル展示も併催して実施した。参加者は約80名であった。

●展示会への出展（ビジネスマッチ東北、テクニカルショウヨコハマ）

11月10日に夢メッセみやぎ（仙台）で開催されたビジネスマッチ東北2017に盛岡信用金庫の推薦により出展した。SIP事業に採択している平原教授の分子接合技術、および釜石ものづくりサテライト等で研究を進めているコバリオン関する製品を釜石・大槌地域産業育成センター新製品研究会の企業とともに展示した。岩手大学の研究シーズのプレゼンテーションも行ったが、具体的な事例には結びつかなかった。

平成29年2月1日から3日に開催されたテクニカルショウヨコハマ2017には、分子接合技術および、理工学部金天海先生のAIの研究シーズについて、パネル展示を行った。数件引き合いがあり、具体的な共同研究に向けて打ち合わせを行っている。

ビジネスマッチ東北への出展

テクニカルショウヨコハマ2017への出展

●盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）の管理運営

盛岡市産学官連携研究センターは、盛岡市からの指定管理により岩手大学が運営しているインキュベーション施設である。現在14社（大学発ベンチャー企業4社、県内企業4社、県外企業6社）が入居している。H28年度には7回審査表会委員会を開催し、入居者の入居審査、事業評価等を実施した。特に入居企業の（株）いおう化学研究所と（株）バイオコクーン研究所については、大きな事業化の展開が期待されるため、2名のインキュベーションマネージャや盛岡市等と連携しながら重点的な支援を継続している。また、5人の学生スタッフを雇用し、入居企業の事業活動の支援も行っている。

●MIU Cafeの実施

盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）では、産学官民連携の活動として、MIU Cafeというサイエンスカフェを開催している。H28年度は合計8回のMIU Cafeを開催した。

第52回「MAKE THAT CHANGE-未来の働き方をつくっていく-」東北公益文科大学 教授 平尾 清 氏
第53回「まわしよみ新聞」岩手日報社 多田 比呂子 氏
第54回「魅力満載のまちづくりを考える～ようこそILC！～」　県庁科学ILC推進室 重浩 一郎 氏
第55回「岩手の日本酒を楽しむ会」　岩手県青年醸友会
第56回「プロジェクトからプログラム、そして」Graf 代表 服部 滋樹 氏
第57回「ワークショップ　盛岡ブランドを考える」人文社会科学部 教授 五味 壮平 氏
第58回「嚥下リハビリテーションのための産学連携プロジェクト」　理工学部 助教 佐々木 誠 氏
（株）パターンアート研究所 鎌田 勝裕 氏
第59回　出張MIUcafe「いわてのカイコ博士・鈴木先生のライフヒストリートーク」
（株）バイオコクーン研究所 所長 鈴木 幸一 氏（於クロステラス）
延べ参加者数は約300名になった。

MIUCafe52「MAKE THAT CHANGE －未来の働き方をつくっていく－」
東北公益文科大学　教授　平尾　清　氏

MIUCafe 59「いわてのカイコ博士·鈴木先生のライフヒストリートーク」

■平成29年度の活動予定

岩手県との人事交流による准教授採用に伴う体制強化につづき、産学連携コーディネーターの採用を進め、産学連携の支援機関同士の交流を促進するための産官学連携連絡会を再開する。協定締結自治体と連携した、県内各地における研究シーズ発表会を実施するとともに、研究シーズ集（動画を中心に）の作成準備に取りかかる。

また3月完成予定の地域科学技術実証拠点の設置の準備として、規則や体制の整備を進める。

（3）生涯学習部門　（部門長　朴 賢淑／三陸復興・地域創生推進機構 准教授）

生涯学習部門では、岩手大学の「地域社会に開かれた大学」の理念の基、公開講座、社会教育主事講習、社会人学び直しプログラムなどを通じて、市民の皆様に様々な学びの機会を提供することで教育研究の成果を社会に還元している。近年、経済のグローバル化や社会変化に伴い人々の価値観も変化しており、成人学習者の関心も身近な課題から社会的課題へと移行しつつある。こうした状況を鑑み生涯学習部門では、多様な成人学習者のニーズにあった生涯学習プログラムの充実化を目指している。また、成人学習者が「学びをほどき、編みなおす力」、「地域で生かす力」、「学び続ける力」などを身に付け、地域活動や職業生活で役立てることによって地域の生涯学習の復興を目指している。

活動テーマと概要

岩手大学の特色を生かした成人学習者の学びの場づくりと成人学習者のニーズ調査

●代表者　朴 賢淑（三陸復興・地域創生推進機構 准教授）

●担当者　人文社会科学部：浅沼 道成、阿部 裕之、池田 成一、木村 直弘、栗林 徹、田中 隆充、玉澤 友基、本村 健太、山本 昭彦、小島 聡子、長谷川 弓子、平田 光彦
教育学部：大野 眞男、鎌田 安久、上濱 龍也、清水 茂幸、藁谷 収、金澤 文緒、澤村 省逸、清水 将、煤孫 康二、溝口 昭彦
理工学部：高木 浩一、小山 猛
保健管理センター：立身 政信

本年度は、生涯学習部門における事業の柱づくりと事業整理、社会人学び直しプログラムの開発のために、学内・外でデータ収集を行った。詳細については以下のとおりである。

①学内４学部および諸機構・センターとの連携の可能性と生涯学習支援窓口の一本化のためのヒヤリングを行った。
②公開講座として38プログラムを実施し、参加した受講生にはアンケート調査を実施している。また、公開講座を実施した教員には、講座終了後、報告書を提出してもらった。
③岩手県立生涯学習推進センターとの連携を図るために、3回にわたって意見交換会を行った。
④北東北3県（岩手県、秋田県、青森県）の社会教育担当教員および教育委員会の生涯学習担当者と意見交換会を行った。
⑤1年間の事業をまとめて成果報告書を発行した。

■活動内容

●生涯学習基盤づくり

本学の特色を生かした生涯学習・教育のモデルの構築を促進するために、まず、高等教育機関における生涯学習・生涯教育政策について資料・情報の収集を広く行った。また、高等教育学会および社会教育学会に参加し、意見交換を行った。

生涯学習関連基礎研究において、国内・外における生涯学習・教育の動向を把握しつつ、成人学習者のニーズに応じた学習の場づくりや、地域の課題に応じた生涯学習プログラムの開発のため分析をとおした基礎データを構築する。

●社会人学び直しプログラムの開発

学内の社会人学び直しプログラムの実施状況の把握と生涯学習部門との連携可能性を図るために、各担当部局長および事業担当教員と意見交換を行った。また、トライアルプログラムとして、「ガンちゃんの学び」というプログラムを立ち上げ、6回実施した他、女性向けのキャリアセミナーも実施した。

女性向けのキャリアプランニングセミナー

●社会教育主事養成

北東北（岩手県、秋田県、青森県）の社会教育主事養成の充実化を図るために、北東北の社会教育主事養成運営会に運営委員として参加し、意見交換を行った。（3回参加）平成29年度・平成30年度は北東北で岩手大学が社会教育主事養成講習会（7月～8月開催）の主催校であることから、カリキュラムの準備および事務局を設置する必要があった。よって、岩手県立生涯学習推進センターの関係者と意見交換を行うなど、来年度の開催に向けての学内外における基盤づくりに取り組んだ。

さらに、平成29年度の社会教育主事講習の開催にあたって、授業内容を企画し、学内外において講師を依頼した。また、岩手県教育委員会の社会教育担当者および岩手県立生涯学習推進センターに来年度の社会教育講習会の開催にあたっての支援を要請した。

社会教育主事講習

●地域の生涯学習リーダー育成

生涯学習リーダー育成において、まず学習意欲を持つ社会人への更なる学習の場の提供を試みた。そこで、既存の生涯学習プログラムに参加している受講生をさらに生涯学習リーダーとして育成するための条件を探るために、各学部の教員が実施してきた生涯学習プログラムを整理し実施教員と意見交換を行った。また、旧地域連携推進機構の運営委員へのヒヤリングを実施した。

●地域住民の生涯学習に関するニーズ調査

生涯学習プログラムの充実化を図るために、公開講座に参加した受講生を対象に意見交換会を２回に分けて実施した。受講者からは、①地域が抱えている課題を取り上げたプログラム、②岩手大学の教員の専門研究領域に関する講座、③子育てをテーマにした講座、④高齢者に配慮した学習環境づくりなどが期待されていた。

さらに、社会人学び直しプログラムの開発を推進するため、本年度は地域活性化の担い手である女性に焦点を置いたニーズ調査を行った。具体的には、子育てを経験した女性を対象に「働く女性の学習ニーズ調査」を宮城県仙台市青葉区にあるこどもの家エミール保育園の保護者を対象に実施した。アンケート調査結果については2016年度生涯学習部門成果報告書を参照されたい。

●社会教育行政および地域の生涯学習関係者とのネットワークづくり

秋田大学で開かれた北東北の社会教育運営会議に参加し、社会教育主事講習に関する情報交換を行った。（参加機関：岩手大学、岩手県教育委員会、秋田大学、秋田県教育委員会、弘前大学、青森県教育委員会　計3回開催）

また、岩手県立生涯学習推進センターの社会教育担当職員との生涯学習関連事業についての意見交換をとおして、同センターとの生涯学習関連事業の情報収集と今後の連携可能性について検討し、情報収集することができた。

さらに、岩手県教育委員会生涯学習文化課の社会教育担当者と意見交換を行うとともに、学会等で、地域づくりと社会教育の在り方について情報収集および意見交換を行った。

●公開講座に参加した成人学習者を対象としたニーズ調査

今年度は「語学・文学」、「スポーツ」、「芸術」、「農学」、「工学」等幅広い分野の講座を提供した。さらに、公開講座に参加した受講生を対象に①ヒヤリング調査、②アンケート調査、③懇談会をとおして地域住人の学習ニーズと大学の役割について意見を聞くことができた。調査結果については、成果報告書にまとめた。

＜2016年度成果報告書に掲載したアンケート資料＞

①シニアカレッジ、②第13回高校生のための欧米の文学、③親から子へ、④動物にも遺伝する病気、⑤地域政策入門、⑥第21回農学部5学科の実験講座、⑦ガムラン体験講座、⑧「自分の強みを生かす！」キャリアプランニングセミナー、⑨働く女性のニーズ調査

シニアカレッジ受講者との記念写真

シニアカレッジフィールドワーク

板橋区における公開講座

●生涯学習部門の情報発信

①成果報告書の作成をとおして生涯学習部門の事業整理と柱づくりを行った。
②三陸復興・地域創生推進機構のニュースレターに生涯学習部門の事業成果を4回にわたって報告した。
　→第1号（7月）、第2号（9月）、第3号（12月）、第4号（H29年3月）
③三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門の活動の見える化を図るために、リーフレットを作成した。生涯学習部門における柱事業の確定や、実施している事業内容の明確化をとおして、生涯学習部門で行っている事業を地域住民や他大学に広報することを目的にしている。
④生涯学習部門の柱事業と事業内容を整理し三陸復興・地域創生推進機構のホームページをとおして、情報公開を行った。

■平成29年度の活動予定

第1に、地域の社会教育（生涯学習・生涯教育）の担い手である専門的職員（社会教育主事）の養成を行う。

当事業は岩手大学が文部科学省の委託を受けて実施するもので、北東北3県（岩手県、秋田県、青森県）を対象に実施する。講習会を開催するために、4つの科目（生涯学習概論、社会教育計画、社会教育演習、社会教育特講）の授業内容企画、講師の配置、評価、運営委員会を開催する。なお、当事業は、約1カ月間（H29年7月18日～8月10日）岩手大学図書館生涯学習多目的室および、国立岩手山青少年交流の家で実施する。

第2に、平成28年度に立案した社会人学び直しプログラムの方向性の検討と地域づくりをテーマとした社会人向けのキャリア・アッププログラムを実施する。その上で、既存の社会人学び直しプログラムとの連携事業のモデル構築を進める。

(4)ものづくり技術教育研究部門　(部門長　平塚 貞人／ものづくり技術研究センター長)

ものづくり技術教育研究部門は、ものづくり技術研究センターと連携して活動が行われている。

ものづくり技術研究センターは、これまで岩手大学が蓄積してきた金型技術、鋳造技術及び複合デバイス技術等、工学系分野の実績を活かし、これに農学系分野、社会科学系分野まで含めた全学体制でのものづくり技術の総合的研究拠点として、ものづくり技術に関する研究のさらなる発展を目指す。さらに、ものづくり技術を地域産業等に提供し、新産業の創出及び高度専門技術者の育成を通じて地域産業等の発展及び岩手の基幹的産業の高度化を図る。

ものづくり技術教育研究部門は、地域ニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における先端的水準の研究成果を基に、地域ニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における高度専門技術者の育成のためのものづくり講演会、講習会、セミナーなどの取り組みを進めている。

活動テーマと概要

ものづくり技術の人材育成セミナーと講演会の開催

●代表者　平塚 貞人（理工学部 教授）

●担当者　理工学部：長田 洋、鎌田 康寛、恒川 佳隆、西館 数芽、平原 英俊、廣瀬 宏一、藤代 博之、水野 雅裕、八代 仁、山口 勉功、吉本 則之、芝崎 祐二、清水 友治、土岐 規仁、西村 文仁、晴山 巧、本間 尚樹、水本 将之、吉野 泰弘、吉原 信人、脇 裕之、叶 榮彬、内舘 道正、福江 高志、北条 智彦、村岡 宏樹

平成28年度は、人材育成として地域ニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における高度専門技術者の育成のためのものづくり講演会、講習会を開催し、また、被災した三陸沿岸地域の復興促進の取り組みとして、地域イノベーション事業における金型分野と鋳造分野の技術普及のためのセミナーを開催し、さらに国際化のための産学官連携国際シンポジウムを開催した。

■活動内容

●ものづくり技術研究センター特別講演会の開催

12月1日に、岩手大学で「岩手の産業の基礎をなす製鉄」について、岩手での南部鉄器のものづくり事例、金型技術研究センターでの取り組み、鋳造技術研究センターでの取り組み、生産技術研究センターでの取り組み、釜石ものづくりサテライトでの取り組みについての特別講演会を開催した。

ものづくり技術研究センター特別講演会(2016.12.1)

ものづくり技術研究センター特別講演会（2016.12.1）

ものづくり技術研究センター特別講演会（2016.12.1）

ものづくり技術研究センター特別講演会（2016.12.1）

ASIA JOINT SYMPOSIUM 2016 の開催

10月13日～14日に岩手大学でASIA JOINT SYMPOSIUM 2016 が開催された。その産学連携国際シンポジウムセッションの中で、「地域創生と人材育成」をテーマに、岩手大学でのものづくり技術教育と研究についての講演と日本、中国、韓国、マレーシアの産学連携についての講演会が開催された。

ASIA JOINT SYMPOSIUM 2016（2016.10.13）

ASIA JOINT SYMPOSIUM 2016（2016.10.13）

●金型技術研究センター講演会の開催

11月19日に宮古市内で金型加工についての特別講演、人材教育事例紹介、各種事業の紹介が行われた。3月17日に北上市で金型加工技術に関する研究成果発表、金型技術研究センター活動報告が行われた。

●金型技術研究センターシンポジウムの開催

10月26日に盛岡市内で「東北における基盤産業の重要性と人材育成について」岩手からの発信についてのシンポジウムが開催された。

●鋳造技術研究センター講演会の開催

6月16日に岩手大学で鋳造技術と人材育成の講演会、6月30日に、岩手大学で「企業における技術伝承」についての講演会、7月20日に岩手大学で「鋳鉄の魅力」について講演会が開催された。

鋳造技術研究センター講演会(2016.7.20)

●鋳造技術研究センター報告会の開催

12月7日に奥州市内で「鐵のお話」についての講演会と鋳造技術に関する研究成果発表、鋳造技術研究センター活動報告が行われた。

●生産技術研究センター講演会の開催

6月10日に岩手大学で「京都地域における産業連携、大学発ベンチャー創出事例」について講演会、2月10日に岩手大学で「第三次産業革命を経て第四次産業革命へ、ネクスグループの取り組み」についての講演会が開催された。

●生産技術研究センターセミナーの開催

6月1日に花巻市内で第１回有機エレクトロニクスセミナー、7月5日に花巻市内で第2回有機エレクトロニクスセミナーが開催された。

●生産技術研究センターシンポジウムの開催

3月10日に花巻市内で「環境との調和 自然の力を活用した先端科学技術」についてのシンポジウムが開催された。

生産技術研究センターシンポジウム(2017.3.10)

生産技術研究センターシンポジウム(2017.3.10)

生産技術研究センターシンポジウム(2017.3.10)

●三陸復興プロジェクト高度ものづくり人材育成講座の開催

被災した三陸沿岸地域の復興推進の取組の一つとして、3月28日に釜石市内で、「地域イノベーション事業における金型・鋳造分野の成果」についてのセミナーが開催された。

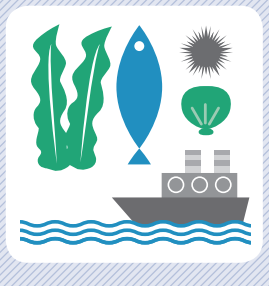
三陸復興プロジェクト高度ものづくり人材育成講座(2017.3.28)

三陸復興プロジェクト高度ものづくり人材育成講座(2017.3.28)

■平成29年度の活動予定

平成29年度は、引き続き、地域のニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における先端的水準の研究成果を基に、地域のニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における高度専門技術者の育成のためのものづくり講演会、講習会、セミナーなどの人材育成の取り組みを推進する。

（5）三陸水産教育研究部門　（部門長　田中 教幸／三陸水産研究センター長）



三陸水産教育研究部門は岩手大学三陸水産研究センターが担当する研究開発と大学教育による人材育成を主なミッションとしている。

三陸水産研究センターは平成25年4月1日に創設され、三陸の水産業の復興に寄与する教育開発と人材育成を目的としたSANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業を東京海洋大学、北里大学と連携して推進してきた。この連携体制は三陸復興・地域創生推進機構となった現在でも継続している。

三陸水産教育研究部門は、三陸水産研究センターが担当する研究開発と大学教育による人材育成を主なミッションとする。平成28年度に開講された農学部食料生産環境学科水産システム学コースの学生教育を行うとともに、生産から加工、流通、販売システムモデルの構築を目指し、そのノウハウの普及と継続的なイノベーションの基盤整備に取り組む。

活動テーマと概要

岩手県沿岸における水産資源の持続的利用と新たな漁業生産体制構築を目指した東日本大震災からの復興支援

●代表者　田中 教幸（農学部 教授）

●担当者　農学部：平井 敏朗、後藤 友明、石村 学志、袁 春紅、塚越 英晴、三浦 靖、山下 哲郎、濱上 邦彦、山田 美和、白旗 学
人文社会科学部：田中 隆充
教育学部：梶原 昌五
理工学部：海田 輝之、髙木 浩一、萩原 義裕、船崎 健一、伊藤 歩、小野寺 英輝、三好 扶、石川 奈緒、加藤 大雅、松林 由里子
三陸水産研究センター：北村 志乃、佐藤 琢哉、倉田 俊二、森川 卓哉
三陸復興支援課：田村 直司

学術・地域貢献・人材育成による震災後の持続的な三陸水産業復興に貢献することを目的として、（1）資源の持続的利用（2）増養殖の高度化による新たな漁業生産体制の構築（3）高付加価値化・機能性食品の開発等を主要なテーマとして掲げ、関連する様々な外部資金を活用しながら関連機関の協力を得て部門活動を推進している。

■活動内容

●東日本大震災後の三陸沿岸域における魚類相と主要魚種の加入動態把握

大槌湾奥に位置する砂浜域に分布する魚類を採集して魚類相の評価を行った。本海域は、異体類など砂泥底の生息環境に分布する魚類幼魚にアマモ場など基質依存性魚類が優占する魚類相を形成していた。東日本大震災前後で比較したところ、多様度や全魚種込みの分布密度に変化はみられなかったが、震災後は基質依存性魚種が減少した一方、異体類など砂泥底を好む魚種が種類・密度ともに増加する変化がみられた。平成28年度の調査結果から、震災から5年経過時点においてもこの傾向に大きな変化は認められず、津波による撹乱の影響は持続していると考えられたが、近年増加していた優占種であるヒラメとマコガレイ当歳魚の大幅な減少が認められた。

大槌湾の魚類の収集作業

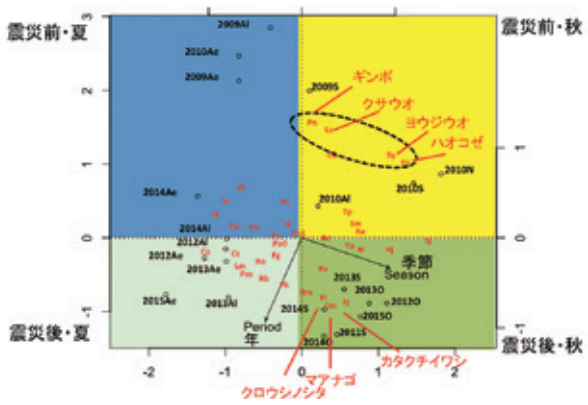


図１　正準対応分析によって類型化された大槌湾奥の魚類相

●遡上全期にわたるシロザケの網羅的遺伝特性解析

シロザケ（Oncorhynchus keta）は三陸における水産重要種であるが、近年不漁が続いており、回帰率低迷要因の解明が求められている。そこで、遡上数が多く、岩手県のシロザケ増殖における中心的な河川である津軽石川に着目し、遡上全期にわたるサケの遺伝特性を調べた。平成27年9月から1月までの各旬雌雄約50尾ずつのヒレ標本からゲノムDNAを抽出し、分子遺伝マーカーを用いて主成分分析などをおこない、遺伝的多様性や遺伝的分化の程度を推定した。分析結果から、前期群と後期群の遺伝的な分化に加え、雌雄で異なるグループが認められ、遡上時期・性別による遺伝的な分化が示唆された。今後、年級間による差を明らかにし、その生物学的意義を明らかにして行く。

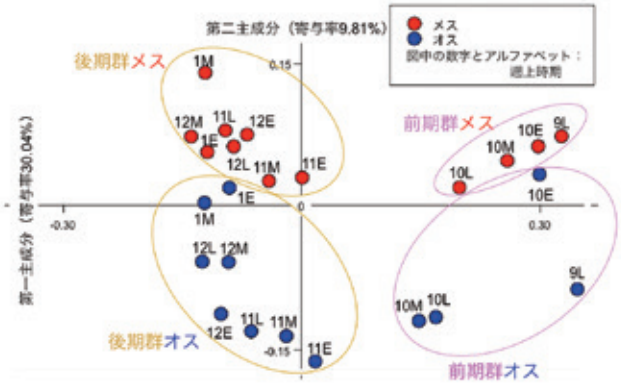


図２　三陸河川に遡上するサケの遺伝分布

●生物経済分析による漁船行動の最適化戦略探求

漁船漁業において漁獲行動の最適化による利益の改善は最も大きな課題である。しかしながら、利益の推定は、空間的に散在する漁場での局所的な資源量、その資源量に対する漁獲努力量辺りの漁獲（生産関数モデル）、また、水揚げ時の魚価（水揚げ価格モデル）、また、漁獲行動に費やす経費（漁獲費用モデル）など、複数の要因の複合的結果であり、これまで、日本のみならず、世界にみても漁船漁業において漁獲行動の最適化による利益の改善研究はほとんどない。

本研究では震災前5年間の気仙沼近海延縄船団の1464航海の漁獲行動データから一航海辺りの漁場探索行動日数と漁獲行動日数とに航海日数を分けて、航海日数を努力量とする生産関数モデルを推定し、さらに、その水揚げの市場データから水揚げ価格モデルや漁獲費用モデルを推定し、統合することで、利益最大化のための漁獲最適化戦略を探求している。

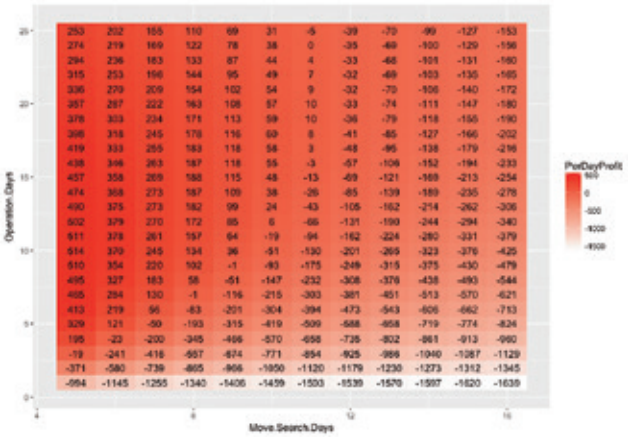


図3　漁場探索行動日数（x軸Move. search Days）と
漁場行動日数（y軸Operation Days）による
一日辺りの利益推定結果（USD）

●マボヤ人工種苗生産試験

本試験は平成26年度で当初の目的を果たし、研究および支援を終了したが、平成27年度は漁業者のみで採苗を行い、失敗した。失敗の理由は定かではないが、平成28年度は工程の詳細な確認を行いながら実施した結果、最も成功した。

事例に匹敵する１回で424万粒の卵を得、正常発生率85%、１週間後の種糸付着密度3.4個体／cmを記録した。今後も作業の重要ポイントを調査し、誰でも成功する方法についてマニュアルを整備していきたい。

ホヤの人工採苗

●センター飼育研究設備拡充

サケマス類を中核魚種とした陸上養殖に関する研究の本格始動に向けて、冷水性魚類の通年飼育試験に適合した飼育設備の拡充に着手した。その結果、文部科学省国立大学改革基盤強化促進費事業に採択され、①飼育水殺菌設備、②飼育水温調設備、③大型冷却半循環式飼育実験水槽設備を中核とする基盤設備の整備を行うことができた。当該予算執行に伴う、施設整備（機種選定ほか）計画ならびに施工計画立案・調整・実施においては当分野の佐藤琢哉研究員が大きな貢献を果たした。

●養殖研究の本格始動に向けて先進地視察

養殖業者（ヤマメの里）・宮崎大学・宮崎県連携によるサクラマス海水養殖（8月4日；平井）、佐賀県唐津市・九州大学連携によるサバ完全養殖事業（8月8日；平井）、伊豆大島のクエ陸上完全閉鎖系養殖施設（8月12日；田中、平井、塚越、佐藤、田村、澤井）、山梨県水産技術センター忍野支所による新規ブランド雑種ニジノスケ（マスノスケ×ニジマス全雌異質3倍体）事業化に向けた取り組み状況（11月9日；平井）、近畿大学富山実験場による富山湾サクラマス養殖事業（1月19、20日；平井）、福井中央魚市場による若狭湾トラウトサーモン養殖事業（1月23日；平井）を視察し、生産施設のみならず、事業化に向けた展望などについても情報を収集した。

●地域振興型水産関連教育研究施設の全国連携に向けた取り組み

宮崎大学を中心としたサクラマス海水養殖地域コンソーシアム会議に参加し、サクラマス海水養殖に関する地域間連携の可能性について意見交換を行った（8月4日；平井）。金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設を訪問し、同大学が能登地域で進める水産関連教育研究プログラム（平成30年度学生募集開始）についての説明を受け、教育研究における将来的な連携に向けた意見交換を行った（1月24日；平井）。「水産オープン・イノベーション研究ネットワーク」設立総会及びキックオフシンポジウム（3月13日；平井、田村）に参加し、地域ニーズを捉えた次世代型養殖技術のための産官学民連携プラットフォームへの参加表明を行い、参加企業、各地域研究者との意見交換を行った。

●岩手県内におけるサケマス類養殖事業化研究に向けた取り組み

岩手県内水面水産技術センターとサクラマス、ニジマスの海水養殖について（7月19日、11月21日；平井）、釜石鉱山株式会社（11月17日；田中、平井、佐藤、澤井）と坑道湧水を利用した魚類養殖システムに関する共同研究について、岩手県生物工学研究センター生物資源研究部（11月24日；平井、佐藤）と三陸特産のイサダ（ツノナシオキアミ）の養殖餌料への利用についての共同研究について協議を行った。

●嚥下困難者対応固体食品の開発

咀嚼・嚥下過程の生体計測方法と、これに基づいた嚥下困難者対応の新たな加工食品の開発に取り組んでいる。これまでに得られた知見から、乳化剤と多糖を咀嚼・嚥下制御素材として配合することを特徴とする低水分固体食品の製造方法を、㈱日清製粉グループ本社とともに「咀嚼・嚥下容易な固体食品」として特許出願した。また、佐々木誠助教（岩手大理工学部）、柴本勇教授（聖隷クリストファー大学）、石川県農林総合研究センター農業試験場らと協力体制を構築し、ロボット工学と食品工学を融合させた視点から開発に取り組んでいる。水産物への適用として、褐藻アカモク素材（アカモク粉体。抽出多糖）を物性制御用の配合素材として検討中である。

●新たな減塩加工食品の開発

減塩しても適度な塩味を有する加工食品を創製することで、適塩（減塩）化の推進を目指している。当該コンセプトおよびそれに基づいた食品群を「ナト・カリ」「ナト・カリ食」として商標出願した。協力企業らと共同で開発に取り組んだ基礎調味料（食卓塩、醤油、味噌）が岩手県内を中心に販売開始されたほか、岩手県内企業らと共同で複数の水産加工品を試作し、丸友しまか㈲と共同で開発したさつま揚げは、復興シーフードショーIWATE内の水産加工品コンクールに出品された。本課題において、内閣府地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業「いわて塩彩（しおさい）プロジェクト」に参画し、協力体制を敷いている。

「ナト･カリ食」ロゴマーク

「ナト･カリ」醤油「いわて健民」(左)
「ナト･カリ」塩「ヘルシオライト」(右)

●減圧乾燥技術の確立による新食品開発

先行研究における技術シーズを土台に、新たな乾燥技術ならびに乾燥食品の開発に取り組んでいる。㈱アルバックとともに、新たな乾燥技術を「真空乾燥装置及び方法」として特許出願、技術名称を「ゆるドライ」として商標出願した。また、得られた知見は論文投稿ならびに学会・講演にて報告した。共同研究企業の(同)マルカネのニーズを受けてマサバの乾燥を行い、脂質酸化が大きく抑制された柔らかな食感の乾燥物（サバトバ）が得られた。これを受けて次年度中の商品化が進行中である。研究の推進に向け、「知」の集積と活用の場産学連携推進事業において「常温流通可能な加工食品開発プラットフォーム」を設立し、研究協力体制を敷いている。

マサバ乾燥物（サバトバ）試作品パッケージ

●新製品開発と市場開拓（魚麺等）

本研究では魚食の消費拡大のために、日本で盛んな麺文化と魚食文化を融合させ、「ファストフィッシュ」という手軽・気軽においしく食べられる新規ねり製品（魚麺）の開発を目的とした。三陸産ホタテ、サケ、サバの可食部をミンチしてから、塩を添加擂潰し、水産物の量に対して、小麦粉や澱粉の添加量を変化させ、生地を作成してから麺を成型する。茹で麺の物性と官能評価を行い、魚麺の配合を決定する。また安定生産のために、市販すり身（スケソウダラ）原料を同様に試作し、新規ねり製品（魚麺）の製造条件を検討した。今後魚麺の物性分析と魚肉タンパク質と小麦グルテンネットワークの形成挙動を詳しく分析予定。さらに食育の観点から学校給食または高齢者向けの「安全」、「健康」、「栄養」、「おいしい」、「便利」な新規ねり製品（魚麺）のメニューの開発を進める予定。

魚麺（ホタテ麺）の試作

●ホタテの鮮度維持研究における交流電場の応用研究

近年、ホタテの生鮮貝柱の消費が増加する一方で、流通中のホタテの硬化や黒化が問題となっている。硬化した貝柱は、K値が上昇するほか、しだいに軟化していき、食感や歯ごたえが失われてしまう。また、ヒポキサンチンは苦味となるため、味も劣化してしまう。そのため、流通中における、品質保持技術が必要とされている。電界印加インキュベータは生鮮食品に交流電界を印加することで、普通の冷蔵庫よりも鮮度を保持できることで知られており、鮮度保持効果の一つとして、マグロの保存中のK値増加抑制効果が報告されている。本研究では、ホタテの貝柱を交流電界下で保存し、交流電界印加がホタテ貝柱のドリップ漏出量、pH変化、ATP関連化合物、貝柱筋原線維ATPase活性、塩溶解度に及ぼす影響について検討した。

ホタテの鮮度維持における交流電場の応用

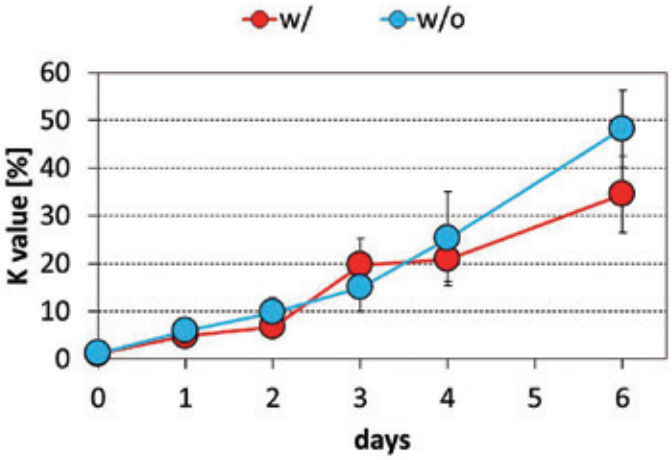


図４　K値の経時変化

■平成29年度の活動予定

1　増殖分野・養殖分野
- 地域貢献として、漁業関係者に対して漁業資源の生態と管理に関する研究成果のアウトリーチを通じて漁業のビジネスモデル構築に貢献する。
- 漁業者との懇談会、インターンシップ等を通して、学生に生産現場における実体験を積ませて三陸沿岸域の水産業への理解を高める。
- 地元小中高校とのカリキュラム連携等を通して、水産増養殖への興味を喚起し、将来的な地元受験生獲得のための足がかりとする。また、大学院生を指導（補助）業務に当たらせてプレゼンテーション能力の向上を目指す。

2　加工・マーケティング分野
- 地元のニーズ等を把握して、地域貢献できる研究開発を推進するため、地域産学官政民金連携会議（仮称）の研究会を毎年２回開催するほか、試食会・製造・加工講習会を実施する。
- 海外に三陸ブランドを発信する情報サイトの運営、販売促進活動を行いつつ、マーケティング戦略を策定し業界に普及する。

3　人材養成分野
- 29年度から入学する大学院生には、外部連携者との折衝など研究計画立案から参画させ、さらには必要に応じて学部学生の指導補助に当たらせることにより、沿岸漁業の振興に積極的に貢献できる水産プロモーターとして養成する。

（6）地域防災教育研究部門　（部門長　南 正昭／地域防災研究センター長）

地域防災教育研究部門を担う地域防災研究センターは、特任教員、兼務教員、研究協力員、客員教員等が学内外から参画し、地域防災や東日本大震災からの復興に資する研究・教育を進めている。当センターの特徴は、その名前の示す通り、地域防災に焦点を当てていることにある。津波、火山、地震、洪水など、災害は発生から復旧・復興まで、場に強く依存する性質を有しており、岩手や東北という地域特性に根ざした防災研究・教育に取り組んでいる身近なフィールドとの長期的な関わりを大切にし、地域の防災上の課題を抽出しながらその改善に向けてアプローチしている教員が多数所属している。

東日本大震災以後、当センターの「自然災害解析」、「防災まちづくり」、「災害文化」からなる3部門に所属する教員は、被災地域に入り、災害状況調査、地震・津波などの解析、復旧・復興まちづくりの支援、教育活動支援や伝承・記録の支援等を、地域の人々とともに実績している。

地機防災教育研究部門を担う地域防災研究センターは、自然災害解析、防災まちづくり、災害文化の3つの分野の教育研究に取り組む。具体的には被災地域に入り、被災状況調査、地震・津波などの解析、復旧・復興まちづくりの支援、教育活動支援や伝承・記録の支援等を地域の人々とともに実践している。

さらに阪神淡路大震災、中越地震などの震災・復興の体験を持つ国内外の大学、また南海トラフ等の今後の震災が危惧されている地域の大学との連携を深め、過去・現在・未来を貫く相互の学びの場の創出へとつなげることを当面の課題とする。

安全なまちづくりと災害文化を育む地域防災拠点の形成

活動テーマと概要

●代表者　南 正昭（理工学部 教授）

●担当者　人文社会科学部：後藤 尚人、五味 壮平、田中 隆充、松岡 勝実、杭田 俊之、
教育学部：田代 高章、土井 宣夫、麥倉 哲、山崎 友子
理工学部：小林 宏一郎、今野 晃市、大河原 正文、大西 弘志、小笠原 敏記、小山田 哲也、越谷 信、本間 尚樹、山本 英和、鴨志田 直人、松林 由里子
農学部：井良沢 道也、廣田 純一、三宅 諭、山本 清龍
連合農学研究科：比屋根 哲　　男女共同参画推進室：堀 久美
国際連携室：石松 弘幸　　三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤
地域防災研究センター：菊池 義浩　　教職大学院：森本 晋也

- これまで岩手大学が実施してきた地域密着型の活動（防災体制構築への支援、防災教育）をさらに拡充し、東日本大震災による被災地の復興に向け、「施設づくり」「まちづくり」「ひとづくり」に貢献
- 地域特性に応じた防災対策と、津波常襲地帯に暮らすための知恵である災害文化からなるボトムアップ型防災システム（三陸モデル）を構築
- 三陸モデルを、今後巨大地震の派生が危惧される東南海地域などへ展開
- 岩手県が構想する「国際的防災研究拠点（案）」の中核としての機能
- 他大学、他研究機関と連携し、相互補完的な事業実施により効果的な成果を創出

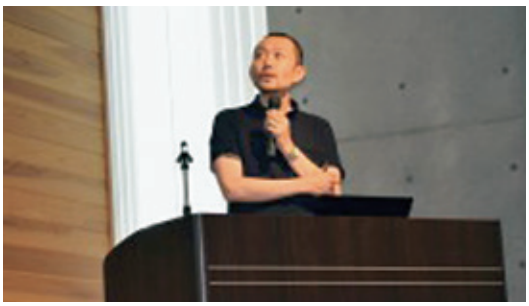
■活動内容

●地域を支える防災リーダー育成プログラム

■日時：平成28年5月14日(土)～12月17日(土)　隔週土曜日
■場所：岩手大学共用教育研究棟内リーダー育成プログラム講義室
■概要：本プログラムは、地域の防災を推進するため、住民・コミュニティー・教育現場での自主的・自発的な活動を促進し、その啓発・教育及び実践の核となる人材の養成を目的として、一般市民を対象に、平成19年度より継続的に行っている。カリキュラムは、物理および地学の基礎講習、地震・火山・地盤・洪水・津波防災・斜面災害・防災まちづくり・危機管理講座のテーマ別講習、被災地研修、修了製作を行う演習からなる。12月17日（土）には、外部評価委員として、清水晃国土交通省岩手河川国道事務所長、八重樫弘明岩手県県土整備部河川港湾担当技監、會川雅行岩手県総務部総合防災室防災危機管理監を招き、受講生の発表会並びに本プログラムの外部評価委員会を開催した。

●第16回地域防災フォーラム「災害復興～未来のための生活再建支援　岩手大学×神戸大学連携フォーラム」

■日時：平成28年8月3日(水)　14:00～17:00
■場所：岩手大学理工学部キャンパス内　復興祈念銀河ホール
■参加者数：40名
■概要：例年開催している神戸大学との連携フォーラムとして、東日本大震災から5年を経た被災地が抱える課題、中・長期化する復興の問題を取り上げた。約40名の来場者がみられ、被災者の生活再建支援をテーマに討議を行った。


いわて三陸ひまわり基金法律事務所･在間弁護士による生活再建支援制度に関する報告

岩手大学から、防災・復興の担い手としての女性の役割や活動の実態、仮設住宅でのお茶っこ的法律相談と被災者支援制度の問題、災害関連の法制度の概要と問題点及びこれからの対応方法に関する報告があり、神戸大学からは、阪神・淡路大震災の経験を踏まえた震災資料保存の意義や今日的な課題、災害法の国際比較と住宅再建面に着目した復興格差及びその対策、学生ボランティアによる復興支援活動の実績と今後の展開について報告された。

質疑応答では、会場から多様な意見や質問が挙げられ、復興の進捗状況にも地域による差異が見受けられるなか、復興を推進する要因や妨げとなる環境などについて検討を深める機会となった。

●平成28年度　防災・危機管理エキスパート育成講座　基礎コース

■日時：平成28年8月28日(日)、9月4日(日)、
9月17日(土)、9月24日(土) の4日間　　10:00～17:00
■場所：岩手大学復興祈念銀河ホール (理工学部キャンパス内)
■参加者数：14名
■概要：2016年8月24日(水)～9月24日(土)にかけて、防災・危機管理エキスパート育成講座の基礎コースを開催した。本講座は災害に直面した時、リーダーを補佐するエキスパートとして、災害対応とその効果的な推進のために必要な知識やスキルを習得することを目的に開催している。28年度からは合計4日間で16科目の講義を行っており、自治体、消防署、医療関係、学校、一般の方など14名が受講した。

越野客員教授による訓練マネジメントの講義

各分野の現場で活動している方々を講師として招き、実際の現場における知見やノウハウを講義いただいた。8月末に発生した平成28年台風10号の影響もあり、防災関係機関に勤務する受講生はその対応に当たりながらの参加となったが、受講後のアンケートでは有意義な内容だったという感想や、さらに詳細な内容について学習を希望するといった意見が寄せられた。

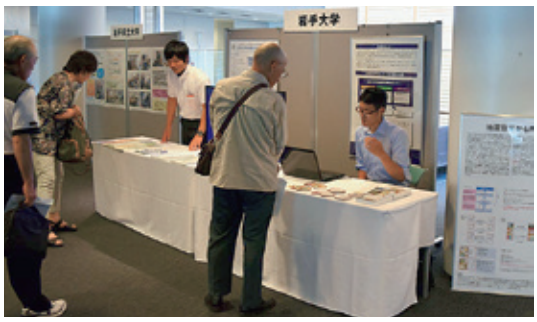
●「いわて防災・減災フォーラム2016」でのパネル出展

■日時：平成28年9月2日(金)
■場所：いわて県民情報交流センター（アイーナ）　■参加者数：来訪者多数
■概要：9月2日(金)、いわて県民情報交流センター（アイーナ）で開催された、「東日本大震災5年　いわて防災・減災フォーラム2016」でパネル出展を行った。このフォーラムは岩手日報創刊140周年記念事業として実施され、岩手大学地域防災研究センターも参画している「東北みらい創りサマースクール実行委員会」が共催している。

一般市民からの来場者も多数みられ、被災地の復興や自然災害の防災・減災に関するこれまで取り組みを紹介した。センターが発行している地域防災フォーラム講演録、宮古市立田老第一中学校　津波体験作文集「いのち」（山崎友子教授・災害文化部門長）を手に取られる方や、地震防災かるた（山本英和准教授・自然災害解析部門）に興味を持たれる方も多く、調査研究および実践活動の成果について地域社会に還元・普及していく機会となった。

なお、シンポジウムでは被災地で復興に取り組んできた個人・団体を対象とした「東北みらい賞」の表彰式・受賞者スピーチが行われた。その後のパネルディスカッションでは、南正昭センター長がコメンテーターを務め、震度7の連続地震が発生した熊本、南海トラフ地震が懸念される高知、3.11からの復興を進める岩手の、各地で活動する新聞記者がパネリストとして登壇し、「教訓と次への備え」をテーマに議論が展開された。

パネル展示会場の様子



岩手大学のパネルブース

●平成28年度　防災・危機管理エキスパート育成講座実習コース

■日時：平成28年10月13日(木)～14日(金)　10:00～17:00
■場所：岩手医科大学（災害時地域医療教育支援センター）　■参加者数：22名
■概要：防災・危機管理エキスパート育成講座の実習コースを昨年度に引き続き岩手医科大学（矢巾キャンパス）の災害時地域医療支援教育センターで開催した。受講生は自治体、消防署、医療関係、学校、一般の方など22名で、多様な分野からの参加がみられた。

初日は、はじめに図上訓練の手法や効果などの解説があり、災害時のイメージアップと防災へのモチベーションの向上を図るクロスロード（災害対応カードゲーム）と、地域の災害特性とその対応策を検討するDIG（ディグ、災害想像ゲーム）を行った。2日目は、静岡県が開発した避難所運営をゲーム感覚で模擬体験できるHUG（避難所運営ゲーム）と、個人や集団の動きをシミュレートし、その対応から課題等を抽出できるMM（マップ・マヌーバー）を実施した。普段はあまり経験のない机上での訓練と、災害時における自分たちの対応だけでなく、各機関がどのような判断・行動を行っているのかを理解し、意見交換を図る機会にもなった。

受講者によるクロスロード(災害対応カードゲーム)

HUG(避難所運営ゲーム)に取り組む受講者

●平成28年台風第10号災害緊急調査報告会

■日時：平成28年10月15日(土)　16:00～18:50
■場所：岩手大学理工学部キャンパス内　復興祈念銀河ホール　■参加者数：140名
■概要：平成28年8月に発生した台風第10号による被害を受け、岩手大学では発災直後から地域防災研究センター所属の教員らにより、被害状況等の調査に取り組んできた。今回の緊急調査報告会では、それらの調査結果の概括について報告するとともに、来場者との質疑応答を行った。当日は会場の復興祈念銀河ホール（定員：120名）が満員になり、メディアによる取材も多数あった。

はじめに、南センター長より地域防災研究センターの取り組みについての紹介があり、続いて、小笠原准教授、松林助教より水害の調査報告、大河原准教授、井良沢教授より土砂災害の調査報告があった。最後に広田教授から集落や住宅の再建に向けた今後の課題が示された。

調査報告後の質疑応答では、会場との活発な意見交換が行われた。発災から1ヵ月半が経過したなか、今回の災害の全体像をとらえ、復旧・復興のための議論を展開していく機会となった。

主催機関を代表してあいさつする岩渕学長

地域防災研究センターの概要を紹介する南センター長

●平成28年度　防災・危機管理エキスパート育成講座総合実習コース

■日時：平成28年11月15日(火)～11月16日(水)　10:00～17:00
■場所：岩手医科大学（災害時地域医療教育支援センター）　■参加者数：25名
■概要：岩手医科大学（矢巾キャンパス）の災害時地域医療支援教育センターにおいて、自治体、消防職員、医療関係者、教職員、一般の方など25名の受講生に対して平成28年度防災・危機管理エキスパート育成講座「総合実習コース」を開催した。

1日目は、はじめに越野客員教授による情報活動および意思決定のプロセスについての講義が行われた。午後からは高橋朗氏（盛岡市総務部危機管理課）の進行で、図上訓練の進行方法や想定に関する説明が行われ、翌日からの本番に備えた予行演習を取り組んだ。

2日目は受講生による市災害対策本部事務局を編成し、大雨洪水災害を想定した実践的なロールプレイング方式の図上訓練を5時間にわたる連続した状況で実施した。状況付与を行うコントローラーは、岩手県総合防災室、盛岡市、自衛隊、盛岡消防本部、岩手県警本部、盛岡地方気象台、岩手河川国道事務所から協力いただき、訓練で使用した電話回線はNTT岩手支店に設置していただくなど、多くの協力を得ながら、より実際的な災害状況をもとでの災害対策本部の活動について訓練が行われた。

書き込まれた地図

班長会議の様子

●名称：ハーバード大学との学術交流

■日時：平成28年11月17日(木)～11月18日(金)

■場所：ハーバード大学ケネディスクール・アッシュセンターおよびライシャワー日本研究センター（米国）

11月17日には、アッシュセンターにおいて、Program on Crisis Management - Catastrophic Disaster：Lessons from the Great East Japan Earthquake and Tsunami - と題されたセミナーにおいて、村上学長特別補佐が、Catastrophic Disaster：Lessons from the Great East Japan Earthquake and Tsunami in the Case of Rikuzentakataのタイトルで発表した後、越谷信副センター長が、Lessons from East Japan Great Earthquake and Tsunami - University's rolesと題して、岩手大学における東日本大震災での教訓を活かした防災啓発活動について発表を行った。また、翌18日には、ライシャワー日本研究センターにおいて、今後の学術・学生交流について、具体的な検討を行った。

ハーバード大学アッシュセンターにて
右から、松岡教授、上村副学長、Howitt博士、村上学長特別補佐、越谷教授

東日本大震災からの教訓と
大学の役割について講演する越谷教授

●「第二回災害文化研究会」を開催

■日時：平成28年11月26日(土)～27日(日)

■場所：1日目 福島大学共通講義棟M－4教室

2日目 巡検 相馬（松川浦周辺の津波被災地）・南相馬・避難解除された小高・飯館

11月26日(土)～27(日)にかけて、第二回目となる「災害文化研究会」を福島大学うつくしまふくしま未来支援センターとの共催で開催した。

初日の講演・研究発表およびディスカッションでは、山崎友子教授から趣旨説明と災害を総体的に捉える「災害文化」の概念について解説があり、続く東京都立大学名誉教授の堀信行氏による講演では、物事の実相に近づくにはその事象を複合的・俯瞰的に見ることが大切であること、また、世界観という軸で災害を捉えることの大切さについて、西アフリカ・ニジュールにおける自然環境と生活様式を引き合いに出しながら示され、災害文化が有する諸相および共通要素についての指摘を行った。

研究報告では、それぞれが取り組んでいる震災復興・自然災害に関する研究について、岩手大学から菊池義浩特任助教、松林由里子助教、福島大学からは井上健教授による報告があった。後半のディスカッションでは、被災地における水産業の現状に焦点を当てた議論が行われ、福島大学の初澤敏生教授と、岩手大学の山崎憲治元教授による論点提示のあと、会場から活発な意見や質問が挙げられ、被災地の行政機関や教育機関から参加していた来場者との意見交換も図られた。

二日目は初澤教授のコーディネートのもと、相馬市～南相馬市～飯館村のルートで福島各所を巡検。松川浦（相馬市）周辺の漁港施設の復興状況や、新設された観光・交流施設を備える常磐自動車道のサービスエリア（南相馬鹿島スマートインターチェンジ)、平成28年7月に原発事故による避難指示が解除された小高区（南相馬市）の様子など、発災から5年半以上が経過した被災地の実態を見学した。研究会を通じて、災害文化という切り口で震災復興・地域防災を考える貴重な機会となった。

フロアとのディスカッション風景

松川浦漁港（相馬市）の共同利用施設

●名称：Hainan Conference 2017参加

■日時：平成29年1月9日（月）～1月11日（水）
■場所：China Institute for Reform and Development Conference Center（中国）

この国際会議は、米国ハーバード大学ケネディスクール・アッシュセンターのArnold Howitt博士や中国清華大学Lan Xue教授が中心となって組織されたもので、危機管理に関わる世界各国の研究者や政策担当者の集まり。今回が第2回目で、会議の主題は、From the Management of Crisis to the Governance of Risk：Time for a Paradigm Shiftである。岩手大学からは、村上学長特別補佐が、Catastrophic Disaster：Lessons from the Great East Japan Earthquake and Tsunami in the Case of Rikuzentakata、松岡勝実防災まちづくり部門長が、Recovery and Creativity after 3.11 East Japan Tsunami Disaster – The Roles of a Regional Universityを発表した。また、本会議の事務局会議には、上記2名の他、越谷信副センター長や菊池義浩センター特任助教も参加し、この集まりの今後の方向性について議論した。

事務局会議に参加する
岩手大学地域防災研究センターのメンバー

講演後、会場との討論で発言する松岡教授

●八幡平市・寺田地区「地域の安全を考えるワークショップ（車座研究会）」に参加

■日時：平成29年1月21日（土）　18:15～20:45
■場所：八幡平市寺田コミュニティセンター

八幡平市の寺田地区では、寺田コミュニティセンターが中心となって、昨年度から「地域の安全を考えるワークショップ（車座研究会）」を開催している。寺田地域の子どもからお年寄りまでが、自然災害から身を守り、安全安心に暮らせる地域づくりを目指すもので、当センターでは岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の佐々木靖人共同研究員（八幡平市）のコーディネートにより、継続的に取り組みをサポートしている。

当日、地区住民から27名の参加があったワークショップは、畠山城司氏（寺田地域振興協議会・会長）の開会挨拶のあと、越谷副センター長から本ワークショップに期待していること、また、当センターの取り組みについて説明があった。続けて、小笠原准教授、松林助教、井良沢教授による講話では、昨年8月に発生した台風10号による被害を踏まえ、災害対策および自主防災組織の事例に関する解説が行われた。その後のクロスロード（防災対応カードゲーム）では、様々な災害時における状況を想定し、その時に求められる判断や行動、また事前対策の重要性について話し合われた。

寺田地区では自主防災組織の発足に向けた準備を進めており、ワークショップで学び話し合った成果が内発的な防災活動の足掛かりとなり、広く地域に波及していくことが期待される。

グループワークで熱心に話し合う参加者

車座研究会の趣旨を説明する越谷副センター長

●「東日本大震災6年 大規模災害と如何に立ち向かうか ～大規模災害時のネットワーク確保に向けて～」

■日時：平成29年2月20日(月)　13:30～16:30
■場所：岩手大学教育学部キャンパス内　北桐ホール
■参加者数：100名程度
■概要：東日本大震災から6年が経過しようとしており、震災対応の継続的な検証が課題となっている。また、平成28年度は台風10号による大雨が発生し、岩手県では連続して大きな災害に直面することになった。今回のフォーラムでは「災害時のネットワーク確保は如何にあるべきか」をテーマに開催し、自治体防災関係者、教員、一般市民など約100名が参加した。

司会の菊池特任助教

車座トークの様子

基調講演では、東日本大震災当時に東北地方整備局道路部道路管理課長として対応された木我茂氏と、南海トラフ地震対策中部圏戦略会議委員の秀島栄三氏を講演者に招き、3.11で実際に行われた道路啓開の作業フローと現場で求められる判断、また、台風・大雨災害における広域避難の可能性と実現に向けた対策などについて講演いただいた。南正昭センター長からは、台風10号による道路網への影響と、避難計画の再検討に基づいた震災復興事業における効果の検証について問題提起があった。

後半の車座トークでは、東北地方整備局岩手河川国道事務所長の清水晃氏をアドバイザーに加え、近年における大規模災害の経験を踏まえた、今後の道路ネットワークのあり方についてディスカッションを行った。会場からも意見や質問があげられ、社会的なネットワークの構築も見通しながら、今後の災害対応について検討していく機会となった。

●福島県広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析

1．水平動解析

福島県の10地点において広帯域リニアアレイ観測を実施し、地震波干渉法解析を行い、水平動を用いて相互相関関数の算定と群速度の算定を行った。観測された常時微動水平動記録に対しアレイ観測点間の相互相関関数を算出した結果、Radial成分とTransverse成分の双方で特徴的な位相が伝播する様子が確認できた。重合した相互相関関数にマルチプルフィルタ解析を適用し群速度分散曲線と周期ごとのSN比を推定した。RRとTTの群速度分散曲線を比較した結果、周期5秒以下ではTTの群速度が遅いが、周期5秒以上でTTの群速度が速いことが分かった。そして、RRとZZは群速度がほぼ同じ値だった。Nishidaモデルから期待される群速度理論分散曲線と観測とを比較した結果、観測値のほうが群速度が低いことがわかった。

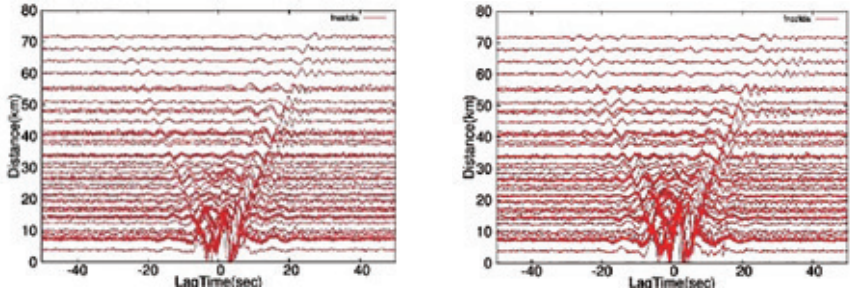


図-1　RR成分（左図）およびTT成分（右図）の重合相互相関関数

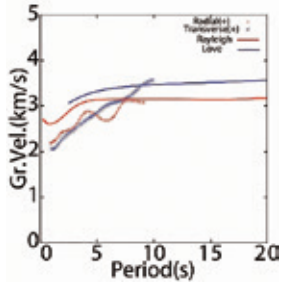


図-2　マルチプルフィルタ解析により得られたレイリー波とラブ波の位相速度

2．実体波と表面波との分離の試み

Radial成分とTransverse成分の相互相関関数の算出と、得られた相互相関関数から群速度の算定を行うことを目的とし、地震波干渉法により広帯域リニアアレイの水平動観測記録の解析を行った。相互相関関数を算出するとRRよりTTがわずかに速い結果となった。さらに、SN比の閾値を10以上とするとRRとTTの双方の群速度が約2～3km/sで連続的に分布し、Nisdidaモデルよりも最大で約0.6km/s遅いことが分かった。また、Takagiの手法を用いて表面波と実体波の分離を行ったところ、微動の主成分は表面波であることが分かった。得られた表面波の群速度を算出し、RRとZZと比較すると、SN比10以上の周期範囲では3つの群速度がほぼ一致した。今後の課題として、観測点距離より短い波長の群速度の抜出しや、観測点間の群速度の算出、S波速度構造の逆解析を行うことなどが挙げられる。

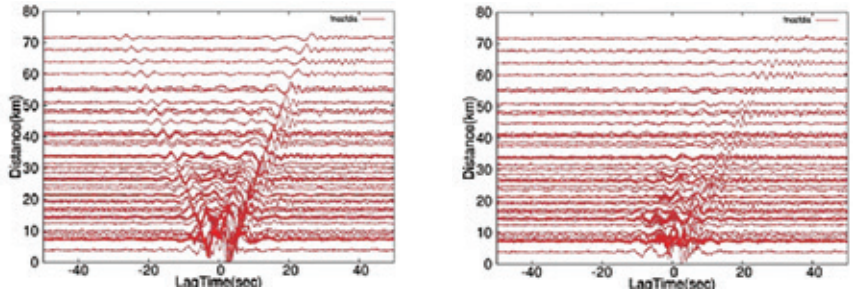


図-3　RZ成分及びZR成分の相互相関関数の差（表面波、左図）および和（実体波、右図）

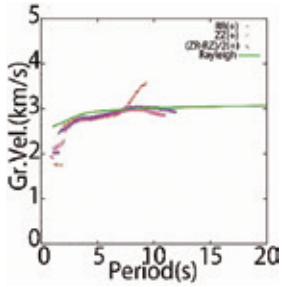


図-4　RR成分、ZZ成分（ZR－RZ）/2成分の重合相互相関関数から得られたレイリー波位相速度

3．アレイ観測された水平動微動の周波数波数解析法によるLove波位相速度の推定

半径を三倍ごとに変化させた10点三重三角形アレイ微動観測で得た記録に、水平動へ拡張された周波数波数解析（FK）法と、空間自己相関（SPAC）法を用い、Love波の位相速度推定を試みた。FK法ではSPAC法から得られた位相速度とほぼ同程度の位相速度が得られた。Transverse成分とRadial成分をそれぞれ識別できた。FK法によるRadial成分の解析結果で、高周波数帯において、基本モードの理論Rayleigh波よりも速い高次モードの可能性が高い位相速度が検出された。空間自己相関法により算出されたLove波パワー比は、岩手大学理工学部グラウンドにおいて40%-60%を示した。Love波、Rayleigh波が同程度の割合で存在しているため、Love波、Rayleigh波両方の良好な結果を得られたと考えられる。

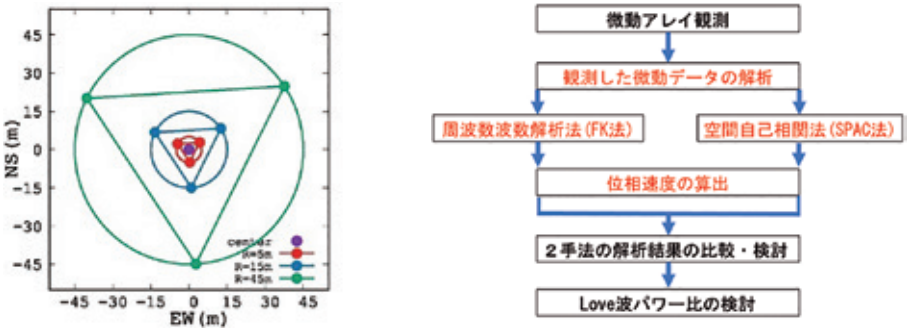


図-5　アレイ配置と解析のフロー

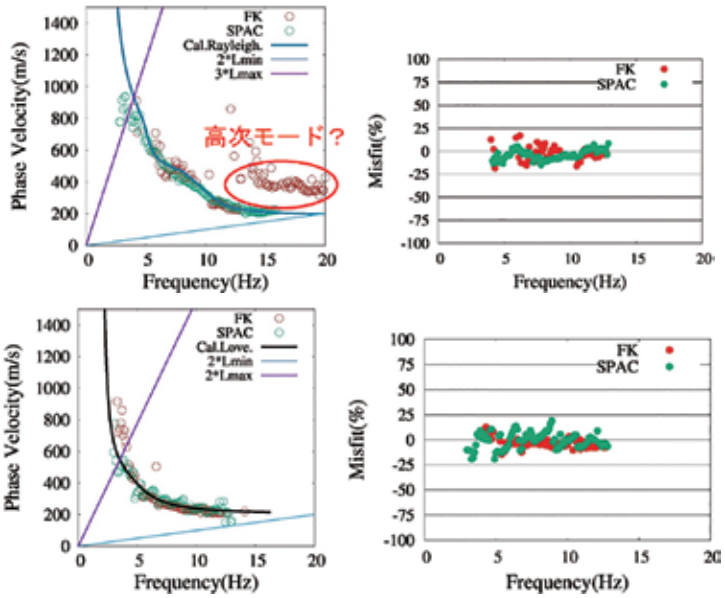


図-6　水平動微動からFK法とSPAC法で推定されたレイリー波位相速度とラブ波位相速度およびその比較

4．浅部２次元S波速度構造推定を目的としたリニアアレイで観測された短周期微動の地震波干渉法解析

短周期微動を利用しての浅部２次元S波速度構造探査の新たな手法開発を目的とし、地震波干渉法による11点三成分リニアアレイ微動観測記録の解析を行った。その結果、重合相互相関解析では、リニアアレイで微動計を等間隔に配置した結果、NS、EW、UD全ての方向で波動の伝播を確認することができた。群速度の推定では、特にNS方向でSN比が低く、正しい群速度の推定が難しかった。それに対して、EW、UD方向では、SN比が10より大きい周波数範囲が広いうえに、既存モデルから計算したものとの比較しても近い値をとっていたことから、正しい群速度の推定ができたと考えられる。群速度を２次元表示した結果、高周波数では場所によって群速度が若干変化していることが明らかになった。

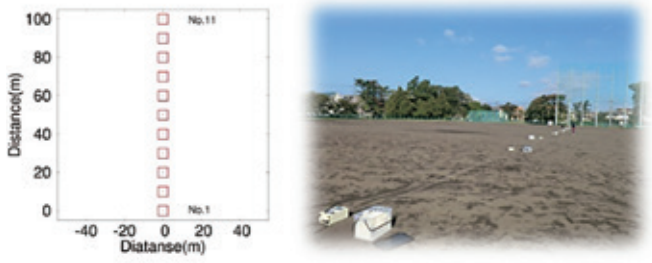


図-7　微動計の配置と測定風景

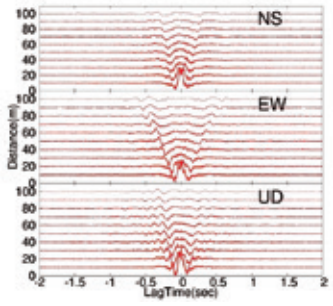


図-8　NS, EW, UD成分の重合相互相関関数

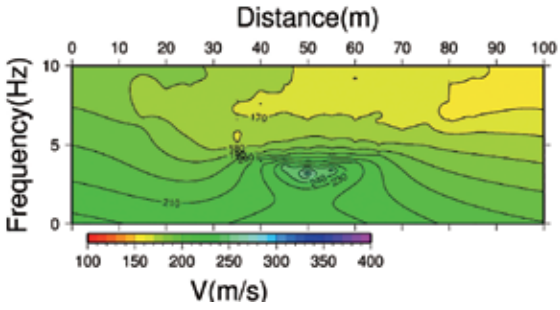


図-9　群速度の2次元表示

■平成29年度の活動予定

平成28年度の活動に引き続き、避難計画の立案支援と情報通信システムの開発と運用、東日本大震災の記録・伝承・検証並びに人材育成手法開発に取り組むとともに、人材養成分野として、防災リーダー育成プログラム（社会人リーダー養成）、危機管理エキスパート講座（社会人専門家養成）等を開講する計画である。

さらに平成28年に発生した台風第10号を踏まえて、岩手県教育委員会・岩泉町教育委員会と連携を図りながら、学校版タイムラインの作成や児童生徒用「台風災害に備える」防災教材の開発に取り組む予定である。

（7）平泉文化教育研究部門　（部門長　藪 敏裕／平泉文化研究センター長）

平泉文化教育研究部門は平成24年4月1日に設置された岩手大学平泉文化研究センターを中心に運営している。センターは「仏国土の理想郷として造営されたという平泉庭園文化を中心に、平泉文化の意義を総合的に解明すること」を目的とする。設立の構想は、平成17年度より採択された「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」という学術的研究の一環として、岩手県教育委員会と共催で「平泉文化フォーラム」などを実施したことにはじまる。その後、「世界遺産・平泉文化の総合的研究の拠点形成」事業として拡充が図られ、平成28年度から岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の平泉文化教育研究部門も担当することとなる。

平泉文化教育研究部門は、平泉文化研究センターが担当している。センターの目的は、仏国土（浄土）の理想郷として造営されたという平泉庭園文化を中心に平泉文化の意義を総合的に解明することにある。具体的には、岩手県教育委員会や海外の諸大学等と連携を図り、これまでの研究成果を踏まえながら平泉文化を学際的・国際的な観点から研究し、平泉文化の国際的意義を明らかにし、「平泉学」としての総合化を目指していく。

活動テーマと概　要

平泉文化の普遍性に関する国際理解の一層の進展と地域に遺る文化遺産を活かした地域振興への貢献

●代表者　藪 敏裕（教育学部 教授）

●担当者　人文社会科学部：樋口 知志、平田 光彦
教育学部：宇佐美 公生、菅野 文夫、今野 日出晴、境野 直樹、
佐藤 由紀男、藁谷 収
理工学部：平原 英俊、小野寺 英輝、會澤 純雄
平泉文化研究センター：劉 海宇、伊藤 博幸

考古研究部門・文献学的研究部門・教育地域貢献部門の三部門を中心に活動を行った。内容は以下のとおり。

1．「岩手県における世界遺産についての調査・研究の継続と支援」では考古部門を中心に陶磁器等の産地同定作業を行った。
2．「平泉世界遺産教育の展開」では平泉学講演会、世界遺産学学習全国サミットinひらいずみ等への協力を行った。
3．「三陸復興と観光振興への展開」では具体的取組はできなかったが、三陸復興部門農林畜産業復興総合計画班や釜石市派遣共同研究員らと連携し、次年度から横断的プロジェクトを立ち上げることとした。
4．「地域創生関係」ではPBL型（文化遺産型）授業を行った。
5．「世界遺産活用のあり方（モデル化）の確立」では釜石市橋野高炉跡が台風10号の被害が甚大で、現地確認ができたのみで、活用のあり方の検討は次年度以降とした。

■活動内容

●考古研究部門：東アジアにおける古代庭園国際シンポジウムの開催

平泉の庭園群に見られる曲池州浜形式の庭園の源流について検討することを研究の柱の一つとしている。この解明のため、3月26日、教育学部において、中国社会科学院考古研究所副研究員の付仲楊氏「考古学から見た豊京遺跡の集落形態について」の報告と、これを承けたシンポジウムを開催した。中国における城壁のない初期都城遺跡として注目される豊京遺跡の概要とその苑池庭園についての概説であった。参加者20名。また、中国庭園の現地調査は10月27日～11月13日まで藪・劉両教授が実施した。

東アジアにおける古代庭園国際シンポジウム

東アジアにおける古代庭園国際シンポジウム：仲楊氏の講演

●考古研究部門：ポータブル複合X線分析による中国陶磁器の胎土分析

平泉では国産の陶磁器とともに多くの中国陶磁器が出土しており、時代が百年と限定されていることから各陶磁器の時代特定の貴重な基準となると言われている。この平泉出土の中国陶磁器の産地同定を進めるために、1月23～25日まで、福岡県博多遺跡群出土の陶磁器50点の蛍光X線計測を当センターの分析機器を使って行った。この間、會澤純雄・平原英俊兼務教員らは1月21日の平泉文化フォーラムにおいて「ポータブル複合X線分析による白磁と青磁の胎土分析」の報告を行い、中国および平泉出土資料の比較検討を行った。

第83回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会
第101回計測自動制御学会力学量計測部会　第33回合同シンポジウム
ベストポスタープレゼンテーション賞（一般ポスター賞）

●考古研究部門：3Dレーザースキャナを用いた平泉柳之御所遺跡と無量光院跡の三次元計測

遺物・遺構などの研究資料を高速かつ高精度に分析する機器として、遺跡・地形・遺構等の三次元座標を瞬時に高精度で取得するための「3Dレーザースキャナ装置」を導入し、遺物と文化財等の歴史、そして考古学評価に向けた文理融合研究を展開している。平泉柳之御所遺跡発掘現場と無量光院跡の3Dレーザースキャナによる三次元計測を行い、高精度で形状や地理情報を取得し、3Dスキャンデータをデジタルアーカイブ化することを検討した。この間、會澤純雄兼務教員は同テーマで、10月13日のUURRプロジェクト国際シンポジウムで発表した。

UURR国際シンポジウム　會澤准教授の講演

●考古研究部門：佐渡市における「平泉寺」の調査

平泉の名称の起源をどう考えたらいいのかという問題意識から、伊藤博幸客員教授は、3月9～11日まで新潟県佐渡市において「平泉寺」の現地調査を行った。佐渡市には2カ所に平泉寺があることが判明した。ひとつは丸山平泉寺で、他は金井町多聞寺である。いずれも字名は「ひらしみず（平清水）」。多聞寺は現在の寺名で、かつては平泉寺と呼ばれていたというものである。いずれも脇地に霊泉をもち、他の平泉寺と立地は同じであった。

佐渡市における「平泉寺」調査

●文献学的研究部門：唐代における金銀字経と五臺山金閣寺の研究

1月21日、平泉文化フォーラムにおいて劉海宇教授は「唐代における金銀字経と五臺山金閣寺」を題して研究発表を行った。はじめに唐代における金銀字経を概観し、次いで中唐期における金字法華経と不空教団を取り上げ、さらに中唐期における金銀字大蔵経と五臺山金閣寺に及んだ。唐代における金銀字の様相を概観することで、唐代に仏典を書写する事例が増えており、金銀字経の発展期を迎えたことがわかるとまとめた。唐代では金字は皇権を荘厳する形式として位置付けられている。五臺山金閣寺に奉納された金銀字大蔵経は護国的な色彩が濃厚であり、鄭道覚が皇権と結縁するためのものだと結論付けた。

●教育・地域貢献部門：第17回平泉文化フォーラムの開催

平泉に係わる研究成果を一般向けに公開することを目的として、毎年いわて高等教育コンソーシアムと岩手県および岩手大学三陸復興・地域創生推進機構平泉文化教育研究部門の三者が共同で開催している。今年度は1月21・22日の両日、奥州市文化会館において開催し、研究成果の一部を市民向けに公開した。当センターからの発表は、研究報告として劉海宇教授「唐代における金銀字経と五臺山金閣寺」と會澤純雄兼務教員「ポータブル複合X線分析による白磁と青磁の胎土分析」を行なった。参加者は延べ400人。

第17回平泉文化フォーラム：基調講演

第17回平泉文化フォーラム：劉教授による報告

第17回平泉文化フォーラム

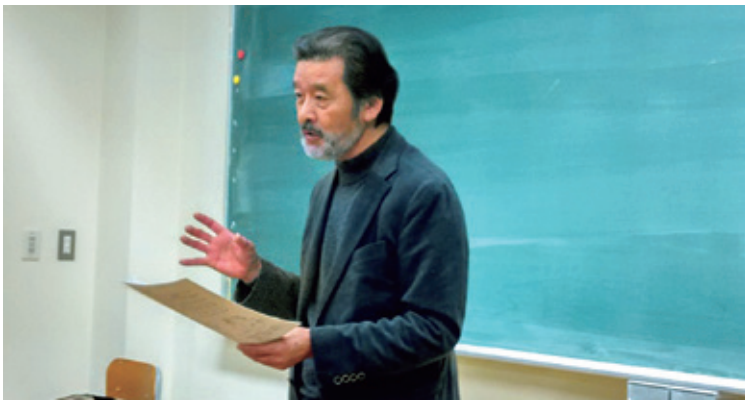
●教育・地域貢献部門：世界遺産追加登録に係る平泉文化研究集会の開催

当初の世界遺産登録に漏れた柳之御所遺跡を始め関係する遺産をいかなるコンセプトにより登録するかと言う目的で五年計画で実施している研究集会の四年目の集会であった。今年は、12月3・4日の両日、平泉町文化館で開催された。専門家による追加登録に係る問題点について討議が行われ、藪敏裕・劉海宇・伊藤博幸センター教員がそれぞれ意見を求められ、発表した。参加者は延べ300人。報告書は近日発行予定。

世界遺産追加登録にかかる平泉文化研究集会で意見を述べる伊藤特任教授

●教育・地域貢献部門：平泉文化セミナー例会の開催

本セミナーは、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構平泉文化教育研究部門の研究業績等を一般市民向けに発表することを目的として原則年10回程度開催することとしている。今年度は教育学部教室において、第23回～第28回まで都合7回開催した。毎回20～25名の参加である。



平泉文化セミナーで講演する八木客員教授

●教育・地域貢献部門：平泉文化センター講演会の開催

本講演会は、世界遺産平泉の価値を国際的な観点から検討することを目的に県内外の研究者向けに原則年一回程度開催することとしている。本年度は平泉建築史をテーマに、5月23日岩大教育学部において、中国福建省博物院文物考古研究所所長楼　建龍氏による「福建における早期歴史建築について―漢唐期から宋元期にかけて」と題する講演会を、スライドを使用して行った。参加者15名。

●教育・地域貢献部門：（教育普及活動）「第7回世界遺産学習全国サミットinひらいずみ」への協力

世界遺産があるまちに住む全国の児童生徒や教育関係者が集い、「地域の宝」を生かしたまちづくりの実践例を発表し、交流を深める世界遺産学習全国サミットは過去6回奈良等で開催されてきた。今年は世界文化遺産登録５周年に合わせて、11月5日に平泉町で「第７回世界遺産学習全国サミットｉｎひらいずみ」が開かれ、岩手大学平泉文化研究センター（三陸復興・地域創生推進機構平泉文化教育研究部門）は全国サミット分科会の指導・助言に対応した。文化遺産学習では岩大今野日出晴教授、文化遺産歴史を学ぶでは岩大伊藤博幸客員教授、自然遺産ジオパークでは岩大越谷信教授が司会と助言を行った。また全体会では、今野が講評を行った。参加者は200名を超える盛況ぶりであった。

●教育・地域貢献部門：テレビ岩手「平泉の黄金文化」関係の中国取材と出演について

藪敏裕・劉海宇両教授は、テレビ岩手の製作番組「平泉の黄金文化」の取材に協力し、平泉文化研究の進展に寄与するため、1月4日～10日まで中国天台山や杭州市内の平泉文化に係るロケに同行出演した。

●教育・地域貢献部門：（教育普及活動）平成28年度「平泉学講演会」への対応

6月29日は世界遺産の日である。ことに本年度は平泉世界遺産登録5周年の節目であり、これを記念して同日、平泉小学校で町内の小学6年生と中学2年生を対象に伊藤博幸客員教授が「考古学から平泉文化を考える」と題して講演を行った。参加者124名。

■平成29年度の活動予定

基本的には、28年度の日中の庭園苑池の比較検討、中国産陶磁器特に福建省・浙江省産の陶磁器分析等の研究、追加登録に関するアジアとの比較検討等、世界遺産に係る研究・調査を継続しつつ、研究成果の社会への発信についても積極的に継続していきたい。なお、世界遺産教育の展開および三陸復興と観光への展開、さらには地域創生関係の事業についても推進することを活動予定としている。

03 釜石サテライト・エクステンションセンター

（1）釜石サテライト・エクステンションセンターの設置

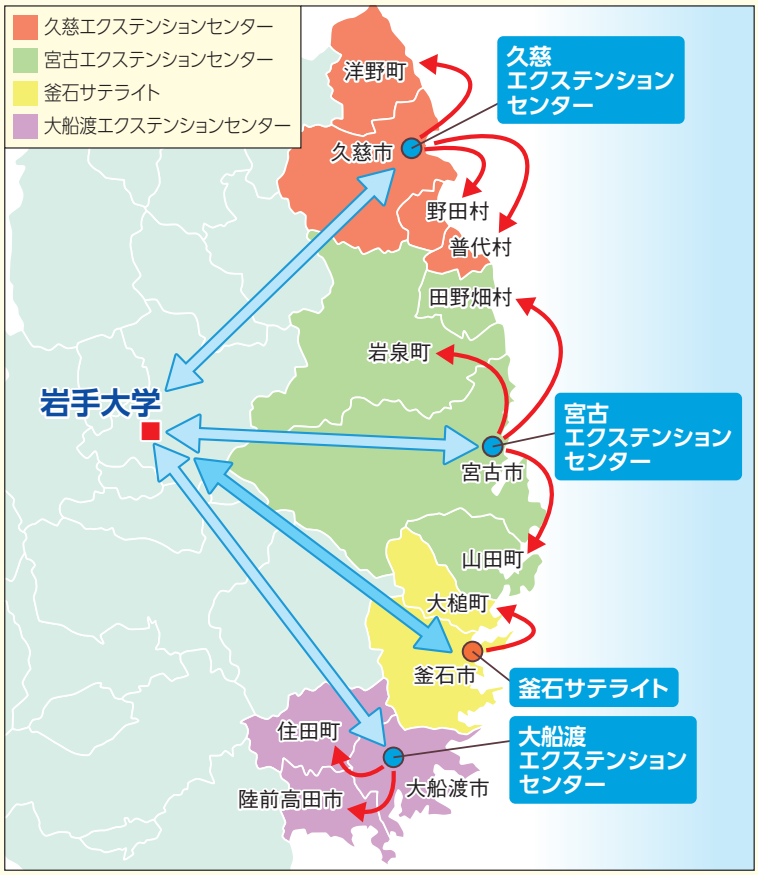
岩手大学は、これまで培ってきた教育研究機能をもとに、産学官連携を推進し、全学を挙げて三陸沿岸地域の復興支援の取組を行うため、現地拠点として「釜石サテライト」、「久慈エクステンションセンター」、「宮古エクステンションセンター」、「大船渡エクステンションセンター」を設置している。

釜石サテライトには、特任准教授（臨床心理士）、産学官連携専門職員等が常駐し、各エクステンションセンターにも特任専門職員（プロジェクトマネージャー）が常駐している。

釜石サテライト・エクステンションセンターの主な活動テーマは以下のとおり。

主な活動内容

- ●被災者からの支援ニーズの収集
- ●被災地からの支援ニーズに応える岩手大学のシーズに関する情報提供及びマッチング
- ●沿岸自治体、企業・事業者、団体・グループなどとの連絡調整
- ●岩手大学が行う各種支援活動の企画立案や復興プロジェクトの推進



主な担当地域

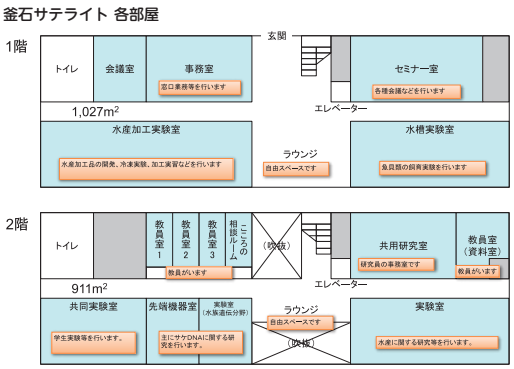
- ・釜石サテライト …… 釜石市、大槌町及び三陸全体
- ・久慈エクステンションセンター …… 久慈市、洋野町、野田村、普代村
- ・宮古エクステンションセンター …… 宮古市、田野畑村、岩泉町、山田町
- ・大船渡エクステンションセンター …… 大船渡市、陸前高田市、住田町

（2）釜石サテライト・エクステンションセンターの活動

① 釜石サテライト

平成23年10月1日、旧推進本部の設置と同時に、三陸沿岸部の復興の活動拠点として釜石市教育センター内に「釜石サテライト」を設置し、産学官連携専門職員を中心として被災地のニーズ収集に努めてきた。その後、約半年が経過した24年3月には、震災により心にストレスを抱えている方や、被災者を支援している支援者の方を対象とした心のケアが必要不可欠である状況を踏まえ、特任准教授（臨床心理士）1名を釜石サテライトに配置した。これにより、釜石サテライトでは、三陸地域における産学官連携の推進に加え、被災者に対する心のケアを行うとともに、自治体職員、地域の福祉関係者等を対象に、被災者との接し方、対応などのセミナーや講習も実施している。

25年3月には、三陸沿岸の更なる復興支援を行うことを目的として、従来の機能に加え、三陸産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指す「岩手大学三陸水産研究センター」や臨床心理士による心のケアを行う「こころの相談ルーム」も入居する新釜石サテライトを釜石市平田地区に開設し、さらに積極的な活動を行っている。



【釜石サテライト】　所在地：〒026-0001岩手県釜石市平田第三地割75-1
電話：0193-55-5691　FAX：0193-36-1610　E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp

●サテライトに常駐しているスタッフ（ほか３名の事務職員が常駐）

■スタッフ
産学官連携専門職員
田村 直司

主に水産業に関する三陸沿岸地域のニーズを収集するとともに、ニーズに対応出来る本学の教員や各行政機関等と連携し、新たな「なりわいの創出」に取り組んでいる。

■スタッフ
特任准教授／臨床心理士
佐々木 誠

サテライト内に設置されている「心の相談ルーム」でのカウンセリングをはじめ、沿岸各地で心のケアに関するセミナーや講習会に取り組んでいる。

●釜石サテライトに入居

三陸水産研究センター

従来の水産業に科学的根拠に基づく付加価値を加え、水産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指すとともに、水産関連技術者の高度化教育や人材育成を行い、三陸地域の活性化を推進。

こころの相談ルーム

三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門心のケア班に所属している臨床心理士による被災者・支援者のカウンセリングやコンサルテーションを実施。

主な活動内容

企業訪問・面談数・意見交換会　120件

●研究プロジェクトの進捗管理、成果の普及展開

→事業が終了したSANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業などの研究プロジェクトについて、研究成果や継続の有無を把握するとともに、被災地の水産業に研究成果を早期展開する。

●魚のまち構築に向けた中核人材育成支援事業の取り組み

→釜石市から委託を受け、漁協女性部による水産物のブランド化や6次産業化、漁業後継者の育成、人材育成のための水産イノベーションエコシステム施設整備事前調査等を実施した。

●地元住民や学生・生徒に対する水産研究の紹介

→水産・海洋プロジェクトの研究成果の普及や水産研究者の人材育成等を図るため、活動中の研究プロジェクトを学生・生徒など広く県民に紹介するセミナー等を通じて水産業に対する関心を高めた。

●次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー構想の取り組み

→地元などの企業13機関とプラットフォームを設立し、産学官民金連携による次世代陸上養殖システムの確立とフィッシュファクトリー構想の実現に向けた取り組み支援を行った。

●漁業担い手育成確保のための取り組み

東日本大震災により大きく減少し、高齢化が進行した沿岸漁業者の構造を改善するために、釜石市等からの委託事業により市内の漁業協同組合と連携して漁業担い手確保対策の取組みを下記のとおり実施した。

1　意識改革のための勉強会

①名称　漁業担い手確保対策セミナー

②日時　平成29年1月11日(水) 13:30～16:30

③場所　岩手大学釜石サテライト1階　セミナー室

④講演の部

・山形県における担い手確保育成の全体像　山形県水産振興普及専門員　板本健児氏

・担い手確保育成に関する漁協としての支援　山形県漁協指導課長 西村　盛氏

・年間水揚げ1000万円達成までの道のり　延縄漁業者（漁業指導者）鈴木剛太氏

⑤パネルディスカッションの部

「漁業担い手は浜の財産　育成し定着させるためには何が必要か」

2　漁業担い手確保対策先進地調査

①実 施 日　平成28年10月3日(月)～4日(火)

調査場所　山形県庄内総合支庁水産振興課、山形県漁協、県漁協鼠ヶ関総括支所、由良総括支所

②実 施 日　平成29年1月24日(火)～25日(水)

調査場所　三重県志摩市三重外湾漁協志摩支所志島出張所、尾鷲市尾鷲漁協早田支所

③実 施 日　平成29年2月3日(金)

調査場所　福井県新規漁業就業者支援協議会、福井県越前町役場、
越前移住・二地域移住体験施設Mohage（モハージュ）

④実 施 日　平成29年2月24日(金)

調査場所　長崎県西海市役所水産課

漁業担い手確保対策セミナー（パネルディスカッション）

漁業担い手確保対策のための調査
（尾鷲漁協早田支所での移住した若手漁業者からのヒアリング）

●水産業の6次産業化に向けた取り組み

漁協女性部が開発した水産加工品などを消費者に広く周知すると共に、自立可能な女性部活動の確立と自ら販促活動を展開できるリーダー育成のための産直販売イベントを実施した。

1　山形県南陽市での取り組み
　①実施日　平成28年10月22日（土）　②場所　山形県南陽市中央花公園　特設会場『南陽の菊まつり』
2　秋田県横手市での取り組み
　①実施日　平成29年2月19日（日）　②場所　秋田県横手市秋田ふるさと村特設会場
3　首都圏での取り組み
　①実施日　平成29年3月4日（土）、5日（日）　②場所　東京都中央区銀座いわて銀河プラザ

水産業の6次産業化に向けた取り組み（南陽市でのPR販売の取り組み）

いわて銀河プラザでのPR販売の取り組み

●人材育成のための産学官民金連携水産イノベーションエコシステム施設整備事前調査

釜石市は、日本の製鉄の重要拠点として発展した歴史があり、三陸沿岸のほぼ中心というイノベーション拠点として大変良い立地条件にあることから、他地域に先駆けて産学官民金連携イノベーションエコシステム施設の整備を検討するための現地調査を下記のとおり実施し、報告書はリーフレットとして取りまとめ委託元の釜石市に提出した。

・平成28年　7月29日（金）　函館国際水産・海洋総合研究センター
・平成28年11月　7日（月）　愛南町および愛媛大学南予水産研究センター（うみらいく愛南）
・平成28年11月　8日（火）　阿南市インキュベーションセンター（阿南工業高等専門学校内）
・平成28年11月10日（木）　福井県栽培漁業センター（福井県海洋生物資源国際研究センター構想）
・平成29年　1月23日（月）　三重大学大学院水産実験場
・平成29年　1月30日（月）　沖縄県海洋深層水研究所および海洋温度差発電実証設備、久米島役場
・平成29年　2月24日（金）　長崎大学海洋未来イノベーション構想

主な活動内容

心のケア対外的活動件数　162件

●こころの相談ルームでのカウンセリング
→特任准教授（臨床心理士）による被災の有無に関わらない無料でのカウンセリグ活動

●市民講座をはじめとした各種研修活動
→心のケアをテーマとする一般を対象とした講座と、支援者支援を目的としたスキルアップおよびメンタルヘルス等の研修活動

●臨床心理士を目指す大学院生の養成
→長期支援を目的とした次世代の心のケアを担う臨床心理士の育成のための被災地での実際的研修活動

●心の相談ルームでのカウンセリング

平成28年度の「こころの相談ルーム」利用者は、のべ69人（この他に担当者が兼務している人文社会科学部の相談センターでのカウンセリングがのべ15人）となった。利便性の向上を目的として開始した岩手大学釜石教室（釜石教育センター5F）での相談も、利用者からはアクセスがよいということで好評を得ている。来談経緯について、過去に相談ルームを利用した知人から紹介された、関わっている支援者から紹介されたといった、相談ルームの活動が評価されたことによる来談が増えた。このことから、地域に相談ルームの存在が浸透してきているということが感じられる。また、小学校で配られたチラシで市民講座を知り、参加したところで相談ルームがあることを知ったというケースもあった。このことから、地域の小学校でのチラシ全戸配布といったポピュレーション・アプローチは無駄ではなく、当初の目的の１つである「被支援のハードルを下げる」という意味では効果が出ている。相談の内容では、震災後6年目を迎えた今年度も、明らかに震災が関連していると思われる新規のケースがあった。カウンセリング活動については、市民講座と合わせて長い期間を見据えた活動の継続が必須である。

カウンセリング(イメージ)

●市民講座をはじめとした各種研修活動

市民講座の様子（宮古）

研修活動は、適切な知識を普及することで防災や復興に関わる認識の差を是正することと、心理支援の被支援性向上を目的としている。広報では、ポピュレーション・アプローチの一環として、対象地域にある小学校にて、チラシの全戸配布にご協力いただいている。実施にあたっては、6年間という時間の経過を鑑み震災に直結しない一般的なトピックも取り入れている。今年度の市民講座の参加者は全７講座で129名であった。また、平成29年2月11日に実施した「子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム」では、全国から75名が参加し、高い評価を得た。この他の研修では、釜石海上保安部、沿岸自治体と保健所、一般介護施設、公立高校、公立中学校高校等を対象に24回実施され、1300名余りの方々を支援できた（平成23年3月からの累計：研修活動160回、約4800人が参加）。今年度の状況として、仮設住宅の集約や自治体の機能回復による自主開催等の状況の変化から研修回数は減少したが、新規を含め支援者のスキルアップやメンタルヘルス研修の希望は続いており、これまでの支援者支援を中心とした研修が評価されていると考える。今後とも地域の状況を元に、適切な研修を実施していく必要がある。

●臨床心理士を目指す大学院生の養成

現地で被災時の状況を聞く様子

長期的なスパンで行われる心理支援の基盤作りを目的として、人文社会科学研究科の臨床心理学領域に在籍する大学院生を対象として被災地での一泊二日研修を実施している。今年度は大学院生6人と卒業生1名が参加した。今年度も仮設にお住まいの方々を訪問し、大学院生によるタッピング・タッチ（背中や頭部を優しく刺激するリラクセーション）を実施した。再建が進む中で参加者の減少が目立ったが、いつものように和やかな雰囲気で進み、地域の方々との交流ができた。今年度は更に、現地見学と外部講師を招いての講話をも加えた。現地見学では、立入禁止の震災遺構に入構し、震災当時から現在までの様子をガイドの説明を聞きながら巡るツアー（一般社団法人マルゴト陸前高田「復興最前線ツアー」、2016）に参加し、リアルで現在進行形の復興を目の当たりにした。大学院生からは、地域の方々から元気をもらい、復興の状況を現地の方から聞く事で、外から見ていたのとはまったく違うことが分かった。今後臨床心理士として活動するときに役立てたいとの感想も聞かれた。震災と復興を未来につなげる意味でも継続的な活動が望まれる。

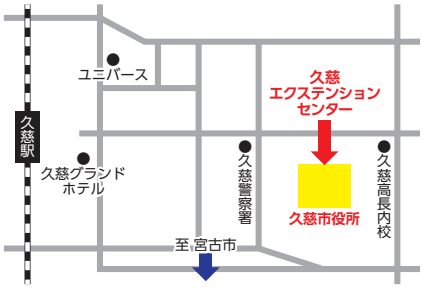
② 久慈エクステンションセンター

■スタッフ

特任専門職員
川尻 博

【久慈エクステンションセンター】

所在地：〒028-8030
岩手県久慈市川崎町1-1
久慈市役所総合政策部
政策推進課内
電話：090-2953-2519
E-mail:kujiext@iwate-u.ac.jp



主な活動内容

企業訪問・面談数 約140件

●企業・個人事業者への協力と学外機関との連携
→地域の企業と事業者、農林水産物の生産者からの新商品開発や未利用資源活用の相談への対応や補助金申請に関する申請書作成への協力。

●外部機関との連携
→相談内容によっては大学以外の機関が適切と判断した場合、外部機関への速やかなマッチング。

●共同研究の実施と研究成果の現場移転
→学内外の研究資金や自治体事業を活用するなどして、共同研究の実施や研究シーズ実用化のための研究を実施。

●行政機関の実施事業や施策立案にかかる会議参加や情報提供
→特に地方創生に向けた行政機関の実施事業や事業構想の会議に参加するとともに、業務担当とのやり取りにおいても大学が持つ情報を提供。

●高校生の地域参加活動を通じた人材育成プログラムの実施

平成27年度報告書に記載した岩手県立久慈高校との連携プログラム、平成28年10月開催のいわて国体・柔道競技（会場：久慈市）の盛り上げ、選手団へのおもてなし、そして久慈の見所や名物紹介を目標に、2学年生を中心とした有志15名がオリジナル企画を創り上げて実行した。

この活動では、「生徒の自主性の発現と教科学習では得られない能力を養成できる取組をしたい」との高校の意向に基づき、社会へ出る時に必要とされる基礎的な能力を総合的に体験、習得できるプログラムとすることとし、アメリカの大学等で導入されているイノベーティブ思考法（デザイン思考×システム思考）によるワークショップ形式で、当機構・今井潤教授の指導により実施。平成28年7月から9月の全5回の活動でプランを創り上げ、大会会場で選手団や一般観戦者と積極的に交流した。

生徒達には「地元の良さを知ってもらいたい、伝えたい」との希望が根底にあり、8月30日に発生した台風10号による大水害で活気が失われた久慈の街を元気にしたいという強い想いも加えて大会当日に臨んだ。

今回の活動では大きく3つの狙いがあった。地域の大人には、将来を担う人材を一緒に育てることへの理解を得ること。次に、今後高校へ進学する子供達には、資格や受験勉強以外にも久慈で生きた授業に参加できる機会があることを知ってもらうこと。そして、高校生自身には、引っ込み思案になる必要は無く、自信を持っていくことの意味を実感してもらうことを目指した。今後、久慈地域での多世代間の連携への意識が醸成され、未来を見据えた久慈オリジナルの連携展開につながることを期待する。

久慈市職員の協力も得てシミュレーションを実施

三船久蔵十段の功績紹介と選手の応援を目指した三船神社

久慈訪問記念の写真撮影サービスと久慈のPRプラン

●食育教室の企画・開催

兵庫県の洋菓子製造販売業(株)シュゼットが東日本大震災後に「お菓子で笑顔を届けたい」をテーマに展開するCSR事業「スマイルフォー東北－フロム芦屋プロジェクト」に共催し、平成28年11月に久慈市立小学校3校（夏井、来内、久喜）で食育教室を順次開催した。

この食育教室の目的は、地元食材を使用して地域の将来を担う児童達に地場産業への理解と食文化の継承と保全の大切さを伝えることにより、地域の活性化とキャリア教育に資することである。

各校の希望に沿って、児童達が育てた食材で今までに食べたことがないメニュー作りにチャレンジする内容とし、シェフは地域食材を熟知する3名がそれぞれに担当した（夏井＝そば粉とそばの実を使った洋食、来内＝青大豆のクリームブリュレ、久喜＝秋鮭とアワビのフランス料理)。

児童達は初めて見るプロの技やおいしさのコツに触れる度に笑顔や驚きの表情を見せながら真剣に取り組んだ。何よりも、大人達から努力を褒められたことで料理を作り上げた達成感や喜びを口にしていた。

シェフの講義では、同じ食材でも季節が変わると味や柔らかさ等が変わるため、誰かが決めたレシピの情報に頼るのではなく、自分自身で確かめて違いや特徴をしっかり理解することが大切であること。これは人にも同様で、それぞれの個性をしっかり理解し互いに尊重し合いながら成長していって欲しいとの希望も述べられた。

児童達はこの教室から、馴染みのものから新たな魅力が創られる場面を体験できたと考える。そして、地元を愛する気持ちと友人や家族とのコミュニケーションを大切にして成長していってもらうことを期待する。

夏井小：主食はそばの実を具材にしたピラフ

来内小：シェフの鮮やかな卵割りに感嘆の拍手

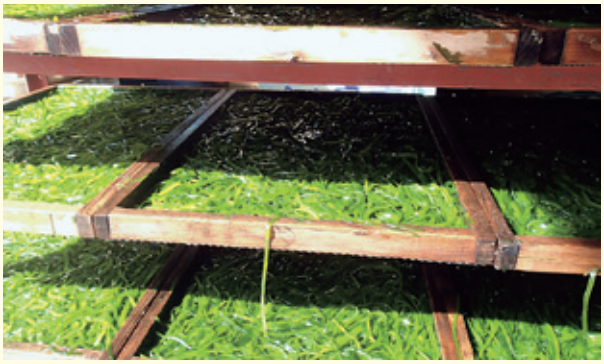
久喜小：アワビのステーキの盛り付けた生徒のセンスを褒めるシェフ

●水産現場への工学知見の導入

三陸復興・地域創生推進機構の主要プロジェクトの水産研究は、成果が着実に蓄積され、現場への技術移転や限定的な漁業種や生産者にもフィットし得る知見が見出されてきた。その研究成果の還元と精度をさらに高めるため、出張セミナーや意見交換会を開催し、関係者との共通認識の形成や研究協力の獲得に向けた活動を継続している。

本県沿岸部においても久慈地区（久慈市、洋野町、野田村、普代村）の産業構成は水産業とその関連産業の占める割合が高いため必然的に水産分野への対応が多くなるが、教職員の積極的な現地訪問と課題解決の必要性への理解により、基礎調査での現地訪問であっても多大な協力を得られるようになり、信頼関係を構築できてきたと感じている。

その中でも、平成28年5月からは普代村漁協と同村特産のすき昆布の乾燥工程における省エネルギー化に向けた共同研究を開始し、乾燥室構造や乾燥機温度といった設定条件が異なる3タイプの漁家加工場の乾燥環境の違いを調査・分析し、乾燥進行に寄与する／しない条件や発生現象の把握に努めた。この結果を踏まえ、平成29年度も研究を展開する。なお、本研究には岩手県と普代村の水産担当部署とも協力して取り組んでおり、共に地域の漁業維持に資することを目指している。



「セイロ」と呼ばれる成形器に敷き詰められたすき昆布

一度の乾燥で約 800 枚が高温の室内で乾燥処理される、仕上がりを均一にする漁家単位での試行錯誤が続けられてきた。

サーモカメラで乾燥室外への熱移動も確認。室温は約60℃に達するが、廃熱も相当に生じている。

●引き続き、各方面との連携窓口として

学内外に囚われない研究活動の遂行、人材育成教育のプラン検討と実施、地域文化の継承にかかる学術面での協力、地場経済活性に向けた事業の検討、ビジネスマッチングの支援等、様々な分野の個人及び組織とのやり取りが続いている。引き続き、本学に寄せられるふとした疑問や課題解決への最初の窓口として、地域にある連携組織としての役割を果たしていく。

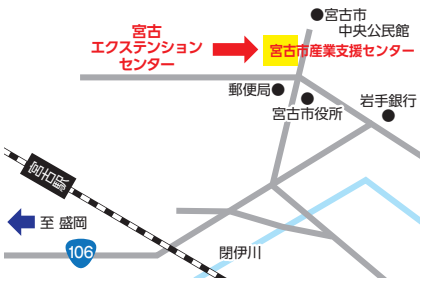
③ 宮古エクステンションセンター

■スタッフ

特任専門職員
浜田 修

【宮古エクステンションセンター】

所在地：〒027-8501
岩手県宮古市新川町2番1号
宮古市役所分庁舎
宮古市産業振興部産業支援センター内
電話：090-2886-8887
E-mail:miyako@iwate-u.ac.jp



主な活動内容

企業訪問・面談数：約212件（延べ数）

●外部資金導入による研究開発事業支援
→企業ニーズと研究シーズマッチングにより、科学技術振興機構マッチングプランナープログラム（1件）、さんりく基金（1件）、東経連ビジネスセンターアライアンス助成事業（1件） 等の導入による、企業と学内・外研究者との共同研究、及び技術指導を支援。

●学内プログラム活用による地域課題解決
→学内プログラム（地域課題解決プログラム）による地域課題への取り組み。

●本学教員指導による商品開発の支援
→新たな科学的知見を取り入れた商品開発を支援。

●地域自治体事業への本学教員の参加の支援
→宮古市教育委員会主催の、小学生向け科学実験体験教室「ニュートンスクール」に参加。

●外部資金獲得による水産加工機開発への取り組み

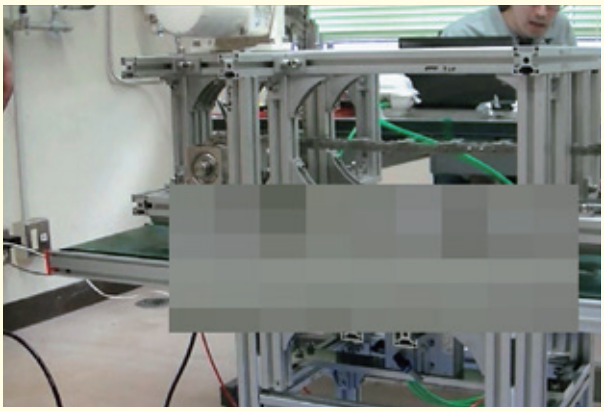
理工学部の三好扶准教授は、水産ロボティクスの研究を行っており、水産業や水産加工業への寄与を目的として様々なテーマに取り組んでいる。平成28年度は、宮古市の企業と連携し、水産加工機開発に取り組んだ。科学技術振興機構（JST）のマッチングプランナープログラムに申請し、採択を受けた。

マッチングプランナープログラムとは、地域企業が直面している技術課題と、その課題の解決につながる研究シーズをマッチングさせ、企業ニーズを解決し、高付加価値、競争力のある地域科学技術イノベーションを創出することを目的としている。

これまで課題であったスキルを要し肉体的負担の大きい手作業を軽減することを目的とし、様々な視点から研究を進めてきた。多くの課題が山積していたが、今回の取り組みにより課題解決にむけて進展することができ、さらに平成29年度以降への取り組みに向け新たな計画を進めている。

地域に根差した新しい事業の発信、さらなる展開に向け、今後も取り組みをより深化させていく。

企業と教員、学生の打ち合わせ風景



試験機による実験の様子

●学内プログラム（地域課題解決プログラム）による地域課題解決

岩手大学の地域貢献の一つの柱として、地域社会の課題解決に学生が取り組む、地域課題解決プログラムがある。

平成28年度、宮古市農林課より、林産材から発生する樹皮の有効利用について課題解決の依頼があった。宮古地域で大量に発生する樹皮は、ボイラーの燃料や家畜の敷材などに利用されるが、商業的価値は低く、新しい価値の創生が期待されている。

現在、農学部の小藤田教授は針葉樹から得られる機能性物質について研究しており、同様の解析を大量に発生する樹皮にも適用させ新たな機能性物質の探索に取り組んだ。様々な抽出条件で検討を行った結果、有用なテルペン類やポリフェノールが存在することが確認でき、新たな価値創造を期待させる結果が得られた。

テルペン類には、抗菌抗酸化性が、ポリフェノール類には食品機能成分が期待でき、今後の研究の進展によっては、大きな付加価値を獲得できる可能性がある。

針葉樹の皮剥きの様子

大量に発生する樹皮

●本学教員指導による減塩加工食品開発

宮古産スケトウダラを用いたかまぼこに取り組んでいる企業が、本学農学部　三浦靖教授の支援により、減塩かまぼこの開発を行った。

宮古市の水産加工企業は、宮古港で大量に水揚げされるスケトウダラに注目し、付加価値向上と魚食普及を目的とし、平成28年度さんりく基金県北沿岸地域特産品開発事業の採択を受け、スケトウダラのかまぼこ開発に取り組んでいた。

一方、減塩については、岩手県の脳卒中死亡率の高さを受け、県栄養士会をはじめ様々な団体が進めている。三浦教授は、矢巾町で取り組んでいる減塩プロジェクト「塩彩プロジェクト」で減塩食の開発支援と普及を進めている。

平成27年、当該企業が矢巾町プロジェクトへ減塩加工食品の試作提供に協力した経緯もあり、三浦教授から開発中のかまぼこを減塩食品にしてはどうかという提案をきっかけに今回の取り組みにつながった。

取り組んだ減塩食品は、ただ塩分を少なくするだけではなく、その一部をカリウム塩に置換し、ナトリウム分の摂取を抑えるとともに、カリウムによるナトリウム排泄効果を期待したもので、塩味はほとんど変わらない。

かまぼこは馴染みやすい食品であるとともに、調理の原材料としても利用でき非常に使い勝手の良い加工品である。また、開発の中での重要なコンセプトは、あらゆる年代の人々が安心して食べられるように、宮古産のスケトウダラを漁獲したその日に自社ですり身にし、化学調味料や保存料等を一切添加しない食品を作る事であった。さらにそれを減塩することにより、塩分過多による高血圧を予防し、脳卒中発症を未然に防ごうという思いでプロジェクトは進められた。

完成したスケトウダラかまぼこは、宮古市加工品コンクールや岩手県復興シーフードショーに出品され多くの注目を集めた。既に、複数の取引先から引き合いがあり生産・出荷も順調に推移している。

減塩加工品製造法を指導する三浦教授

岩手県栄養士会による啓蒙ポスター

●自治体行事への本学教員の参加

宮古市教育委員会が開催している、「ニュートンスクール」小学生向け科学実験体験教室に理工学部の山口明准教授が参加している。

ニュートンスクールは、年四回開催される行事であり、自然や科学に触れることで自然や科学に興味を持ってもらうことを目的としている。山口准教授と研究室の学生らは、平成28年8月と平成29年1月に開催された科学実験体験を主眼とした、ニュートンサマースクール、ニュートンウインタースクールに参加し、液体窒素を使った超電導実験、花や菓子を凍結させる実験、そしてソーラーカー作りを指導実演した。

参加した小学生は低学年が多く、ソーラーカーの工作では苦戦していたが教員や学生の指導により皆作り上げていた。液体窒素を使用した実験ブースも人気であり、行列ができるほどであった。

他大学の教員や地域の中学校教員などもブースを設け、実験や工作などを指導しており、多くの小学生がいくつものブースを訪れ様々な実験を体験していた。このような体験を通じ、地域の小学生が科学に興味を持ち将来の目指す道を見つける手掛かりの一助となれば幸いである。

液体窒素実験ブースに群がる子供たち

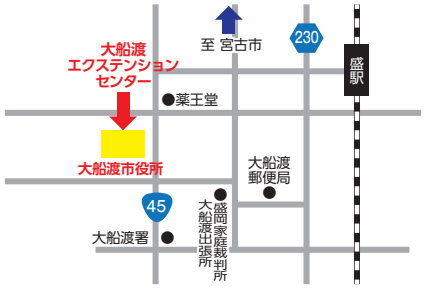
ソーラーカー教室は行列ができるほど

④ 大船渡エクステンションセンター

■スタッフ

特任専門職員
小山 博国

【大船渡エクステンションセンター】
所在地：〒022-8501
岩手県大船渡市盛町
字宇津野沢15
大船渡市役所商工港湾部内
電話：080-5745-9775
E-mail:ofunato@iwate-u.ac.jp



主な活動内容

企業訪問・面談数 約148件

●企業訪問活動・ニーズ調査
→ものづくり企業、水産加工業者等を訪問し情報を収集。企業の抱える課題を聞き出し支援活動に繋げる、また第二創業、新商品開発、事業拡大等の新展開にも各種情報提供や専門家の活用を提案する。

●共同研究進捗管理
→平成28年度に大船渡エクステンションセンターが関わる7件の共同研究案件のスケジュール管理、予算進捗管理書類作成、様々な調整作業を行う。

●情報提供・申請書類作成支援
→補助金情報、セミナー・講習会情報、展示会・即売会、等の情報を個社の状況を勘案して情報提供を行う。更にそれらの手続きや書類作成を行い、企業を直接的に支援する。

●マッチング活動
→企業の抱える課題、地域が抱える課題に対して支援機関の情報や専門家を紹介、プロジェクトとして進捗管理を行う。また課題解決のための補助金情報、企業間連携のマッチングも支援。

●太陽光発電追尾型設備システム開発および施工技術開発

太陽光設備の販売、施工、メンテナンスを行う事業者からの支援依頼を受け共同研究を開始。一般家庭でも導入し易い小型で太陽追尾型発電装置のベース機構部を開発、ジンバル機構（1つの軸を中心として物体を回転させる回転台で、２軸用いることで太陽を捉える）を採用し高剛性を達成した。太陽光を追尾することにより発電効率を上げる設備は販売されているものの再生可能エネルギー太陽光発電のFIT買取り価格が下がり現状の買い取り価格では採算性が低いことから、施工コストが安価で、より発電量を増やすことの出来る追尾システムで、通常の固定型の1.3倍から1.4倍の発電効率を目指した。事業者は現況の追尾システムの実証性の確認、傾斜地等における基礎工事方法の設計、モジュール取り付け設備の軽量化を実施、大学側はジンバル機構による追尾システム台座基礎設計、機構の製作、制御系構築、稼働試験を行った。今後ブラッシュアップを進め市場投入を図る、それにより再生可能エネルギーの普及、エネルギーの地産地消によるエネルギーシフト、太陽光発電設備の普及による施工事業の拡大による雇用の増加が見込める。

小型太陽光追尾設備システム現場実験の様子

●新船体制御方式の評価装置開発

これまで理工学部金研究室で漁業系省力化装置“アワビ・ウニ漁のための船体制御方式”として船体を自動制御するスラスターの研究を行っていた、これは漁業者の身体負担を軽減し作業効率を改善するものである。昨年度までに学内の水槽で小型実験機での実証実験を行った。今年度は人が乗り込めるボートでのフィールド実験を目指していた。フィールド実験では自動操船の結果を正確に評価するための装置が必要であったため大船渡市の補助金を活用して評価装置の開発を行った。評価装置は高精度GPSを用い自己位置を0.2ｓ毎に誤差10ｃｍ以内の精度で計測出来ることを目標とし結果目標を上回る成果が得られた。本研究により自動操船の結果を正確に評価するための評価装置が開発出来た。開発した評価装置を利用することでアワビ・ウニ漁のための自動船体制御装置の開発が行えるようになった。今後は本装置を用いて、より安定した定点制御を行うことができる装置の開発を目指す。アワビ・ウニ漁において操船の負担が低減されることにより漁業者の高齢化、人手不足の解消に繋がることが期待される。本研究開発の成果を漁業以外の自動操船にも広く応用可能である。

大船渡市越喜来湾で高精度GPSを用いた自動操船評価実験

●船底画像取得のための水中ロボット開発

水中カメラ・水中ライトを取り付けた水中ロボットの海での実験の様子

船舶の建造、改造、修理を本業とする事業者へのニーズ調査により課題を把握、共同研究により課題解決を図った。船舶の修理は陸上でおこなうため、ドックへの引き揚げる際に専用台車を用いる。この作業において船底に設置された各種センサー（ソナー等）や故障状況に応じて台車の接する位置や形を変える必要があるため、これまでは潜水士による視認およびビデオ撮影により実施していたが、年間100隻の船舶を手掛けているため潜水士の肉体的負担や管理作業コスト低減を図ることが課題となっていた。そこで水中の船底画像をリアルタイムで撮影して陸上で確認出来るロボットを開発することになった。実験ではまず海中の明るさを把握するために、カメラ、ライト、照度センサー、塩分濃度系を海中へ投入して実験を行った、その結果、市販のダイビング用ライトを用いれば船底を撮影可能であること、色温度5500K程度の暖色系ライトを用いることで浮遊物の影響を低減できること、海面下５m程度までの照度、湾内の塩分濃度を把握した。ロボットは手元にモニターとコントローラーが有線で繋がっており、カメラ、ライトを搭載し船底に貼りつきながら移動して船底の様子を撮影する。今後は更なる操縦性の向上、画像の鮮明化を目指す。

●大船渡市における地域資源を活用した家具の研究開発

つばきをモチーフに学生がデザインしたテーブル・イス。「世界の椿館・碁石」に展示

デザインの力を通じた観光施設の魅力向上～岩手県大船渡市における「世界の椿館・碁石」の空間デザイン向上～大船渡市では市内のいたる所に椿が自生しており、なかには岩手県の天然記念物に指定されている樹齢1400年といわれる「世界一の三面椿（ヤブツバキ）」が存在する。また、世界中の椿を育成、展示している「世界の椿館・碁石」もある大船渡市はまさに「椿の里」と言える。「世界の椿館・碁石」には椿の愛好家等が全国から訪れる。しかし、椿の開花期を過ぎてしまうと客足が減ってしまうという問題点があり、開花期以外に訪れた人の記憶に残るような、椿館の象徴となるオブジェのようなものを作成して欲しいと依頼を受け、インダストリアル研究室田中隆充教授指導のもとデザインを学ぶ学生による制作を行った。椿館を訪れた人が使え、かつ、椿館にとっても邪魔にならないもの、椿の展示、育成の妨げにならないことを条件として考慮。気仙職業訓練協会の協力を得て、地元の杉を使い、椿をモチーフとしたテーブル・イスを製作した。テーブルの天板は椿の花を、テーブルの脚は椿の枝を、イスは椿の葉をモチーフにしている。塗料は杉の木目を楽しめるようクリアを使用、県内の自然塗料を使用している。

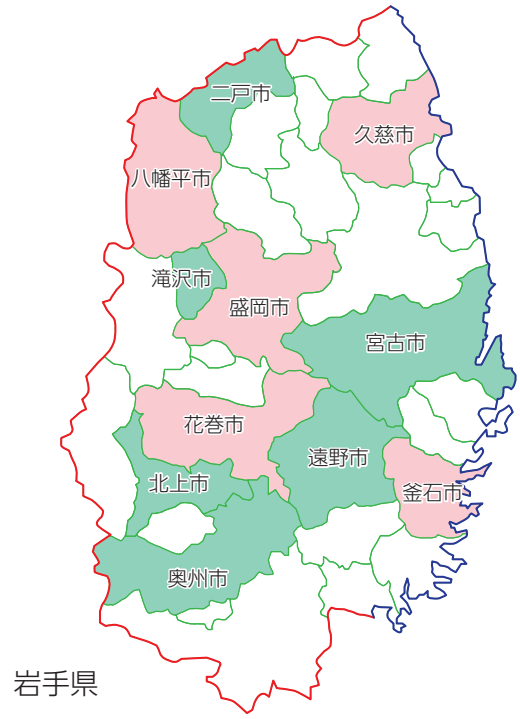
04 共同研究員について

相互友好協力協定締結自治体／共同研究員

岩手大学では、県内の13自治体※と文化・学術の分野で支援及び協力をするために相互友好協力協定を締結している。

また、実践的な取り組みとして、平成28年度は相互友好協力協定締結自治体の5市（釜石市、花巻市、盛岡市、久慈市、八幡平市）と共同研究を行い、地域創生部門に市職員を共同研究員として受け入れた。

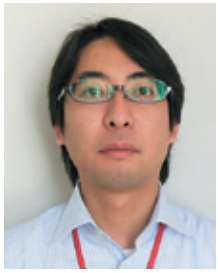
※旧水沢市と旧江刺市を含む



相互友好協力協定締結自治体・共同研究

相互友好協力協定締結自治体

平成28年度共同研究員



釜石市共同研究員
井上　諭宜

花巻市共同研究員
伊藤　玲

盛岡市共同研究員
柳原　哲史

久慈市共同研究員
宮本　幸治

八幡平市共同研究員
佐々木　靖人

■活動内容

●地元企業･団体のニーズ(課題)と、岩手大学のシーズ(技術･知見)をマッチング

地元企業・団体・公的機関等を巡り、課題や前進の芽を拾い集めて、岩手大学の持つシーズや大学生の柔軟な発想をもって解決できないか検討し、マッチングとサポートを行った。

●地域の課題解決に向けたきっかけ作り

地域の企業や団体等が抱えている課題を解決する一つの手段としての岩手大学の活用を知ってもらうため、車座研究会などの会合を開催した。

●大学による地域人材の育成や、大学による地域への教育支援を側面からサポート

将来の地域を担う人材を育てるための大学の活動をサポートしたり、大学による震災復興や地域への教育支援について、マッチングやサポートを行った。

●東日本大震災からの復興と、地域創生に向けた大学と地域の活動のサポート

東日本大震災からの復興や、地域創生を見据えた各種の大学と地域の協働活動に対して、大学と地域が円滑に事業を推進できるようにサポートを行った。

●盛岡市のブランド推進について大学生が議論する機会を提供

盛岡市ブランド推進市民会議から、市民への認知度が高いとは言えない盛岡ブランドの推進について大学と連携して若者に考える場を作ってほしいと依頼を受けた。人文社会科学部の五味壮平教授に相談した結果、1年生を対象とした初年次自由ゼミナールで都市ブランドに関する講義を行い、12名の学生が参加した。

盛岡の特徴を自ら探し出すまち歩きを経て、一般市民にも参加を募ったワークショップ「盛岡ブランドについて考える」を開催。最終日には市のブランド推進担当の職員の講義を実施した。ワークショップにおいてはブランド発信に何が効果的であるか学生ならではの意見が多数出され、今後のブランド戦略を考える上での参考とすることができた。このような学生の知見を活かした結果を出せる機会を多く提供し、ブラッシュアップしたうえで実際の施策に落とし込むことができるようにすることが理想であると考えている。

ワークショップの風景

●地域資源を活用した新商品「釜石　柿の葉すし」開発のサポート

釜石市甲子地域の特産品である「甲子柿」は、近年、その生産拡大と消費拡大が期待されている。しかしながら、柿生産者らは未利用部分である柿葉の有効利用ができないかという課題を抱えていた。また、震災後に起業して釜石市産海産物の更なる消費拡大を目指していた水産加工事業者は、市内外のイベント需要に応えたり、観光客をおもてなしできる新商品ができないか模索していた。

そこで、その両者の課題と強みをマッチングし、更に岩手大学の知見を活用することで、地域資源を活かした新商品を開発すべく、事業のサポート全般を行っている。具体的には、新商品開発に向けた各種事業補助を受けるための事務的なサポート、岩手大学の食品専門家による指導や共同研究を遂行するためのサポート、更には今後の販路開拓や進展のための各種対外的アプローチにおけるサポートも行っている。

結果、現在は岩手県内にてお弁当「釜石　柿の葉すし」としての販売を開始することができた。事業は引き続き継続しており、更なる販路開拓を目指している。

●「復興支援学習会 in 釜石」開催の補助

平成28年度の冬休み期間中、釜石市立大平中学校にて教育学部主体の大学生が2泊3日で中学生に学習支援を行うという形式で実施した。主催は岩手大学三陸復興・地域創生推進機構学習支援班によるもので、「沿岸地域・被災地域の中学生の学力向上」や「釜石市内中学生の大学等への進路意識のきっかけづくり」について岩手大学と一緒に取り組みたいという大平中学校からの要望を、釜石市共同研究員が岩手大学に相談したことが端緒となって開催された。実施にかかる計画や事前準備は、学習支援班長である岩木信喜准教授を中心に、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構スタッフに釜石市共同研究員を加えて、大平中学校のニーズ等を確認しながら遂行した。

三日間で延べ９７名の中学生が参加し、大学生は延べで21名がボランティアで参加した。次第に打ち解けた中学生と大学生は、勉強だけでなく大学生生活や今後の進路についてもコミュニケーションをとったり、最終日には互いに言葉と感謝の手紙を交換するなど、双方にとって学びのある時間となった。

●久慈産琥珀抽出物を配合した化粧品の開発・販売

久慈琥珀㈱と農学部木村賢一教授の共同研究により、久慈産琥珀から抗アレルギー成分を含む新規物質「kujigamberol（クジガンバロール)」を発見した。化粧品製造会社の実生㈱（東京都）も共同研究に加わり実用化検討に向けた研究が継続され、化粧品5種の販売に至った。久慈産琥珀の有効活用という相談から足掛け9年かけて商品開発・販売までたどり着くことができた。化粧品以外での活用についても研究継続しており、今後の更なる地域資源のブランド化を目指し、企業の雇用確保を通じた震災復興と経済的格差解消への助力となることを期待している。

商品化した化粧品「LaDonaco」セット

●「地域連携フォーラムin久慈」の開催

平成29年2月20日、久慈市において岩手大学地域連携フォーラムを開催した。菅原三陸復興・地域創生推進機構長が、これまでの震災復興や地域創生への大学の取組を紹介し、久慈エクステンションセンターの川尻特任専門職員と久慈市から派遣されている宮本共同研究員からそれぞれ活動紹介を行った。併せて岩手大農学部木村教授から「久慈産琥珀からの人類への素敵な贈り物」と題した事例発表、いわてキボウスター開拓塾１期生による活動報告、久慈高生による国体盛上げ企画の活動報告を行った。約100名の参加者があり、参加された市内企業からは、岩手大学の研究の情報を知りたいのでこのようなフォーラムを継続して欲しいなどの感想が寄せられた。

●地元住民自らが作成する地域防災マップ

八幡平市西根寺田地区が、東日本大震災や昨今の台風被害等で地域防災についてより考えなくてならないということから、岩手大学地域防災研究センターの協力のもと、住民自らの手で地域防災マップを作成した。この活動では、地域防災マップの作成だけではなく、現地調査や防災に関するワークショップなど地域防災に関係する活動を幅広く行っている。

今後も岩手大学地域防災研究センターとの関わりを続けながら地域防災への取組みをさらに強化していく予定である。

※また、平成28年度地域活性学会で、この活動の内容について事例発表も行った。

地域防災マップ作成に当たり地域防災センターからアドバイスを受けている様子

●「岩手大学開発品種ダイズ「貴まる」を活用した特産品の開発

岩手大学が開発したダイズの新品種「貴まる」を岩手大学農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場のサポートを受けながら八幡平市内で栽培し、地元加工業者が豆腐や納豆に加工し販売を行う取組みを行っている。

「貴まる」は、現在八幡平市のみで生産されており、生産から加工販売まですべて地元で行うことができるため、新たな特産品への期待が高まっている。

今年度は、少量ではあるが商品化をすることができたので、今後は少しずつ生産量を増やしながら取組んでいく予定である。

「貴まる」試食会の風景

●「安比塗」の知名度アップ及び新商品開発へ向けた取組

八幡平市の伝統工芸品の「安比塗」については、技術も品質もしっかりしているが、全国に対する知名度が決して高いとは言えない状況である。

そこで、岩手大学のサポートを受けながら「安比塗」について、岩手大学のシーズや学生のアイデアを受けながら知名度アップ活動や新商品開発に取組んでいる。

地域課題解決プログラムでは、学生が海外インバウンド客向けの商品の提案を行ったり、岩手大学教員と一緒に「安比塗」の今後のブランディング等を考えたりしながらサポートしている。

●「車座研究会」の開催

地域の課題について相談があった場合、その解決に向けた最初の取組みとして「車座研究会」を開催している。「車座研究会」は、岩手大学と八幡平市が主催する会合で、地域が抱える課題について対象者と大学教員等が話合いをするものであり、少人数で開催することで気楽に発言ができるのも特徴である。

これをきっかけとして、課題解決に向けた取組みにつながっていく事例が多くなっており、毎年３回程度行っている。

第3部 その他の取組

01 イーハトーヴ基金による復興支援活動

岩手大学では、教育研究の充実や学生に対する修学支援の一層の推進を図るため、平成27年12月から「岩手大学イーハトーヴ基金」を創設した。本基金は、その使途をあらかじめ特定せず幅広く本学の教育研究支援及び学生支援にご寄附頂く「一般基金」と、その使途をあらかじめ特定したうえで、ご寄附をお願いする「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいている。

平成28年度は音楽グループ「スターダスト☆レビュー」様と岩泉町出身を中心とした「久保光義様・澤向美希様他有志33名」様から、本学の復興推進活動のために多大なる寄付をいただき、各種事業に取り組むことができた。

なお、平成28年6月6日に、陸前高田市コミュニティホールで行った「スターダスト☆レビュー」様への感謝状贈呈式では、「ア・カペラ＆アコースティックフリーライブ『一緒に歌いませんか』」も同時開催され、沿岸地域の方々に「スターダスト☆レビュー」の温かい歌声と演奏を届けた。

感謝状贈呈式での記念写真
（前列：スターダスト☆レビューのメンバーと岩渕学長）

素敵な歌声と演奏を届けてもらったフリーライブ

①台風10号の被害による復興支援

台風10号により甚大な被害を受けた岩泉町、久慈市、宮古市において学生・教職員等延べ434名が泥出し作業、使用できなくなった物品の整理、流木の撤去作業等を行った。

泥出し作業（久慈市）

使用できなくなった物品の整理（岩泉町）

②学生の被災地でのボランティア活動

岩手大学三陸復興サポート学生委員会が陸前高田市にある「みちくさルーム」において子ども支援活動を行った。

③被災小学校（大船渡小学校）の野外活動支援

三陸復興部門農林畜産業復興総合計画班の山本准教授と学生が中心となって、大船渡市立大船渡小学校の児童を対象に森林体験教室を開催した。この教室では、森林・林業、環境教育に関する専門知識を提供するほか、児童に対しての心のケアを意図する野外体験に取り組んだ。

④『だいぶそこまで』の発行

学生と教員の有志岩大E_codeが発行している陸前高田市のガイドブック。陸前高田市の魅力を広く伝えることで、大学生など若者を中心とした多くの方に陸前高田市への関心をもってもらいたい、また関心を持ち続けてもらいたい、という気持ちで作成した冊子。

岩手県内の他、イベント会場等でも配布している。

学生の旅行記を掲載し陸前高田への観光をPR

⑤心のケアに関する活動

心のケア班において、福島・宮城・岩手で行われている子どもへの支援活動を通して、東日本大震災のこれまでとこれからを考える「子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム」、被災地において市民講座「こころのじかん５」を開催した。また、釜石サテライトにある被災者の心のケアを行う「こころの相談ルーム」のリーフレットを作成し、利用を呼びかけた。

子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム

市民講座「こころのじかん５」の内容

①の岩泉町での活動は「久保光義様・澤向美希様他有志33名の皆様」、①～⑤の活動については「スターダスト☆レビュー様とファンの皆様」からのご寄付を活用させていただき実施いたしました。改めて御礼申し上げます。

02 台風10号に係る支援

8月30日に岩手県に上陸した台風10号の影響により岩手県沿岸部は河川決壊や土砂災害などの甚大な被害を受けた。岩手大学では被害を受けた4日後の9月2日から11月末まで、述べ434名の学生および教職員が久慈市、宮古市、岩泉町に泥出し作業などのボランティア活動に入った。

また、東日本大震災の支援活動で得た経験を踏まえ、地域防災研究センターが中心となり、被害の大きかった岩泉町の防災教育やコミュニティ支援に取り組む「岩泉支援チーム」を設置し、活動に取り組んでいる。

●8月30日　台風10号が岩手県に上陸し沿岸部に被害が発生

本学では宮古エクステンションセンター及び久慈エクステンションセンターの公用車が浸水した。なお、本学の復興支援活動にご賛同いただいたHonda Cars岩手中央様から車両2台の提供を受け、現在は、両エクステンションセンターの公用車として現地のニーズ収集活動に活躍している。

車両提供を受けて感謝状と記念品の贈呈
左）菅原悦子三陸復興･地域創生推進機構長　　右）小川三郎Honda Cars岩手中央代表取締役社長

●9月3日～　久慈市、宮古市でのボランティア活動開始

久慈市では泥出し作業、土砂が流入した家屋の清掃、宮古市では浄土ヶ浜に打ち上げられたゴミや流木の片付け、農地の泥出し作業等の活動を行った。

市街地での泥出し作業（久慈市）

農地の泥出し作業（宮古市）

●9月20日～　岩泉町でのボランティア活動開始

被害の大きかった岩泉町では、通行止めだった国道・県道が開通した9月下旬以降に、泥出し作業や使用できなくなった家財道具等の仮集積所への搬入・仕分け作業を行った。

使用できなくなった家財道具の仕分け作業（岩泉町）

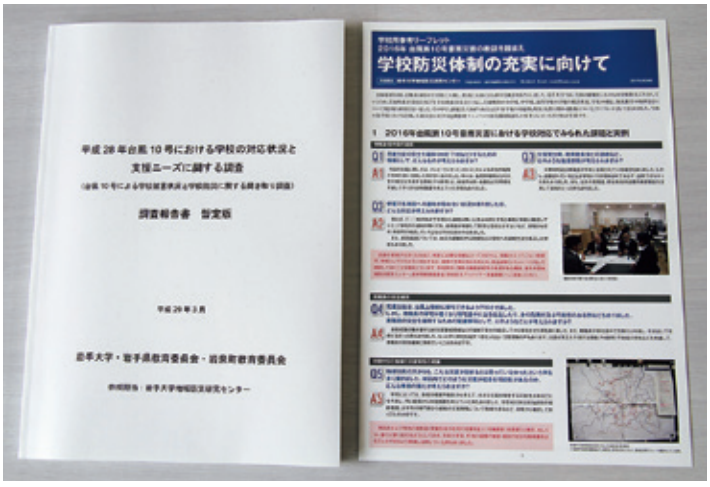
●10月15日 台風10号緊急報告会

地域防災教育研究部門：地域防災研究センターでは、台風10号発生直後から久慈市、宮古市、岩泉町に入り、河川の水害調査、流木調査、土石流および土砂災害の実態調査に取り組んだ活動について報告会を開催した。東日本大震災の支援活動で得た経験を踏まえて、地域防災研究センターを中心とした岩泉支援チームを設置し、被害の大きかった岩泉町の防災教育やコミュニティ支援に取り組んでいくこととした。

報告会で説明する南センター長

●11月9日～　台風10号における学校の対応状況と支援ニーズに関する調査

地域防災教育研究部門：地域防災研究センターでは、台風10号の経験をこれからの学校防災に活かしていくため、岩泉町教育委員会及び岩手県教育員会と共に、岩泉町内の小中高等学校全17校の被害状況、学校の対応、防災教育の現状などについて聞き取り調査を行った。その中で課題として挙げられたことや各学校の対応例、防災・災害に関わる情報について、調査報告書とリーフレットにまとめ、岩泉町内の全学校と県内の各教育委員会に配布した。



発行した調査報告書とリーフレット

03 三陸復興･地域創生推進機構発足記念シンポジウム

11月25日に岩手大学復興祈念銀河ホールに於いて三陸復興・地域創生推進機構の発足を記念してシンポジウムを開催した。

岩渕明学長による主催者挨拶の後、菅原悦子三陸復興・地域創生推進機構長から、岩手大学の機能強化における震災復興・地域創生の位置づけ、更に新たに創設した機構の役割や特徴などの概要説明を行った。

次いで、坂本修一文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長の特別講演があり、オープンイノベーションについて、求められる大学の役割や加速に向けた産学共創モデルの考え方などが紹介された。

また、本田敏秋遠野市長の特別講演では、「官」の立場から人口減少のなか、国や県などに頼らず基礎自治体として出来ることに挑戦し続ける「遠野スタイル」の基本理念や個別の事例紹介、さらに岩手大学への期待が述べられた。

坂本産業連携・地域支援課長、本田遠野市長、岩渕学長による鼎談では、地域を先導する人材やリーダーシップの重要性、地域の社会システムを変えるイノベーションの必要性、地域を変革するための大学の役割について忌憚のない意見が交わされ、地域創生における大学の重要性が再認識された。

機構の概要説明を行う菅原機構長

他会場では取組についてパネルや映像で紹介

三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム次第

●開会の辞
●学長挨拶　岩手大学長　岩渕明
●三陸復興・地域創生推進機構説明
　岩手大学理事・副学長／三陸復興・地域創生推進機構長
　菅原悦子
●特別講演Ⅰ
　「文部科学省のイノベーション政策展開の方向性」
　文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長
　坂本修一氏
●特別講演Ⅱ
　「『遠野スタイル』によるまちづくり2016」
　遠野市長　本田敏秋氏
●鼎談「地域創生における大学の役割」
　文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長
　坂本　修一氏
　遠野市長　本田　敏秋氏
　岩手大学長　岩渕　明
●閉会の辞

鼎談「地域創生における大学の役割」【抜粋】

文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長　坂本 修一 氏
遠野市長　本田 敏秋 氏
岩手大学長　岩渕 明

1．自治体の取組に、より良い刺激や助言を与えるパートナーシップを

岩渕学長

「震災」が、我々の一つの大きいターニングポイントとなりました。「大学もやれるところをやりましょう」と。
単独で取り組む時代は限界だということは、明白だと思います。単に大学が学問を教えるだけではなく実践を通して「課題は何なのか」を自分たちで見つける。そこからどう発展させるか。そういう中で大学も変わって行かざるを得ない。
地域と大学がどういうふうに連携していくか「学」の役割というのを考えたい。

本田市長

計画を進める上で、岩手大学の先生方に全てにおいてアドバイス頂くのではなく、遠野市として、この部分は我々で何とかやれるが、この部分は岩手大学の先生方からいろいろな形でご指導を頂こうと。
「学」の力により、豊かな自然や伝統的な文化が再認識されると我々も「やっぱり大事にしなければならない」と地域が一つの力になっていくと思います。

2．若者が新分野に挑戦しやすくなる環境づくりや支援の仕組みを

坂本課長

とりあえずやってみる。更に、上の人たちが温かく見守るようなシステムなりカルチャーが必要。
「とりあえずやらせてみようよ、やってみようよ」という雰囲気づくりは、イノベーションを起こすのに必ず必要。

岩渕学長

地域を変えていくためには、新しいシステムを作り上げていくリーダーもいないといけない。リーダーも変わっていかなければならない。

3．人命に関わるような重大な場面でリーダーが適切に判断を下すための倫理基準や、若者の新分野挑戦への環境づくりなどに「学問」が力を発揮すべき

坂本課長

正義とか倫理とか人間のあるべき姿はどうあるべきか。こういうことこそ学問が説くべきだというのは、今まさに世界中で議論されている大学のあり方が問われている所。
リーダーが、本当に人命がかかっているような重い判断をする時、どういう情報で何を基準に判断したらいいか、そういう所も学問の大きな役割。
自治体は何を求めていて、大学は何が出来そうでということを本音で議論して頂く。いろいろな階層でコミュニケーションするということを是非やって頂きたい。

本田市長

岩手大学と我々市町村が協定を結んで定期的に意見交換する場があります。そのような際に先生方、学生、首長も入る。さらに市町村の議会議員を巻き込む仕掛けがあればいい。
市町村長も産学官そして金労言（事務局注：金融、労働、言論）ということであれば、その仕組みの中で、それぞれ地域の60点を70点80点に持っていくためにみんなで頑張りましょう、という環境を作る。「学」の立場でその役割を持ってもらえればと思います。

4．人づくり、地方イノベーションの推進のため地域の魅力をどう高めていくか

坂本課長

ちょっとしたツールと使える知識、あとはやる気ですよね。そういうものを持った人材を大学は送り込んで、それを指導する先生も送り込んで現場の方々と一緒にやる。課題解決に取り組む。

本田市長

交流人口を定住、移住にシフトさせたい場合には、やはり受け入れる我々の方が自信や誇りを持たなければいけない。その自信と誇りをどう持たせるかは、実は若い方々・学生さん方の力というのは大きい。
学生のパワー、若い方々のパワーをどのように我々が受け入れながら、それを魅力に繋いでいく仕組みに持っていくかがすごく大事。

5．フィールドから学び、実践を通して考えていくことが地方創生における大学の役割

本田市長

市町村と産学官、それに金労言というものをどのように縦と横の糸にするか、縦糸と横糸がすっかり噛み合えば紐じゃないんですね、布になるんです。そうするとほとんどが壊れない。壊れない組織になるということです。

坂本課長

人口構造の変化は既に起こっているわけですが、それが一体社会に産業構造に何をもたらすかというのはなかなか読めないところがあるんです。それを学問的アプローチ、社会学なのか政治学なのか哲学なのか法学なのか、そういうところで学問としてそれを示し、それに備えるために行政は、産業界は何をしていくべきかを提示していくのは、やはり学問なんですね。

岩渕学長

我々は「実践」の中から得た知見を教育の中に反映させるように頑張っていきますので今後も文科省はじめ地域の自治体も宜しくご支援頂きたいと思います。
本日はどうもありがとうございました。

本田遠野市長（左）、坂本産業連携・地域支援課長（中央）、岩渕学長（右）による鼎談

■鼎談の詳細はこちらから
岩手大学ホームページ「外部有識者と学長との対談」http://www.iwate-u.ac.jp/shokai/taidan/

04　三陸復興･地域創生推進機構首都圏向け報告会

「岩手大学の新たな挑戦～岩手の“大地”と“ひと”と共に～」

12月11日に水産分野で連携している東京海洋大学品川キャンパスにおいて三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会「岩手大学の新たな挑戦－岩手の“大地”と“ひと”と共に－」を開催した。

東日本大震災から5年9ヶ月が経過し、震災の記憶が風化する首都圏において、三陸復興・地域創生推進機構として復興状況や現在の課題を幅広く紹介する初めての報告会である。

当日は、同窓生や三陸地域出身の首都圏在住者、被災地で復興支援活動に携わった方など多数ご来場いただいた。

岩渕学長が震災復興・地域創生に向けた取組や次世代を担う人材の育成の取組などを紹介し、三陸復興・地域創生推進機構長である菅原復興・地域創生担当理事は機構の概略と三陸地域における平成28年度の具体的な復興支援活動などを説明した。

また学生の取組事例として、「住民のこころに寄り添う」を理念に掲げ、子どもの遊び場づくりや仮設住宅でのコミュニティ支援に取り組んでいる「三陸復興サポート学生委員会」と、陸前高田市や大槌町のお祭りを支援する「地域の祭りを盛り上げ隊」の2団体からそれぞれの活動を発表した。来場者からは、「参加するお祭りの起源などを調べれば、より深く地域と関われるのではないか」など、今後活動する上で有益なアドバイスをいただき、学生にとっても良い刺激となった。

最後に地域コミュニティ再建支援班長を務めている広田教授が高台移転等に伴う地域の再編問題や災害公営住宅でのコミュニティ形成、さらに大槌町における総合的コミュニティ形成支援について具体的な事例を踏まえた講演を行った。

同班の船戸特任研究員からは、大船渡市の災害公営住宅で行っている自治会設立支援への取り組みについて実際に現地で撮影した動画を活用して説明を行った。

意見交換の時間では、来場者から、現地の公共交通機関の復旧状況、台風10号被災地域における岩手大学の今後の具体的な活動内容などの質問や自然豊かな三陸地域の観光資源を活用した観光分野の提案など多様な御意見をいただき、岩手大学への期待の高さがうかがわれた。

挨拶を行う岩渕学長

展示･上映会場

三陸復興サポート学生委員会

地域の祭りを盛り上げ隊

なお、会場では学外の方々の意見を今後の活動に広く取り入れるため、岩手大学三陸復興・地機創生推進機構サポーターの募集も行った。

■サポーター登録の申込先
地域創生推進課　TEL：019-621-6629 FAX:019-621-6656　　MAIL:sanriku@iwate-u.ac.jp

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会次第

●挨拶
岩手大学長　岩渕明
●三陸復興・地域創生推進機構の紹介
岩手大学理事・副学長／三陸復興・地域創生推進機構長
菅原悦子
●学生の取り組み発表①
三陸復興サポート学生委員会
●学生の取り組み発表②
地域の祭りを盛り上げ隊
●会場からの質疑応答①
●講演
「被災地の現状と新たな挑戦」
農学部教授／三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門
地域コミュニティ再建支援班長　広田純一
●会場からの質疑応答②

第4部 活動報告

01 学協会誌（論文）

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
部門・班					
三陸復興部門・心のケア班					
奥野 雅子	岩手大学による三陸沿岸支援の取り組み	Interactinal Mind Ⅸ	9巻, 62-72	2016/11/1	日本ブリーフセラピー協会
三陸復興部門・被災動物支援班					
Sato, I., Natsuhori, M., Sasaki, J., Satoh, H., Murata, T., Nakamura, T., Otani, K., Okada, K.	Local variation of soil contamination with radioactive cesium at a farm in Fukushima.	Jpn.J. Vet. Res.	64: 95-99.	2016	北海道大学大学院 獣医学研究科
Sato, I., Sasaki, J., Satoh, H., Murata, T., Otani, K., Okada, K.	Radioactive cesium and potassium in cattle living in the "zone in preparation for the lifting of the evacuation order" of the Fukushima nuclear accident.	Anim. Sci. J.	doi: 10.1111/ asj.12749.	2016	日本畜産学会
三陸復興部門・地域コミュニティ再建支援班					
五味 壮平	なぜ陸前高田に通いたくなってしまうのか？	2016年度人工知能学会全国大会論文集	4E4-OS-24b-2	2016/6/1	人工知能学会
五味 壮平，越戸 浩貴 他	岩大E_codeプロジェクトについて	陸前高田大学シンポジウム2017 発表論文集	pp.79-82	2017/1/21	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
亀岡 和雅，三宅 諭	除染に向けた土壌仮置場の用地選定プロセス －福島県桑折町を事例に－	農村計画学会誌	35・154-160	2016/12/1	農村計画学会
大瀧 英知，三宅 諭	東日本大震災からの復興にみる地域型復興住宅供給の課題～岩手県沿岸市町村を対象として～	日本建築学会大会学術講演梗概集F	1087-1088	2016/8/1	日本建築学会
亀岡 和雅，三宅 諭，呉 陽	漁業規模に着目した漁業集落の類型化に関する研究 －岩手県沿岸の漁業集落に関する研究その１－	日本建築学会学術講演梗概集E	99-100	2016/8/1	日本建築学会
呉 陽，三宅 諭，亀岡 和雅	漁業集落における復興事業の実施状況に関する研究 －岩手県沿岸の漁業集落に関する研究（2）－	日本建築学会学術講演梗概集E	101-102	2016/8/1	日本建築学会
三陸復興部門・農地復興班					
金山 素平	実測値を用いた地盤圧密沈下予測手法の予測精度の検討	土地改良の測量と設計	vol.84・14-20	2016/12/1	公益社団法人 土地改良測量設計技術協会
山下 萌，江口 沙綾，立石 貴浩，築城 幹典	イネ科牧草中放射性セシウム濃度の草種間差と経年変化	日本草地学会誌	62(3): 134-139	2016/10/1	日本草地学会
Islam, T. and Tsuiki, M.	Spatial Distribution of Air Dose Rate in Grazing Grassland.	Journal of Data Science	14(1): 133-148	2016/4/1	International Society of Data Science
三陸復興部門・園芸振興班					
Orikasa,T., Koide,S. Sugawara,H., Watanabe,T., Okada,M., Matsushima,U., Kato,K., Muramatsu,Y., Thammawong,M., Nakamura,N., Shiina,T. and Tagawa,A.	Drying kinetics and quality of tomato fruits dehydrated by a vacuum-microwave method.	Acta Horticulturae	1120, 375-380	2016/7/1	International Society for Horticultural Science: ISHS
三陸復興部門・農林畜産業復興総合計画班					
山本 清龍	高知県南国市沿岸部津波浸水想定地域の防災・減災にむけた自然, 地形の活用可能性	ランドスケープ研究	80・5・印刷中	2017/3/31	日本造園学会
村田 青葉，山本 清龍	酒蔵を中心とする空間構造と観光への展開可能性 : 岩手県を事例として	日本観光研究学会全国大会学術論文集	31・41-44	2016/12/1	日本観光研究学会
森重 昌之，海津 ゆりえ，山本 清龍，清水 苗穂子	地域主導型観光における「地域主導」の実態と課題	日本観光研究学会全国大会学術論文集	31・101-104	2016/12/1	日本観光研究学会
肖 凡，山本 清龍	銀山温泉街の魅力と景観資源、滞留空間の分布に関する研究	日本観光研究学会全国大会学術論文集	31・141-144	2016/12/1	日本観光研究学会
遠藤 秀平，山本 清龍，猪狩 裕海，西 大基	岩手県遠野市の産直の利用実態の把握と情報発信方法の検討	日本観光研究学会全国大会学術論文集	31・161-164	2016/12/1	日本観光研究学会
久保 暁子，山本 清龍	デジタル機器の利用とデジタルデトックスにむけた意識に関する研究	日本観光研究学会全国大会学術論文集	31・217-220	2016/12/1	日本観光研究学会
地本 真菜，山本 清龍	ガイドの有無によるまち歩き観光体験の質と観光志向の差異	日本観光研究学会全国大会学術論文集	31・277-280	2016/12/1	日本観光研究学会
佐藤 太陽，山本 清龍	津波防災教育の特徴と観光への展開可能性の検討	日本観光研究学会全国大会学術論文集	31・369-372	2016/12/1	日本観光研究学会
Yamamoto K., SAKA T.	Monitoring Visitor Use and Awareness in the Sanriku Reconstruction National Park: Towards eco-based Disaster Risk Reduction	Proceedings of the Eighth International Conference on Monitoring and Management of Visitors in Recreational and Protected Areas	448-450	2016/9	International Conference on Monitoring and Management of Visitors in Recreational and Protected Areas

部門・班

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
生涯学習部門					
田中 成行	童話「毒もみのすきな署長さん」と謡曲「鵜飼」 ―― 署長さんの「毒もみ」と鵜使いの「鵜飼」の「面白さ」	賢治学	第4輯, pp.98-137	2017/7/20	岩手大学 宮澤賢治センター
大野 眞男（竹田晃子との共著）	「宮沢賢治による方言表記の工夫と地域に根ざした国語観」	岩手大学 宮澤賢治センター	第4輯, pp.44-60	2017/7/20	岩手大学 宮澤賢治センター
木村 直弘	「『きみにならびて野に立てば』考」	賢治学	第4輯, pp.140-149	2017/7/20	岩手大学 宮澤賢治センター
小島 聡子	標準語と宮沢賢治――方言と標準語のはざまで	賢治学	第4輯, pp.61-72	2017/7/20	岩手大学 宮澤賢治センター
木村 直弘	「イーハトヴの音は越境できるか ー宮澤賢治《セロ弾きのゴーシュ》における オノマトペの中国語訳をめぐってー」	賢治学	第3輯, pp.32-72	2016/6/20	岩手大学 宮澤賢治センター
木村 直弘	「法華文学としてのイーハトヴ童話『かしはばやしの夜』 ーオノマトペの共振的効果に根ざした 『法華文学ノ創作』をめぐってー」	賢治学	第4輯, pp.150-186	2017/7/20	岩手大学 宮澤賢治センター
ものづくり技術教育研究部門					
Masanobu Kumagai, Seung-Taek Myung, Yasuyuki Katada, Hitoshi Yashiro	Stability of type 310S stainless steel bipolar plates tested at various current densities in proton exchange membrane fuel cells	Electrochimica Acta	211, 754-760	2016/4/1	Elsevier
M. Uchidate, A. Iwabuchi, K. Yanagihara, K. Sekine, H. Hirahara	tudy on Corrosive Wear of Co-Cr-Mo Alloy in Decomposed Gas from ETFE and PPS for Injection Molding Application	Tribology Online	11, pp.540-546	2016/8/31	日本トライボロジー学会
J. Hatakeyama, K. Hirose, M. Uchidate, T. Fukue, Q. Wang	Basic Study on Reduction of Measurement Time for Evaluating Thermophysical Properties of Thermal Interface Materials by Steady Temperature Prediction Method	Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging	9, E16-014-1	2016/12/26	エレクトロニクス実装学会
及川 春樹，平塚 貞人，堀江 皓， 米倉 勇雄，阿部 峻	ホーロー処理した鋳鉄の表面組織に及ぼすC、Si量及びTi添加の影響	鋳造工学	88・9・513-517	2016/9/10	日本鋳造工学会
小綿 利憲，佐々木 大地， 平塚 貞人，鹿毛 秀彦，藤島 晋平	低レアアース処理剤を用いた球状黒鉛鋳鉄の 機械的性質とひけ性	鋳造ジャーナル	12・2・32-37	2017/2/14	日本鋳造協会
鎌田 康寛，増田 竣亮， 高橋 智史，村上 武，妹尾 武， 岩瀬 義孝，張 鐘植	自動車用ダイクエンチ鋼板の微細組織、 硬度および磁気ヒステリシス特性に与える焼入効果	日本AEM学会誌	Vol25・No1・ 36-41	2017/3/10	日本AEM学会
T. Abe, S. Takahashi, S. Kamada, A. Nakagawa, T. Chiba, M. Nakagawa, S. Chiba, Y. Kashiwaba, M. Daibo, I. Niikura, Y. Kashiwaba, and H. Osada	Photoconductive properties of undoped and nitrogen-doped ZnO single crystals in various ambiences	Physica Status Solidi C	Vol. 13, No. 7-9, pp. 581–584	2016	WIELY
S. Ben Dkhil, M. Gaceur, W. Dachraoui, D. Hannani, S. Fall, F. Brunel, M. Wang, G. Poize, J. Mawyin, I. Shupyk, C. Martini, E. Shilova, F. Fages, T. Ishwara, J. Nelson, T.Watanabe, N. Yoshimoto, O. Margeat, C. Videlot-Ackermann, and J. Ackermann	P-type semiconductor surfactant modified zinc oxide nanorods for hybrid bulk heterojunction solar cells	Solar Energy Materials and Solar Cells	159, 608-616	2017	
Takeshi Watanabe, Mamoru Kikuchi, Kousaku Nishida, Tomoyuki Koganezawa, Ichiro Hirosawa, Noriyuki Yoshimoto	A new instrumentation for in situ characterization of the charge transport and crystallographic properties in co-evaporated organic thin film transistor	Mol. Cryst. Liq. Cryst	636 1, 168-175	2016	
Sadok Ben Dkhil, Martin Pfannmöller, Sara Bals, Tomoyuki Koganezawa, Noriyuki Yoshimoto, Driss Hannani, Meriem Gaceur, Christine Videlot-Ackermann, Olivier Margeat, Jörg Ackermann	Square-Centimeter-Sized High-Efficiency Polymer Solar Cells: How the Processing Atmosphere and Film Quality Influence Performance at Large Scale	Adovanced Energy Materials	Vol. 6, 1600290	2016	
吉本 則之，菊池 護	放射光を用いた有機半導体薄膜形成素過程の解明	金属	86, 687-691	2016	
Kazume Nishidate, Noriyuki Yoshimoto, Peerasak Chantngarm, Hiroaki Saito, Masayuki Hasegawa	Tuning the Work Function of Graphene with the Adsorbed Organic Molecules: First-Principles Calculations	Mol. Phys.	Vol.114, 2993-2998	2016	
Takeshi Fukuda, Katsumi Suzuki, Noriyuki Yoshimoto, Yingjie Liao	Controlled donor-accepter ratio for application of organic photovoltaic cells by alternative intermitternt electrospray co-deposition	Organic Electronics	Vol. 33, 32-39	2016	

部門・班					
著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
ものづくり技術教育研究部門					
Takeshi Watanabe, Keisuke Tada, Satoshi Yasuno, Hiroshi Oji, Noriyuki Yoshimoto, and Ichiro Hirosawa	Observation of electric potential in organic thin-film transistor by bias applied hard X-ray photoemission spectroscopy	Jpn J. Appl. Phys.	Vol. 55, 03DD12	2016	
Ichiro Hirosawa, Takeshi Watanabe, Hiroshi Oji, Satoshi Yasuno, Keisuke Tada, and Noriyuki Yoshimoto	Depth profile of electric potential of metal-coated pentacene films on SiO2 studied by Hard X-ray Photoelectron Spectroscopy under applied bias voltage	Jpn J. Appl. Phys.	Vol. 55, 03DD09	2016	
T. Naito, T. Yoshida, H. Mochizuki, H. Fujishiro, R. Basu and A. Szpunar	Vortex Pinning Properties of Dense Ti-doped MgB2 Bulks Sintered at Different Temperature	IEEE Trans. Appl. Supercond.	26, 6800805 (5 pages)	2016	
M D Ainslie, H Fujishiro, H Mochizuki, K Takahashi, Y-H Shi, D K Namburi, J Zou, D Zhou, A R Dennis and D A Cardwell	Enhanced trapped field performance of bulk high-temperature superconductors using split coil, pulsed field magnetization with an iron yoke	Supercond. Sci. Technol.	29, 074003 (16 pages)	2016	
H. Fujishiro, H. Mochizuki, M.D. Ainslie and T, Naito	Trapped field of 1.1 Tesla without flux jumps on high-Jc MgB2 bulk during pulsed field magnetization using split coil with soft iron yoke	Supercond. Sci. Technol.	29, 084001 (10 pages)	2016	
T. Naito, A. Ogino and H. Fujishiro	Potential ability of 3 T-class trapped field on MgB2 bulk surface synthesized by the infiltration-capsule method	Supercond. Sci. Technol.	29, 115003	2016	
Shu Mizuno, Mamoru Ishizawa, Hiroyuki Fujishiro, Tomoyuki Naito, Hirokazu Katsui and Takashi Goto	Ball milling effects for induced carriers and reduced grain size on thermoelectric properties in Bi1-xSrxCuSeO (x=0, 0.1)	Jpn. J. Appl. Phys.	55, 115801 (7 pages)	2016	
M. D. Ainslie, D. Zhou, H. Fujishiro, K. Takahashi, Y-H. Shi and J. H. Durrell	Flux jump-assisted pulsed field magnetization of high-Jc bulk high-temperature superconductors	Supercond. Sci. Technol.	29, 124004 (9 pages)	2016	
H. Fujishiro, K. Takahashi, M.D. Ainslie, H. Mochizuki and T. Naito	Suppression of flux jumps and enhancement of trapped field on high-Jc MgB2 bulk using split-type coil with soft iron yoke during pulsed field magnetization	IEEE Trans. Appl. Supercond.	27, 6800404	2016	
A. Ogino, T. Naito, and H. Fujishiro	Optimization of infiltration and reaction process for the fabrication of strong MgB2 bulk magnets	IEEE Trans. Appl. Supercond.	27,	2016	
K Takahashi, H Fujishiro, M. D. Ainslie and T Naito	Pulsed field magnetizing characteristics of rectangular-shaped GdBaCuO bulk using split- and solenoid-type coils	IEEE Trans. Appl. Supercond.	27, 6800205	2016	
Shu Mizuno, Hiroyuki Fujishiro, Mamoru Ishizawa, Tomoyuki Naito, Hirokazu Katsui and Takashi Goto	Thermoelectric properties of LiCo1-xMxO2 (M=Cu, Mg, Ni, Zn) and comparison to LiyCoO2 and NayCoO2 systems	Jpn. J. Appl. Phys.	56,	2017	
藤代 博之，柳 陽介，伊藤 佳孝，仲村 高志	超電導各層円筒内挿によるNMR用超電導バルクの捕捉磁場均一化のシミュレーション解析 —円筒の位置、長さ、形状の影響—	低温工学	52, pp. 33-37	2017	
M. D. Ainslie, H. Fujishiro, K. Takahashi, Y-H. Shi, D. A. Cardwell	Pulsed field magnetization of bridge-seeded, bulk YBCO using solenoid and split coils	IEEE Trans. Appl. Supercond.	27, 6801105 (5 pages)	2017	
H. Fujishiro, Y. Noda, K. Akuzawa, T. Naito, A. Ito, T. Goto, M. Marysko, Z. Jirak, J. Hejtmanek and K. Nitta	Electrical resistivity anomaly, valence shift of Pr ion and magnetic behavior in epitaxial (Pr1-yYy)1-xCaxCoO3 thin films under compressive strain	J. Appl. Phys.	121, 115104 (8 pages)	2017	
Rongbin Ye, Koji Ohta and Mamoru Baba	Effects of Polymeric Dielectric Morphology on Pentacene Morphology and Organic TFT Characteristics	MATEC Web Conf.	67, 04009 (6 pages)	2016	
Rongbin Ye, Koji Ohta and Mamoru Baba	Temperature dependence of electrical properties of organic thin film transistors based on pn heterojuction and their applications in temperature sensors	Journal of Computer and Communications	4, 10-15	2016	
Rongbin Ye, Koji Ohta and Mamoru Baba	Electrochemical Properties of Amorphous Nb2O5 Thin Film and Its Application to Rechargeable Thin Film Lithium Ion Batteries	ECS Trans.	73, 49-55	2016	
Song-Zhu Kure-Chu, Toru Ogasawara, Rongbin Ye, Hitoshi Yashiro, Kuniaki Sasaki	Thermal Stability and Sulfidizing Resistance of High Reflective Multilayered Sn/Ag3Sn and Sn/Ag Films Electrodeposited on Cu Alloy Sheets	Electrochimica Acta	212, 380–389	2016	

部門・班

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
ものづくり技術教育研究部門					
Kazume Nishidate, Noriyuki Yoshimoto, Peerasak Chantngarm, Hiroaki Saito, Masayuki Hasegawa	Tuning the Work Function of Graphene with the Adsorbed Organic Molecules: First-Principles Calculations	Mol. Phys.	Vol.114, 2993-2998	2016	
Hiroki Muraoka, Takumi Obara, and Satoshi Ogawa	Systematic synthesis, comparative studies of the optical properties,and the ICT-based sensor properties of a series of 2,4,6-tri(5-aryl-2-thienyl)pyrimidines with the D-π-A system	Tetrahedron Letters	Volume 57, Issues 27-28, pages 3011-3015	2016/6/6	ELSEVIER
Hiroyasu Sato, Norihito Doki, Saki Yoshida, Masaaki Yokota, Kenji Shimizu	Face-selective crystal growth behavior of L-aspartic acid in the presence of L-asparagine	Journal of Crystal Growth	436, 99–103	2016	
Masaaki Yokota, Shingo Kikuchi, Jun Sen, Toshimichi Kamei, Norihito Doki	Cu(II) Complex of L-Leucine Favor a Different Type of Crystal Structure from Cu(II)-L-Val and Cu(II)-L-Ile	Advances in Chemical Engineering and Science	6, 62-66	2016	
Yoshiyuki Yamamoto, Ryota Takahashi, Masakuni Tsunezawa, Naoki Honma, and Kentaro Murata	Experimental evaluation of interference reduction effect; eigen-beamforming and digital cancellation using MIMO-OFDM cignals	IEICE Communications Express	vol.6, no.2	2017/2/1	電子情報通信学会
三陸水産教育研究部門					
Goto, T., A. Takanashi, S. Tamada and K.-I., Hayashizaki	Temporal changes in the surf zone fish assemblage in Otsuchi Bay, Pacific coast of northeastern Japan, with comments on influences of the 2011 Tohoku earthquake and tsunami.	Coastal Marine Science		2016/10/10 受理, 編集中	東京大学大気海洋研究所
Takuya MORIKAWA, Norihisa TAKADA, Makoto MIURA	Effect of decompression drying treatment on physical properties of solid foods	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	81・4・831-838	2017/2/1	日本農芸化学会
Kanaiwa M, Yamamoto, Y., Hiraoka, Y., Kato, M., Ishimura, G., Katahira, H.	Euryphorus brachypterus (Copepoda: Caligidae) on wild Pacific bluefin tuna from the Tsugaru Straight, northern Japan	Parasitology International	65.3 268-273	2016	
Hideharu Tsukagoshi, Sayuri Terui, Gen Ogawa, Shunpei Sato, Syuiti Abe	Genetic variation of chum salmon in the Sanriku-region, Japan, inferred from mitochondrial DNA analysis.	NPAFC bull.	6・451-454	2016/12	
Devon Dublin and Noriyuki Tanaka	Satoyama Agricultural Development tool (SADT):A Method for Evaluating and Guiding Indigenous and Rural Communities to Achieve Sustainable Development	NIDA Case Research Journal	8・1・74-94	2016 (January-June)	National Institute for Development Administration
Lijun Zhou, Jia Liang, Mitsuharu Matsumoto, Tsuyoshi Sawada, Ikuo Kimura, Chunhong Yuan*.	Changes in Biochemical Properties and Ultrastructure of Sarcoplasmic Reticulum of Spotted Mackerel (Scomber australasicus) during Cold Storage.	Fishereies Sciences,	submitted		日本水産学会
TiantianWu, ChunhuaWu, ShaluFu, Wang Ling, Chunhong Yuan, Shiguo Chen, Yaqin Hu.	Integration of lysozyme into chitosan nanoparticles for improving antibacterial activity. .:. doi: 10.1016/j.carbpol.2016.08.076. Epub .	Carbohydr Polym	155:192-200	2017 Jan 2	Elsevier
Chunhua Wu, Shalu Fu, Yingchun Xiang, Chunhong Yuan, Yaqin Hu, Shiguo Chen, Donghong Liu, Xingqian Ye,	Effect of Chitosan Gallate Coating on the Quality Maintenance of Refrigerated (4 -C) Silver Pomfret (Pampus argentus)	Food Bioprocess Technol,	Volume 9, Issue 11, pp 1835–1843	2016 Nov	Springer
Yumi Ogata, Hiroki Koike, Ikuo Kimura, Chunhong Yuan,	Delaying Post-mortem Changes in the Muscle of Spotted Mackerel Killed by an Instantaneous Way of Neck-breaking and Bleeding,	Journal of FisheriesSciences.com	10(2): 083-088	2016 May	iMedPub
地域防災教育研究部門					
遠藤 明，井良沢 道也	斜面崩壊の前兆現象予測に向けた斜面地盤中の３次元流速ベクトルの計測	砂防学会誌	Vol.69, No.1, pp.38-41	2016/5/1	砂防学会
堀 和彦，井良沢 道也	模擬森林による積雪の移動量および雪荷重の測定	日本雪工学会誌	Vol.33, No.1, pp.1-11	2017/1/15	日本雪工学会
井良沢 道也 他	2016年8月30日台風10号による岩手県岩泉町及び宮古市における土砂災害	砂防学会誌	Vol.69, No.6, pp.71-79	2017/3/1	砂防学会
五味 壮平	なぜ陸前高田に通いたくなってしまうのか？	2016年度人工知能学会全国大会論文集	4E4-OS-24b-2	2016/6/1	人工知能学会
五味 壮平，越戸 浩貴 他	岩大E_codeプロジェクトについて	陸前高田大学シンポジウム2017 発表論文集	pp.79-82	2017/1/21	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
麦倉 哲	書評「園部雅久『再魔術化する都市の社会学：空間概念・公共性・消費主義』」	地域社会学会年報	28・125-127	2016/5/1	地域社会学会
麦倉 哲，高松 洋子，梶原 昌五	被災リスク層の多層化と復興支援課題 ―岩手県大槌町仮設住宅調査より―	日本都市学会年報	49・233-242	2016/5/31	日本都市学会

部門・班					
著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
地域防災教育研究部門					
麦倉 哲	生きた証プロジェクトのもつ意味や意義―大災害後の歴史的テーマは「すべての犠牲者と向き合うこと」	現代の社会病理	NO.31. 5－22	2016/9/30	日本社会病理学会
麦倉 哲	東日本大震災にみる被災死と生活困窮―その背景にある社会的脆弱性と格差	日本住宅会議編『深化する居住の危機　住宅白書2014-2016』	186-192	2016/12/1	ドメス出版
麦倉 哲	東日本大震災遺族における「死者との相互行為」―岩手県大槌町での経験を中心に―	岩手大学文化論叢	9・129－147	2017/2/28	岩手大学教育学部社会科教育
亀岡 和雅，三宅 諭	除染に向けた土壌仮置場の用地選定プロセス-福島県桑折町を事例に－	農村計画学会誌	35・154-160	2016/12/1	農村計画学会
大瀧 英知，三宅 諭	東日本大震災からの復興にみる地域型復興住宅供給の課題～岩手県沿岸市町村を対象として～	日本建築学会大会学術講演梗概集F	1087-1088	2016/8/1	日本建築学会
亀岡 和雅，三宅 諭，呉 陽	漁業規模に着目した漁業集落の類型化に関する研究－岩手県沿岸の漁業集落に関する研究その１－	日本建築学会学術講演梗概集E	99-100	2016/8/1	日本建築学会
呉 陽，三宅 諭，亀岡 和雅	漁業集落における復興事業の実施状況に関する研究－岩手県沿岸の漁業集落に関する研究（２）－	日本建築学会学術講演梗概集E	101-102	2016/8/1	日本建築学会
小笠原 敏記，三橋 寛，室井 宏太，水野 辰哉	街区内における建物群の津波耐力評価に関する模型実験	土木学会論文集B2（海岸工学）	Vol.72, No.2, I_943-I_948	2016/3/16	土木学会
小澤 敬二，及川 隆，村上 和男，中村 由行，阿部 郁男，岡田 知也，小笠原 敏記，高尾 敏幸，柴木 秀之	湾口防波堤海底部の通水管の流動特性と湾内の溶存酸素濃度へ及ぼす影響	土木学会論文集B2（海岸工学）	Vol.72, No.2, I_499-I_504	2016/3/16	土木学会
今村 文彦，岩間 俊二，國枝 雄一，小笠原 敏記	修正された東北地方太平洋沖地震津波モデルによる福島第一原発サイトへの影響評価	土木学会論文集B2（海岸工学）	Vol.72, No.2, I_361-I_36	2016/3/16	土木学会
栗田 英治，土屋 一彬，菊池 義浩	津波浸水域の土地利用履歴にもとづく土地活用の方向性－宮城県山元町花釜地区を事例に－	農村計画学会誌	Vol.35・論文特集号・161-166	2016/11	農村計画学会
山崎 友子	The Cases of Two Tsunami Storytellers Who Experienced Tsunami Disasters Twice in Their Lifetimes in "JAPAN AFTER 3/11 ～ Global Perspectives on the Earthquake, Tsunami, and Fukushima Meltdown."		pp.160-174	2016	The University Press of Kentucky
森本 晋也，土屋 直人	震災を生き抜いた子どもたちが学んだ津波の歴史と防災－地域に学ぶ教育実践記録・釜石東中学校（1）－	岩手大学大学院教育学研究年報	No.1・95-113	2017/3/31	岩手大学大学院教育学研究科
山本 英和，平賀 柾人，齊藤 剛，金崎 慶次，佐藤 史佳	岩手大学でアレー観測された三成分微動記録への地震波干渉法の適用可能性について	東北地域災害科学研究	53・145-150	2017年3月	自然災害協議会
山本 英和，金崎 慶次，齊藤 剛	アレイ観測された水平動微動の周波数波数解析法によるLove波の位相速度の推定	東北地域災害科学研究	53・151-156	2017年3月	自然災害協議会
山本 英和，佐々木 恭輔，齊藤 剛	浅部２次元S波速度構造推定を目的としたリニアアレイで観測された短周期微動の地震波干渉法解析－岩手大学構内における試み－	東北地域災害科学研究	53・157-162	2017年3月	自然災害協議会
佐藤 史佳，山本 英和，齊藤 剛	福島県の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析（その２）	東北地域災害科学研究	53・163-168	2017年3月	自然災害協議会
平泉文化教育研究部門					
劉 海宇	唐代における金銀字経と五臺山金閣寺	平泉文化研究年報	17・15-22	2017/3/31	岩手県教育委員会
劉 海宇	漢代出土文献所見『孝経』考述	魯文化学術研討会論文集	237-246	2016/11/10	中国山東省文物考古研究所
伊藤 博幸	胆沢城跡出土の陶器・陶磁器覚書	亀井明徳氏追悼・貿易陶磁研究等論文集	51-60	2016/4/20	亀井明徳さん追悼文集刊行会
佐藤 由紀男，平原 英俊，三浦 一樹，佐藤 桃子	北海道・東北北部出土の緑色片岩・青色片岩製磨製石斧の蛍光Ｘ線分析	秋田考古学	60・1-22	2016/12/28	秋田考古学協会
會澤 純雄 ほか	ポータブル複合X線分析による白磁と青磁の胎土分析（その２）－中国および平泉出土資料の比較検討－	平泉文化研究年報		2017/3/31	岩手県教育委員会
樋口 知志（編著）	前九年・後三年合戦と兵の時代	東北の古代史5	全294頁	2016/4/10	吉川弘文館
樋口 知志（共著）	アテルイと東北古代史	熊谷公男編	全264頁	2016/7/25	高志書院
八木 光則	奥六郡と安倍氏	東北の古代史	第5巻・47-48	2016/4/10	吉川弘文館
八木 光則	城柵構造からみた秋田城の特質	北方世界と秋田城	81-100	2016/11/20	六一書房

02 研究報告・活動報告

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
部門・班					
三陸復興部門・いわて高等教育コンソーシアム連携班					
後藤 尚人	高大連携と地域連携	大学教育学会誌	第38巻第1号 pp.13-15	2016/5/30	(公財)地域コミュニティ協会
三陸復興部門・地域コミュニティ再建支援班					
近藤 哲生，岩渕 明，南 正昭，五味 壮平	岩手復興モデルの構築 ー国連防災枠組みと岩手大学の実践ー	第 17 回地域防災研究フォーラム講演録			発行予定
菊池 義浩，三宅 諭，南 正昭	近年の農山漁村における災害復興過程と再建後の課題に関する一考察	2016 年度日本建築学会大会（九州）農村計画部門研究協議会資料	143-146	2016/8/1	日本建築学会
三陸復興部門・農地復興班					
金山 素平，藤井 芽衣，工藤 基	カキ殻を用いた土の固化処理技術に関する研究	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	発表論文集・29-32	2017/1/21	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
Motohei Kanayama	Soil Environmental Issues on Agricultural Land: Development and Maintenance	Thrid Myanmar-Japan International Symposium	2016・55-56	2016/12/3	Pathein University
山本 清仁，武藤 由子，原科 幸爾，倉島栄一	津波により被災した水田の塩分濃度調査	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	発表論文集・33-35	2017/1/21	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
三陸復興部門・園芸振興班					
加藤 一幾	廃菌床　シイタケ菌が生きたままの施用で肥料にも土壌改良にもなる	現代農業	2016.10: 112-115.	2016/9/5	農山漁村文化協会
加藤 一幾	オガクズ廃菌床で土壌フカフカ、微生物が多様化、保肥力もアップ	現代農業	2016.12: 66-69.	2016/11/5	農山漁村文化協会
岡田 益己	夏秋イチゴに最適、モミガラ培地＆不織布ベッド	現代農業	2016.10, 58-61	2016/9/5	農山漁村文化協会
加藤 一幾	三陸沿岸地域の農家が受け入れやすい新農業技術とは ー早どりカリフラワー栽培普及の事例からー	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	発表論文集, 99-101	2017/1/21	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
松嶋 卯月	三陸被災地域における園芸振興 ーがんちゃんの三陸野菜畑試みー	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	発表論文集, 67-70	2017/1/21	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
岡田 益己	三陸の夏の涼しさを生かした夏どりイチゴの栽培とその普及	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	発表論文集, 97-99	2017/1/21	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
三陸復興部門・農林畜産業復興総合計画班					
広田 純一，山本 清龍，柴田 亮	岩手県三陸沿岸地域の観光復興：持続的な地域づくりに向けて	観光文化	40・2・16-28	2017/4/1	日本交通公社
生涯学習部門					
朴 賢淑	成人学習者が大学で学ぶことの意義 ―岩手大学を事例にして―	東北教育学会発表要旨集	pp39-40	2017/03/05	東北教育学会7
木村 直弘	【解題】海外における賢治文学受容の現状と今後	賢治学	第4輯, pp.74-81	2016/6/20	岩手大学 宮澤賢治センター
ものづくり技術教育研究部門					
八代 仁，及川 秀春	南部鉄器の化学	化学と教育	64(5), 238-241	2016/5/1	日本化学会
三陸水産教育研究部門					
Tamada, S., K.-I., Hayashizaki, T. Goto	Feeding environment of juvenile Japanese flounder Paralichthys olivaceus along the northern Iwate coast.	Marine Ecosystems after Great East Japan Earthquake in 2011.	p. 115	2016/4/5	東北マリンサイエンス拠点形成事業
T. Goto and H. Shibata	Changes in abundance and composition of anthropogenic marine debris on the continental slope off the Pacific coast of northern Japan,after the March 2011 Tohoku earthquake.	Marine Ecosystems after Great East Japan Earthquake in 2011.	pp. 137-138	2016/4/5	東北マリンサイエンス拠点形成事業
小川 智史，佐藤 将，兵藤 則行，中村 將，平井 俊朗	魚類組織切片のヘマトキシリン・エオシン染色に対するブアン液による固定条件の影響	帝京科学大学紀要	12・113-119	2016/3/31	帝京科学大学
袁 春紅	中国におけるコイ科魚類養殖流通・消費と加工利用動向～生産の多い4魚種の加工利用状況と方法～	養殖ビジネス	第54巻４号（通巻680号）90～95頁、	平成29年３月10日発行	緑書房
地域防災教育研究部門					
井良沢 道也	豪雨災害時に地区全員が30分以内で自主避難を実施した地区	日刊岩手建設工業新聞		2016/6/29	

部門・班					
著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
地域防災教育研究部門					
井良沢 道也	住民一体となった川づくりを目指して	日刊岩手建設工業新聞		2016/7/11	
井良沢 道也	地域活性化に寄与する砂防を目指して	日刊岩手建設工業新聞		2016/8/17	
井良沢 道也	2013年秋田・岩手豪雨災害時における住民の警戒・避難の実態	日刊岩手建設工業新聞		2016/8/24	
井良沢 道也	岩手県内における砂防の観点から見た自主防災組織の現状と課題(上)	日刊岩手建設工業新聞		2016/8/31	
井良沢 道也	岩手県内における砂防の観点から見た自主防災組織の現状と課題(下)	日刊岩手建設工業新聞		2016/9/7	
井良沢 道也	土砂災害防止法の説明会が住民の防災意識向上に与える効果	日刊岩手建設工業新聞		2016/11/30	
井良沢 道也	住民と共に創る土砂災害ハザードマップ	日刊岩手建設工業新聞		2016/12/7	
近藤 哲生，岩渕 明，南正 昭，五味 壮平	岩手復興モデルの構築ー国連防災枠組みと岩手大学の実践ー	第 17 回地域防災研究フォーラム講演録			発行予定
麦倉 哲	シンポジウム〈「復活と創造　東北の地域力」震災と霊性ー亡き人の声を感じ、生きるという力ー〉	震災学	10	2017/3/23	東北学院大学
小笠原 敏記	岩手県における2016年台風10号による水害の報告(速報)	土木学会誌	12月号, pp.40-41	2016/12/1	土木学会
菊池 義浩，三宅 諭、南 正昭	近年の農山漁村における災害復興過程と再建後の課題に関する一考察	2016 年度日本建築学会大会農村計画部門研究協議会資料	143-146	2016/8	日本建築学会
菊池 義浩，南 正昭	岩手県における復興まちづくりケーススタディ(東日本大震災における実効的復興支援の構築に関する特別調査委員会 最終報告書)	2016 年度日本建築学会大会総合研究協議会資料	i24-i28	2016/8	日本建築学会
菊池 義浩，鈴木 孝男，平瑞 樹，藤崎 浩幸	韓国・済州島のバッダムと自然遺産－日韓農村計画学会交流セミナー現地調査報告－	農村計画学会誌	Vol.35・No.3・443-446	2016/12	農村計画学会
森本　晋也	岩手県沿岸地域の学校と子どもたちは、今	歴史地理教育	No.861・22-27	2017/3/1	歴史教育者協議会
山本 英和，佐藤 史佳，齊藤 剛	福島県の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析　その２	物理探査学会第 135 回学術講演会論文集	188-191	2016/5/16	物理探査学会
山本 英和，石川 拓弥，齊藤 剛，	岩手県久慈市における微動アレイ探査による地盤振動特性の評価	物理探査学会第 135 回学術講演会論文集	69-72	2016/5/16	物理探査学会
佐藤 史佳，山本 英和	福島県の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析　水平動の解析	第 8 回微動の会		2016/10/1	微動の会
佐藤 史佳，山本 英和，齊藤 剛	福島県の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析　その３　水平動の解析	物理探査学会第 136 回学術講演会論文集	212-215	2016/10/26	物理探査学会
Anupap Wanasawan, Ai Sato, Hidekazu Yamamoto, Tsuyoshi Saito, Fumika Sato, Nobuo Doi	Microtremor Observations in Tono Basin, Iwate Prefecture - Preliminary results -	平成 28 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集		2016/12/23	自然災害研究協議会
山本 英和，金崎 慶次，齊藤 剛	アレイ観測された水平動微動の周波数波数解析法によるLove波の位相速度の推定	平成 28 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集		2016/12/23	自然災害研究協議会
山本 英和，佐々木 恭輔，齊藤 剛	浅部２次元S波速度構造推定を目的としたリニアアレイで観測された短周期微動の地震波干渉法解析－岩手大学構内における試み－	平成 28 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集		2016/12/23	自然災害研究協議会
佐藤 史佳，山本 英和，齊藤 剛	福島県の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析(その２)	平成 28 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集		2016/12/23	自然災害研究協議会
山本 英和，平賀 柾人，齊藤 剛，金崎 慶次，佐藤 史佳	岩手大学でアレー観測された三成分微動記録への地震波干渉法の適用可能性について	平成 28 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集		2016/12/23	自然災害研究協議会
平泉文化教育研究部門					
劉 海宇	詩經·周頌·載見「曰求厥章」解詁	世界漢字学会第四回年会論文要旨集	208-214	2016/6/24	韓国慶星大学
伊藤 博幸	書評「東北の古代史5　前九年・後三年合戦と兵の時代」	弘前大学国史研究	141・77-95	2016/10/30	弘前大学国史研究会
平原 英俊 他	3Dレーザースキャナを用いた平泉世界遺産の三次元計測	第 83 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会　第 101 回計測自動制御学会力学量計測部会　第 33 回合同シンポジウム　講演要旨集	PP101-102	2016/5/26	日本分析化学会
藤崎 聡美 他	3Dレーザースキャナによる平泉世界遺産のデジタルアーカイブ化	第 83 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会　第 101 回計測自動制御学会力学量計測部会　第 33 回合同シンポジウム　講演要旨集	PP103-104	2016/5/26	日本分析化学会

部門・班

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
平泉文化教育研究部門					
藤崎 聡美	世界遺産の資産に関わるということ ～3Dデータでみる平泉文化～	名古屋大学機器・分析技術研究会報告集	PP119-120	2016/9/8	名古屋大学機器・分析技術研究会実行委員会
佐藤 嘉広	世界遺産「平泉」と価値のイメージ	岩手大学平泉文化研究センター研究年報	第５号	2017/3/31	岩手大学平泉文化研究センター
誉田 慶信	骨寺村の宗教世界	骨寺村荘園遺跡村落調査研究総括書	29-41	2017/3/31	岩手県一関市博物館
八木 光則	総論　蝦夷の考古学	考古学ジャーナル	No.688・3-4	2016/9/30	ニューサイエンス社
八木 光則 ほか	アテルイと東北古代史	(座談会・共著)		2016/7/20	高志書院

03 学会発表・各種講演・報告等

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
三陸復興部門・いわて高等教育コンソーシアム連携班							
いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム	「大学進学率向上に関するプロジェクトチーム」のとりくみについて	後藤 尚人	2017/2/4	メトロポリタン盛岡本館	いわて高等教育コンソーシアム	教育関係者、一般	約70名 13時、15時 二回公演
三陸復興部門・心のケア班							
東北大学復興アクション 100 +「サイコロジカル・エイド　震災から５年を経過して」	岩手県の現状と課題	奥野 雅子	2017/1/28	東北大学	東北大学大学院教育学研究科	臨床心理士・産業カウンセラー	約60名
佐々木 誠／心のケア班市民講座定例版３・講師	相手を支える話の聴き方 ～傾聴の基礎～	佐々木 誠	2017/1/28	岩手大学釜石サテライト	心のケア班	一般市民	参加者21人
佐々木 誠／心のケア班市民講座定例版３・講師	リラクセーションでよい眠り～呼吸法と漸進的筋弛緩法～	佐々木 誠	2017/2/4	陸前高田市コミュニティホール	心のケア班	一般市民	参加者14人
佐々木 誠／心のケア班市民講座定例版３・講師	怒りとつきあうヒント～アドラー心理学をヒントにして～	佐々木 誠	2017/2/18	宮古市シーアリーナ	心のケア班	一般市民	参加者30人
佐々木 誠／心のケア班市民講座拡大版こころの時間５・講師	悲しみを抱える・悲しみを支える～喪失と向き合う～	佐々木 誠	2017/3/14	陸前高田市コミュニティホール	心のケア班	一般市民	参加者11人
奥野 雅子／心のケア班市民講座拡大版こころの時間５・講師	言葉は魔法！～コミュニケーションについての再考～	佐々木 誠	2017/3/15	大船渡市リアスホール	心のケア班	一般市民	参加者28人
山口 浩／心のケア班市民講座拡大版こころの時間５・講師	リラクセーションでストレスに克つ！	佐々木 誠	2017/3/16	釜石市サテライト	心のケア班	一般市民	参加者11人
織田 信男／心のケア班市民講座拡大版こころの時間５・講師	子どもの可能性を大きくする心理学的方法	佐々木 誠	2017/3/17	宮古市シーアリーナ	心のケア班	一般市民	参加者24人
佐々木 誠／花巻北高校メンタルトレーニング・講師	ストレス対処法を学ぶ	佐々木 誠	2016/4/28	花巻北高等学校	花巻北高等学校	在学生全員	参加者770人
佐々木 誠／世田米中学校こころの授業・講師	こころの授業①～⑤	佐々木 誠	2016/6/17 2016/10/13	住田町立世田米中学校	住田町立世田米中学校	1学年①～④ 2学年⑤	参加者112人
佐々木 誠／盛岡工業倶楽部定例・講師	ストレスに強い職場づくり	佐々木 誠	2016/7/11	ホテルエース盛岡	盛岡工業倶楽部	会員	参加者35人
佐々木 誠／日本プリーフサイコセラピー学会	日本プリーフサイコセラピー学会でのいじめ予防の心理教育授業実践報告（口頭発表）	佐々木 誠	2016/7/30	東京・東洋英和女学院	日本プリーフサイコセラピー学会	研究者	参加者10人
織田 信男，伊藤 拓，佐々木 誠／日本プリーフサイコセラピー学会	非対面式スーパーヴィジョン研究 (1)	織田 信男	2017/7/30	東京・東洋英知女学院	日本プリーフサイコセラピー学会	研究者	参加者10人
佐々木 誠／岩手県立盛岡北高等学校１学年キャリアガイダンス・講師	臨床心理士	佐々木 誠	2016/9/1	岩手県立盛岡北高等学校	岩手県立盛岡北高等学校	生徒	参加者22人
日本心理臨床学会（第 35 回秋季大会）／矢永 由里子，佐々木 誠，山口 浩	東日本大震災の被災者に対する中長期支援に関する研究	佐々木 誠	2016/9/5	パシフィコ横浜	日本心理臨床学会	研究者	参加者25人
佐々木 誠／大切なご家族を亡くされた方のためのサロン・講師	悲しみを抱える・悲しみを支える	佐々木 誠	2016/9/8	大槌町中央公民館	生きた証を記録し語り継ぐ会(事務局・岩手大学麦倉研究室)	一般市民	参加者22人
佐々木 誠／ソリューション・ランド	アドラー風味のアンガーコントロール心理教育授業の紹介	佐々木 誠	2016/9/19	盛岡マリオス	ソリューションランド	一般市民 会員	参加者35人

部門・班	講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
三陸復興部門・心のケア班								
	佐々木 誠／メンタルヘルス・講師	ストレス対処法を学ぶ「リラクセーション」	佐々木 誠	2016/10/26	山田町中央公民館	あゆみ居宅介護支援山田事業所	利用者 職員	参加者12人
	佐々木 誠／リラクセーション･講師	リラクセーション	佐々木 誠	2016/10/26	釜石地区合同庁舎	沿岸広域振興局	つどいのわ参加者	参加者6人
	佐々木 誠／メンタルヘルス・講師	メンタルヘルス研修	佐々木 誠	2016/12/14	釜石海上保安部	釜石海上保安部	職員	参加者35人
	佐々木 誠／グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	岩手大学心のケア班復興支援活動報告	佐々木 誠	2017/1/22	陸前高田市コミュニティホール	岩手大学	一般市民 大学関係者	参加者30人
	佐々木 誠／平成 28 年度被災遺児家庭支援者養成スキルアップ研修・講師	二次受傷とセルフケアについて	佐々木 誠	2017/2/2	大船渡合同庁舎	大船渡保健福祉環境センター	支援者	参加者20人
	佐々木 誠／被災者相談支援センター相談員研修会・講師	傾聴と支援者のリスクについて	佐々木 誠	2017/3/7	釜石地区合同庁舎	大船渡地域振興センター復興推進課	職員	参加者10人
	佐々木 誠／新人保健師・栄養士研修会・講師	傾聴のスキルアップについて	佐々木 誠	2017/3/9	釜石地区合同庁舎	釜石保健所	専門職員	参加者12人
	阿久津 洋巳	情動喚起写真 (IAPS) に対する視覚皮質と側頭・前頭皮質の活動を NIRS で測定した	阿久津 洋巳	2016/12/21	東北大学電気通信研究所	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会	研究会員	
	阿久津 洋巳	視覚パターンのコントラストと NIRS の酸化ヘモグロビン濃度の変動	阿久津 洋巳	2016/12/21	東北大学電気通信研究所	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会	研究会員	
三陸復興部門・被災動物支援班								
	獣医内科学アカデミー	メトヘモグロビン血症を疑うポメラニアンの赤血球の生化学的解析	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	2016/2/19	パシフィコ横浜	日本獣医内科学アカデミー（JCVIM）	獣医師（一般･大学など）､学生その他研究者	
	獣医師大会三学会　東北部会	家族性メトヘモグロビン血症のポメラニアンの遺伝的解析	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	2016/10/4	メトロポリタン仙台	宮城県獣医師会	獣医師（一般･大学など）､学生その他研究者	
	日本獣医師会獣医学術学会年次大会	家族性メトヘモグロビン血症のポメラニアンの遺伝的解析	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	2017/2/25	石川県立音楽堂	日本獣医師会	獣医師（一般･大学など）､学生その他研究者	
	シンポジウム「生き物の記録」 フクシマの再生と未来に向けて		岡田 啓司, 佐藤 洋, ほか	2016/2/11	東京大学	一般社団法人原発事故被災動物と環境研究会	一般	
	第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会	警戒区域内で震災前より継続飼育されている黒毛和牛の調査状況（1．健康状況）	佐藤 至, 岡田 啓司, ほか	2016/7/6～8	東京大学	アイソトープ･放射線研究会	会員	
	第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会	警戒区域内で震災前より継続飼育されている黒毛和牛の調査状況（2．疾病状況と病理検査結果）	佐々木 淳, 岡田 啓二, ほか	2016/7/6～8	東京大学	アイソトープ･放射線研究会	会員	
	第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会	警戒区域内で震災前より継続飼育されている黒毛和牛の調査状況（3．被ばく線量評価）	佐藤 至, 岡田 啓司, ほか	2016/7/6～8	東京大学	アイソトープ･放射線研究会	会員	
	福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する研究会	牛（黒毛和牛）における放射性セシウムの体内動態	佐藤 至, 岡田 啓司, ほか	2016/8/3～4	京大原子炉実験所	福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する研究会	関係者	
	福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する研究会	福島県警戒区域内で継続飼育される黒毛和牛の被ばく状況	佐藤 至, 岡田 啓司, ほか	2016/8/3～4	京大原子炉実験所	福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する研究会	関係者	
三陸復興部門・地域コミュニティ再建支援班								
	2016 年度人工知能学会全国大会	なぜ陸前高田に通いたくなってしまうのか？	五味 壮平	2016/6/9	北九州市	人工知能学会	学会参加者	約50名
	自然災害研究協議会東北地区部会特別講演シンポジウム	震災後の陸前高田市における 岩手大学の取組　～拡大コミュニティとの関連を中心に～	五味 壮平	2016/12/23	陸前高田市	自然災害研究協議会	協議会参加者･市民	
	陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2017	岩大 E_code プロジェクトについて	五味 壮平	2017/1/21- 2017/1/22	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局	シンポジウム参加者･市民	ポスター発表
	第 17 回地域防災研究フォーラム パネルディスカッション「岩手復興モデルの構築」	震災後の陸前高田における取組 ～特に陸前高田グローバルキャンパスについて～	五味 壮平	2017/2/3	盛岡市	岩手大学地域防災研究センター		パネルトーク/30名程度
	岩手大学地域課題解決プログラム成果発表会	久慈港の認知度向上に向けた市民への アプローチ手法の検討	五味 壮平	2017/3/17	盛岡市	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構		多田 安里, 中里 優実, 森田 詩緒里, 五味 壮平 30名程度
	日本建築学会大会	東日本大震災からの復興にみる地域型復興住宅供給の課題～岩手県沿岸市町村を対象として～	三宅 諭	2016/8/1	福岡大学	日本建築学会	学会員	

部門・班							
	講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
三陸復興部門・地域コミュニティ再建支援班								
	日本都市計画学会東北支部北東北ブロック研究発表会	汚染状況重点調査地域における除去土壌仮置場に対する住民意識－福島県桑折町を対象として－	三宅 諭	2017/3/3	秋田カレッジプラザ	日本都市計画学会東北支部	学会員および一般	
	みえ防災塾	東日本大震災からの復興の現状と課題	三宅 諭	2016/7/1	三重大学	みえ防災塾	受講生	
	久慈市防災女性力アップ講座	避難所運営事例に学ぶ女性力の必要性	三宅 諭	2016/11/26	久慈市中央公民館	久慈市	一般	
	田野畑村机地区まちづくり勉強会	みんなでつくる地域の景観	三宅 諭	2017/1/29	田野畑村机地区公民館	田野畑村机地区	一般	
	出前講座	震災と復興	三宅 諭	2016/7/15	盛岡中央高校	岩手大学・盛岡中央高校	高校生	
	研修会	災害公営住宅を含む地域コミュニティづくり	船戸 義和	2016/4/28	法人事務所	NPO法人おはなしころりん	団体スタッフ	約10名
	講演会	主役は誰か？ ～コミュニティづくりの取り組み～	船戸 義和	2016/7/1	岩手大学	防災塾・だるま	視察団	約15名
	平成 28 年度生活支援相談員等活動研究会	災害公営住宅を中心としたコミュニティづくりから学ぶ	船戸 義和	2016/11/14	ホテル大観	岩手県社会福祉協議会	生活支援員	約70名
	国立大学 財務系若手職員 研修会	ゼロからのコミュニティづくり―災害公営住宅の事例―	船戸 義和	2016/12/20	岩手大学	岩手大学	国立大学財務系職員	約20名
	陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2017	災害公営住宅におけるコミュニティ形成支援	船戸 義和	2017/1/22	陸前高田市コミュニティホール	岩手大学、立教大学	一般	約50名
	第 13 回東日本大震災 盛岡市復興推進アドバイザリーボード	災害公営住宅におけるコミュニティ形成支援	船戸 義和	2017/2/2	盛岡市役所	盛岡市	委員、一般	約20名
	平成 28 年度男女共同参画の視点からの防災・復興に関する普及啓発事業	住民総参加型を目指したコミュニティづくり	船戸 義和	2017/2/18	宮古市田老公民館	岩手県	一般	約60名
三陸復興部門・ものづくり産業復興推進班								
	地域サイエンスシンポジウム	岩手大学釜石ものづくりサテライトの活動紹介（パネル展示）	水野 雅裕	2016/5/29	大船渡市民文化会館リアスホール	岩手県政策地域部科学ILC推進室	地域住民	参加者数不明
	岩手大学三陸水産研究センターセミナー	岩手大学釜石ものづくりサテライトの活動紹介（菊地特任研究員）	水野 雅裕	2016/8/3	岩手大学三陸水産研究センター	岩手大学三陸水産研究センター	学内関係者・岩手県水産技術センター職員	参加者数不明
	大船渡市産業まつり	岩手大学釜石ものづくりサテライトの活動紹介（パネル展示）	水野 雅裕	2016/10/15～2016/10/16	大船渡市民体育館	大船渡市役所	地域住民	参加者数不明
	ビジネスマッチング in 釜石	岩手大学釜石ものづくりサテライトの活動紹介（パネル展示）	水野 雅裕	2016/10/11～2016/11/30	釜石・大槌地域産業育成センター	釜石・大槌地域産業育成センター	地域住民	参加者数不明
	ビジネスマッチング in 釜石　情報交換会	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の活動紹介（今井教授）	水野 雅裕	2016/10/20	釜石・大槌地域産業育成センター	釜石・大槌地域産業育成センター	地域企業・ものづくりビジネスセンター大阪会員企業	参加者数不明
	釜石大槌地域産業フェア	岩手大学釜石ものづくりサテライトの活動紹介（菊地特任研究員）	水野 雅裕	2016/11/29	釜石・大槌地域産業育成センター	釜石・大槌地域産業育成センター	地元高校生	釜石商工高校生徒134名
	岩手大学ものづくり技術研究センター特別講演会	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構ものづくり産業復興推進班の取り組みの紹介（水野教授）	水野 雅裕	2016/12/1	岩手大学復興祈念銀河ホール	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構	地域住民・関係者	参加者数不明
三陸復興部門・農地復興班								
	平成 28 年度農業土木技術管理士研修会	地盤の圧密変形と実測値に基づいた沈下予測手法	金山 素平	2016/7/5	秋田県社会福祉会館	公益社団法人　土地改良測量設計技術協会	技術管理士	約50名 90分講演
	平成 28 年度農業農村工学会大会講演会	カキ殻を用いた土の固化処理技術に関する研究	金山 素平	2016/8/30	ハーネル仙台	公益社団法人 農業農村工学会	学会員	約900名 ポスター発表
	平成 28 年度農業農村工学会大会講演会	実測値に基づいた地盤沈下予測手法の予測精度の検討	金山 素平	2016/8/30	ハーネル仙台	公益社団法人 農業農村工学会	学会員	約900名 ポスター発表
	平成 28 年度農業農村工学会大会講演会	竹チップ混合土の工学的性質に関する研究	金山 素平	2016/8/30	ハーネル仙台	公益社団法人 農業農村工学会	学会員	約900名 ポスター発表
	Thrid Myanmar-Japan International Symposium	Soil Environmental Issues on Agricultural Land: Development and Maintenance	金山 素平	2016/12/3	Pathein University	Pathein University	学生・大学関係者	約300名
	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	カキ殻を用いた土の固化処理技術に関する研究	金山 素平	2017/1/21	陸前高田コミュニティホール	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局	市民・大学関係者	約100名
	竹利用フェスティバル２０１７	竹繊維を混合した土の工学的性質に関する研究	金山 素平	2017/3/12	とりぎん文化会館	鳥取県	学生・一般県民	約100名 公開討論会
	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	津波により被災した水田の塩分濃度調査	山本 清仁	2017/1/21	陸前高田コミュニティホール	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局	市民・大学関係者	約100名

部門・班							
講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
三陸復興部門・農地復興班							
10th International Rangeland Congress	Modeling of radioactive cesium dynamics on Japanese semi-natural grassland	築城 幹典	2016/7/18-22	Teacher's Credit Union Place, Sascatoon, Canada	International Rangeland Congress Organizing Committee	研究者	574名
The 1st UGAS, Iwate University International Symposium, 2016	Species difference and yearly change of radioactive cesium concentration in grasses	築城 幹典	2016/12/17-18	Iwate University	岩手大学連合農学研究科	研究者	106名
The 1st UGAS, Iwate University International Symposium, 2016	Modeling of radioactive cesium dynamics on Japanese semi-natural grassland	築城 幹典	2016/12/17-18	Iwate University	岩手大学連合農学研究科	研究者	106名
システム農学会 2016 年度秋季大会	草地における放射性物質移動に関与する要因	築城 幹典	2016/10/23	東京大学農学部	システム農学会	研究者	約80名
日本草地学会弘前大会	草地における放射性物質動態のモデル化	築城 幹典	2017/3/21	弘前大学	日本草地学会	研究者	約200名
三陸復興部門・園芸振興班							
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017（松嶋 卯月，岡田 益己，加藤 一幾）	三陸の夏の涼しさを生かした夏どりイチゴの栽培とその普及		2016/1/21-22	陸前高田市コミュニティホール	岩手大学・立教大学	復興参画機関・地元住民	
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017（加藤 一幾，松嶋 卯月，岡田 益己，佐藤 和憲）	三陸沿岸地域の農家が受け入れやすい新農業技術とは －早どりカリフラワー栽培普及の事例から－	加藤 一幾	2016/1/21-22	陸前高田市コミュニティホール	岩手大学・立教大学	復興参画機関・地元住民	
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017（松嶋 卯月，岡田 益己，加藤一 幾，折笠 貴寛，佐藤 和憲）	三陸被災地域における園芸振興 －がんちゃんの三陸野菜畑試み－	松嶋 卯月	2016/1/21-22	陸前高田市コミュニティホール	岩手大学・立教大学	復興参画機関・地元住民	
International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agricultural and Biosystems Engineering (Matsushima U, Hiroshi Shono, Masumi Okada, Takahashi M, Ogawa A.)	Rice-chaff and soil composite helps komatsuna (Brassica Rapa Var. Perviridis) survive in a high-concentrated salt solution	松嶋 卯月	2016/4/23-4/25	TOKI MESSE, Nigata Convention Center	JSAM	JSAM members	
SHS Symposium 2163 "Sensing Plant Water Status" (Matsushima, U, Hiroshi Shono, Masumi Okada, Tkahashi M, Ogawa A.)	Relationship between Komatsuna (Brassica rapa var. perviridis) growth and soil moisture characteristics of a rice-chaff and soil composite in a high-concentration salt solution	松嶋 卯月	2016/10/5-7	Universität Potsdam	Institut für Agrartechnik Bornim e.V.	ISHS members	
もみ殻培地セミナー（松嶋 卯月）	もみ殻培地と砂漠のオアシス －灌水・施肥の考え方－	松嶋 卯月	2016/11/6	岩手大学	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構　三陸復興部門　園芸振興班	農家・研究者	
日本農業気象学会 2017 全国大会（岡田 益己，松嶋 卯月，加藤 一幾）	三陸沿岸における早どりカリフラワーの作型と収穫期の年々変動	岡田 益己	2017/3/27-3/30	十和田市	日本農業気象学会	研究者	
日本農業気象学会 2017 全国大会（松嶋 卯月，佐藤 文香，庄野 浩資，岡田 益己，佐藤 和憲）	岩手県北部のホウレンソウ農家がハウスの温度計測に求める要件は何か	松嶋 卯月	2017/3/27-3/30	十和田市	日本農業気象学会	研究者	
平成 28 年度活力ある東北農業を創造するための第 2 回セミナー「クッキングトマトの普及拡大と商品開発を考える」（加藤 一幾）	岩手大学における野菜ブランド化と沿岸と内陸との流通への取組み		2016/10/26	東北農研	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会、農林水産省	農家・研究者	40名
雲南省との農業シンポジウム（加藤 一幾）	三陸沿岸地域の被災農地の土壌改良と園芸振興		2016/11/30	メトロポリタン盛岡	岩手県	行政・研究者	不明
三陸復興部門・農林畜産業復興総合計画班							
平成 28 年度日本造園学会全国大会ミニフォーラム「生態系を基盤とした防災・減災をいかに評価するか」	津波被災地の復興に対する評価：奥尻島と三陸沿岸部を事例に	山本 清龍	2016/5/29	信州大学	日本造園学会	学会参加者	約50名 16:30-18:00
日中韓国際ランドスケープ専門家会議	Visitor Use and Awareness in the Sanriku Reconstruction National Park	山本 清龍	2016/10/29～30	東京大学	日本造園学会	会議参加者	約200名
第 2 回日本観光研究学会東北支部大会（山形県酒田市）	「岩手県釜石市佐須集落における観光資源の発掘」地本 真菜，山本 清龍	山本 清龍	2016/12/18	東北公益文科大学	日本観光研究学会東北支部	学会参加者	約40名
第 2 回日本観光研究学会東北支部大会（山形県酒田市）	「石巻市の復興計画にみる音風景の保全の可能性」佐々木 薫子，山本 清龍	山本 清龍	2016/12/18	東北公益文科大学	日本観光研究学会東北支部	学会参加者	約40名
第 2 回日本観光研究学会東北支部大会（山形県酒田市）	「Web 調査を通した岩手県の酒蔵の情報発信に関する研究」村田 青葉，山本 清龍	山本 清龍	2016/12/18	東北公益文科大学	日本観光研究学会東北支部	学会参加者	約40名
第 2 回日本観光研究学会東北支部大会（山形県酒田市）	「日本人学生の宗教観と外国人旅行者の受入に対する意識の研究」デリシャト＝アブデラハマン，山本 清龍	山本 清龍	2016/12/18	東北公益文科大学	日本観光研究学会東北支部	学会参加者	約40名

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
三陸復興部門・農林畜産業復興総合計画班							
第２回日本観光研究学会東北支部大会（山形県酒田市）	「デジタルデトックスにむけた農村空間の利用可能性に関する研究」 久保 暁子，山本 清龍	山本 清龍	2016/12/18	東北公益文科大学	日本観光研究学会東北支部	学会参加者	約40名
第２回日本観光研究学会東北支部大会（山形県酒田市）	「一戸町の観光資源の把握と観光振興に関する研究」佐藤 太陽，山本 清龍	山本 清龍	2016/12/18	東北公益文科大学	日本観光研究学会東北支部	学会参加者	約40名
第２回日本観光研究学会東北支部大会（山形県酒田市）	「エコツーリズム，グリーン・ツーリズム，観光まちづくりの目的の比較分析」山本 清龍，森重 昌之， 清水 苗穂子，海津 ゆりえ	山本 清龍	2016/12/18	東北公益文科大学	日本観光研究学会東北支部	学会参加者	約40名
第 128 回日本森林学会大会	太平洋沿岸部の住民が認識する海の恵みと脅威－三陸沿岸部と土佐湾沿岸部の比較－	山本 清龍	2017/3/28	鹿児島大学	日本森林学会	学会参加者	約50名（予定）
地域創生部門							
関西ネットワークシステム 第 55 回定例会	復興から地域創生への取組　～イノベーションプラットフォームの INS とともに	今井 潤	2016/12/23	京都学園大学	関西ネットワークシステム	産学官関係者	約200名 基調講演
宮古・室蘭フェリー航路セミナー	パネルディスカッション 宮古・室蘭フェリー航路開設による岩手県への効果	今井 潤	2016/8/26	北上市ホテルシティプラザ	宮古港利用促進協議会	関係企業等	約100名 パネラー
宮古・室蘭フェリー航路セミナー	パネルディスカッション 宮古・室蘭フェリー航路開設による岩手県への効果	今井 潤	2017/1/26	メトロポリタンホテル盛岡 NEWWING	宮古港利用促進協議会	関係企業等	約100名 パネラー
地域活性学会第８回研究大会	産学官連携によるユニークな地域素材の高度な基礎研究を通じた地域活性化及び震災復興	今井 潤	2016/9/3	小布施町役場	地域活性学会	学会関係者	久慈市共同研究員 宮本 幸治
地域活性学会第８回研究大会	産学官連携による地域防災マップ作成を通じた地域活性化－自分たちの地域は自分たちで考える－	今井 潤	2016/9/3	小布施町役場	地域活性学会	学会関係者	八幡平市共同研究員 佐々木 靖人
地域イノベーションセミナー	入居企業活動報告	今井 潤	2016/8/9	MIU	岩手大学	入居企業他	約20名
岩手大学地域連携フォーラム in 盛岡	「まちの価値を向上させる産学官連携」	今井 潤	2016/11/14	MIU	岩手大学・盛岡市	産学官関係者	約90名
岩手大学地域連携フォーラム in 久慈		今井 潤	2017/2/20	久慈グランドホテル	岩手大学・久慈市	産学官関係者	約100名
MIU Café	No. 52「MAKE THAT CHANGE －未来の働き方をつくっていく－」 東北公益文科大学授 平尾 清氏	今井 潤	2016/4/20	MIU	三陸復興・地域創生推進機構	一般、学生	約20名
MIU Café	No.53「就活生必見！ワークショップ・まわしよみ新聞」 岩手日報社 多田 比呂子氏	今井 潤	2016/5/19	MIU	三陸復興・地域創生推進機構・岩手日報社	一般、学生	約12名
MIU Café	No.54「魅力満載のまちづくりを考える～ようこそ ILC ！～」	今井 潤	2016/7/21	MIU	三陸復興・地域創生推進機構・岩手県庁	一般、学生	約30名
MIU Café	No.55　「岩手の日本酒を楽しむ会」	今井 潤	2016/9/28	MIU	三陸復興・地域創生推進機構・岩手県青年醸友会	一般、学生	約80名
MIU Café	No.56「プロジェクトからプログラム、そして」「graf」服部 滋樹トークショー	今井 潤	2016/11/4	MIU	三陸復興・地域創生推進機構	一般、学生	約40名
MIU セミナー	元記者直伝！実践型セミナー「新聞の読み方の流儀」	今井 潤	2016/5/26	MIU	三陸復興・地域創生推進機構・岩手日報社	一般、学生	約12名
MIU Café	No.57 ワークショップ 「盛岡ブランドを考える」 人文社会科学部　五味 壮平氏	今井 潤	2016/11/19	MIU	三陸復興・地域創生推進機構	一般、学生	約30名
MIU Café	No.58 噛下リハビリテーションのための産学連携プロジェクト	今井 潤	2017/3/16	MIU	三陸復興・地域創生推進機構	一般、学生	－
MIU Café	No.59 いわてのカイコ博士・鈴木先生のライフヒストリートーク	今井 潤	2017/3/18	MIU	三陸復興・地域創生推進機構	一般、学生	－
生涯学習部門							
公開講座	教養と実用の英語講座	三浦 勲夫	2016/4/23～ 2017/2/25	岩手大学図書館生涯学習・多目的学習室	岩手大学	一般市民	参加者20名
公開講座	アクティブラーニングと国語科授業	藤井 知弘	2016/5/14～ 2016/10/8	岩手大学総合教育研究棟E24・E25教室　他	岩手大学	小・中学校教員	参加者83名
公開講座	国語科学習における「深い学び」の「具現化」	藤井 知弘	2016/11/26～ 2017/3/11	岩手大学総合教育研究棟E24教室	岩手大学	小・中学校教員	参加者43名
公開講座	インドネシアの音楽と舞踊：ガムラン体験＆レクチャー・デモンストレーション	川口 明子	2016/6/5	岩手大学芸術棟401教室	岩手大学	小・中学生、一般市民	参加者15名

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
生涯学習部門							
公開講座	フィールドセミナー　～春の植物観察会～	澤口 勇雄	2016/6/5	岩手大学滝沢演習林	岩手大学	一般市民、親子	参加者20名
公開講座	フィールドセミナー　～秋の植物観察～	澤口 勇雄	2016/10/2	岩手大学滝沢演習林	岩手大学	一般市民	参加者7名
公開講座	フィールドセミナー　～ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森～	澤口 勇雄	2016/11/13	岩手大学滝沢演習林	岩手大学	一般市民	参加者13名
公開講座	フィールドセミナー　～春をむかえる森をみる～	澤口 勇雄	2017/3/26	岩手大学滝沢演習林	岩手大学	一般市民	参加者15名
公開講座	親から子へ、動物にもある遺伝する病気	山﨑 真大	2016/6/18	岩手大学農学部“ぱらんホール”	岩手大学	中･高校生、一般市民	参加者39名
公開講座	第13回　高校生のための欧米の文学	秋田 淳子	2016/7/2､7/9	岩手大学学生センターB棟GB32講義室	岩手大学	高校生とその関係者	参加者58名
公開講座	地域政策入門　～まちづくりを考える～	内田 浩	2016/7/30	岩手大学図書館生涯学習･多目的学習室	岩手大学	高校生、一般市民	参加者53名
公開講座	農学部５学科（植物生命科学・応用生物化学･森林科学･食料生産環境学･動物科学）の実験講座	木村 賢一	2016/7/2	岩手大学農学部総合教育研究棟(生命系)７番教室	岩手大学	高校生、高校教諭	参加者53名
公開講座	地域を支える防災技術・環境技術	齊藤 貢	2016/8/6	釜石市教育センター５階岩手大学釜石教室	釜石市 岩手大学	一般市民	参加者25名
公開講座	哲学者　内田節氏を迎えての第１１回「哲学の森」	山本 信次	2016/8/20、8/21	岩手大学滝沢演習林	岩手大学	一般市民	参加者40名
公開講座	かんじきをはいて冬の森を歩こう	山本 信次	2017/2/19	岩手大学滝沢演習林	岩手大学	一般市民、親子	参加者21名
公開講座	牧場体験「分娩牛の観察とトラクタ運転体験　～子牛は誕生するかな？～」	千田 広幸	2016/9/17	岩手大学御明神牧場	岩手大学	児童とその保護者	参加者23名
公開講座	牧場ではたらくくるま体験	千田 広幸	2016/11/23	岩手大学御明神牧場	岩手大学	児童･生徒	参加者19名
公開講座	かんじき体験「御明神の山を歩こう」	千田 広幸	2017/3/12	岩手大学御明神牧場	岩手大学	児童･生徒	参加者11名
公開講座	少年少女のための陸上競技	上濱 龍也	2017/1/28、2/4､2/12	岩手大学第一体育館	岩手大学	小学生（中･高学年）	参加者約100名
公開講座	少年少女のためのバスケットボール	栗林 徹	2016/7/27、7/28､7/29	岩手大学第二体育館	岩手大学	小学4年生～6年生の男女	参加者37名
公開講座	がんちゃん中１サッカーリーグ	鎌田 安久	2016/5/16～8/22	岩手医大学運動場･岩手大学球技場	岩手大学	中学1年生の男女	参加者74名
公開講座	コーチのためのサッカーＣ級コース	鎌田 安久	2016/7/30～9/30	岩手大学教育学部E24教室､岩手大学運動場他	岩手大学	指導者を目指す満18歳以上の男女	参加者20名
公開講座	コーチのためのサッカーＤ級コース	鎌田 安久	2017/2/4､2/5	岩手大学教育学部E26教室､岩手大学第一体育館	岩手大学	指導者を目指す満18歳以上の男女	参加者35名
シニアカレッジ	2016年度　岩手大学シニアカレッジ	朴 賢淑, 早川 浩之	2016/9/7～9/13	岩手大学図書館生涯学習･多目的学習室､花巻市各所　他	岩手大学	一般市民	参加者28名
板橋区・岩手大学連携講座	板橋区・岩手大学連携講座	朴 賢淑, 早川 浩之	2016/9/14、10/13､11/29	板橋区立文化会館大会議室	板橋区 岩手大学	一般市民	第1回:130名 第2回:137名 第3回:134名
釜石市・岩手大学生涯学習講座	釜石市・岩手大学生涯学習講座	朴 賢淑, 及川 幸史	2016/8/6、10/29､11/12	第1回:釜石市教育センター5階岩手大学釜石教室 第2回:岩手大学釜石サテライト 第3回:岩手大学図書館生涯学習･多目的学習室	釜石市 岩手大学	一般市民	第1回:25名 第2回:16名 第3回:13名
がんちゃんの学び	がんちゃんの学び　―大人が学ぶことの意義―	朴 賢淑	2016/5/18～7/6	岩手大学図書館生涯学習･多目的学習室	岩手大学	一般市民	参加人数15名
社会人学び直しプログラム	「自分の強みを生かす！」キャリアプランニングセミナー	朴 賢淑, 中島 有里	2017/1/27	岩手大学図書館生涯学習･多目的学習室	岩手大学	一般市民	参加者8名
東北教育学会74回大会自由報告	成人学習者が大学で学ぶことの意義―岩手大学を事例にして―	朴 賢淑	2017/3/5	東北大学	東北大学大学院教育学研究科	研究者	70名
岩手大学宮澤賢治センター第92回定例研究会（研究発表）	童話「毒もみのすきな署長さん」と謡曲「鵜飼」	田中 成行	2016/9/29	岩手大学	岩手大学 宮澤賢治センター	一般	参加者32名

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
生涯学習部門							
岩手大学宮澤賢治センター第 90～93 回定例研究会（司会）		大野 眞男	第90回：2016/5/18 第91回：2016/7/2 第92回：2016/9/29 第93回：2017/1/2	岩手大学	岩手大学 宮澤賢治センター	一般	参加者30名（平均）
岩手大学地域創生フォーラム（報告・パネリスト）	賢治と語り合う 21 世紀の地域創生 第一部「イーハトーブからのメッセージ―賢治と岩手大学―」	大野 眞男，山本 昭彦	2016/12/10	日比谷図書文化館	岩手大学	一般	参加者185名
岩手大学地域創生フォーラム（パネリスト）	賢治と語り合う 21 世紀の地域創生 ―盛岡フォーラム―	大野 眞男，山本 昭彦	2017/3/18	岩手大学	岩手大学	一般	参加者50名
（宮沢賢治生誕 120 年記念）第 4 回宮沢賢治国際研究大会（シンポジウム司会）	シンポジウム「イーハトーブは今どこにあるのか」	山本 昭彦	2016/8/28	なはんプラザ花巻	宮沢賢治学会 イーハトーブセンター	学会員、一般	参加者230名
（宮沢賢治生誕 120 年記念）第 4 回宮沢賢治国際研究大会（研究発表）	共振する世界としてのイーハトーブ―オノマトペの唱題的効果に根ざした「法華文学ノ創作」をめぐって――	木村 直弘	2016/8/28	ホテルグランシェール花巻	宮沢賢治学会 イーハトーブセンター	学会員、一般	参加者230名
全国大学書道学会平成 28 年度（岩手）大会（記念講演）	〈摩擦の劇〔ドラマ〕〉としての宮澤賢治童話――井上有一との接点をめぐって――	木村 直弘	2016/9/25	岩手大学	全国大学書道学会	学会員他	参加者60名
ものづくり技術教育研究部門							
表面技術協会第 134 回講演大会	PEFC 用ステンレス鋼製セパレータの開発		2016/9/2	東北大学	表面技術協会		依頼講演
表面技術協会第 134 回講演大会	フッ化水素酸を用いないニオブの電解研磨法探索		2016/9/1	東北大学	表面技術協会		
Prime2016	Development of new electrolytes for electropolishing of niobium		2016/10/4	Hawaii	The electrochemical Society		
Prime2016	Single cell performance of PEFC using the surface-treated stainless steel bipolar plate		2016/10/4	Hawaii	The electrochemical Society		
成形加工シンポジア '16	PFA 成形用 Co-Ni 合金の機械的摩耗に及ぼす減面率の影響		2016/10/26-27	仙台国際センター	社）プラスチック成形加工学会	学会会員	
Applied technology & Science workshop	Development of the plasticizatin device having corrosion resistance and wear resistance for fluoro-resin molding		2016/10/31-11/1	Hanbat National University	Hanbat National University	Cooperation members	
岩手大学工学部　機械システム工学科　平成 28 年度卒業研究発表会	熱硬化性新材料を用いた射出成形解析による光学レンズ成形についての基礎的研究		2017/2/13	岩手大学工学部	岩手大学工学部 機械システム工学科	学科教員・学生	約30名 発表者： 藤田 祥悟（学部４年）
日本機械学会 2016 年度年次大会	直接シミュレーションによる接触状態と統計解析の比較（正規分布等方性表面の場合）		2016/9/12	九州大学	日本機械学会	学会員	
日本非破壊検査協会平成 28 年度秋季講演大会	自動車用ダイクエンチ鋼板の磁気ヒステリシス計測による非破壊硬度推定		2016/10/6	ハーネル仙台	日本非破壊検査協会	学会の会員	
第 25 回 MAGDA コンファレンス	自動車用亜鉛めっき鋼板を用いたダイクエンチ製品の磁気ヒステリシス計測による品質評価		2016/11/25	桐生市民文化会館	日本AEM学会	学会の会員	
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	高 Mn 片状黒鉛鋳鉄の接種効果の減衰		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	CE 値の異なる片状黒鉛鋳鉄の機械的性質に及ぼすアンチモン添加の影響		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	片状黒鉛鋳鉄の組織と機械的性質に及ぼす Mn、Sn 添加の影響		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	希土類元素を接種した片状黒鉛鋳鉄の黒鉛化と機械的性質		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	鋳鉄の被削性に及ぼす材質の影響		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	片状黒鉛鋳鉄の疲労強度に及ぼす鋳肌性状の影響		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	リンゴ搾りカスで製造したバイオコークスのこしき炉溶解		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	接種と合金元素添加によるキュポラ溶解の炉前での材質変更		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名
日本鋳造工学会第 168 回全国大会	ランクサイド法で作製した SiCP/Al 合金複合材料の諸特性に及ぼす Mg 添加量の影響		2016/9/24	高知市文化プラザ	日本鋳造工学会	鋳造関係者	約400名

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
ものづくり技術教育研究部門							
第 93 回鋳造技術部会	Mn,Sb 添加による高 CE 値片状黒鉛鋳鉄の高強度・高硬度化		2016/7/26	ホテルシティプラザ北上	日本鋳造工学会東北支部	鋳造工学会会員	27名
平成 28 年度第 2 回ものづくり研究棟鋳造講習会	合金元素添加による片状黒鉛鋳鉄の高強度化・高硬度化		2016/10/28	岩手大学ものづくり研究棟	地域イノベーション戦略支援プログラム	東北地区鋳造企業等	29名
平成 28 年度第 3 回ものづくり研究棟鋳造講習会	低レアアース球状化処理剤を用いた球状黒鉛鋳鉄の材質とひけ性		2017/1/27	岩手大学ものづくり研究棟	地域イノベーション戦略支援プログラム	東北地区鋳造企業等	21名
第 94 回鋳造技術部会	低ランタン処理剤による球状黒鉛鋳鉄の機械的性質とひけ性		2017/2/28	山形国際ホテル	日本鋳造工学会東北支部	鋳造工学会会員	40名
61st Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials	Non-Spherical Magnetic Particle Orientation Inside Magnetic Composites In Thermoforming		2016/11/3	New Orleans, Louisiana, U.S.A.	AIP, IEEE		
計測自動制御学会東北支部第 301 回研究集会	蔵本モデルに基づく同期温度制御方式に関する研究		2016/5/23	岩手大学	計測自動制御学会		
電気関係学会東北支部連合大会	電波吸収体用複合材料におけるマイクロ波帯誘電率の電磁波入射電力依存性		2016/8/31	東北工業大学	電気学会, 電子情報通信学会, 照明学会, IEEE等		
電気関係学会東北支部連合大会	同軸管法を用いる誘電率測定からの媒質不均質性評価		2016/8/31	東北工業大学	電気学会, 電子情報通信学会, 照明学会, IEEE等		
日本磁気学会学術講演会	可塑性樹脂／磁性破砕粒子複合材料成形過程における配向性付与の可能性		2016/9/5	金沢大学	日本磁気学会		
第 71 回応用物理学会東北支部学術講演会	ザゼンソウの発熱量への移動水分量の影響		2016/12/1	東北大学	応用物理学会		
第 71 回応用物理学会東北支部学術講演会	ZnO 単結晶基板の熱処理効果の PL による評価		2016/12/1	東北大学	応用物理学会		
第 71 回応用物理学会東北支部学術講演会	ZnO 単結晶の光導電特性に及ぼす熱処理の影響		2016/12/1	東北大学	応用物理学会		
第 64 回応用物理学会春季学術講演会	ZnO 光導電型 UV センサと YAP:Ce シンチレータの組み合わせによる放射線の検出		2017/3/16	パシフィコ横浜	応用物理学会		
第 64 回応用物理学会春季学術講演会	スパッタ法による単結晶 NdGaO3 基板上への非極性 ZnO 薄膜の作製		2017/3/16	パシフィコ横浜	応用物理学会		
第 64 回応用物理学会春季学術講演会	過酸化水素処理を施した酸化亜鉛単結晶の光導電特性		2017/3/16	パシフィコ横浜	応用物理学会		
平成 29 年電気学会全国大会	高周波帯材料定数測定用配向性磁性複合材料試作と磁性粒子内反磁界係数推定		2017/3/16	富山大学	電気学会		
The 2ed International Symposium on Synthetic Two—Dimensional Polymers	In-situ Observation of Thin Film Growth of Organic Semiconductors by 2D-Xray Diffraction		2016/6/2-4				
The 18th International Conference on Crystal Growth and Epitaxy	Effects of alkyl-chain lengths on thin film growth of α , ω -quaterthiophene derivatives observed by in-situ two-dmensional X-ray diffraction		2016/8/7-12	Nagoya, Japan			
KJF International Conference of Organic Materials for Electronics and Photonics 2016	Effects of Alkyl-Chain Length of・・・-Quaterthiophenes Derivatives on Thin-Film Structure and Transport Properties		2016/9/4-7	Fukuoka (Japan)			
日本学術振興会第 161 委員会	２次元 X 線回折法による有機半導体薄膜の結晶成長その場観察		2016/7/1				
第 13 回 SPring-8 産業利用報告会	in-situ 2D-GIXD によるオリゴチオフェンの結晶構造に及ぼすアルキル鎖長の効果の解明		2016/9/7-8	兵庫県民会館			
第 77 回応用物理学会秋期学術講演会	クォーターチオフェン誘導体薄膜の構造と輸送特性に及ぼすアルキル鎖長の偶奇効果		2016/9/13-16	朱鷺メッセ			
2016 年電子情報通信学会ソサエティ大会	In-situ ２次元 X 線回折による有機半導体薄膜成長過程の構造評価		2016/9/20-23	北海道大学			
日本結晶学会平成 28 年度年会	２次元 X 線回折法による成膜中の有機半導体薄膜の構造解析		2016/11/17	茨城県立県民文化センター			
Slit-J ワークショップ	放射光を利用した有機半導体薄膜成膜中の構造解析		2016/12/13-14	東北大学			
第 64 回応用物理学会春季学術講演会	アルキル鎖をもつ有機半導体の薄膜成長初期過程の温度依存性		2017/3/14-17	パシフィコ横浜			
第 93 回 2016 年度春季低温工学・超電導学会	スプリットコイルを用いた MgB2 バルクのパルス着磁による捕捉磁場 1.1 T の実現		2016/5/30	タワーホール船堀			

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
ものづくり技術教育研究部門							
第 93 回 2016 年度春季低温工学・超電導学会	Infiltration 法による MgB2 バルクの作製条件の最適化		2016/5/30	タワーホール船堀			
第 93 回 2016 年度春季低温工学・超電導学会	バッファー層を用いた YBCO 超電導バルクの作製とその特性評価		2016/5/30	タワーホール船堀			
第 93 回 2016 年度春季低温工学・超電導学会	ソレノイド型とスプリット型コイルを用いた超電導バルクのパルス着磁とシミュレーション		2016/5/30	タワーホール船堀			
第 93 回 2016 年度春季低温工学・超電導学会	チタン族元素を高ドープした MgB2 バルクの捕捉磁場特性		2016/5/30	タワーホール船堀			
2016 Applied Superconductivity Conference	Suppression of flux jumps and enhancement of trapped field on high-Jc MgB2 bulk using split-type coil with soft iron yoke during pulsed field magnetization		2016/9/8	Denver, USA			
2016 Applied Superconductivity Conference	Optimization of infiltration and reaction process for the fabrication of strong MgB2 bulk magnets		2016/9/8	Denver, USA			
2016 Applied Superconductivity Conference	Pulsed-field magnetizing characteristics of rectangular-shaped Gd-Ba-Cu-O bulk using split- and solenoid-type coils		2016/9/6	Denver, USA			
2016 Applied Superconductivity Conference	Mechanism of vortex pinning in MgB2 bulk heavily doped with titanium group elements (TGEs)		2016/9/8	Denver, USA			
2016 Applied Superconductivity Conference	Enhanced trapped field performance of bulk high-temperature superconductors using split coil, pulsed field magnetization with an iron core		2016/9/5	Denver, USA			
2016 Applied Superconductivity Conference	Pulsed field magnetization of a 0o-0o bridge-seeded bulk YBCO using solenoid and split coil		2016/9/6	Denver, USA			
第 77 回応用物理学会秋季学術講演会	浸透法で作製した MgB2 バルク超伝導体の磁束ピン止め特性 II		2016/9/14	朱鷺メッセ(新潟市)			
第 77 回応用物理学会秋季学術講演会	高温薄膜熱電特性評価装置の開発 III		2016/9/14	朱鷺メッセ(新潟市)			
第 77 回応用物理学会秋季学術講演会	PLD 法による Bi1-xSrxCuSeO 系薄膜の作製と熱電特性		2016/9/14	朱鷺メッセ(新潟市)			
1st Asian ICMC - CSSJ 50th Anniversary Conference	Recent advances in modelling pulsed field magnetization of bulk high-temperature superconductors		2016/11	Kanazawa			
1st Asian ICMC - CSSJ 50th Anniversary Conference	Challenge to the higher magnetic field of the high temperature superconducting bulk magnet for NMR		2016/11	Kanazawa			
1st Asian ICMC - CSSJ 50th Anniversary Conference	Trapped field properties of a RE-Ba-Cu-O bulk using pulsed field magnetization with a split coil with iron yokes of various geometries and magnetic properties		2016/11	Kanazawa			
1st Asian ICMC - CSSJ 50th Anniversary Conference	Simulation Studies of Mechanical Stress in REBaCuO Superconducting Bulk Ring with Finite Thickness during Field Cooled Magnetization		2016/11	Kanazawa			
29th International Superconductivity Symposium	Trapped field properties of MgB2 superconducting bulks magnetized by field-cooled and pulsed field magnetizations		2016/12/15	Tokyo			
第 64 回応用物理学会春季学術講演会	PLD 法による Bi1-xSrxCuSeO 系薄膜の作製と熱電特性 II		2017/3/16	パシフィコ横浜（横浜市）			
日本物理学会第 72 回年次大会	(Pr1−yYy)1−xCaxCoO3 で発現する金属絶縁体－スピン状態同時転移に対する強磁性金属による Co サイト置換効果		2017/3/18	大阪大学豊中キャンパス(大阪府豊中市)			
日本物理学会第 72 回年次大会	MgB2 バルク超伝導体の磁束ピン止め特性に対する微細化効果		2017/3/20	大阪大学豊中キャンパス(大阪府豊中市)			
International Seminar on Application of Materials Science and Energy Materials	Effects of Polymeric Dielectric Morphology on Pentacene Morphology and Organic TFT Characteristics		2016/5/28-29	Shanghai, China			

部門・班							
講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
ものづくり技術教育研究部門							
The 3rd Conference on Sensors and Networks	Temperature dependence of electrical properties of organic thin film transistors based on pn heterojuction and their applications in temperature sensors		2016/5/29-31	Nanjing, China			
18th International Meeting on Lithium Batteries	Electrochemical Properties of Amorphous Nb2O5 Thin Film and Its Application to Rechargeable Thin Film Lithium Ion Batteries		2016/6/19-24	Chicago, USA			
18th International Meeting on Lithium Batteries	Nanoporous Anodic TiO2-TiO-TiN Composite Films with Enhanced Capacity As Anode Materials for Lithium Ion Batteries,		2016/6/19-24	Chicago, USA			
67th Annual Meeting of the International Society of Electrochemistry	Fabrication and characterization of LiCoO2 thin films for flexible thin film lithium ion batteries		2016/8/21-26	Hague, Netherland			
67th Annual Meeting of the International Society of Electrochemistry	Tailored Fabrication and Fretting Corrosion Resistance of Nano-laminated Sn/Ag3Sn (/Ag) Films Electrodeposited on Cu Alloy Plates for Electrical Connectors		2016/8/21-26	Hague, Netherland			
応用物理学会東北支部第 71 回学術講演会	DH- α 6T 準単分子膜による F16CuPc 薄膜の結晶性の向上		2016/12/1-2	東北大学			
応用物理学会東北支部第 71 回学術講演会	ZnO ナノ構造の製作及び評価		2016/12/1-2	東北大学			
日本物理学会 2016 秋季大会	遷移金属 Ru(0001) 表面上のグラフェン：貴金属原子 Au の挿入によるバンドギャップ形成		2016/9-13-16	金沢大学			
第 46 回ナノ・バイオテクノロジー研究会	自己組織単分子膜による有機デバイスの特性制御		2016/7/19	名古屋工業大学	名古屋工業大学生命・応用化学科		
日本物理学会 2016 年秋季大会	自己組織化単分子膜と分子吸着を用いた数層グラフェンの電子状態制御		2016/9/15	宮崎大学	日本物理学会		共同研究者より発表
平成 28 年度化学系学協会東北大会	Synthesis and Application for Organic Electronic Devices of Silane-Terminated Donor Type Self-Assembled Molecules		2016/9/10	いわき明星大学	日本化学会東北支部		共同研究者より発表
第 77 回応用物理学会秋季学術講演会	動作点から見た二層型有機 EL 素子の電子電流の見積もり		2016/9/13	朱鷺メッセ	応用物理学会		共同研究者より発表
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2017	岩大生産技術研究センターの活動事例紹介		2017/1/21	陸前高田市コミュニティホール	岩手大学、立教大学		
日本化学会第 97 春季年会	Synthesis and properties of π -extended bent-shaped donor molecules and their application to organic semiconductor		2017/3/17	慶應義塾大学	日本化学会		共同研究者より発表
日本物理学会第 72 回年次大会	自己組織化単分子膜と吸着分子を用いた 2 層グラフェンのバンドギャップ制御		2017/3/17	大阪大学	日本物理学会		共同研究者より発表
平成 28 年度化学系学協会東北大会	Synthesis and Characterization of Spiro-type Oligothiophene Derivatives Functionalized with Aryl Groups		2016/9/10	いわき明星大学	日本化学会東北支部	学会参加者	
平成 28 年度化学系学協会東北大会	Synthesis and Characterization ofAryl-functionalized Dibenzothienotetrathiophene Derivatives		2016/9/11	いわき明星大学	日本化学会東北支部	学会参加者	
第 27 回基礎有機化学討論会	含窒素複素芳香環をコアユニットに用いた星型 D- π -A 分子の合成と物性		2016/9/2	広島国際会議場	基礎有機化学会	学会参加者	
第 43 回有機典型元素化学討論会	金属イオン認識部位を導入したトリチエニルトリアジン誘導体の合成と蛍光センシング特性		2016/12/9	仙台市民会館	第43回有機典型元素化学討論会実行委員会	学会参加者	
日本化学会第 97 春季年会	電子供与基で修飾した 2,4,6- トリ (5- アリール -2- チエニル)-1,3,5- トリアジン誘導体の合成及び物性		2016/3/17	慶應義塾大学 日吉キャンパス	公益社団法人 日本化学会	学会参加者	
日本化学会第 97 春季年会	Synthesis and Characterization of Fused-type Oligothiophene Derivatives with a Heterole Core		2016/3/17	慶應義塾大学 日吉キャンパス	公益社団法人 日本化学会	学会参加者	
日本画像学会技術研究会	サーマルヘッド用発熱体の基礎と応用		2016/7/6	日本印刷会館	日本画像学会サーマル記録技術部会	会員、一般	44名
平成 28 年度化学系学協会東北大会	Preparation of hydroxyapatite containing peptide compounds modeled on biomineralization		2016/9/10-11	いわき明星大学			

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
ものづくり技術教育研究部門							
平成 28 年度化学系学協会東北大会	Crystal structure and photoluminescence properties of tris (2,2’ -bipyridinate) ruthenium complex		2016/9/10-11	いわき明星大学			
電子情報通信学会ソサエティ大会	レイトレース法と TCM を用いた MIMO チャネル容量の解析	佐々木 穂, 本間 尚樹, 今野 佳祐, 陳 強, 恒川 佳隆	2016/9/21	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	Full-Duplex 自己干渉抑圧に適した回転対称アレーアンテナ	経沢 正邦, 本間 尚樹, 高橋 和弥, 西森 健太郎	2016/9/20	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	過去のチャネル情報に基づくヌルビームフォーミングの Full-Duplex 端末間干渉抑圧効果	樫野 雄太, 本間 尚樹, 経沢 正邦, 西森 健太郎, 恒川 佳隆	2016/9/21	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	マイクロ波心拍検出に適した MIMO アンテナ配置の検討	米澤 真也, 本間 尚樹, 西森 健太郎 , 恒川 佳隆	2016/9/20	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	MIMO レーダを用いた高さと RCS による生体状態推定	笹川 大, 本間 尚樹, 中山 武司, 飯塚 翔一	2016/9/20	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	無給電アンテナを用いた生体方向推定レーダの実験的評価	佐々木 克海, 米澤 真也, 本間 尚樹, 中村 武司, 飯塚 翔一	2016/9/20	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	3 素子アレーを用いた実ビーコン RSSI による DOD 推定	田澤 遼太, 本間 尚樹, 三浦 淳, 南澤 博仁	2016/9/21	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	MIMO センサを用いた到来方向と相関変動の基礎検討	佐藤 健斗, 西森 健太郎, 中山 弘貴, 本間 尚樹, 牧野 秀夫	2016/9/20	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	シーケンシャルアレーを用いたアナログ OAM 伝送法の実験的評価	本間 尚樹, 村田 健太郎, 関 竜哉, 佐々木 穂, 道下 尚文, 西森 健太郎, 森下 久, 恒川 佳隆	2016/9/21	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	FDTD 方と圧縮センシングを用いた伝搬路推定の空間サンプル数特性	小松 知滉, 本間 尚樹, 恒川 佳隆	2016/9/20	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	小形 MIMO アンテナ評価に適した反響チャンバサイズ特性評価	関 竜哉, 本間 尚樹, 恒川 佳隆	2016/9/20	北海道大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	MIMO アンテナ複素指向性を考慮したレイトレース解析の精度評価	本間 尚樹, 恒川 佳隆	2017/3/25	名城大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	MIMO レーダにより検出した高さと RCS 情報を用いた行動推定法	笹川 大, 本間 尚樹, 中山 武司, 飯塚 翔一	2017/3/24	名城大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	Parasitically-Controlled Rotationally-Symmetrical Array for Self-Interference Reduction in Full-Duplex MIMO	Masakuni Tsunezawa, Naoki Honma, Kazuya Takahashi, Kentaro Nishimori	2017/3/22	名城大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	アレーアンテナを用いた生体信号発生部位の評価	岸本 一真, 米澤 真也, 白木 信之, 笹川 大, 本間 尚樹	2017/3/24	名城大学	電子情報通信学会	学会会員	

部門・班							
講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
ものづくり技術教育研究部門							
電子情報通信学会ソサエティ大会	エンドファイア配置を利用したMIMOFull-DuplexシステムにおけるアップリンクBER特性の実験的評価	平安名 翔大郎, 山本 芳之, 経沢 正邦, 本間 尚樹, 西森 健太郎	2017/3/25	名城大学	電子情報通信学会	学会会員	
電子情報通信学会ソサエティ大会	RSSIのみを用いたビーコン測位システムの自動校正法	菊地 幸汰, 田澤 遼太, 本間 尚樹, 三浦 淳, 南澤 博仁	2017/3/22	名城大学	電子情報通信学会	学会会員	
三陸水産教育研究部門							
東京大学海洋アライアンス海洋問題演習	場の利用という視点から見た岩手県における水産業の特徴と東日本大震災からの復興	後藤 友明	2016/5/2	東京大学	東京大学	学生	約50名
南限のサケ研究　－地域性に基づく新たな生物資源像－	三陸におけるアキサケ漁業の現状と問題点	後藤 友明	2016/7/22	東京大学大気海洋研究所	東京大学大気海洋研究所	研究者等	約50名
東北マリンサイエンス拠点形成事業全体会議	東日本大震災前後の大槌湾砂浜域における魚類群集の動向	後藤 友明	2016/6/3 2016/6/4	東北大学	東北マリンサイエンス拠点形成事業	研究者等	約300名
日本水産学会秋季大会	東日本大震災前後の大槌湾砂浜域における魚類群集の特性	後藤 友明	2016/9/8 2016/9/11	近畿大学	日本水産学会	研究者等	約500名
日本水産学会北海道・東北合同支部大会	岩手県沿岸ふ化場におけるサケ人工種苗生産の特徴	後藤 友明	2016/10/22 2016/10/23	北海道大学	日本水産学会	研究者等	約100名
日本水産学会北海道・東北合同支部大会	マコガレイ集団におけるミトコンドリアDNAのハプロタイプ分類について	後藤 友明	2016/10/22 2016/10/23	北海道大学	日本水産学会	研究者等	約100名
水産海洋学会ナイトセッション	水産試験研究機関と現場との関わり－漁業無線を活用した調査結果の現場への情報提供－	後藤 友明	2016/11/24 2016/11/25	東京海洋大学	水産海洋学会	研究者等	約50名
水産海洋学会宇田賞記念講演	岩手県の沿岸漁業における東日本大震災からの復旧・復興に関する研究	後藤 友明	2016/11/24 2016/11/25	東京海洋大学	水産海洋学会	研究者等	約300名
久慈の漁船漁業高鮮度水産物を用いた６次産業化に向けた勉強会	マダラの資源状態と価格動向	後藤 友明	2016/12/17	久慈市漁業協同組合	岩手大学三陸水産研究センターほか	漁業者、漁協・魚市場職員等	約50名
浜の担い手体験講座	水産業の魅力と釜石の漁業	後藤 友明	2017/2/10	岩手大学釜石サテライト	岩手県	漁業体験者	約10名
東北マリンセミナー	岩手県の漁業における東日本大震災からの復興の現状と課題	後藤 友明	2017/3/13	TKPガーデンシティ仙台	東北水産業復興研究会	市民	約200名
安家川河川環境調査報告会	安家川を知ろう！	後藤 友明	2017/2/27	安家町立安家小中学校	岩手大学三陸水産研究センター	小学生、市民	約20名
東北ブロック底魚研究会議	大槌湾奥砂浜域の魚類相にみられた東日本大震災後の変遷	後藤 友明	2017/3/7 2017/3/8	八戸市商工会議所	水産研究・教育機構東北区水産研究所	研究者等	約100名
日本水産学会春季大会	岩手県沿岸におけるシロザケ増殖事業の特徴	後藤 友明	2017/3/26 2017/3/30	東京海洋大学	日本水産学会	研究者等	約1000名
日本水産学会春季大会	FishBase日本拠点形成とSANRIKU FishBaseプロジェクト	後藤 友明	2017/3/26 2017/3/30	東京海洋大学	日本水産学会	研究者等	約1000名
第10回サケ学研究会	高水温馴致飼育したシロザケ幼魚筋肉のプロテオミクス	佐藤 琢哉	2016/7/23	北海道大学	サケ学研究会	研究者	約50名
第63回日本食品科学工学会大会	三陸沿岸産褐藻アカモクから調製したフコキサンチン素材の理化学的特性	三浦 靖	2016/8/27	名城大学天白キャンパス	日本食品化学工学会	学会員, 一般	
第64回レオロジー討論会	固体膨化食品の泡沫構造が塩味の知覚に及ぼす影響	三浦 靖	2016/10/29	大阪大学豊中キャンパス	一般社団法人日本レオロジー学会	学会員, 一般	
第43回食品物性に関するシンポジウム	減圧乾燥時の圧力によって物性を制御した新たな乾燥食品の創製	森川 卓哉	2016/9/1	広島アステールプラザ	食品物性シンポジウム運営委員会	学会員, 一般	
平成28年度海洋研究者交流会	新たな減塩加工食品の開発と水産加工品への適用	森川 卓哉	2016/9/26	岩手大学釜石サテライト	岩手大学	研究者	
第64回レオロジー討論会	固体膨化食品の泡沫構造が塩味の知覚に及ぼす影響	森川 卓哉	2016/10/29	大阪大学豊中キャンパス	一般社団法人日本レオロジー学会	学会員, 一般	
国際漁業経済学会（Institute of Fishery Economics and Trade)	Economic Challenges of Post-Tsunami Reconstruction and Redevelopment: A case study of the recovery of longline fisheries and associated industry clusters from the 2011 Great Tohoku Earthquake/Tsunami	石村 学志	2017/3/23	Scotland, UK	国際漁業経済学会(Institute of Fishery Economics and Trade)	研究者	約70名 13時,15時 2回講演
北アメリカ漁業経済学会（North America Association of Fishery Economics)	Challenges of the “Sixth Sector Industrialization” policy in Japanese fishery	石村 学志	2017/3/22	La paz、Mexico	北アメリカ漁業経済学会(North America Association of Fishery Economics)	研究者	

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
三陸水産教育研究部門							
北アメリカ漁業経済学会（North America Association of Fishery Economics)	Exploring optimum economic efficiency of fishing:Shall we move from the tradition in the post-tsunami fishery?	石村 学志	2017/3/23	La paz、Mexico	北アメリカ漁業経済学会 (North America Association of Fishery Economics)	研究者	
日本水産学会	水産技術者倫理教育の可能性：システムの公共性と 技術者の社会的責任を起点として	石村学志	2017/3/29	東京	日本水産学会	研究者	
日本水産学会	六次産業化における 漁業独自の課題抽出と理論構築： 三陸漁業での社会実装探求	石村 学志	2017/3/30	東京	日本水産学会	研究者	
Swordfish Festival	Importance of Shark Fishery in Japan	石村 学志	2016/6/20	Vigo, Spain	スペイン延縄漁業協会	研究者	
Marine Stewardship Council, Satkeholder Council	Large Scale Set-Net Operation: How can we evaluate “sustainability?”	石村 学志	2016/11/8	パリ、インドネシア	MSC	研究者	
Building Ocean Health:	Building Sustainability and Resilience for Post-tsunami Longlone Fisheries	石村 学志	2016/12/8	韓国、ソウル	韓国水産海洋省	官僚	
Sharing experiences to move towards sustainable fisheries management	How rebuild Sustainability and Resilience in fishery after the Post-the devastating 2011 tsunami and earthquake- a case of the Kesennuma longline fishery	石村 学志	2016/11/30	中国 北京	中国農業局・中国水産学会	官僚、研究者	
高多型性マイクロサテライトDNA マーカーによる三陸岩手のサケの遺伝特性		塚越 英晴, 照井 沙友里, 阿部 周一	2016/7/23	北海道大学国際本部	サケ学研究会	研究者	約50名
高水温馴致飼育したシロザケ幼魚筋肉のプロテオミクス		佐藤 琢哉, 山下 哲郎, 塚越 英晴, 平井 俊朗, 阿部 周一	2016/7/23	北海道大学国際本部	サケ学研究会	研究者	約50名
三陸岩手のサケの遺伝特性分析		塚越 英晴, 照井 沙友里, 阿部 周一, 小川 元, 佐藤 俊平	2017/3/29	東京海洋大学品川キャンパス	日本水産学会	研究者	約500名
遺伝子から見た岩手のサケ類について		塚越 英晴	2016/4/23	宮古市市民会館	岩手大学, 東京海洋大学, 北里大学	漁業関係者, 行政教育機関, 一般者	約100名
三陸岩手のサケの遺伝的特徴		塚越 英晴	2016/7/1	エスポワールいわて	さーもん・かふぇ実行委員会	漁業関係者, 行政教育機関, 一般者	約100名
平成 29 年度日本水産学会春季大会	P-1495 魚食消費拡大のために新規ねり製品（魚麺）の開発	○袁 春紅（岩大農), 田元 勇（大連海洋大), 森川 卓哉, 田村 直司（岩大三陸水研セ), 三浦 靖, 田中 教幸（岩大農）	2017/3/29	東京海洋大学	日本水産学会	学会員	
第 8 回国際魚類内分泌学シンポジウム	Chronic administration of cortisol induces gonadal masculinization in common carp	平井 俊朗	2016/6/28 2016/7/2	Gothenburg, Sweden	International Society for Fish Endocrinology ISFE	研究者	
第 8 回国際魚類内分泌学シンポジウム	Expression patterns of sex differentiation-related genes during gonadal sex change in the protogynous wrasse, Halichoeres trimaculatus.	平井 俊朗	2016/6/28 2016/7/2	Gothenburg, Sweden	International Society for Fish Endocrinology ISFE	研究者	
第 41 回日本比較内分泌学会大及びシンポジウム	コイの体成長に相関する雌卵巣発達段階と性的可塑性の関連性	平井 俊朗	2016/12/9 2016/12/11	北里大学, 相模原	日本比較内分泌学会	研究者	
第 41 回日本比較内分泌学会大及びシンポジウム	コルチゾールおよび高温によるコイの雄化に関する研究	平井 俊朗	2016/12/9 2016/12/11	北里大学, 相模原	日本比較内分泌学会	研究者	
第 41 回日本比較内分泌学会大及びシンポジウム	メダカにおける生殖腺刺激ホルモンの役割	平井 俊朗	2016/12/9 2016/12/11	北里大学, 相模原	日本比較内分泌学会	研究者	
平成 29 年度日本水産学会春季大会	ギンブナ造血器官に及ぼす放射線の影響 －飼育実験による低線量放射性セシウム長期曝露影響の組織学的検証－	平井 俊朗	2017/3/26 2017/3/30	東京海洋大学, 品川	日本水産学会	研究者	シンポジウム「福島の淡水域における放射能汚染と魚類に及ぼす影響：これまでとこれから」企画責任・発表

部門・班							
	講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
三陸水産教育研究部門								
	平成 29 年度日本水産学会春季大会	重油浸漬によるヒラメ稚魚の高温耐性ならびに鰓および肝組織への影響	平井 俊朗	2017/3/26 2017/3/30	東京海洋大学, 品川	日本水産学会	研究者	
	安家川河川調査報告会	ヤマメの遺伝解析結果	北村 志乃	2017/2/27	安家川小中学校	岩手大学三陸水産研究センター	水産関係者、一般市民	
	平成 29 年度日本水産学会春季大会	遡上全期にわたるシロザケの網羅的遺伝特性解析	北村 志乃	2016/3/26-30	東京海洋大学品川キャンパス	日本水産学会	学会員	約1000名
	さーもん・かふぇ 2016	サケ加工利用への今後の取り組み	袁 春紅	2016年 7月1～2日	盛岡	サケ研究会	サケ関連研究者	
	招待講師	水産物の鮮度維持と筋肉タンパク質の生化学特性および季節変化	袁 春紅	2017/1/10	寧波大学	寧波大学海洋学部	大学教員学生	約60名
	招待講師	日本食育の推進活動の背景と現状	袁 春紅	2016/5/26	上海海洋大学	上海海洋大学	大学教員学生	約50名
	2017 年春季水産学会講演者	魚食消費拡大のために新規ねり製品（魚麺）の開発	袁 春紅	2017/3/29	東京海洋大学	日本水産学会	水産研究者	約50名
地域防災教育研究部門								
	一関市防災フォーラム	地域と共に創りあげる土砂災害からの減災を目指して	井良沢 道也	2017/3/25		一関市	協議会参加者・市民	
	内閣府主催「地区防災計画フォーラム（2017.3.25 名古屋市)」	平成 28 年度の活動報告	井良沢 道也	2017/3/25	名古屋市	内閣府	シンポジウム参加者・市民	
	台風 10 号災害報告会	～ 2016 年 8 月 30 日台風 10 号による岩手県岩泉町及び宮古市における土砂災害～	井良沢 道也	2016/10/15	岩手大学	岩手大学地域防災研究センター	シンポジウム参加者・市民	
	平成 28 年度　砂防学会研究発表会	土砂災害から高齢者を守る～岩手県内の要配慮者利用施設における土砂災害の警戒避難体制のあり方	井良沢 道也	2016/5/18～ 20	富山市	砂防学会	学会参加者	
		DEM を用いた遷急線の自動抽出の試み	井良沢 道也				学会参加者	
		2013年8月9日秋田・岩手豪雨災害で発生した土砂生産および流木の流出の特徴	井良沢 道也				学会参加者	
		豪雪地帯における森林整備の一考察	井良沢 道也				学会参加者	
	砂防学会東北支部第 1 回研究発表会	地域と共に創りあげる歴史的砂防施設の利活用の現状と課題～新潟県及び岩手県内の事例を対象として～	井良沢 道也	2017/1/27	岩手大学農学部	砂防学会東北支部	学会参加者	
		住民と共に創る土砂災害への啓発の試みについての現状と課題～山形県立谷沢流域におけるまるごと里ごとハザードマップづくりを題材として～	井良沢 道也				学会参加者	
		火山地域における立木を含む土砂災害の減災にむけての検討　その 1	井良沢 道也				学会参加者	
		火山地域における立木を含む土砂災害の減災にむけての検討　その 2	井良沢 道也				学会参加者	
	緊急調査団報告	2016 年 8 月 30 日台風 10 号による岩手県岩泉町及び宮古市における土砂災害	井良沢 道也	2017/1/27	岩手大学農学部	砂防学会東北支部	シンポジウム参加者・市民	
	2016 年度人工知能学会全国大会	なぜ陸前高田に通いたくなってしまうのか？	五味 壮平	2016/6/9	北九州市	人工知能学会	学会参加者	約50名
	自然災害研究協議会東北地区部会特別講演シンポジウム	震災後の陸前高田市における 岩手大学の取組　～拡大コミュニティとの関連を中心に～	五味 壮平	2016/12/23	陸前高田市	自然災害研究協議会	協議会参加者・市民	
	陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2017	岩大 E_code プロジェクトについて	五味 壮平	2017/1/21- 2017/1/22	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局	シンポジウム参加者・市民	ポスター発表
	第 17 回地域防災研究フォーラム パネルディスカッション「岩手復興モデルの構築」	震災後の陸前高田における取組 ～特に陸前高田グローバルキャンパスについて～	五味 壮平	2017/2/3	盛岡市	岩手大学地域防災研究センター		パネルトーク/30名程度
	岩手大学地域課題解決プログラム成果発表会	久慈港の認知度向上に向けた市民への アプローチ手法の検討	五味 壮平	2017/3/17	盛岡市	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構		多田 安里, 中里 優実, 森田 詩緒里, 五味 壮平, 30名程度
	日本社会学会年次大会	東日本大震災遺族における「死者との相互行為」 ―岩手県大槌町を中心に―	麦倉 哲	2016/10/7	九州大学	福岡県博多市	学会員	約50名
	日本都市学会年次大会	東日本大震災被災地における心の復興の現状と支援課題―岩手県大槌町を中心に	麦倉 哲	2016/10/29	岡崎市図書館交流プラザ	愛知県岡崎市	学会員	約50名
	東日本大震災の実態と保健医療福祉専門職の対応課題	「東日本大震災の復興における脆弱性と社会階層」―社会の脆弱性の問題と福祉避難所協定のあり方を中心に	麦倉 哲	2017/1/27	葛飾区女性センター	東京都葛飾区／首都大学東京	葛飾区福祉部・健康部職員ならびに防災課職員他	約30名

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
地域防災教育研究部門							
シンポジウム「震災と霊性」―亡き人の声を感じ、生きるという力―	生者と死者の相互行為	麦倉 哲	2017/2/5	東北学院大学	東北学院大学／河北新報社	一般	約300名
会議　第 10 回 吉里吉里地区自主防災計画策定検討会	もういちど学ぶ吉里吉里地区の防災－大震災から 6 年－	麦倉 哲	2017/3/2	大槌公民館吉里吉里分館	大槌公民館吉里吉里分館	地区防災担当者	約20名
フィールドワーク　第 10 回 吉里吉里地区自主防災計画策定検討会関連イベント	「まち歩き」明治・昭和・平成の津波到達点をたどる	麦倉 哲	2017/3/3	大槌町吉里吉里地区	大槌公民館吉里吉里分館	地区防災担当者	約20名
御蔵学校（講演及び研究会）	死者との対話を通じた復興のまちづくり～生きた証を記録し語り継ぐ会の活動から～	麦倉 哲	2017/3/5	NPOまち・コミュニケーション事務室	NPOまち・コミュニケーション	一般	約20名
生きた証プロジェクト受託者編集会議	生きた証個票原稿の点検	麦倉 哲	2017/4/22	大槌町公民館会議室	岩手大学麦倉研究室	受託者、プロジェクト地元委員	約15名
H28 年度生きた証プロジェクト編集会議事前調整会議	生きた証編集および今後の計画	麦倉 哲	2017/5/9	大槌町役場会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約15名
第２回生きた証プロジェクト編集会議	生きた証個票原稿編集	麦倉 哲	2017/5/23	大槌町役場会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
第３回生きた証プロジェクト編集会議	生きた証個票原稿編集	麦倉 哲	2017/6/3	大槌町公民館会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
第４回生きた証プロジェクト編集会議	生きた証個票原稿編集	麦倉 哲	2017/6/17	大槌町役場会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
第５回生きた証プロジェクト編集会議	生きた証個票原稿編集	麦倉 哲	2017/6/24	大槌町役場会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
第６回生きた証プロジェクト編集会議	生きた証個票原稿編集	麦倉 哲	2017/7/1	大槌町役場会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
大槌町吉里吉里地区自主防災役員会	地区防災計画の検討	麦倉 哲	2016/7/5	大槌町公民館吉里吉里分館	大槌町吉里吉里地区自主防災計画策定検討委員会	吉里吉里地区防災関係者	約10名
第７回生きた証プロジェクト編集会議	生きた証個票原稿編集	麦倉 哲	2016/7/15	大槌町役場会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
第８回生きた証プロジェクト編集会議	生きた証個票原稿編集	麦倉 哲	2016/7/22	大槌町役場会議室	岩手大学麦倉研究室、大槌町公民連携室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第１回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2016/9/7	大槌町公民館会議室	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第２回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2016/10/15	岩手大学	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第３回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2016/10/16	岩手大学	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第４回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2016/11/20	マストホール	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第５回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2016/12/10	マストホール	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第６回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2017/1/14	マストホール	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第７回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2017/2/16	マストホール	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
生きた証を記録し語り継ぐ会第８回	生きた証を語り継ぐ活動	麦倉 哲	2017/3/16	マストホール	岩手大学麦倉研究室	編集委員、プロジェクト地元委員	約10名
大槌町公営住宅調査速報版記者発表	大槌町公営住宅調査結果の速報	麦倉 哲	2017/3/22	岩手大学釜石サテライト	明治学院大学浅川研究室、岩手大学麦倉研究室、岩手大学地域創生推進機構	県政記者クラブ、釜石記者クラブ	約15名
日本建築学会大会	東日本大震災からの復興にみる地域型復興住宅供給の課題～岩手県沿岸市町村を対象として～	三宅　諭	2016/8/1	福岡大学	日本建築学会	学会員	

部門・班							
講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
地域防災教育研究部門							
日本都市計画学会東北支部北東北ブロック研究発表会	汚染状況重点調査地域における除去土壌仮置場に対する住民意識－福島県桑折町を対象として－	三宅 諭	2017/3/3	秋田カレッジプラザ	日本都市計画学会東北支部	学会員および一般	
みえ防災塾	東日本大震災からの復興の現状と課題	三宅 諭	2016/7/1	三重大学	みえ防災塾	受講生	
久慈市防災女性力アップ講座	避難所運営事例に学ぶ女性力の必要性	三宅 諭	2016/11/26	久慈市中央公民館	久慈市	一般	
田野畑村机地区まちづくり勉強会	みんなでつくる地域の景観	三宅 諭	2017/1/29	田野畑村机地区公民館	田野畑村机地区	一般	
出前講座	震災と復興	三宅 諭	2016/7/15	盛岡中央高校	岩手大学・盛岡中央高校	高校生	
土木学会東北支部台風10号水害調査団緊急報告会	小本川からの氾濫・水理状況	小笠原 敏記	2016/9/7	仙台国際センター会議棟	土木学会	一般・専門家・報道機関	100名
土木学会東北支部台風10号水害調査団緊急報告会	久慈川の被害状況	小笠原 敏記	2016/9/7	仙台国際センター会議棟	土木学会	一般・専門家・報道機関	100名
平成 28 年台風10号災害緊急調査報告会	台風10号による岩手県の被害概要および小本川の水害調査報告	小笠原 敏記	2016/1015	岩手大学復興祈念銀河ホール	地域防災研究センター	一般	約150名
第 4 回流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ	台風10号による岩手県小本川の被害報告	小笠原 敏記	2016/11/15	土木学会講堂	国土交通省	行政機関	93名
平成 28 年度河川技術懇談会	台風10号における小本川の水害調査について	小笠原 敏記	2016/12/8	TKPガーデンシティ仙台	国土交通省東北地方整備局	専門家・行政機関	約50名
地域の安全を考えるワークショップ（車座研究会）	平成 28 年台風10号の降雨の特徴およびその被害概要	小笠原 敏記	2017/1/21	八幡平市寺田コミュニティセンター	八幡平市	町内会住民	30名
盛岡市平成 28 年度管理者等特別研修（危機管理）	台風10号による被害特性と今後の防災対策	小笠原 敏記	2017/2/10	プラザおでって	盛岡市	行政機関	100名
久慈市防災フォーラム	台風10号による久慈川水系の被害と今後の防災対策	小笠原 敏記	2017/2/13	久慈市文化会館アンバーホール	ユネスコ久慈	一般	130名
河川情報センター講演会	平成 28 年 8 月発生台風10号被害状況と災害発生メカニズム・災害への備え	小笠原 敏記	2017/2/24	ホテルニューカリーナ	河川情報センター	行政機関・建設業界	99名
2016 年度日本建築学会大会	東海・東南海・南海地方の小中学校における津波避難空間の配置状況	菊池 義浩	2016/8/25	福岡大学（七隈キャンパス）	日本建築学会	研究者および学生	
2016 Japan-Korea Rural Planning Seminar	Current Conditions and Problems of Community Design for Recovery after the Great East Japan Earthquake: In the Case of Iwate Prefecture	菊池 義浩	2016/9/23	済州大学（韓国）	韓国農村計画学会，農漁村遺産学会	日韓の研究者および学生	ポスター発表
第二回災害文化研究会	～岩手の復興状況：災害状常襲地での生活再建と展望～	菊池 義浩	2016/11/26	福島大学	岩手大学地域防災研究センター　他	研究者，学生　他	
農村計画学会　震災復興シンポジウム	津波被災地における復興状況と自主防災計画の実践課題－大槌町吉里吉里地区－	菊池 義浩	2017/3/5	エルパーク仙台	農村計画学会震災復興研究グループ　他	専門家，市民　他	ポスター発表
岩手大学地域防災研究センター記念講演会	震災復興と地域防災に向けた計画学的アプローチ	菊池 義浩	2017/3/17	岩手大学テクノホール	岩手大学地域防災研究センター	専門家，市民　他	
八幡平市立西根第一中学校校内研修・講師	「主体的に行動する態度」を育む防災教育のあり方	森本 晋也	2016/5/25	西根第一中学校	西根第一中学校	教職員	15名，1時間30分
第 30 回管理運営研修会・講師	今、学校現場に求められること ～復興教育、学校安全 (防災教育) の充実に向けて～	森本 晋也	2017/7/4	岩手県民会館	岩手県小中学校副校長会	小中学校の副校長	約500名、45分
千葉県防災教育研修会・講師	災害から生き抜く力を身に付けるために～東日本大震災の教訓を踏まえて～	森本 晋也	2016年7月27日～28日　2回	千葉県青少年女性会館	千葉県教育委員会	千葉県内の管理職	約100名、90分
高知県防災教育研修会・講師	東日本大震災を生き抜いた子どもたち～そこから学ぶ防災教育のあり方～	森本 晋也	2016年8月4日～5日　2回	高知城ホール／黒潮町ふるさと総合センター	高知県教育委員会	高知県内の教職員	約300名、90分
第 4 回防災教育推進連絡協議会・成果報告シンポジウム　実践報告及びパネリスト	実践報告「いわての復興教育」	森本 晋也	2016年8月20日～21日	日本科学未来館	群馬大学	協議会メンバー並びに一般の方	実践報告 20 分，成果報告シンポジウム
鹿児島県防災教室・講師	東日本大震災を振り返って～そこから学ぶ防災教育の在り方～	森本 晋也	2016/8/22	出水市中央公民館	鹿児島県教育委員会	鹿児島県内の教職員	約100名、90分
鳴門市立鳴門中学校・鳴門第二中学校講演会・講師	災害を「生き抜く」ために～釜石の子どもたちに学ぶ～	森本 晋也	2016/8/26　2回	鳴門中学校／鳴門第二中学校	鳴門中学校／鳴門第二中学校	中学生・教職員	50分　2回
沖縄県立泡瀬特別支援学校講演会・講師	東日本大震災を生き抜いた子どもたち～そこから学ぶ防災教育～	森本 晋也	2016/8/29	沖縄県総合教育センター	泡瀬特別支援学校	泡瀬特別支援学校教職員・保護者・研究指定校教員	100分
「しんじゅく防災フェスタ 2016」防災・減災教育フォーラム・講師・シンポジスト	東日本大震災を生き抜いた子どもたち ～釜石から学ぶ防災教育～	森本 晋也	2016/9/4	都立戸山公園・新宿スポーツセンター	「しんじゅく防災フェスタ2016」実行委員会	新宿区民	基 調 講 演：60 分とシンポジウム

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
地域防災教育研究部門							
中央教育審議会学校安全部会意見聴取	震災前の学校防災教育の成果と今後の方向性～生徒へのインタビュー調査を基にして～	森本 晋也	2016/9/26	文部科学省	文部科学省	学校安全部会委員	東北工業大学小川和久教授と報告
日本災害復興学会・発表	岩手県における小中学校の震災学習の取り組み～「いわての復興教育」を通して～	森本 晋也	2016/10/1	石巻専修大学	日本災害復興学会	会員	特設分科会「「教育を通した震災学習システムの構築」
盛岡市立見前南中学校防災教室・講師	自然災害から命を守るために	森本 晋也	2016/10/17	見前南中学校	見前南中学校	生徒	60分
学校施設の防災対策セミナー・講師	学校における津波防災教育 ～釜石の子どもたちに学ぶ～	森本 晋也	2016年10月21日 ·11月25日 2回(札幌会場· 福岡会場)	札幌市教育文化会館／九州大学西新プラザ	文部科学省	教職員	約200名、60分
黒潮町 PTA 研究大会・講師	東日本大震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ～学校・家庭・地域が連携した防災教育～	森本 晋也	2016/10/29	黒潮町立田ノ口小学校	高知県黒潮町PTA連合会	町内教職員、保護者	70分
安房東中学校区教育ミニ集会防災講演会・講師	海と共に生きる～釜石・岩手の子どもたちに学ぶ～	森本 晋也	2016/11/17	鴨川市立安房東中学校	千葉県鴨川市教育委員会	学区内児童生徒·教職員·保護者	約300名、90分
岩泉町立小本小学校・小本中学校校内研修会・講師	危機管理の視点を踏まえた学校防災～「災害時の情報」「災害時の対応」を中心に～	森本 晋也	2017/1/6	小本小学校·小本中学校	小本小学校·小本中学校	教職員	約20名、120分
岩手大学教育学部地理学·社会科教育研究室同門会 新年交流会·講師	子どもたちに学ぶこれからの防災教育 ～震災前の釜石東中の取組から～	森本 晋也	2017/1/7	サンセール盛岡	岩手大学教育学部地理学·社会科教育研究室同門会	会員	60分
陸前高田市防災教育実践発表会・講師及び助言者	生き抜く力を育む防災教育のあり方～復興、地域防災を支える人づくりを目指して～	森本 晋也	2017/1/13	陸前高田市コミュニティホール	陸前高田市教育委員会	教職員	約150名、90分
平成 28 年度摂津市教育フォーラム・講師	釜石の子どもたちに学ぶこれからの防災教育	森本 晋也	2017/1/28	摂津市コミュニティプラザ	大阪府摂津市教育委員会	教職員·地域住民	約150名、80分
東かがわ市防災講演会・講師	震災を生き抜いた釜石の子どもたちに学ぶ～学校・家庭・地域が連携した日頃の取組～	森本 晋也	2017/2/24	東かがわ市交流プラザ	香川県東かがわ市	市民	約250名、90分
防災教育事業事例発表会・講師	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの防災教育～震災前の釜石東中の取組から～	森本 晋也	2017/2/26	横浜市吉野町市民プラザ	NPO法人かながわ311ネットワーク	教職員·一般市民	60分
日本教材学会北海道・東北支部研究会・講師	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの防災教育	森本 晋也	2017/3/4	マリオス	日本教材学会北海道·東北支部	会員、教職員	60分
大槌高校「震災と復興を考える集い」講師	日頃の備えの大切さ	森本 晋也	2017/3/11	大槌高校	大槌高校	生徒、教職員	20分
第 6 回「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ」講師・パネラー	いわての復興教育～いきる・かかわる・そなえる～	森本 晋也	2017/3/19	高知城ホール	高知県自治研究センター	一般市民他	60分
岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会	平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分頃からはじまった一連の熊本県熊本地方の地震について（速報）	山本 英和	2016/4/16	岩手大学理工学部テクノホール	岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会	研究会会員、一般市民	約100名
岩手大学オープンキャンパスミニ講義	地震のおはなし　地震の揺れを予測するためには	山本 英和	2016/8/10	岩手大学理工学部テクノホール	岩手大学	高校生、一般市民	約300名
いわての復興教育・防災教育研修講座	防災教育教材（DVD）を利用した地震防災意識啓発授業	山本 英和	2016/5/31	岩手県立総合教育センター（花巻市）	岩手県	小学校中学校教員	約100名
岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会	平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分頃からはじまった一連の熊本県熊本地方の地震について（速報）	山本 英和	2016/7/9	岩手大学理工学部テクノホール	岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会	研究会会員、一般市民	約100名
東北地域災害科学研究集会	研究会の企画	山本 英和	2016/12/23 2016/12/24	陸前高田市コミュニティーホール	自然災害研究協議会	研究者, 大学生, 一般	約100名
平泉文化教育研究部門							
平泉町歴史教室	平泉の庭園文化とその源流	藪 敏裕	2017/1/16	平泉文化遺産センター	平泉町教育委員会	一般	
第十七回平泉文化フォーラム	総括	藪 敏裕	2017/1/21	奥州市Ｚホール	岩手県教委·いわて高等教育コンソ等	一般	約200名
平成28年度「平泉の文化遺産」拡張登録に係る研究集会	コメンテーター	藪 敏裕	2016/12/4	平泉文化史館	岩手県教委	拡張登録関係者	約50名
ASIA JOINT SYMPOSIUM 2016 世界遺産分科会	総括	藪 敏裕	2016/10/13	岩手大学北桐ホール	岩手大学、中国·大連理工大学、韓国国立ハンバット大学校、マレーシア・パハン大学	一般	約50名
保護与伝承視野下的魯文化学術研討会	漢代出土文献所見『孝経』考述	劉 海宇	2016/11/10	中国曲阜市	中国山東省文物考古研究所	学会員	約30名

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
平泉文化教育研究部門							
第 17 回平泉文化フォーラム	唐代における金銀字経と五臺山金閣寺	劉 海宇	2017/1/21	奥州市文化会館Zホール	岩手県教育委員会、いわて高等教育コンソ等	一般	約150名
第3回板橋区・岩手大学連携講座	平泉文化と古代中国	劉 海宇	2016/11/29	板橋区立文化会館	東京板橋区･岩手大学	一般	約200名
岩手大学シニアカレッジ「平泉」講義	平泉文化と古代中国	劉 海宇	2016/9/12	岩手大学図書館	岩手大学	一般	約50名
平成 28 年度「平泉の文化遺産」拡張登録に係る研究集会	コメンテーター	劉 海宇	2016/12/4	平泉文化史館	岩手県教委	拡張登録関係者	約50名
北上市相去地区交流センター「あいさり大学」講座講師	エミシ・相去・国見山廃寺・平泉	伊藤 博幸	2016/12/5	相去地区交流センター	相去地区交流センター	一般地区民	約30名
放送大学岩手学習センター公開講演会講師	考古学から見た奥州平泉文化ー奥州藤原氏が私たちに遺したもの	伊藤 博幸	2017/2/18	放送センター大講義室	放送大学岩手学習センター	受講生･一般市民	約80名
日本教材学会第 28 回研究発表大会	方法としての地域学習ー世界遺産教育「平泉」から地域の文化遺産へー	今野 日出晴	2016/10/15	盛岡大学	日本教材学会	学会員	約60名
第 83 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会 第 101 回計測自動制御学会力学量計測部会 第 33 回合同シンポジウム	ポータブル複合Ｘ線分析による陶磁器の胎土分析	會澤 純雄	2016/5/28	いわて県民情報交流センターアイーナ	日本分析化学会有機微量分析研究懇談会	一般	
ASIA JOINT SYMPOSIUM 2016	ポータブル複合Ｘ線分析による中国産陶磁器の産地推定に関する研究	會澤 純雄	2016/10/13	岩手大学北桐ホール	岩手大学、中国・大連理工大学、韓国国立ハンバット大学校、マレーシア・パハン大学	一般	約50名
第 17 回平泉文化フォーラム	ポータブル複合Ｘ線分析による白磁と青磁の胎土分析（その 2）ー中国および平泉出土資料の比較検討ー	會澤 純雄	2017/1/21	奥州市文化会館Zホール	岩手県教育委員会、いわて高等教育コンソーシアム、岩手大学平泉文化研究センター	一般	約150名
第 83 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会　第 101 回計測自動制御学会力学量計測部会　第 33 回合同シンポジウム	3D レーザースキャナを用いた平泉世界遺産の三次元計測（岩手大学平泉文化研究センター）	平原 英俊, 會澤 純雄, 桑 静, 藤崎 聡美	2016.5.26(木)～28(土)	いわて県民情報交流センター（アイーナ）	日本分析化学会有機微量分析研究懇談会	一般	約150名
第 83 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会　第 101 回計測自動制御学会力学量計測部会　第 33 回合同シンポジウム	3D レーザースキャナによる平泉世界遺産のデジタルアーカイブ化（岩手大学平泉文化研究センター）	藤崎 聡美, 會澤 純雄, 桑 静, 平原 英俊	2016.5.26(木)～28(土)	いわて県民情報交流センター（アイーナ）	日本分析化学会有機微量分析研究懇談会	一般	約150名 ベストポスタープレゼンテーション賞受賞
2016 年度名古屋大学機器・分析技術研究会	世界遺産の資産に関わるということ～ 3D データでみる平泉文化～	藤崎 聡美	2016.9.8(木)～9(金)	名古屋大学 東山キャンパス 豊田講堂	名古屋大学全学技術センター	文部科学省所轄の大学共同利用機関法人、国立大学法人および独立行政法人国立高等専門学校機構に所属する技術系職員。	約400名
平泉文化セミナー第 26 回例会	３Ｄレーザースキャナを用いた平泉柳之御所遺跡と無量光院跡の三次元計測	平原 英俊, 會澤 純雄, 桑 静, 藤崎 聡美	2016.9.28(水)	岩手大学教育学部 E21講義室	岩手大学平泉文化研究センター	一般	約30名
世界遺産全国サミット・インひらいずみ分科会司会・助言講師	文化遺産③分科会（和歌山県田辺市・秋田県横手市）助言	伊藤 博幸	2016/11/5	平泉小学校	世界遺産学習連絡協議会/平泉町教育委員会	加盟団体･一般	約200名
「平泉の文化遺産」拡張登録検討委員会委員と海外専門家との意見交換会	「平泉」における「仏の理想世界の中心」の顕著な普遍的価値の可能性及び評価基準の適用について	佐藤 嘉広	2016/8/4～6	ベリーノホテル一関	岩手県教育委員会ほか	世界遺産平泉関係の専門家等	約30名
平成 28 年度成人大学講座	岩手の世界遺産		2016/8/24	大船渡市カメリアホール	大船渡市教育委員会	一般	約200名
世界遺産の整備・公開・活用国際シンポジウム	世界遺産「平泉」と価値のイメージ	佐藤 嘉広	2016/10/13	岩手大	岩手大学UURRプロジェクト	研究者	約100名
第３回世界遺産サミット	岩手県における世界遺産登録の歩みと今後	佐藤 嘉広	2016/11/22	岩手県民情報交流センター	岩手県ほか	世界遺産関係自治体関係者	約300名
平成 28 年度「平泉の文化遺産」拡張登録に係る研究集会奥州藤原氏が構想した理想世界	奥州藤原氏が構想した仏の理想世界	佐藤 嘉広	2016/12/3～4	平泉レストハウス	岩手県教育委員会ほか	研究者	約50名
岩手県議会講師	平泉の世界遺産「浄土思想文化」と文化財を活用した岩手の今後	菅野 成寛	2016/4/14	岩手県議会議事堂	岩手県政調査会	全県会議員ほか	約50名
平泉文化セミナー第 23 回例会	東北仏教史の中の平泉世界⑫ 『中尊寺供養願文』を考える	菅野 成寛	2016/5/26	岩手大学教育学部 E21講義室	岩手大学平泉文化研究センター	一般	約30名
岩手日報カルチャースクール講師	平泉世界遺産 5 周年と浄土教文化	菅野 成寛	2016/6/25	岩手日報社	日報カルチャースクール事務局	受講者	約20名

部門・班

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日（複数回の場合は期間）	実施場所	主催機関	対象	備考（参加者数など）
平泉文化教育研究部門							
第 24 回・平泉文化セミナー講師	骨寺村荘園絵図から見えるもの	菅野 成寛	2016/6/29	岩手大学	岩手大学平泉文化研究センター	受講者	約20名
第 25 回・平泉文化セミナー講師	慈覚大師伝承をめぐって	菅野 成寛	2016/7/28	岩手大学	岩手大学平泉文化研究センター	受講者	約20名
中尊寺・法話の会講師	平泉の阿弥陀念仏信仰について	菅野 成寛	2016/10/22	中尊寺庫裏	中尊寺	会員	約30名
慈恩寺行事研究会	平安時代の寺院法会について､法脈･伽藍･法会から探る慈恩寺開創の実像	菅野 成寛	2017/3/4	寒河江市文化センター	寒河江市(山形県)教育委員会	受講者	約30名
講座　骨寺大学	骨寺村の荘園世界	誉田 慶信	2016/7/24	一関市博物館	一関市博物館	一般市民	約50名
日報カルチュアースクール	仏会と平泉仏教	誉田 慶信	2016/6/11	岩手日報社	岩手日報社	一般市民	約30名
滝沢ユネスコ協会　文化講演会	平泉文化と蝦夷	八木 光則	2016/4/16	滝沢市チャグチャグホール	滝沢ユネスコ協会		
西都原考古博物館特別展講演会	蝦夷とは何か	八木 光則	2016/7/31	宮崎県西都原考古博物館	宮崎県西都原考古博物館	一般市民	
盛岡の歴史を語る会講座	後三年合戦と山北三郡	八木 光則	2016/8/19	盛岡市総合福祉センター	盛岡の歴史を語る会	一般市民	
西部公民館いわて学講座	三陸における古代～近世の鉄生産	八木 光則	2016/9/10	盛岡市西部公民館	盛岡市西部公民館	一般市民	
西部公民館 古代史講座	平泉の都市構造	八木 光則	2016/9/24	盛岡市西部公民館	盛岡市西部公民館	一般市民	
第 74 回蝦夷研究会	平泉の居館と居宅	八木 光則	2016/9/24	岩手大学	蝦夷研究会	蝦夷研究会会員	
シンポジウム平安時代の北秋蝦夷社会	平安時代の北奥蝦夷社会	八木 光則	2016/10/29	大館市中央公民館	北東北歴史懇話会	一般市民	
山田町歴史講会見直そうふるさとの歴史と文化	古代三陸山田の歴史的特質	八木 光則	2016/12/16	山田町中央公民館	山田町教育委員会	一般市民	
歴史・考古・民俗学から気仙地域の魅力を語る市民講座	古代三陸の蝦夷社会	八木 光則	2017/2/11	住田町農林会館	明治大学	一般市民	
平成 28 年度考古学セミナー	俘囚の大寺院　国見山廃寺	杉本 良	2016/9/11	岩手県立博物館	岩手県立博物館	市民	約70名
平成 29 年度考古学セミナー	国見山廃寺を歩く	杉本 良	2016/9/17	国見山廃寺跡	岩手県立博物館	市民	約20名
学芸員とっておきの話し	国見山廃寺と中尊寺	杉本 良	2016/10/9	えさし郷土文化館	えさし郷土文化館	市民	約30名
鎮守府探訪講座	平泉以前における中心寺院の変遷	杉本 良	2016/10/16	奥州市埋蔵文化財センター	奥州市埋蔵文化財センター	市民	約30名

04 委員会等

部門・班

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間		備　考
三陸復興部門・いわて高等教育コンソーシアム連携班					
アカデミア･コンソーシアムふくしま 事業評価委員	アカデミア･コンソーシアムふくしま（福島大学）	後藤 尚人	2016/11/18	2017/1/10	委員長
いわて高等教育コンソーシアム:運営委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2016/4/1	2017/3/31	
いわて高等教育コンソーシアム:単位互換･高大連携推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2016/4/1	2017/3/31	
三陸復興部門・地域コミュニティ再建支援班					
高田松原津波復興祈念公園 協働体制検討ワーキンググループ	岩手県県土整備部都市計画課	五味 壮平	2016/4/1	2017/3/31	副幹事
陸前高田市　まち･ひと･しごと総合戦略策定会議委員	陸前高田市	五味 壮平	2015/8/3	2019/8/2	
大槌町　地方創生評価委員会	大槌町	五味 壮平	2016/7/29	2017/3/31	
岩手県社会貢献活動支援審議会委員	岩手県環境生活部若者女性協働推進室	五味 壮平	2016/6/17	2018/5/19	
陸前高田市ふるさと納税特産品等選定委員	陸前高田市観光物産協会	五味 壮平	2015/6/2	2016/6/1	
生命環境産業振興協議会	生命環境産業振興協議会	五味 壮平	2015/6/?		副理事長
日本建築学会復興住まいまちづくり部会	日本建築学会	三宅 諭	2015/6/1	2017/5/31	
大槌町町営住宅入居者選考委員会	大槌町	三宅 諭	2015/8/1	2017/3/1	委員長
大槌町災害公営住宅買取事業審査委員会	大槌町	三宅 諭	2016/2/1	2017/3/1	委員長
野田村まち･ひと･しごと創生総合戦略策定委員会	野田村	三宅 諭	2016/4/1	2017/3/1	
山田町災害公営住宅等買取事業に係る事業者選定審査委員会	山田町	三宅 諭	2016/5/1	2017/3/1	委員長
山田町復興計画進行管理支援員	山田町	三宅 諭	2016/6/1	2017/3/1	

部門・班					
委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間		備　考
三陸復興部門・地域コミュニティ再建支援班					
野田村21世紀むらづくり委員会地域整備部会	野田村	三宅 諭	2016/7/1	2017/3/1	特別委員
釜石都市計画鵜住居地区被災市街地復興土地区画整理審議会	釜石市	三宅 諭	2013/7/1	2017/7/1	
釜石都市計画片岸地区被災市街地復興土地区画整理審議会	釜石市	三宅 諭	2013/7/1	2017/7/1	
アドバイザー	大船渡市応急仮設住宅支援協議会	船戸 義和	2016/4/1	2017/3/31	災害公営住宅におけるコミュニティ形成支援
平成28年度東日本大震災被災者実態調査研究委員会	岩手県社会福祉協議会	船戸 義和	2016/5/1	2017/3/31	副委員長
大槌町地域アドバイザー	大槌町	船戸 義和	2016/6/10	2017/3/31	
山田町地域コミュニティ形成アドバイザー	山田町	船戸 義和	2017/3/1	2017/3/31	
三陸復興部門・ものづくり産業復興推進班					
釜石・大槌地域新製品研究会(三陸テカルデ)定例会	釜石・大槌地域産業育成センター	水野 雅裕	2016/4/1	2018/3/31	情報提供など
地域創生部門					
いわて希望ファンド審査委員	いわて産業振興センター	今井 潤	2015/4/14	2017/3/31	
いわて農商工連携ファンド審査委員	いわて産業振興センター	今井 潤	2015/4/14	2017/3/31	
宮古市産業支援アドバイザー	宮古市	今井 潤	2016/4/1	2019/3/31	
盛岡市産業支援センター入居審査・運営委員会委員	フューチャーベンチャーキャピタル(株)	今井 潤	2016/4/1	2017/3/31	
ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業地域採択枠審査委員	岩手県中小企業団体中央会	今井 潤	2016/5/1	2017/2/28	
調査研究事業審査委員	公益財団法人さんりく基金	今井 潤	2016/6/8	2017/3/31	
委員	盛岡市新産業創出支援センター指定管理者協同組合産業社会研究会経営者革新会議	今井 潤	2017/6/17	2018/3/31	
アドバイザー	宮古港フェリー利用促進協議会	今井 潤	2016/4/1	2019/3/31	
いわて沿岸北部海洋再生可能エネルギー研究会委員	岩手県政策地域部科学ILC推進室	今井 潤	2016/12/19	2016/12/28	
評価・検証委員会委員	盛岡商工会議所	今井 潤	2016/12/17	2017/3/31	委員長
産業育成特別委員会委員	盛岡商工会議所	今井 潤	2016/12/26	2018/10/30	
盛岡市産学共同研究事業等審査委員会	盛岡市	今井 潤	2017/3/24	2019/3/23	
南いわて食産業クラスターネットワーク	県南振興局	今井 潤			
生涯学習部門					
釜石地区漁業協同組合女性部活動推進協議会の委員	釜石市	朴 賢淑	2016年4月～	2017年3月	
いわてアグリフロンティアスクール運営協議会	岩手大学、岩手県、JA	朴 賢淑	2016年4月～	2018年3月	
金ヶ崎町生涯教育研究会	金ヶ崎町生涯教育研究センター	朴 賢淑	2016年4月～	2018年3月	
北東北社会教育主事運営委員会	秋田大学	朴 賢淑	2016年4月～	2018年2月	
ビブリオグラフィー委員会	宮沢賢治学会イーハトーブセンター	山本 昭彦			
企画委員会	日本現代詩歌文学館	木村 直弘	2010/9/1		
ものづくり技術教育研究部門					
ISO TC213 グループC 国内委員会	日本規格協会		2016/4/1	2017/3/31	幹事
ISO TC213 グループC JIS原案作成委員会	日本規格協会		2016/4/1	2017/3/31	幹事
いわて鋳造研究会	奥州市		2016/4/1	2017/3/31	技術顧問
科学研究費委員会専門委員	独立行政法人日本学術振興会		2016/12/1	2017/11/30	
第3次・電子回路の教育プログラム調査専門委員会	社団法人電気学会		2015/6/1	2018/5/31	
花巻市産業支援アドバイザー	花巻市		2015/4/1	2017/3/31	
SPring-8利用推進協議会主査					
東北放射光施設推進室委員					
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員					
日本結晶成長学会評議員					
三陸水産教育研究部門					
沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会	国立水産研究・教育機構開発調査センター	後藤 友明	2016/4/13	2013/3/31	会長
日本水産学会水産政策委員会	日本水産学会	後藤 友明	2016/3/1	2018/2/28	委員
日本水産学会85周年国際シンポジウム委員会	日本水産学会	後藤 友明	2016/3/1	2018/2/28	委員
日本水産学会東北支部幹事	日本水産学会	後藤 友明	2016/3/1	2018/2/28	委員
水産海洋学会若手・女性・地域活性化委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2016/3/1	2017/2/28	委員長

部門・班

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間		備　考
三陸水産教育研究部門					
水産海洋学会学会賞選考委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2016/3/1	2017/2/28	委員
水産海洋学会学会評議委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2016/3/1	2017/2/28	委員
水産海洋学会学会理事	水産海洋学会	後藤 友明	2017/3/1	2019/2/28	委員
大船渡市漁業就業者確保育成協議会	大船渡市	後藤 友明	2016/4/1	2017/3/31	委員
久慈港環境評価検討委員会	いであ株式会社	後藤 友明	2016/10/11	2018/3/24	委員
板鰓類研究会幹事	板鰓類研究会	後藤 友明	2016/4/1	2017/3/31	編集幹事
東北経済産業局事業「平成28年度三陸地域資源活用調査事業」内・三陸ブランド検討委員会	東北経済産局委託先・一般社団法人RCF	三浦 靖	2016/7/11	2017/1/31	委員
Stakeholder Council	Marine Stewardship Council	石村 学志	2016/4/1	2018/3/31	委員長
岩手県三陸海域研究論文知事表彰選考委員会	岩手県	田中 教幸	2016/4/1	2017/3/31	委員
スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	岩手県立釜石高等学校	田中 教幸	2016/4/1	2017/3/31	委員
釜石市水産審議会	釜石市役所	田中 教幸	2017/2/29	2019/2/21	委員
岩手県水産試験研究評価委員会	岩手県	田中 教幸	2016/4/1	2017/3/31	委員
田野畑村漁業就業者育成協議会	田野畑村役場	田中 教幸	2016/5/19	2017/3/31	委員
水産物等の国際基準となる品質・鮮度指標に関する調査研究委員会	日本海事検定協会	袁 春紅	2016/4/1	2017/3/31	委員
地域防災教育研究部門					
砂防・急傾斜管理技術者資格制度試験判定小委員会	(公社)砂防学会	井良沢 道也	2015/4/1	2017/3/31	
岩手ブロック公共工事等総合評価委員会	国土交通省東北地方整備局　岩手河川国道事務所	井良沢 道也	2015/4/1	2017/3/31	
農林水産部総合評価落札方式技術評価委員会に係る学識経験者	岩手県農林水産部	井良沢 道也	2015/4/1	2017/3/31	
秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会	国土交通省東北地方整備局　湯沢河川事務所	井良沢 道也	2013/1/1	2017/8/1	
事業評価技術検討会	林野庁東北森林管理局	井良沢 道也	2014/4/1	2017/3/31	会長
岩手県国土利用計画審議会	岩手県(環境生活部環境保全課)	井良沢 道也	2013/11/1	2017/10/31	委員長
赤川水系河川整備学識経験者懇談会	国土交通省東北地方整備局　酒田河川国道事務所	井良沢 道也	2013/1/1	2017/1/10	
青森県農林水産部建設工事総合評価競争入札審査員(森林土木工事総合評価審査員)	青森県	井良沢 道也	2015/4/1	2017/3/31	
青森県公共事業評価専門委員会	青森県	井良沢 道也	2016/4/1	2017/3/31	
秋田県公共事業評価専門委員会	秋田県	井良沢 道也	2016/4/1	2017/3/31	
土木研究所事業評価専門委員会	国立研究開発法人　土木研究所	井良沢 道也	2016/4/1	2017/3/31	
秋田県落石対策検討委員会	秋田県	井良沢 道也	2016/12/1	2017/3/31	委員長
高田松原津波復興祈念公園 協働体制検討ワーキンググループ	岩手県県土整備部都市計画課	五味 壮平	2016/4/1	2017/3/31	副幹事
陸前高田市　まち・ひと・しごと総合戦略策定会議委員	陸前高田市	五味 壮平	2015/8/3	2019/8/2	
大槌町　地方創生評価委員会	大槌町	五味 壮平	2016/7/29	2017/3/31	
岩手県社会貢献活動支援審議会委員	岩手県環境生活部若者女性協働推進室	五味 壮平	2016/6/17	2018/5/19	
陸前高田市ふるさと納税特産品等選定委員	陸前高田市観光物産協会	五味 壮平	2015/6/2	2016/6/1	
生命環境産業振興協議会	生命環境産業振興協議会	五味 壮平	2015/6		副理事長
盛岡市建築紛争調整委員会委員	盛岡市	麦倉 哲	2014/7/1	2018/3/31	
盛岡市図書館利用者協議会委員	盛岡市教育委員会	麦倉 哲	2014/7/1	2018/3/31	
日本社会病理学会理事	日本社会病理学会	麦倉 哲	2016/10/1	2018/9/30	
NPOふるさとの会理事	NPOふるさとの会	麦倉 哲	1999/10/1		
日本建築学会復興住まいまちづくり部会	日本建築学会	三宅 諭	2015/6/1	2017/5/31	
大槌町町営住宅入居者選考委員会	大槌町	三宅 諭	2015/8/1	2017/3/1	委員長
大槌町災害公営住宅買取事業審査委員会	大槌町	三宅 諭	2016/2/1	2017/3/1	委員長
野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会	野田村	三宅 諭	2016/4/1	2017/3/1	
山田町災害公営住宅等買取事業に係る事業者選定審査委員会	山田町	三宅 諭	2016/5/1	2017/3/1	委員長
山田町復興計画進行管理支援員	山田町	三宅 諭	2016/6/1	2017/3/1	
野田村21世紀むらづくり委員会地域整備部会	野田村	三宅 諭	2016/7/1	2017/3/1	特別委員
釜石都市計画鵜住居地区被災市街地復興土地区画整理審議会	釜石市	三宅 諭	2013/7/1	2017/7/1	
釜石都市計画片岸地区被災市街地復興土地区画整理審議会	釜石市	三宅 諭	2013/7/1	2017/7/1	
盛岡地区かわまちづくり	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2009/8/1		継続中

部門・班					
委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間		備　考
地域防災教育研究部門					
リバーカウンセラー(北上川)	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2010/3/1		継続中
米代川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2014/9/1		継続中
北上川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2014/10/1		継続中
北上川上流河道管理検討会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2016/3/1		継続中
事業評価監視委員会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2016/4/1		継続中
大船渡港湾口防波堤復旧に係る環境保全効果検証	国土交通省釜石港湾事務所	小笠原 敏記	2015/2/1	2017/3/10	
いわての川づくりプラン懇談会	岩手県	小笠原 敏記	2013/7/1		継続中
高田地区海岸養浜技術検討委員会	岩手県	小笠原 敏記	2014/3/28	2017/2/20	副委員長
岩手県政策評価委員会	岩手県	小笠原 敏記	2016/2/1		継続中
平成27年度釜石市東日本大震災検証委員会	釜石市	菊池 義浩	2015/11/1	2016/10/31	
野田村21世紀むらづくり委員会地域整備部会	野田村	菊池 義浩	2016/9/29	2017/3/31	
第18期農村計画学会評議員	農村計画学会	菊池 義浩	2016/4/9		継続中
日本建築学会農村計画委員会集落復興小委員会	日本建築学会	菊池 義浩	2016/4		継続中
農村計画学会大震災復興特別委員会	農村計画学会	菊池 義浩	2012/5		継続中
東北未来づくりサマースクール実行委員会	東北未来づくりサマースクール実行委員会事務局	菊池 義浩	2016/4/1	2017/3/31	
岩手県防災会議	岩手県	山崎 友子	2016年2月	2018年3月	
岩手県震災アーカイブシステム構築に係る有識者	岩手県	森本 晋也	2016/8/1	2017/3/31	委員
岩手県津波防災技術専門委員会	岩手県	山本 英和	2016/4/1	2017/3/31	
東北地方・太平洋沖の地震活動に関する調査研究委員会委員	(公財)地震予知総合研究振興会	山本 英和	2016/4/1	2017/3/31	
下北半島周辺における地震活動等調査検討委員会	(公財)地震予知総合研究振興会	山本 英和	2016/4/1	2017/3/31	
平泉文化教育研究部門					
第７回世界遺産学習全国サミットinひらいずみ	平泉教育委員会	今野 日出晴	2016/11/5		分科会指導助言者／全体会講評
「平泉の文化遺産」の学校教材等作成(改訂)に係る関係者会議	岩手県教育委員会	今野 日出晴	2016/4/1	2017/3/31	座長
平成28年度第1回胆沢城跡整備活用指導委員会	奥州市教育委員会	伊藤 博幸	2016/10/18		委員
第31回志波城跡史跡整備委員会	盛岡市教育委員会	伊藤 博幸	2016/11/18		委員
平成28年度第2回胆沢城跡整備活用指導委員会	奥州市教育委員会	伊藤 博幸	2017/2/10		委員
北上市史古代・中世部会員	北上市長	誉田 慶信	2016/12/25	2018/12/24	
後三年合戦調査指導委員会	横手市教育委員会	八木 光則	2016/4/1	2017/3/31	委員

05 プロジェクト・外部資金

部門・班					
プロジェクト名称	課題名	氏名	委託機関	受託期間	備考
三陸復興部門・いわて高等教育コンソーシアム連携班					
平成28年度いわて若者アイディア実現補助	三陸鉄道の有効活用：さんてつで学ぶ地域の魅力	後藤 尚人	岩手県	2016/7/1～2017/3/31	補助金額:30万円
三陸復興部門・被災動物支援班					
公益財団法人全国競馬・畜産振興会畜産振興事業	被曝牛での多発疾患の原因究明に関する研究事業	岡田 啓司	岩手大学	2016/5/1～2017/3/31	
三陸復興部門・地域コミュニティ再建支援班					
内閣府　地方創生加速化交付金	復興・まちづくりプログラム開発	五味 壮平	陸前高田市	2016/4/1～2017/3/31	陸前高田グローバルキャンパス準備の一環として
三陸復興部門・農地復興班					
技術研究助成	電磁探査と地中レーダー探査による土壌健全性の広域的評価手法	山本 清仁	公益財団法人JFE21 世紀財団	2016/1/1～2016/12/31	

部門・班

プロジェクト名称	課題名	氏名	委託機関	受託期間	備考
三陸復興部門・園芸振興班					
平成28年度地域課題解決プログラム	沿岸北部における気候特性を生かした園芸品目および栽培法の提案 －久慈地域の気象およびハウス内環境のモニタリング－		岩手大学	2016/4/1～ 2017/3/31	
三陸復興部門・農林畜産業復興総合計画班					
科研･基盤研究(C)･代表	地域制公園の自然保護制度を活かした文化資源の保護と協働に関する研究	山本 清龍	日本学術振興会	2016/4/1～ 2019/3/31	三陸復興国立公園を研究対象地に選定。
環境研究総合推進費･サブテーマ代表	持続的地域社会構築の核としての自然保護地域の評価・計画・管理・合意形成手法の開発	山本 清龍	環境省	2014/4/1～ 2017/3/31	奥尻島, 三陸沿岸部, 高知県沿岸部を研究対象地に選定。
科研･基盤研究(B)･分担	里山・里海ライフスタイルの被災時危機適応力とその評価手法の構築	山本 清龍	日本学術振興会	2015/4/1～ 2018/3/31	三陸沿岸部等を研究対象地に選定。
地域創生部門					
盛岡市産学官連携研究センター指定管理		今井 潤	盛岡市	2016/4/1- 2017/3/31	¥13,438,268
共同研究員受入	産学官連携による地域活性化にかかる研究	今井 潤	八幡平市	2015/4/1- 2018/3/31	
共同研究員受入	産学官連携による東日本大震災津波からの復興に関する実践的調査研究	今井 潤	釜石市	2015/4/1- 2018/3/31	
共同研究員受入	花巻市における産学官連携による地域企業のイノベーションに係る実践的スキームの構築に関する研究	今井 潤	花巻市	2015/4/1- 2017/3/31	
共同研究員受入	産学官連携による内発型産業を基軸とした地域産業活性化及び地域課題解決、地域連携システムの構築による地域情報交流の実践的調査研究	今井 潤	久慈市	2014/4/1- 2017/3/31	
共同研究員受入	盛岡市における産学官連携による持続的な産業振興に関する実践的研究	今井 潤	盛岡市	2015/4/1- 2017/3/31	
岩手大学フェア	岩手大学が開発に協力した製品（主に食品）を展示販売する	今井 潤	いわて銀河プラザ（東京）	2016/6/28- 6/30	売り上げ約42万円
共同研究	デザイン思考を活用したビジネスプラン作成支援事業	今井 潤	大船渡市		50万円
ものづくり技術教育研究部門					
平成26年度 戦略的基盤技術高度化支援事業	画像処理による液滴測定可能な高精度バリデーション・マイクロ分注システム（高精度ピペットチップの開発）		経済産業省 東北経済局	2014/4/1～ 2017/3/31	
科研費　基盤(C)	Pearson システムを用いた三次元表面性状のロバスト分布パラメータ推定法 研究課題		日本学術振興会	2015/4/1～ 2018/3/31	
JST マッチングプランナープログラム 企業ニーズ解決試験	自動車の軽量・高強度化を実現するダイクエンチ製品の非破壊材料品質診断法の開発		JST	2016/6/1～ 2017/3/31	
いわて環境と人にやさしい次世代モビリティ開発拠点	次世代自動車部材用鋳造品の高強度技術の開発		文部科学省	2016/4/1～ 2017/3/31	地域イノベーション戦略支援プログラム
受託事業受入	釜石ものづくりサテライト委託業務	今井 潤	公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター		15,640万円
三陸水産教育研究部門					
強い水産業作り交付金	安家川河川環境調査	後藤 友明	岩泉町	2016/6/2～ 2017/3/20	
地域資源を活用した省エネ･省コスト･高付加価値型の水産業･水産加工業の実用化･実証事業	高鮮度化技術を用いた漁船漁業の６次産業化の実証	後藤 友明	農林水産省	2016/4/22～ 2017/3/31	
貝殻を活用したナマコ増殖場造成試験	貝殻を活用したナマコ増殖場造成試験	後藤 友明	一般社団法人漁港漁場漁村総合研究所	2016/10/1～ 2017/5/31	
「科学研究費補助金」挑戦的萌芽研究	「微細構造－咀嚼時の破断挙動－呈味性」の相関を利用した減塩食品の創製	三浦 靖	日本学術振興会	2015/4/1～ 2017/3/31	
共同研究経費	減塩加工食品の製造に向けた加工条件の確立	三浦 靖	矢巾町	2016/4/15～ 2017/3/31	
共同研究経費	減塩加工食品の製造に向けた加工条件の確立	森川 卓哉	矢巾町	2016/4/15～ 2017/3/31	
日本生命環境研究助成金	六次産業化における漁業独自の課題抽出と理論構築：三陸漁業での社会実装探求	石村 学志	日本生命	2016.9-2017.8	
Environmental Defense Fund	三陸水産復興の水産プロジェクトの feasibility study	石村 学志		2016.9-2017.8	
みんなで鮭の稚魚を送ろうプロジェクト	サケの回帰率向上に貢献する研究開発・実践活動	田中 教幸	キッコーマン食品（株）	2016/10/1～ 2017/3/31	300万円
農林水産省　食料生産地域再生のための先端技術展開事業	地域資源を活用した省エネ・省コスト・高付加価値型水産業・水産加工業の実用化実証研究	田中 教幸	国立研究開発法人水産研究・教育機構	2016/4/1～ 2017/3/31	261.2万円
科学研究費補助金･基盤研究C	魚類生殖腺性分化における組織構築と性的可塑性の関連	平井 俊朗	独立行政法人日本学術振興会	平成27～29年度	

部門・班					
プロジェクト名称	課題名	氏名	委託機関	受託期間	備考
三陸水産教育研究部門					
科学研究費補助金・基盤研究A	長期間の低線量放射線被曝が魚類に及ぼす遺伝的影響に関する研究	平井 俊朗	独立行政法人日本学術振興会	平成25～28年度	
中国国家自然科学研究基金	活ホタテ風味品質影響因子の分析	袁 春紅	中国国家自然科学アカデミー	2017/1/1～2020/12/31	1160万分担
水産物等の国際基準となる品質・鮮度指標に関する調査研究	ホタテの鮮度維持研究	袁 春紅	国立大学法人鹿児島大学	2016/4/1～2017/3/31	40万円
研究人材育成支援経費	日本産ホタテガイ漁獲後鮮度維持方法の比較研究	袁 春紅	国立大学法人岩手大学	2017/1/1～2017/3/31	50万円
平成28年度魚のまち構築に向けた中核人材育成支援事業	釜石産水産物の消費拡大に向けたリーダー育成等	田村 直司	釜石市	2016/7/1～2017/3/31	委託費500万円
平成28年度海洋研究成果フィードバッグ事業	研究成果の普及・海洋研究拠点の機運の醸成等	田村 直司	岩手県	2016/6/28～2017/3/31	委託費552千円
地域防災教育研究部門					
産学連携等研究	火山地域における樹木を伴う山腹崩壊の発生	井良沢 道也	北海道大学（国土交通省河川技術開発）	2016/8/1～2017/3/1	
内閣府　地方創生加速化交付金	復興・まちづくりプログラム開発	五味 壮平	陸前高田市	2016/4/1～2017/3/31	陸前高田グローバルキャンパス準備の一環として
科学研究補助(基盤研究(C))	氾濫流下におけるヘッドマウントディスプレイ型高精度車避難疑似体験システムの開発		日本学術振興会	2016/4/1～2019/3/31	
科学研究補助(基盤研究(C))	津波・高潮氾濫流に粘り強い建物の安全照査のための数値計算技術の開発	小笠原 敏記	日本学術振興会	2014/4/1～2017/3/31	
平泉文化教育研究部門					
平泉文化の総合的研究基本計画	東アジアの視点から見た中尊寺の金銀字経	劉 海宇	岩手県教育委員会	2016/9/1～2017/3/31	
平泉文化の総合的研究基本計画	ポータブル複合 X 線分析による白磁と青磁の胎土分析（その 2）	會澤 純雄	岩手県教育委員会	2016/9/1～2017/3/31	

06 その他

部門・班					
活動内容	氏　名	依頼機関等	実施日	実施場所	備　考
三陸復興部門・心のケア班					
佐々木 誠／子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム・講話2の講師	佐々木 誠	主催：三陸復興・地域創生推進機構心のケア班 共催：子どもグリーフサポートステーション 後援：復興庁、岩手県教育委員会、岩手県沿岸広域振興局、釜石市	2017/2/11	釜石地区合同庁舎	参加者は75人
佐々木 誠／子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム・シンポジウムの部のシンポジスト	佐々木 誠	主催：三陸復興・地域創生推進機構心のケア班 共催：子どもグリーフサポートステーション 後援：復興庁、岩手県教育委員会、岩手県沿岸広域振興局、釜石市	2017/2/11	釜石地区合同庁舎	参加者は75人
織田 信男／子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム・シンポジウムの部の指定討論者	佐々木 誠	主催：三陸復興・地域創生推進機構心のケア班 共催：子どもグリーフサポートステーション 後援：復興庁、岩手県教育委員会、岩手県沿岸広域振興局、釜石市	2017/2/11	釜石地区合同庁舎	参加者は75人
山口 浩／子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム・シンポジウムの部の司会	佐々木 誠	主催：三陸復興・地域創生推進機構心のケア班 共催：子どもグリーフサポートステーション 後援：復興庁、岩手県教育委員会、岩手県沿岸広域振興局、釜石市	2017/2/11	釜石地区合同庁舎	参加者は75人
佐々木 誠／取材対応・日報・工藤／（2017／1／26の岩手日報紙の「ここで輝くno.58」に掲載）	佐々木 誠	岩手日報の取材対応をしました。	2017/1/11		岩手日報
佐々木 誠／NHK大槻アナ取材（2017／3／7：10：00pmNHKジャーナルの中で10：30頃放送された）	佐々木 誠	NHK 盛岡ラジオ	2017/2/20		NHK第一ラジオで放送された岩手の報告の一部分として、遺児への関わり方のインタビューを受けました。
三陸復興部門・被災動物支援班					
井口先生による研究発表および開業獣医師による症例発表検討会	山﨑 弥生，佐藤 れえ子 その他	岩手小動物臨床研究会	5月27日	附属動物病院	
開業獣医師による症例発表検討会	山﨑 弥生，佐藤 れえ子 その他	岩手小動物臨床研究会	6月24日	附属動物病院	

部門・班

活動内容	氏　名	依頼機関等	実施日	実施場所	備　考
三陸復興部門・被災動物支援班					
開業獣医師による症例発表検討会	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	岩手小動物臨床研究会	7月2日	附属動物病院	
三学会予演会(岩手大学付属病院2演題、 開業獣医師2演題)	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	岩手小動物臨床研究会	9月12日	附属動物病院	
附属動物病院非常勤講師 武井先生による症例報告	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	岩手小動物臨床研究会	12月2日	附属動物病院	
福井大祐先生による研究発表	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	岩手小動物臨床研究会	1月27日	附属動物病院	
動物なんでも相談会	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	岩手県沿岸地区獣医師会	6月5日	グリーンピア 三陸宮古	
動物なんでも相談会	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	岩手県獣医師会	9月22日	馬っ子パーク いわて	
移動診療	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	動物愛護団体「いのちの会・岩手」	6月10日	「いのちの会·岩手」 動物保護施設	
移動診療	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	動物愛護団体「いのちの会・岩手」	6月17日	「いのちの会·岩手」 動物保護施設	
台風10号による被害を受けた岩泉町での 被災動物調査	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	宮古保健所	10月17日	岩泉町役場	
地域防災活性化シンポジウム参加	山﨑 弥生, 佐藤 れえ子 その他	東京都 総務局 総合防災部 防災管理課	3月11日	東京都議会議事堂	
三陸復興部門・ものづくり産業復興推進班					
第5回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2016/4/2	盛岡市	主催
第6回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2016/6/25	盛岡市	主催
第7回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2017/9/3	盛岡市	主催
夢ナビライブにて講義 「地方創生の未来を描く情報デザイン」	五味 壮平	フロムページ	2016/10/1	仙台市	
陸前高田情報誌『だいぶそこまで』発行	五味 壮平		2017/10/1		岩大E_code主催
陸前高田市認定通訳ガイド育成研修にて講義 「ぼくが陸前高田に通うワケ」	五味 壮平	マルゴト陸前高田	2016/10/7	陸前高田市	
岩手大学不来方祭にて「陸前高田物産展」実施	五味 壮平		2016/10/15- 16	岩手大学	岩大E_code主催
がんぷくカフェにて講演「災害後、大学＆大学生に できることってなんだろう 」	五味 壮平	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構	2016/11/1	岩手大学	
「岩大生Presents! いわて ぬぐだまるフェア」開催	五味 壮平		2016/11/27	盛岡市 クロステラス	岩大E_code主催
第8回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2017/12/17	盛岡市	主催
陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム2017実施	五味 壮平		2017/1/21- 1/22	陸前高田市	主催
ふるさといわて創造部会·作業部会にて講演 「地域と関わる学生プロジェクトについて ～事例紹介＆思うこと～」	五味 壮平	岩手大学 COC 推進室	2017/02/21	岩手大学	
新しい東北 交流会in釜石 パネリスト	船戸 義和	復興庁	2016/12/17	釜石情報 交流センター	
平成28年度コミュニティ活動報告会 おおつちコミュニティフェス パネリスト	船戸 義和	大槌町	2017/3/18	大槌町中央公民館	
三陸復興部門・農地復興班					
講義題目:防潮堤の動態観測と カキ殻を用いた土の固化処理技術	金山 素平	平成 28 年度後期科目 「総合科目特別講義（三陸の復興を考える)」	2016/10/27	岩手大学学生センター G29 講義室	
発表題目:竹繊維を混合した 粘土の一次元圧密特性	金山 素平	岩手大学農学部共生環境課程 農村環境デザイン学コース　卒業論文発表会	2017/2/13	岩手大学農学部 7 番教室	
発表題目:竹繊維混合土の工学的性質	金山 素平	岩手大学農学部共生環境課程 農村環境デザイン学コース　卒業論文発表会	2017/2/13	岩手大学農学部 7 番教室	
発表題目:レオロジーモデルを使用した 粘土の圧密沈下挙動の検討	金山 素平	岩手大学農学部共生環境課程 農村環境デザイン学コース　卒業論文発表会	2017/2/13	岩手大学農学部 7 番教室	
発表題目:カキ殻を用いた土の 固化処理技術に関する研究	金山 素平	岩手大学農学部共生環境課程 農村環境デザイン学コース　卒業論文発表会	2017/2/13	岩手大学農学部 7 番教室	
発表題目:地中レーダーと電磁探査による 土壌健全性の広域的評価手法	山本 清仁	岩手大学農学部共生環境課程 農村環境デザイン学コース　卒業論文発表会	2017/2/13	岩手大学農学部 7 番教室	

部門・班					
活動内容	氏　名	依頼機関等	実施日	実施場所	備　考
三陸復興部門・農地復興班					
発表題目：電気探査による津波被災水田の土壌健全性評価	山本 清仁	岩手大学農学部共生環境課程 農村環境デザイン学コース　卒業論文発表会	2017/2/13	岩手大学農学部 7番教室	
講義題目：津波により被災した水田とため池の塩分濃度調査	山本 清仁	平成 28 年度後期科目「総合科目特別講義（三陸の復興を考える）」	2016/10/27	岩手大学学生センター G29 講義室	
発表題目：陸前高田市小友地区農業排水の流量および物質負荷量の推定	濵上 邦彦	岩手大学農学部共生環境課程 農村環境デザイン学コース　卒業論文発表会	2017/2/13	岩手大学農学部 7番教室	
三陸復興部門・園芸振興班					
夏イチゴセミナー	岡田 益己，松嶋 卯月	主催：三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班 共済：岩手なつあかり研究会	4月25日～26日	岩手大学、雫石町、盛岡市	参加者数：36名
姫かりふ栽培セミナー	岡田 益己，松嶋 卯月	主催：三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班 協力：田野畑村	6月17日	田野畑村	参加者数：14名
もみ殻培地セミナー	松嶋 卯月，岡田 益己	主催：三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班 共済：岩手なつあかり研究会	11月9日	岩手大学	参加者数：33名
クッキングトマトの商品化と加工利用に関する研究会	松嶋 卯月，由比 進，岡田 益己	主催：三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班 共済：クッキングトマトファンクラブ	2月9日	岩手大学	参加者数：14名
研究会「夏に食べたいイチゴを作って運んで売る」	岡田 益己，松嶋 卯月，由比 進	主催：三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班 共済：岩手なつあかり研究会	3月16日	岩手大学	参加者数：29名
三陸産トマトの試食販売・調査	松嶋 卯月，加藤 一幾，岡田 益己	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	8月6日	よ市	
三陸産トマトの試食販売・調査	松嶋 卯月，加藤 一幾，岡田 益己	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	8月20日	よ市	
三陸産姫かりふの試食販売・調査	松嶋 卯月，加藤 一幾，岡田 益己	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	11月12日	よ市	
三陸産姫かりふの試食販売・調査	松嶋 卯月，加藤 一幾，岡田 益己	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	11月26日	よ市	
三陸産姫かりふの試食販売・調査	松嶋 卯月，岡田 益己	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	12月10日	スーパーマイヤ	
福島県農産物の購入状況などの項目について，Webアンケート	佐藤和憲	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班			
クッキングトマトの栽培・取引支援	加藤 一幾，岡田 益己，松嶋 卯月	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	通年	陸前高田市、大槌町	農家2戸
夏秋どりイチゴの栽培支援	岡田 益己，松嶋 卯月	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	通年	大槌町、田野畑村、宮古市、山田町、岩泉町	農家5戸
姫かりふの栽培支援	岡田 益己，松嶋 卯月	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	通年	久慈市、田野畑村	農家5戸
小友水田畦畔緑地化試験	岡田 益己，松嶋 卯月	三陸復興・地域創生推進機構園芸振興班	通年	陸前高田市	
もりおかマチナカ商談会に出展	加藤 一幾	もりおかまちづくり株式会社	2016/10/12	大通会館リリオ3階	
もりおかマチナカ商談会に出展	松嶋 卯月，岡田 益己	もりおかまちづくり株式会社	2017/3/7	エスポワール岩手	
ガンダイニングで姫かりふの紹介	加藤 一幾	岩手大学・総務広報課	2016/11/22		
シイタケ廃菌床利用に関する相談	加藤 一幾	市原刑務所	2016/10/19	岩手大学	
地域創生部門					
理事	今井 潤	盛岡工業クラブ	毎月第2火曜		機構が会員
監査	今井 潤	NPO 未来図書館			今井兼業
岩手ネットワークシステム事務局	今井 潤	岩手ネットワークシステム			
盛岡市産学官連携研究センター夏の交流会	今井 潤		2016/8/9	MIU	MIU 学生スタッフ企画
盛岡市産学官連携研究センター冬の交流会	今井 潤		2016/12/20	MIU	MIU 学生スタッフ企画
三陸水産教育研究部門					
水産海洋学会地域研究集会「三陸海域の養殖業における震災復興と未来」の開催	後藤 友明		2016/12/13	気仙沼魚市場	研究集会コンビーナー
ブリ資源検討会	後藤 友明	富山県農林水産総合技術センター	2016/9/20	富山県民会館	
サケ学研究会	塚越 英晴		2016/7/23	北海道大学国際本部	
釜石市商工会議所地域振興委員会例会にて講演	田中 教幸	釜石市商工会議所	2017/3/23	ホテルサンルート釜石（桐の間）	約20名出席
次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー創造プラットフォーム設立総会で講演	田中 教幸	（株）山元	2017/3/8	（株）山元　会議室	
第24回地域を生かす科学技術研修会で講演	田中 教幸	公益財団法人全日本地域研究交流会	2017/1/19	三陸水産研究センター	

部門・班

活動内容	氏　名	依頼機関等	実施日	実施場所	備　考
三陸水産教育研究部門					
2016年度三陸復興・地域創生水産機構 三陸水産研究教育部門成果報告で報告	田中 教幸	三陸水産研究センター	2017/3/22	岩手大学農学部 会議室	
釜石市学習講座の公演	田中 教幸	釜石市	2016/10/29	三陸水産研究 センター	
盛岡中央高校SGHプロ研修で講義	田中 教幸	盛岡中央高校	2016/7/12	三陸水産研究 センター	
洋野町種市高等学校大学フェアで講演	田中 教幸	洋野町種市高等学校	2016/7/18	洋野町種市高等学校	
岩手大学、東京海洋大学及び北里大学における 水産業の復興に向けた研究成果報告会で講演	田中 教幸	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 三陸水産研究センター	2016/4/23	宮古市民文化会館	一般市民・漁業者対象
稗貫川におけるアユ種苗放流効果の 遺伝分析による判定(2015年度)	北村 志乃	岩手県稗貫川漁業協同組合	2016/5/26		研究報告
さーもん・かふぇ2016パネリスト	袁 春紅	サケ研究会	2016年7月1～ 2日	盛岡	
地域防災教育研究部門					
夢ナビライブにて講義 「地方創生の未来を描く情報デザイン」	井良沢 道也	フロムページ	2016/10/1	仙台市	
台風10号災害現地調査	井良沢 道也		2016/9/8～ 9/10	岩泉町・宮古市	砂防学会東北支部主催
岩手・宮城内陸地震災害現地調査	井良沢 道也		2016/9/30	栗原市	砂防学会東北支部主催
砂防学会東北支部第１回研究発表大会	井良沢 道也		2017/1/26	岩手大学農学部	砂防学会東北支部主催
2016年8月23日　3面　山形新聞 災害対策　大学も協力	井良沢 道也	山形新聞	2016/8/22	山形県庄内町	国土交通省東北地方 整備局、庄内町と共催
2016年8月31日　時事通信ネット記事 住民・大学が参加し災害地図	井良沢 道也	時事通信	2016/8/22	山形県庄内町	国土交通省東北地方 整備局、庄内町と共催
2016年9月17日　NHK山形 まちあるきでハザードマップ	井良沢 道也	NHK 山形	2016/9/17	山形県庄内町	国土交通省東北地方 整備局、庄内町と共催
2016年9月18日　2面　山形新聞 ハザードマップ作成へまちあるき	井良沢 道也	山形新聞	2016/9/17	山形県庄内町	国土交通省東北地方 整備局、庄内町と共催
2016年9月11日　2面　岩手日報 復興のさなかに　台風10号の爪痕①	井良沢 道也	岩手日報			
2016年10月6日　13面　読売新聞岩手県版 山から沢水　土石流多発か	井良沢 道也	読売新聞			
2016年10月6日　27面　朝日新聞岩手県版 台風10号災害	井良沢 道也	朝日新聞			
2016年10月16日　28面 河北新報ワイド東北版　台風10号災害	井良沢 道也	河北新報			
第5回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2016/4/2	盛岡市	主催
第6回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2016/6/25	盛岡市	主催
第7回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2017/9/3	盛岡市	主催
夢ナビライブにて講義「地方創生の未来を描く 情報デザイン」	五味 壮平	フロムページ	2016/10/1	仙台市	
陸前高田情報誌『だいぶそこまで』発行	五味 壮平		2017/10/1		岩大E_code主催
陸前高田市認定通訳ガイド育成研修にて講義 「ぼくが陸前高田に通うワケ」	五味 壮平	マルゴト陸前高田	2016/10/7	陸前高田市	
岩手大学不来方祭にて「陸前高田物産展」実施	五味 壮平		2016/10 15-16	岩手大学	岩大E_code主催
がんぷくカフェにて講演 「災害後、大学&大学生にできることってなんだろう」	五味 壮平	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構	2016/11/1	岩手大学	
「岩大生Presents! いわて ぬぐだまるフェア」開催	五味 壮平		2016/11/27	盛岡市 クロステラス	岩大E_code主催
第8回　盛岡⇔陸前高田を近くしよう 懇談会＆懇親会実施	五味 壮平		2017/12/17	盛岡市	主催
陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム2017実施	五味 壮平		2017/1/21- 1/22	陸前高田市	主催
ふるさといわて創造部会・作業部会にて講演「地域 と関わる学生プロジェクトについて ～事例紹介& 思うこと～」	五味 壮平	岩手大学 COC 推進室	2017/2/21	岩手大学	
岩手）大槌旧庁舎巡り遺族２人が対談 岩手大教授が企画	麦倉 哲	朝日新聞	2016/6/14	大槌町公民館	
生きた証を語り継ぐ会	麦倉 哲	NHK 盛岡	2016/9/7		

部門・班					
活動内容	氏　名	依頼機関等	実施日	実施場所	備　考
地域防災教育研究部門					
岩手日報「識者のまなざし」	麦倉 哲	岩手日報	2016/9/13		
被災者サロン本格化　大槌で岩手大麦倉教授研究室 震災の記憶を共有　悲しみ、不安語り合う	麦倉 哲	岩手日報	2016/11/20		
岩手)震災の悲しみ語り合う場 岩手大が大槌で提供	麦倉 哲	朝日新聞	2016/12/25		
NHK番組「クローズアップ東北」 「仮設住宅　6年目の"無念" ～取り残される被災者たちに何が～」出演	麦倉 哲	NHK 仙台	2017/1/6	NHK 仙台放送局	
河北新報「震災と霊性シンポジウム」	麦倉 哲	岩手日報	2017/3/4		
神戸・長田で講座「御蔵学校」 亡き人との思い大切に一岩手・大槌町 高台移転巡る現状報告一宮城・石巻市	麦倉 哲	神戸新聞	2017/3/6		
大槌町　災害公営住宅調査	麦倉 哲	NHK 盛岡	2017/3/22		
大槌町　災害公営住宅調査	麦倉 哲	岩手朝日テレビ	2017/3/22		
いわて人模様　大槌町の復興を支える 岩手大教授・麦倉 哲さん(61)　／岩手	麦倉 哲	毎日新聞	2017/3/23		
大槌の災害公営住宅　医療費負担減100%が要望 岩手大など調査	麦倉 哲	産経新聞	2017/3/23		
「心平穏になりつつある」42% 大槌・災害公営住宅調査	麦倉 哲	岩手日報	2017/3/23		
復興住宅「訪問者ゼロ11%」･･･大槌の調査	麦倉 哲	読売新聞	2017/3/23		
大槌町　災害公営住宅調査	麦倉 哲	めんこいテレビ	2017/3/27		
台風十号被災者支援	麦倉 哲	大槌町仮設住宅住民	2016/9/24		台風 10 号後の岩手県河川事務所の対応について相談を受け、解決に導いた。
地域を支える「エコリーダー」・「防災リーダー」育成プログラム	小笠原 敏記	岩手大学	2016/5/14- 12/17		
アラスカ大学アンカレッジ校との 防災ハンドブックの作成	小笠原 敏記	アラスカ大学	2016/5/26	地域防災研究 センター会議室	
アカデミックインターンシップ	小笠原 敏記	一関第一高等学校	2016/7/3	Hydro Labo.	
平成28年台風第10号の取材	小笠原 敏記	IBC	2016/8/31	岩手大学理工学部	
平成28年台風第10号の取材	小笠原 敏記	河北新報	2016/9/27	岩手大学理工学部	
平成28年台風第10号の取材	小笠原 敏記	毎日新聞	2016/9/28	岩手大学理工学部	
平成28年台風第10号の取材	小笠原 敏記	IBC	2016/9/29	岩手大学理工学部	
平成28年台風第10号の取材	小笠原 敏記	朝日新聞	2016/10/11	岩手大学理工学部	
平成28年台風第10号の取材	小笠原 敏記	岩手日報	2016/10/13	岩手大学理工学部	
地域の安全を考えるワークショップ(車座研究会)	小笠原 敏記	八幡平市	2017/1/21	寺田コミュニティ センター	
岩手大学　地域を支える「エコリーダー」 「防災リーダー」育成プログラム　講師・運営	菊池 義浩		2016/4/1- 2017/3/31	岩手大学	主催:岩手大学
岩手大学　防災・危機管理エキスパート育成講座 講師・運営	菊池 義浩		2016/4/1- 2017/3/31	岩手大学　他	主催:岩手大学地域防災 研究センター
奥州市立衣川小学校　学校防災アドバイザー派遣 事業および防災学習(防災マップづくり)　講師	菊池 義浩	岩手県教育委員会 奥州市立衣川小学校	2016/6/21- 2017/2/28	衣川小学校　他	
第16回地域防災フォーラム　運営	菊池 義浩		2016/8/3	岩手大学復興祈念 銀河ホール	参加者:約40名
八幡平市立西根第一中学校 学校防災アドバイザー派遣事業　講師	菊池 義浩	岩手県教育委員会	2016/8/31	西根第一中学校	
岩手日報創刊140周年記念事業　「東日本大震災5年　いわて防災・減災フォーラム2016」 パネル出展	菊池 義浩		2016/9/2	いわて県民情報 交流センター	共催:東北みらい創り サマースクール実行委員会
岩手県立大東高等学校　学校防災アドバイザー 派遣事業　演習補助	菊池 義浩	岩手県教育委員会	2016/9/9	大東高等学校	
岩手県立大船渡東高等学校 学校防災アドバイザー派遣事業　講師	菊池 義浩	岩手県教育委員会	2016/9/12	大船渡東高等学校	
神戸大学　震災復興支援・災害科学研究推進室 第5回シンポジウム　パネリスト	菊池 義浩	神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室	2016/10/3	神戸大学百年記念館 六甲ホール	
平成28年台風10号災害緊急調査報告会　運営	菊池 義浩		2016/10/15	岩手大学復興祈念 銀河ホール	参加者:約120名

部門・班

活動内容	氏　名	依頼機関等	実施日	実施場所	備　考
地域防災教育研究部門					
岩手大学　岩手の"復興"と未来を支える科学技術を学ぶ被災地支援プログラム コーディネーター	菊池 義浩		2016/10/24-2016/10/25	岩手大学　他	主催:岩手大学 研究高度化 グローバル化特別対策室
From the Management of Crisis to the Governance of Risk: Time for a Paradigm Shift?　参加	菊池 義浩		2017/1/9-2017/1/10	CIRD Conference Center（中国）	主催：ハーバード大学ケネディ行政大学院 他
八幡平市･寺田地区「地域の安全を考えるワークショップ(車座研究会)」　演習担当	菊池 義浩	八幡平市寺田地域振興協議会	2017/1/21	寺田コミュニティセンター	参加者:27名
第17回地域防災フォーラム　運営	菊池 義浩		2017/2/3	岩手大学復興祈念銀河ホール	参加者:約40名
フォーラム「東日本大震災６年 大規模災害と如何に立ち向かうか～大規模災害時のネットワーク確保に向けて～」　司会･運営	菊池 義浩		2017/2/20	岩手大学 北桐ホール	参加者:約100名
第10回吉里吉里地区自主防災計画策定検討会　活動支援	菊池 義浩	吉里吉里地区自主防災計画策定検討会	2017/3/2-2017/3/3	大槌町公民館 吉里吉里分館　他	
農村計画学会　震災復興科研シンポジウム パネリスト	菊池 義浩	農村計画学会震災復興研究グループ	2017/3/5	エルパーク仙台	主催:農村計画学会 震災復興研究グループ　他
岩手県防災教育研修会･助言者	森本 晋也	岩手県教育委員会	2016/6/15	サンセール盛岡	
釜石市教育研究所　いのちの教育研究班･助言者	森本 晋也	釜石市教育研究所	2016/6/29	釜石市教育センター	
第47回岩手県公立小中学校事務研究大会分科会助言者	森本 晋也	岩手県公立小中学校事務職員研究協議会	2016/10/7	アイーナ	復興に係る助言
日本教材学会第28回研究発表大会･シンポジウム「教材の今日的意義を考える」･シンポジスト	森本 晋也	日本教材学会	2016/10/15	盛岡大学	いわての復興教育について発表
第26回東北地区中学校進路指導研究大会岩手大会･第41回岩手県中学校進路指導研究大会盛岡大会･助言者	森本 晋也	岩手県中学校教育研究会特別活動・進路指導研究部会	2016/11/2	盛岡市立大宮中学校	復興教育分科会での助言
教員研修センター「カリキュラム･マネジメント指導者養成研修」･講師	森本 晋也	教員研修センター（主催：文部科学省）	2016/12/14	教員研修センター	学校安全を担当
第39回釜石市教育研究所研究発表会全体会･助言者	森本 晋也	釜石教育研究所	2017/1/5	釜石中学校	いのちの教育研究班の発表への助言
"いわて三陸復興フォーラム「安全の確保」報告会 トークセッション･コーディネーター"	森本 晋也	岩手県教育委員会	2016/1/20	岩手県水産会館	
黒潮町防災教育フォーラム･進行(コーディネーター)	森本 晋也	高知県黒潮町教育委員会	2017/2/1	黒潮町ふるさと総合センター	
平成28年岩手県教育研究発表会「いきる･かかわる･そなえる」･分科会助言者及びパネリスト	森本 晋也	岩手県教育委員会	2017/2/10	岩手県立生涯学習推進センター	
岩手日報:防災教育についてのインタビュー	森本 晋也	岩手日報社	2016/6/11		
岩手日報:防災教育についてのインタビュー	森本 晋也	岩手日報社	2016/9/1		
第8回微動の会	山本 英和		2016/9/30 2016/10/1		
平成28年度東北地域災害科学研究集会の実施	山本 英和	自然災害研究協議会	2016/12/23 2016/12/24		
平泉文化教育研究部門					
「点群処理基礎技術講習会」への参加	藤崎 聡美	主催：大規模環境の３次元計測と認識モデル化技術専門委員会	2016/9/23(金)	東京大学 山上会館	
「大規模環境の３次元計測と認識･モデル化技術専門委員会 第24回定例研究会」への参加	藤崎 聡美	主催：大規模環境の３次元計測と認識モデル化技術専門委員会	2016/10/17(月)	大阪大学　吹田キャンパス 銀杏会館	
岩手大学平泉文化研究センター Webサイトのリニューアル	藤崎 聡美	デザインおよびサイト構築 技術部　藤崎 聡美が担当			

岩手大学の復興支援に関する主な出来事

●平成23年3月11日(金)午後２時46分　東日本大震災発生（※盛岡市　震度5強）

●平成23年

3月11日　**「危機対策本部」を設置**

（1）学生・児童・教職員の安否確認
（2）建物・設備の被害状況等確認

【岩手大学の被災状況】

（1）学生・児童・教職員の被災状況

犠牲者：1名（学部学生）、 被災学生※：377名
※家屋（実家）の損壊、家計支持者が亡くなった又は大幅に収入がなくなった、実家が原発の影響をうけた者など
被災教職員：14名

（2）建物・設備に関する被害

建物：「危険」「要注意」はなかったが、天井の破損、水漏れ等はあり
設備：分析機器等、修理・メンテナンスが必要な物品あり

被災直後の図書館
（3月11日）

3月12日　**一般入試後期日程試験を中止**

3月23日　**卒業式中止（※代替行事として、課程ごとの学位授与式を実施）**

課程ごとの学位授与式
（3月23日）

3月28日　**岩手大学調査団による沿岸被災地の調査を実施**

復興構想の作成に向けて、沿岸被災地にて津波被害の状況を把握するための調査を実施。

4月 1日　**「岩手大学東日本大震災復興対策本部」を設置**

①情報・連絡調整、②学生支援、③施設・整備、④地域復興支援、⑤健康管理の5部門からなる復興対策本部を設置し、全学体制による復興支援活動を開始。

移動診療車による被災動物の診療を開始

農学部附属動物病院の産業動物用検診車を移動診療車「わんにゃんレスキュー号」として活用し、被災地での診療を実施。5月までに計5回実施し、延べ131頭の犬、猫等を診療。

移動診療車での診察
（4月1日～）

4月 6日　**学生によるボランティア活動開始**

清掃作業、地域イベント運営支援、学習支援活動、ボランティアセンター運営支援等を実施。「岩手大学三陸復興サポート学生委員会」などが活動中。
（平成29年3月までに延べ3,262名が活動）

4月 7日　**入学式中止（※代替行事として、5月9日に「新入生歓迎の集い」を実施）**

4月11日　**震災復興に関する委員会等への参画**

政府の復興構想会議（検討部会）に教員1名参画。また、岩手県の津波復興委員会や被災市町村の復興計画策定委員会等に教員延べ25名が参画。

4月29日　**教職員によるボランティア活動開始**

宮古市及び釜石市にて、避難所運営支援や側溝の汚泥除去、家屋清掃、物資配付等を実施（平成23年10月までに延べ298名が活動）。

学生ボランティア活動
（4月6日～）

5月 9日　**前期授業開始（※例年より約1ヶ月遅れ。教育学部のみ4月18日に授業開始）**

5月18日　**「岩手県沿岸復興プロジェクト」開始**

『被災者（緊急）支援』、『海洋産業』、『地域防災』、『産業復興』の4つの分野について、学内からプロジェクトを公募。平成23年度中に28事業を実施。

10月 1日　**「岩手大学三陸復興推進本部」を設置**

復興対策本部を発展的改組し、長期的に復興支援を行う体制を整備。①教育支援、②生活支援、③水産業復興推進、④ものづくり産業復興推進、⑤農林畜産産業復興推進、⑥地域防災教育研究の各事業を展開。また、三陸沿岸での活動拠点として、釜石市にサテライト施設（釜石サテライト）を設置。

【釜石サテライト】常勤職員2名、コーディネーター1名、事務補佐員1名を配置。

釜石サテライト設置
（10月1日）

10月30日　**東京海洋大学及び北里大学と「三陸水産業の復興と地域の持続的な発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」を締結**
三陸水産業の復興に向けた3大学連携推進シンポジウムの開催

東日本大震災により被害を受けた三陸沿岸の水産業について、岩手大学、東京海洋大学及び北里大学の3大学が地域と連携し、復興・発展を推進するため、「3大学連携推進に関する基本合意書」を締結し、シンポジウムを開催。

3大学連携推進基本合意書
締結（10月30日）

11月 7日　**岩手県沿岸市町村復興期成同盟会と「岩手県沿岸市町村の復興と地域の持続的発展に向けた連携・協力書」を締結**

三陸沿岸の復興と地域の持続的発展に向けて、岩手大学が取り組む復興支援事業について連携・協力を行うため、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会（沿岸13市町村で構成）と連携・協力書を締結。

12月 9日　**文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」（平成23年度第3次補正予算）に採択**

○三陸沿岸地域の「なりわい」の再生・復興の推進事業

三陸沿岸地域の「なりわい」の再生・復興として、三陸ものづくり産業復興支援事業、農林畜産業復興支援事業、生活復興支援事業の3事業の復興を推進。

○いわての教育及びコミュニティー形成復興支援事業

いわて高等教育コンソーシアム構成5大学（岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手大学）が互いの特徴とこれまでの復興支援の取組を最大限に生かし、「地域を担う中核人材育成事業」を展開。

寄贈されたワンにゃん号
（3月22日）

●平成24年

3月22日　**マースジャパン社から岩手大学にペット専用移動診療車「ワンにゃん号」を寄贈**

マースジャパン社が実施している被災地支援の一環として、岩手大学にペット専用移動診療車を寄贈。沿岸各地で開催される動物支援イベントにて、無料診療や相談会等を実施中。

4月 1日　**「岩手大学三陸復興推進機構」を設置**

復興推進本部を発展的改組し、学則に基づく組織に格上げ。復興支援に携わる教職員数を拡充し、復興支援体制をさらに強化。

「岩手大学地域防災研究センター」を設置

工学部附属地域防災研究センターを、文理融合型の全学施設として強化・充実。

4月 1日　**SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業を開始**

岩手大学、東京海洋大学、北里大学の3大学連携による水産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指したSANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業が開始。

4月 3日　**「久慈エクステンションセンター」を設置**

三陸沿岸での情報収集・発信や関係機関との連絡調整機能の強化のため、久慈市にエクステンションセンターを設置。大学本部・釜石サテライト・関係自治体等と連携・協力し、復興に向けた各種事業を推進。

久慈エクステンションセンター設置（4月3日）

10月 1日　**「宮古エクステンションセンター」を設置**

宮古市に宮古エクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト・久慈エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。

11月 2日　**第7回マニフェスト大賞にて、震災復興支援・防災対策最優秀賞を受賞**

第7回マニフェスト大賞（マニフェスト大賞実行委員会主催、毎日新聞社・早稲田大学マニフェスト研究所共催）において、自治体や民間企業、市民団体などによる活動を表彰する「震災復興支援・防災対策賞」の最優秀賞を岩手大学が受賞。

第７回マニフェスト大賞「震災復興支援・防災対策賞」最優秀賞を受賞（11月2日）

●平成25年

3月18日　**「釜石サテライト」移転**

釜石市平田地区に釜石サテライト竣工。「岩手大学三陸水産研究センター」と「こころの相談ルーム」も開設。

釜石サテライト（3月18日）

4月 1日　**「三陸水産研究センター」を設置**

釜石サテライト内に岩手大学三陸水産研究センターを設置、隣接する岩手県水産技術センター等と連携しながら、三陸水産業の復興活動を推進。

4月 3日　**「大船渡エクステンションセンター」を設置**

大船渡市に大船渡エクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト・久慈・宮古エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。

大船渡エクステンションセンター設置（4月3日）

5月11日　**「釜石サテライト竣工及び三陸水産研究センター設置記念式典」を実施**

釜石サテライトの竣工と三陸水産研究センターの設置を記念し、式典を実施。

5月21日　**公開討論会「復興を通じた革新　産・官・学・NPO それぞれの役割 ～ニューオリンズに学ぶ～」を開催**

2005年ハリケーン・カトリーナにより被災したニューオリンズの復興に貢献した企業家等民間の代表を招へいし、釜石・岩手の復興の一助にすることを目的として、(公財) 渋沢栄一記念財団と岩手大学が共催。

7月10日　**下村博文文部科学大臣が釜石サテライトを訪問**

被災地でボランティアを行っている岩手大学、岩手県立大学の学生らと意見交換。

下村文部科学大臣が釜石サテライトを訪問（7月10日）

10月 3日～　**後期全学共通教育科目として「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を開設**

震災からの復興について学術的観点から検討し、復興への関心を高めるとともに、復興を担う次代の人材を養成することを目的として、東日本大震災の概要、本県における被災状況及び復興に向けての課題・方向性などを総括的に学習し、その上で、復興への岩手大学の取組みを事例的に学習。

11月 9日　**第3回全国水産系研究者フォーラムを開催**

「震災後の三陸地域における水産業の現状と復興」をテーマに、全国水産系研究者のより一層の横断的ネットワークの構築と三陸復興を目指して開催し、100名以上が参加。

「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催（12月7日）

12月 7日　**岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム2013「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催**

東京都板橋区において、岩手大学で行われている震災復興活動について紹介するとともに、東京でも広がりつつある被災地コミュニティについて、参加者の方々との対話も交えながら考えるシンポジウムを開催し、約230名が参加。

●平成26年

1月17日・18日　**被災地の現状と復興の取り組みを学ぶ現地研修を実施**

岩手の研究を履修している学生と実際に被災地でボランティア活動を行っている学生を対象に、1泊2日の現地研修を実施し、16名が参加。

旧大槌町役場の前で説明を受ける学生（1月18日）

3月22日　**SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業報告会を開催**

岩手大学・東京海洋大学・北里大学の3大学が取り組んできた研究成果について三陸地域の漁業関係者の方々に知っていただくと共に、公設試験機関や全国の水産研究者との連携を強化していくことを目的に開催し、約90名が参加。

4月26日　**地域と創る“いわて協創人材育成＋地元定着”プロジェクトによる被災地学修がスタート**

地域の歴史・文化・特色を理解し、異分野の専門家との協働で自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる人材の育成を目指す地域と創る“いわて協創人材育成＋地元定着”プロジェクトの一環として、今年度から全学部1年生の必修科目として「被災地学修」を実施。

6月27日　**低温低湿乾燥法による魚介乾製品「潮騒の一夜干し」販売記者会見開催**

岩手大学と久慈市の加工販売会社との共同研究で誕生した魚介乾製品「潮騒の一夜干し」販売記者会見を開催。岩手大学の「低温低湿乾燥法」の技術を商品化に応用。

設備導入の段階で、公益財団法人さんりく基金などの助成を受けるとともに、パッケージデザインは県内のプロデュース会社が担当し、産学官が協力したオール岩手の製品となった。

潮騒の一夜干し販売記者会見（6月27日）

6月28日　**水産加工業車座研究会in大船渡を開催**

岩手大学、東京海洋大学、北里大学の共催により、水産加工業車座研究会in大船渡を開催。3大学の研究事例を紹介するとともに、「商品開発・魚食普及」「ブランド化」「水産物の有する機能性」「加工工程改善、生産拡大」の4つのテーマに分かれて車座形式での意見交換会を実施。

8月 3日　**地域防災フォーラム「未来への復興まちづくり」を開催**

神戸大学都市安全研究センターと連携し、阪神淡路大震災からの復興の経験を踏まえ、未来志向の復興まちづくりについて討議。

地域防災フォーラム（8月3日）

10月22日　**三陸で夏イチゴを作ろうin田野畑村を開催**

三陸沿岸の「夏は北海道よりも涼しく、冬は関東内陸並みに暖かい」という気候の特徴を活かした作物の普及に取り組んでおり、今回は夏から秋にかけて収穫できる夏イチゴの普及を目的に企画。

●平成27年

1月31日　**平成26年度岩手大学三陸復興推進機構シンポジウムを開催**

6部門の活動報告を行うとともに、「震災復興・地域創生と大学の役割」をテーマにパネルディスカッションを開催し、約100名が参加。

また各部門・サテライト・エクステンションセンターの活動パネルと成果品等を展示。

国連世界防災会議に参加（3月14～18日）

3月 4日　**岩手大学三陸復興シンポジウム2014「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催**

25年度に引き続き、東京都板橋区において、「つながって岩手Part2～春が来た、さぁ三陸に出かけよう！～」をテーマに首都圏向けのシンポジウムを開催し、約120名が参加。

観光をテーマに首都圏向けに具体的な被災地への関わり方を提案し、被災地の交流人口増加を目指した。

3月14日～18日　**国連防災世界会議に参加**
岩手大学主催フォーラム「地域社会のレジリエンスとキャパシティ・ビルディング　～被災地での岩手大学の実践と検証～」を開催

仙台で開催された第3回国連防災世界会議に参加するとともに、岩手大学主催のフォーラムでは、岩手大学がこれまで取り組んできた緊急対応、地域コミュニティの再生、防災教育などに関する実践活動の報告を行った。

小泉復興大臣政務官とのミーティング（5月31日）

3月21日　**SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業報告会を開催**

岩手大学・東京海洋大学・北里大学の3大学が取り組んできた研究成果について三陸地域の漁業関係者の方々に知っていただくと共に、公設試験機関や全国の水産研究者との連携を強化していくことを目的に開催し、約100名が参加。

5月31日　**小泉進次郎復興大臣政務官が岩手大学を訪問**

本学の震災復興に向けた取組を紹介するとともに、復興支援活動を行っている学生や卒業生と意見交換。

6月11日　**減塩加工食品開発セミナーを開催**

宮古市内の水産加工会社を対象とした減塩加工食品の開発にまつわるセミナーを開催。

9月16日　**公開シンポジウム「東日本大震災からの地域と農業の復興」を開催**

農業環境工学関連5学会2015年合同大会実行委員会との共催。本学の教員などが被災地の農業やコミュニティの復興支援について説明した。

三陸復興推進活動の企画展示（10月21～11月4日）

10月21日～11月 4日　**岩手大学三陸復興推進機構企画展「東日本大震災における岩手大学の復興推進活動～被災地とともに希望の創出～」を開催**

岩手大学三陸復興推進機構の取組についての展示のほか、土日祝日に三陸沿岸企業との産学官連携商品を中心とした物販を行った。また、サイドイベントとして10月24日に「岩渕学長と復興推進活動を行っている学生たちとのミーティング」を開催。

12月11日　**岩手大学東日本大震災復興支援活動報告会「東京都北区・板橋区を中心とする首都圏の皆様に感謝を込めて～」を開催**

東日本大震災後に、東京都北区・板橋区の企業・一般市民の方々が「岩手大学被災学生支援の会」を設立し、被災学生へご支援をいただいたことに対して、支援活動の報告を行うとともに感謝の気持ちをお伝えした。

支援の会から被災学生の代表者に記念品を贈呈（12月11日）

●平成28年

3月 2日　「いわて南部地粉そば」農林水産大臣賞受賞記者会見を開催

岩手大学と釜石市の企業との共同研究で誕生した「いわて南部地粉そば」が平成27年度優良ふるさと食品中央コンクール・新技術開発部門にて農林水産大臣賞を受賞したことを受け記者会見を開催。「低酸素気流を利用した粉体用連続式殺菌装置」を開発し、そばの生麺の風味を保ったまま賞味期限を延ばすことに成功。

いわて南部地粉そば記者会見（3月2日）

4月 1日　「三陸復興・地域創生推進機構」を設置

「三陸復興推進機構」と「地域連携推進機構」を統合し新設。再建途上の三陸復興と人口減少化にある岩手県のまち・ひと・しごと創生を目的に県内自治体と連携し岩手発の新たな地方創生モデルを構築する。

5月10日～9月30日　熊本地震の被災動物支援のためワンにゃん号を貸出

4月に発生した熊本地震の被害を受け、宮崎大学の要請によりペット専用移動診療車ワンにゃん号を貸出。宮崎大学農学部獣医学科が被災動物支援にあたった。

6月 6日　スターダスト☆レビューからの寄附を受け感謝状贈呈

音楽グループ「スターダスト☆レビュー」が本学の復興推進活動に10,000,000円を寄附。陸前高田市においてフリーライブを開催し、感謝状を贈呈。

スターダスト☆レビューへ感謝状贈呈（6月6日）

9月 3日～　台風10号被災地へのボランティア活動

8月31日に発生した台風10号の被害を受け、学生、教職員が9月3日から久慈市、宮古市、岩泉町に流木撤去や泥上げ作業の支援に入った。（延べ411名が活動）

10月15日　台風10号緊急報告会開催

台風10号による水害、流木被害、土石流及び土砂災害の調査結果を報告。地域防災研究センターを核とする岩泉支援チームを設置し、被害の大きかった岩泉町の防災教育やコミュニティ支援に取り組んでいく。

久慈市街地での泥上げ作業（9月3日）

11月25日　「三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム」を開催

「三陸復興・地域創生推進機構」の発足を記念して本田敏明遠野市長、坂本修一文部科学省産業連携・地域支援課長を招いてシンポジウムを開催。

12月 1日　「ものづくり技術研究センター看板除幕式・特別講演会」を開催

「ものづくり技術教育研究部門」を担う「ものづくり技術研究センター」の看板除幕式と特別講演会を開催。発足を記念して本田敏明遠野市長、坂本修一文部科学省産業連携・地域支援課長を招いてシンポジウムを開催。

12月11日　「三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会」を開催

東京海洋大学を会場に首都圏に住む方を対象とした報告会を開催。被災地で活動している教員・学生からの活動紹介とともにパネル展示やビデオ上映を通して取組を紹介。

●平成29年

2月11日　「子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム」を開催

心のケア班において福島・宮城・岩手で行われている子どもへの支援活動を通して、東日本大震災のこれまでとこれからの心の支援を考えるシンポジウムを開催。

三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウムでのパネルディスカッション（11月25日）

2月20日　「岩手大学地域連携フォーラムin久慈」を開催

相互友好協力協定締結自体である久慈市との連携により、岩手大学これまで取り組んできた様々な活動を広く一般市民に紹介するフォーラムを開催。

①岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則

（平成28年3月24日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則第７条の３の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構（以下「機構」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目的）
第２条　機構は、岩手大学の社会貢献目標に基づき、東日本大震災により被災した三陸沿岸地域等の復興を支援し推進するとともに、岩手大学の教育研究成果及び知的資産の地域への普及・還元を図り、地域創生における大学戦略を各部局と連携の上、推進することを目的とする。

（業務）
第３条　機構は、前条の目的を遂行するため、次に掲げる業務を行う。
一　三陸沿岸地域等の復興支援・推進に関すること。
二　地域創生の企画、推進に関すること。
三　生涯学習機会の提供及び支援に関すること。
四　大学発ベンチャーの創出・育成に関すること。
五　盛岡市産学官連携研究センターに関すること。
六　三陸水産研究を通じた教育研究領域に関すること。
七　平泉文化研究を通じた教育研究領域に関すること。
八　地域防災研究を通じた教育研究領域に関すること。
九　ものづくり技術研究を通じた教育研究領域に関すること。
十　その他第２条の目的を達成するために必要な業務に関すること。
２　機構の業務を行う際には、他部局と連携・協力を図るものとする。

（部門等）
第４条　機構に前条の業務を遂行するため、次に掲げる部門を置く。
一　三陸復興部門
二　地域創生部門
三　生涯学習部門
四　三陸水産教育研究部門
五　平泉文化教育研究部門
六　地域防災教育研究部門
七　ものづくり技術教育研究部門
２　部門の業務を円滑に遂行するため、部門に班又はそれに相当する組織を置くことができる。
３　三陸水産教育研究部門の業務は、三陸水産研究センターが担うものとる。
４　平泉文化教育研究部門の業務は、平泉文化研究センターが担うものとる。
５　地域防災教育研究部門の業務は、地域防災研究センターが担うものとる。
６　ものづくり技術教育研究部門の業務は、ものづくり技術研究センターが担うものとする。

（組織）
第５条　機構に、次の職員を置く。
一　機構長
二　副機構長
三　部門長
四　専任教員
五　特任教員、特任研究員、特任専門職員
六　兼務教員
七　兼務職員
八　その他の職員（以下「機構職員」という。）

（機構長）
第６条　機構長は、機構全般の業務及び運営を統括する。
２　機構長は、復興・地域創生を担当する理事又は副学長をもって充てる。

（副機構長）
第７条　機構長が必要と認めるときは、副機構長を置くことができる。
２　副機構長は、機構長の職を補佐する。
３　副機構長は、岩手大学の専任教員のうちから当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。
４　副機構長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（部門長等）
第８条　部門長は、当該部門の業務を総括整理するとともに、機構長の職務を補佐する。
２　部門長は、岩手大学の専任教員のうちから当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。
３　部門長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（副部門長）
第９条　機構長が必要と認めるときは、副部門長を置くことができる。
２　副部門長は、部門長の職を補佐する。
３　副部門長は、部門所属の専任教員及び兼務教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。
４　副部門長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（専任教員）
第１０条　専任教員は、機構の当該部門の業務を処理する。
２　専任教員は、第１９条に規定する岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議（以下「機構会議」という。）が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。

（特任教員、特任研究員、特任専門職員）
第１１条　特任教員、特任研究員、特任専門職員（以下「特任教員等」という。）は、所属する部門の業務を処理するとともに、他部門の業務について協力し分担する。
２　特任教員等は、機構会議が候補者を推薦し、学長が任命する。

（兼務教員）
第１２条　兼務教員は、専任教員と協力し所属する部門の業務を処理するとともに所属学部等との連絡調整に当たるものとする。
２　兼務教員は、機構会議が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。
３　機構長は、前項の申請に当たっては、当該教員の所属する学部等の長の同意を得るものとする。
４　兼務教員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（兼務職員）
第１３条　兼務職員は、所属する部門の業務を処理する。
２　兼務職員は、部門長が候補者を推薦し、学長が任命する。

（客員教授等）
第１４条　機構に客員教授及び客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。
２　客員教授等の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。
３　客員教授等の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（客員研究員）
第１５条　機構に、客員研究員を置くことができる。
２　客員研究員の任期は、１年以内とする。ただし、再任を妨げない。
３　客員研究員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（地域創生推進協力員）
第１６条　機構に、地域創生等の推進を図るための調査及び企画・調整等の業務に従事する地域創生推進協力員を置くことができる。
２　地域創生推進協力員に関し必要な事項は、別に定める。

（機構職員）
第１７条　機構職員は、機構の業務に従事する。

（サテライト等）
第１８条　機構は、第３条に掲げる業務を行うため、現地における活動拠点として各市町村にサテライトを置くことができる。
２　機構は、各市町村等との連絡調整を行うため、各市町村にエクステンションセンターを置くことができる。

（機構会議）
第１９条　機構に、第３条に掲げる業務に関する事項及び機構の運営に関する事項を審議するため、三陸復興・地域創生推進機構会議を置く。
２　機構会議に関する規則は、別に定める。

（企画マネジメント会議）
第２０条　機構に、各部門の連絡調整等を行うため、企画マネジメント会議を置く。
２　企画マネジメント会議に関する規則は、別に定める。

（部門会議）
第２１条　機構の各部門の運営に関する事項を審議するため、部門会議を置く。
２　部門会議に関する規則は、別に定める。

（庶務）
第２２条　機構の庶務は、関係部局等の協力を得て、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）
第２３条　この規則に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成２８年４月１日から施行する。

②岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議規則

（平成28年3月24日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第１９条第２項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議（以下「機構会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）
第２条　機構会議は、規則第３条に規定する岩手大学三陸復興・地域創生推進機構（以下「機構会議」という。）の業務に関する事項を審議するほか、次の各号に掲げる事項を審議する。
一　機構の中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
二　機構の管理・運営の基本方針に関すること。
三　機構の予算及び決算に関すること。
四　機構の評価に関すること。
五　機構の専任教員の人事（懲戒を除く。）に関すること。
六　機構の特任教員、特任研究員、特任専門職員及び兼務教員候補者の推薦に関すること。
七　機構の客員教授等に関すること。
八　機構の専任教員の兼業兼職審査に関すること。
九　機構の外部資金受入審査に関すること。
十　その他機構の運営に関する重要事項

（組織）
第３条　機構会議は、次に掲げる者をもって組織する。
一　機構長

二　副機構長（副機構長が置かれている場合に限る。）
三　部門長
四　専任教員
五　各学部の副学部長又は評議員各1名
六　地域連携推進部長
七　その他機構長が必要と認めた者

（議長）
第４条　機構会議に議長を置き、機構長をもって充てる。
２　議長は、機構会議を招集し、議長となる。
３　議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）
第５条　機構会議は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。
２　機構会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の　決するところによる。
３　前項の規定にかかわらず、第２条第５号に掲げる事項については、出席した委員の３分の２以上の賛成をもって決する。

（委員以外の者の出席）
第６条　機構会議が必要と認めたときは、委員以外の者を機構会議に出席させ、その意見　を聴くことができる。

（専門委員会）
第７条　機構会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

（庶務）
第８条　機構会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、機構会議に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成２８年４月１日から施行する。
この規則は、平成２８年７月１５日から施行し、平成２８年４月１日から適用する。

③岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下　「規則」という。）第２０条第２項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議（以下「マネジメント会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（任務）
第２条　マネジメント会議は、三陸復興・地域創生推進機構各部門の連絡調整並びに三陸復興・地域創生推進機構会議の審議事項の原案作成及び議題整理を行う。

（組織）
第３条　マネジメント会議は、次に掲げる者をもって組織する。
一　機構長
二　副機構長
三　部門長
四　専任教員
五　地域連携推進部長
六　地域創生推進課長

七　地域連携・COC推進課長
八　三陸復興支援課長
九　その他機構長が必要と認めた者

（議長）
第４条　マネジメント会議に議長を置き、機構長をもって充てる。
２　議長は、機構会議を招集し、議長となる。
３　議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）
第５条　マネジメント会議は、委員の３分の２以上の出席をもって成立する。ただし、委員の代理出席を認めるものとする。
２　マネジメント会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）
第６条　マネジメント会議が必要と認めたときは、委員以外の者をマネジメント会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）
第７条　マネジメント会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか、マネジメント会議に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成２８年7月１５日から施行し、平成２８年４月1日から適用する。

④岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第２１条第２項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門会議（以下「部門会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）
第２条　部門会議は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門（以下「部門」という。）の業務を円滑に行うため、部門長が必要と認める事項に関する意見交換を行う。

（組織）
第３条　部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。
一　部門長
二　兼務教員
三　共同研究員
四　その他部門長が必要と認めた者
２　部門に規則第９条に定める副部門長を置いた場合は、前項の部門会議の組織構成員とする。

（議長）
第４条　部門会議に議長を置き、部門長をもって充てる。
２　議長は、部門会議を招集し、主宰する。

（組織構成員以外の者の出席）
第５条　部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）
第６条　部門会議の庶務は、地域連携推進部地域連携・COC推進課において処理する。

（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成２８年7月１５日から施行し、平成２８年４月1日から適用する。

⑤岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第２１条第２項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門会議（以下「部門会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）
第２条　部門会議は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門（以下「部門」という。）の業務を円滑に行うため、部門長が必要と認める事項に関する意見交換を行う。

（組織）
第３条　部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。
一　部門長
二　規則第４条第２項に定める組織の代表者
三　その他部門長が必要と認めた者
２　部門に規則第９条に定める副部門長を置いた場合は、前項の部門会議の組織構成員とする。

（議長）
第４条　部門会議に議長を置き、部門長をもって充てる。
２　議長は、部門会議を招集し、主宰する。

（組織構成員以外の者の出席）
第５条　部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）
第６条　部門会議の庶務は、地域連携推進部地域連携・COC推進課において処理する。

（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成２８年7月１５日から施行し、平成２８年４月1日から適用する。

⑥岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）
第１条　この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第２１条第２項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門会議（以下「部門会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）
第２条　部門会議は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門（以下「部門」という。）の業務を円滑に行うため、部門長が必要と認める事項に関する意見交換を行う。

（組織）
第３条　部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。
　一　部門長
　二　規則第４条第２項に定める班の長
　三　その他部門長が必要と認めた者
２　部門に規則第９条に定める副部門長を置いた場合は、前項の部門会議の組織構成員とする。

（議長）
第４条　部門会議に議長を置き、部門長をもって充てる。
２　議長は、部門会議を招集し、主宰する。

（組織構成員以外の者の出席）
第５条　部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）
第６条　部門会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成２８年7月１５日から施行し、平成２８年４月1日から適用する。

⑦岩手大学三陸復興・地域創生推進機構　企画マネジメント会議ミーティング内規

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）
第１条　この内規は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議規則（以下「規則」という。）第８条の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議ミーティング（以下「マネジメント会議ミーティング」という。）に関し、必要な事項を定める。

（任務）
第２条　マネジメント会議ミーティングは、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の各部門の活動を円滑に進めるため、次に掲げる事項の意見交換、情報共有及び部門間調整等を行う。
　一　機構の中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
　二　機構の管理・運営の基本方針に関すること。
　三　機構の予算及び決算に関すること。
　四　機構の評価に関すること。
　五　機構の専任教員の人事（懲戒を除く。）に関すること。
　六　機構の特任教員、特任研究員、特任専門職員及び兼務教員候補者の推薦に関すること。
　七　機構の客員教授等に関すること。
　八　機構の専任教員の兼業兼職審査に関すること。
　九　機構の外部資金受入審査に関すること。
　十　その他機構の運営に関する重要事項

（組織）
第３条　マネジメント会議ミーティングは、次に掲げる者をもって組織する。
　一　機構長
　二　副機構長
　三　専任教員
　四　地域連携推進部長
　五　地域創生推進課長
　六　地域連携・COC推進課長

七　三陸復興支援課長
八　地域創生推進課員
九　地域連携・COC推進課員
十　三陸復興支援課員
十一　エクステンションセンターコーディネーター
十二　その他機構長が必要と認めた者

（議長）
第４条　マネジメント会議ミーティングに議長を置き、機構長をもって充てる。
２　議長は、マネジメント会議ミーティングを招集し、議長となる。
３　議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）
第５条　マネジメント会議ミーティングは、第２条の任務に関し必要な委員の出席をもって成立する。

（庶務）
第６条　マネジメント会議ミーティングの庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか、マネジメント会議ミーティングに関し必要な事項は、別に定める。

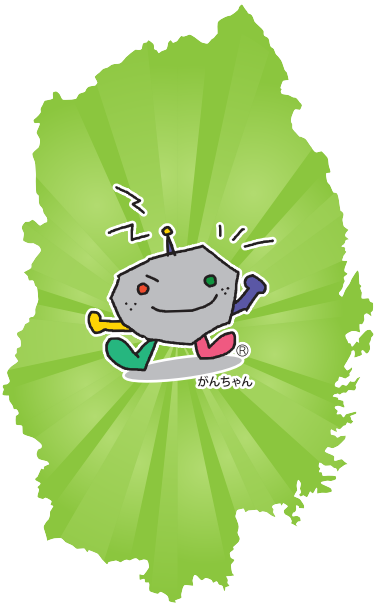
附　則
この規則は、平成２８年７月１５日から施行し、平成２８年４月１日から適用する。

⑨平成28年度三陸復興・地域創生推進機構構成員

平成28年度岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議構成員名簿

摘要条項		氏名	部局	備考
第3条一	機構長	菅　原　悦　子	理事（復興・地域創生・男女共同参画担当）・副学長	
第3条二	副機構長（実践領域）	八　代　　仁	副学長（COC担当）	
	副機構長（教育研究領域）	平　塚　貞　人	理工学部教授	
第3条三	三陸復興部門長	八　代　　仁	副学長（COC担当）	
	地域創生部門長	今　井　　潤	教授	第3条四・専任教員
	生涯学習部門長	朴　　賢　淑	准教授	第3条四・専任教員
	三陸水産教育研究部門長	田　中　教　幸	三陸水産研究センター長	
	平泉文化教育研究部門長	藪　　敏　裕	教育学部教授	
	地域防災教育研究部門長	南　　正　昭	理工学部教授	
	ものづくり技術教育研究部門長	平　塚　貞　人	理工学部教授	
第3条五	各学部の副学部長又は評議員	宮　本　ともみ	人文社会科学部評議員／教授	
		田　代　高　章	教育学部副学部長／教授	
		藤　代　博　之	理工学部評議員／教授	
		倉　島　栄　一	農学部副学部長／教授	
第3条六	地域連携推進部長	晴　山　　均	地域連携推進部	

Together with Iwate
and its People



■発行日■
2017年10月31日

■発行■
国立大学法人 岩手大学

■企画･編集■
岩手大学地域連携推進部地域創生推進課
〒020-8550　岩手県盛岡市上田四丁目3-5
TEL.019-621-6629(代表)
http://www.iwate-u.ac.jp/